



CLAVINOVA

*CVP-201*

取扱説明書



*Clavinova*<sup>®</sup>

# 安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

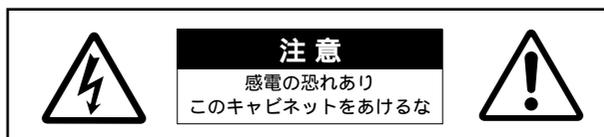
## 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

	<b>警告</b>	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	<b>注意</b>	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

## 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。この製品の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。」

 <b>警告</b>	
<p> <b>必ず実行</b></p> <p>電源は必ず交流100Vを使用する。エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。</p>	<p> <b>禁止</b></p> <p>本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。感電や火災、または故障の原因になります。</p>
<p> <b>必ず実行</b></p> <p>電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。</p>	<p> <b>必ず実行</b></p> <p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。</p>
<p> <b>必ず実行</b></p> <p>電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。他の電源コード/プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。</p>	<p> <b>禁止</b></p> <p>本体の上にとろろそくなど火気のあるものを置かない。とろろそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。</p>
<p> <b>禁止</b></p> <p>電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。</p>	<p> <b>必ず実行</b></p> <p>電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。</p>
<p> <b>禁止</b></p> <p>この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。感電や火災、けが、または故障の原因になります。</p>	

## ⚠ 注意



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。  
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。  
感電や火災、故障の原因になることがあります。



禁止

たこ足配線をしなさい。  
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

組み立てる前に、必ず本書または別紙の組み立て方の説明をよくお読みください。  
手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。



禁止

直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しない。  
本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



禁止

テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。  
楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



禁止

不安定な場所に置かない。  
本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がかげがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。  
コードをいためたり、お客様や他の方々転倒したりするおそれがあります。



禁止

本体を壁につけない。  
換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。壁から3cm以上離してください。



必ず実行

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。  
感電または機器の損傷の原因になることがあります。



禁止

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。  
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布でふいてください。



ご注意ください

キーカバーで指などをさはさないように注意する。また、キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。  
お客様がかげがをするおそれがあります。



禁止

キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。  
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



禁止

本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。  
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。  
本体が破損したり、お客様や他の方々がかげがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。  
聴覚障害の原因になります。



禁止

イスを不安定な場所に置かない。  
イスが転倒して、お客様や他の方々がかげがをする原因になります。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。  
このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がかげがをする原因になります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。  
イスが転倒したりこわれたりして、お客様がかげがをする原因になります。



禁止

イスにすわったままでイスの高さを調節しない。  
イスにすわったままイスの高さを調節すると、高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がかげがをしたりする原因になります。



必ず実行

イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。  
ボルトがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

### 作成したデータの保存とバックアップ



必ず実行

内部のバックアップデータ(169ページ)は電源を切っても約1週間保持されます。約1週間以上過ぎるとこのデータは消えてしまいますので、1週間以内に数分間は電源を入れてください。また、このデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、フロッピーディスクに保存してください(156ページ)。

### フロッピーディスクのバックアップ



必ず実行

保存したフロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のフロッピーディスクにバックアップとして保存されることをおすすめします。

### ご引越しの際は...

通常の荷物と一緒にお運びいただけます。組み立てた状態でも、組み立て前の部品に分解した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

### 音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

このたびは、ヤマハクラビノーバCVP-201をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。

CVP-201の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくために、本書をご活用いただきますようご案内申し上げます。

また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してくださいませよう、お願い申し上げます。

市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

マッキントッシュ  
Macintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。

ピーシー  
PC-9801/9821は日本電気株式会社の商標です。

アイビーエム ビシーエイティ  
IBM-PC / ATは、インターナショナルビジネスマシーン株式会社の商標です。

マイクロソフト コーポレーション  
Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。

ミディ  
「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

# 付属品(お確かめください)

## 「ミュージックソフト・コレクション」ディスク

CVP-201でお楽しみいただける、各種ミュージックデータのサンプルと、「自動伴奏で弾く50曲集」対応設定データを収録したディスクです。クラビノーバで再生させたり、一緒に演奏したり、ガイド機能を使って練習をしたり、カラオケで歌うなどいろいろな方法でお楽しみいただけます。使い方は、「入門編」のP.18～と「本編」のP.73、P.107をご参照ください。



## 「ミュージックソフト・コレクション」(楽譜集)

「ミュージックソフト・コレクション」ディスクのミュージックデータのサンプルに対応した楽譜集です。



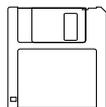
## 「自動伴奏で弾く50曲集」(楽譜集)

自動伴奏を使って弾くための楽譜集です。「ミュージックソフト・コレクション」ディスクには、この50曲に対応した設定データが収録されています。使い方は、「入門編」のP.24～をご参照ください。



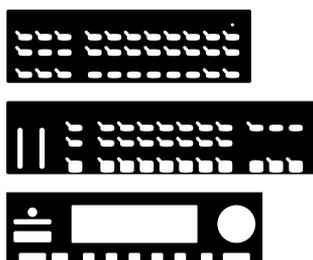
## 録音用ディスク

自分の演奏を録音するための空きディスクです。



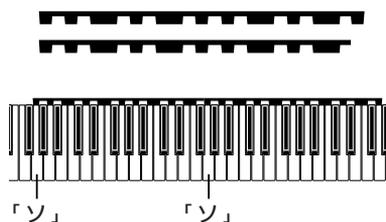
## 和文シート

楽器のパネルにのせてお使いください。親しみやすい日本語表示でパネルのボタン名を確認することができます。

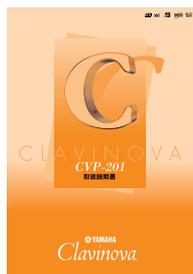


## キーシート

鍵盤の一番奥の部分に置いてお使いください。コード奏の参考用とメロディ奏の参考用の2種類があります。どちらも、左端が「ソ」の音の上にくるように置いてください。



## 取扱説明書(「入門編」「本編」)(本書)



## 取扱説明書別冊「データリスト」



## 保証書



## ご愛用者カード

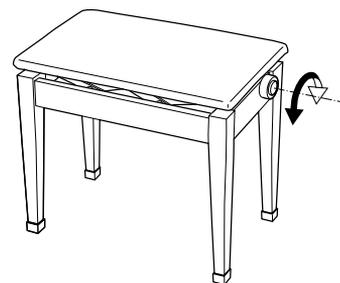


## ヘッドフォン



## 専用イス(高さ調節付き)

ご自分の使いやすい高さに調節してご利用いただけます。



# クラビノーバCVPの世界へようこそ！

CVP-201の特長をご紹介します。

## 見やすく操作しやすい大型LCD画面 (P.36)

LCD画面を見ながら操作しますので、ひとつひとつの操作を確認しながらできます。



## リアルで豊かな響きの音色 (P.50)

ピアノをはじめ、弦楽器、管楽器などの豊富な音色が楽しめます。鍵盤でパーカッションもたたけます。

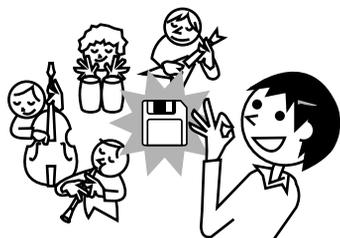
クラビノーバオリジナルノーマル音色195種類+ エックスジー XG 音色  
エスエフエックス 480種類+ドラム/ SFX キット12種類



SFX=効果音

## ミュージック データ再生機能 (P.18、P.107)

市販の豊富なミュージック データを利用して、本格的なオーケストラやバンド伴奏をバックに弾いているような、楽しい演奏ができます。もちろん音楽鑑賞もできます。また、カラオケも楽しめます。



ミュージック データ=フロッピーディスクに収められた曲のデータ

## 初心者の練習を助けてくれるガイド機能 (P.20、P.119)

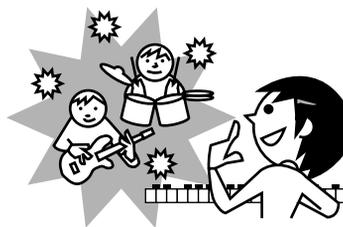
ミュージック データを使うと、LCD画面とガイドランプが、弾くタイミングや鍵盤の位置を教えてくれます。3段階の練習方法で、ステップアップしながら1曲をマスターしていきます。



## レパートリーが広がる自動伴奏機能 (P.24、P.69)

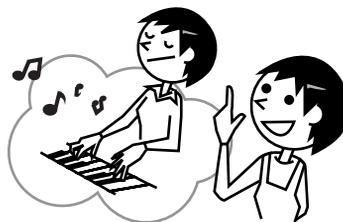
鍵盤でコードを押さえるだけで、クラビノーバが伴奏パートを自動演奏してくれます。ポップス、ジャズ、ラテン、ダンスミュージックなどからお好みの伴奏スタイルが選べます。また、ピアノの音色だけの伴奏「ピアニスト」の伴奏スタイルもあります。

ノーマルスタイル125種類+ピアニストスタイル35種類



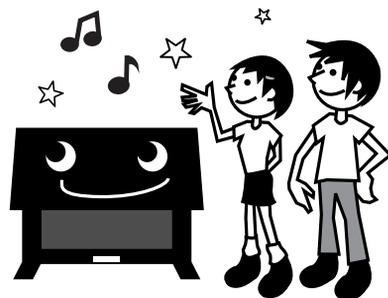
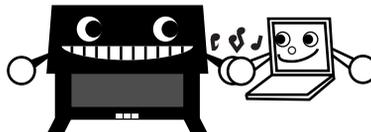
## 自分の演奏を簡単に録音できる録音機能 (P.29、P.124)

簡単録音、多重録音、自動伴奏のステップ録音など、演奏経験や用途に合わせて録音方法が選べます。



## 手軽にパーソナルコンピューターと接続できる トゥー ホスト 【TO HOST】端子 (P.178)

CVP-201を音源に使用してパソコン用音楽ソフトを聞いたり、パソコンで音楽を制作するときの入力用キーボードとしても使えます。



# 取扱説明書について

取扱説明書は、本書と別冊「データリスト」の2冊があり、以下のような構成になっています。

## 本書

準備 .....最初にお読みください。

入門編 .....クラビノーバCVP-201の代表的な機能を、付属のソフトを使ってひととおり体験していただきます。そのあと、気に入った機能を活用して演奏をお楽しみください。各機能について詳しくは、「本編」をご覧ください。

本編 .....詳細をお知りになりたいときにご覧ください。「入門編」の各項目に、「本編」の参照ページが書いてあります。

## 別冊データリスト

デモ曲名、音色名、伴奏スタイル名などの各種一覧表と、MIDIデータフォーマット、MIDIインプリメンテーションチャート、CVPの組み立て解説図などを掲載しています。

# この本に出てくる記号

【      】

パネル上にあるボタン類を示します。この場合、ボタン、スライダ、ジャック(端子)といった言葉は省略します。たとえば、マスターボリュームのスライダは、文章中で【MASTER VOLUME(全体ボリューム)】と表記します。



[      ]

パネル中央のLCD画面の中の項目や、その項目に対応する(すぐ下または左右にある)LCDボタンを示します。たとえば、LCD画面上に表示されている"RIGHT1 VOICE"の部分は、[RIGHT1 VOICE]と表記します。



「⇒」は、      の操作を行なった結果、      の状態になることを示しています(操作の結果を示します)。

「⇨」は、      の操作を行なったあと、      の操作を示しています(操作の手順を示します)。

## LCD画面について

この取扱説明書に掲載されているイラストや画面はすべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

### 「パソコン活用マニュアル こんなことができます!クラビノーバ+パソコン」について

クラビノーバとパーソナルコンピューターを接続してどんなことができるのか、また接続に必要なものや接続の仕方などについて、わかりやすく説明したオンラインマニュアル(PDF)を、インターネットのホームページ(下記)に掲載しております。閲覧/ダウンロードしてぜひご活用ください。

クラビノーバホームページ <http://www.yamaha.co.jp/product/cl/>

ヤマハマニュアルライブラリー(電子楽器) <http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/index.html>

(クラビノーバのページに掲載してあります。初回だけ登録していただくことが必要です。)

# 目次

## 準備

安全上のご注意.....	2
付属品(お確かめください).....	5
クラビノーバCVPの世界へようこそ！.....	6
取扱説明書について.....	7
この本に出てくる記号.....	7
フロピーディスクの取り扱いについて.....	10
演奏前の準備.....	11

## 入門編

### 第1章 機能説明(ヘルプ)を見てみましょう..... 14

### 第2章 デモ曲を聞いてみましょう..... 16

### 第3章 ミュージック データを使ってみましょう..... 18

聞いてみましょう.....	18
弾いてみましょう.....	20
例題曲：「華麗なる大円舞曲」曲番号3	
歌ってみましょう.....	23
例題曲：「TSUNAMI」曲番号4	

### 第4章 自動伴奏を使ってみましょう..... 24

曲ごとの設定データを読み込んでみましょう.....	24
シングルフィンガー奏法で弾いてみましょう.....	26
例題曲：「メリーさんのひつじ」シンプルバージョン	
フィンガード奏法で弾いてみましょう.....	27
例題曲：「かっこう」	
フルキーボード奏法で弾いてみましょう.....	28
例題曲：「バイエル90番」	

### 第5章 録音してみましょう..... 29

例題曲：「きらきら星」「自動伴奏で弾く50曲集」P.12	
------------------------------	--

## 本編

### 第1章 はじめに..... 32

本編について.....	32
本編の構成.....	32
目的のページの見つけ方.....	33
基礎用語.....	33
各部の名前.....	34
基本操作.....	36
言語表示を切り替える.....	36
LCD画面とLCDボタン.....	37
PAGE(ページ)【◀】【▶】.....	38
【EXIT(戻る)】.....	38
【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】.....	39
メモリーバックアップ.....	39
メッセージ.....	40
ボリューム調節について.....	41
【MASTER VOLUME(全体ボリューム)】.....	41
【ACMP / SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】.....	41
【KBD VOL】.....	42
【MIXER(ミキサー)】.....	42
テンポ調節について.....	43
メトロノームの使い方.....	45

### 第2章 機能説明(ヘルプ)とデモ HELP & DEMO..... 46

機能説明(ヘルプ).....	46
デモ.....	48

### 第3章 音色 VOICE..... 50

音色の選び方.....	50
基本的な音色の選び方.....	51
鍵盤で打楽器を演奏する(キーボードパーカッション).....	52
2音色を同時に選んで弾く.....	54
【RIGHT1 VOICE】【RIGHT2 VOICE】【LEFT VOICE】に関する各種の設定.....	56
おすすめ音色の選び方.....	
(ワンタッチセッティング[ONE TOUCH SETTING]).....	61
(ミュージックデータベース[MUSIC DATABASE]).....	61
ペダルの使い方.....	62
ダンパーペダル(右のペダル).....	62
ソステヌートペダル(まん中のペダル).....	62
ソフトペダル(左のペダル).....	62

### 第4章 伴奏スタイル STYLE..... 63

伴奏スタイルの使い方.....	63
基本的な伴奏スタイルの選び方.....	64
伴奏スタイルの使い方.....	64
自動伴奏の奏法(コードの押さえ方).....	69
自動伴奏を使った演奏に便利な機能.....	73

イメージや曲名ごとのおすすめ伴奏スタイルの使い方 (ミュージックデータベース[MUSIC DATABASE]).....	73
演奏するメロディに自動的に和音や装飾音をつける (ハーモニー[HARMONY]).....	76
自分のテンポで自動伴奏を使う (シンクロストップ[SYNCHRO STOP]).....	79
コードの押さえ方を確認する (コードアシスト[CHORD ASSIST]).....	80
オリジナルの伴奏スタイルを作る (カスタムスタイル[CUSTOM STYLE]).....	82
ディスクに保存したカスタムスタイルファイルの読み込み方.....	94

## 第5章 効果(リバーブ/コーラス/エフェクト)

REVERB/CHORUS/EFFECT .....	97
残響効果(リバーブ: REVERB)の使い方.....	97
リバーブのかけ方.....	97
リバーブのタイプの選び方と楽器全体のリバーブのかかり具合の調節のしかた.....	98
パートごとのリバーブのかかり具合(デプス)の調節.....	99
広がりを付ける効果(コーラス: CHORUS)の使い方.....	100
コーラスのかけ方.....	100
コーラスのタイプの選び方とパートごとのコーラスのかかり具合の調節のしかた.....	100
その他の効果(エフェクト: EFFECT)の使い方.....	102
エフェクトのかけ方.....	102
エフェクトのタイプの選び方と各種の設定のしかた.....	102

## 第6章 パネル状態の登録

(レジストレーション) REGISTRATION.....	104
-------------------------------	-----

## 第7章 曲の録音/再生 SONG CONTROL .....

曲の再生.....	107
基本的な再生方法.....	108
消音(パートキャンセル)再生.....	111
その他の再生方法.....	114
ボリューム調節.....	116
各種の曲データの再生.....	118
初心者向け練習方法 ガイドコントロール(GUIDE CONTROL).....	119
曲の録音.....	124
録音の準備(ディスクのフォーマット).....	125
基本的な録音(クイック録音).....	126
多重録音(トラック録音).....	130
部分的に録音し直す(パンチン/アウト録音).....	133
ディスクを使わない録音.....	135
コードのステップ録音(コードシーケンス).....	136
録音内容の編集方法(レコードエディット機能).....	141
曲データに名前を付ける(ソングネーム[SONG NAME]).....	142
トラック別の編集(トラックエディット[TRACK EDIT]).....	143
曲全体の初期値の編集(イニシャルエディット[INITIAL EDIT]).....	146
パネルの設定を曲データに記録する (セットアップメモリー[SETUP MEMORY]).....	148

## 第8章 便利なその他の諸設定(ファンクション) FUNCTION... 149

キーボード(KEYBOARD)グループ.....	152
ペダル(PEDAL)グループ.....	154
ディスク(DISK)グループ.....	156
ミディMIDIグループ.....	164
バックアップ(BACKUP)グループ.....	169
ユーティリティ(UTILITY)グループ.....	171

## 第9章 その他 .....

他の機器と接続する端子.....	175
パーソナルコンピューターとの接続.....	178
メッセージ一覧.....	180
故障かな?と思ったら.....	186
ミディMIDI及びデータの互換性について.....	187
ミディMIDIについて.....	187
データの互換性について.....	187
CVP-201で再生できる別売ミュージックデータのご紹介.....	189

## 索引 .....

## 別冊「データリスト」

音色一覧.....	3
デモ曲一覧.....	7
エスエフエックスSFX ドラム/ SFX キット一覧.....	8
伴奏スタイル一覧.....	10
エフェクトタイプ一覧.....	11
設定値一覧.....	12
Cコードの押さえ方一覧.....	13
ミディMIDIデータフォーマット.....	14
ミディMIDIインプリメンテーションチャート.....	31
CVP-201の組み立て方.....	33
仕様.....	35

# フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスク(ドライブ)をご使用いただく場合は、以下のことをお守りください。

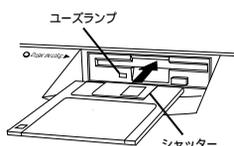
## フロッピーディスクの種類

3.5インチの2DD、または、2HDフロッピーディスクがご使用になれます。

## フロッピーディスクの挿入/取り出し

### フロッピーディスクの入れ方

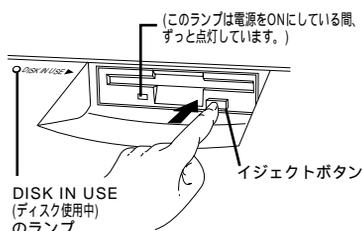
フロッピーディスクのシャッターに文字が書かれている方(表面)を上にして、ディスク挿入口にカチッと音がするまで正しく差し込みます。



電源を入れると、ディスク挿入口左下のユーズランプは常に点灯して、フロッピーディスクドライブが使用可能であることを示します。

### フロッピーディスクをディスク挿入口から取り出すときの注意

フロッピーディスクを取り出すときは、あらかじめ、ディスク挿入口左のDISK IN USE(ディスク使用中)が消えたことを確認した上で(ディスクドライブが実行中でないことを確認した上で)、ディスク挿入口の右下にあるイジェクトボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーディスクが完全に出了たことを確認してから、ディスクを取り出してください。



- 録音中や再生中などは絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ディスク内容がこわれるだけでなく、ディスクドライブユニットの故障の原因になります。
- イジェクトボタンを中途半端に押したり、あわてて押しと、取り出し機構が正常に作動せず、フロッピーディスクが途中で引っかかり取り出せなくなる場合があります。この場合、無理にフロッピーディスクを取り出そうとすると、ディスクがこわれたり、ディスクドライブユニットが故障したりする原因になります。このような場合は、もう一度イジェクトボタンを押しなおすか、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んで、もう一度イジェクトボタンをしっかりと正確に押しなおして取り出してください。
- 電源を切るときは、フロッピーディスクはあらかじめディスクドライブユニットから取り出してください。電源を切った後、フロッピーディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスクが汚れ、データの読み書きにエラーが生じる原因になります。
- イジェクトボタンを押してディスクが半分出た状態(ディスクを手で抜き取っていない状態)のまま、キーカバーを開閉しないでください。キーカバーとディスクが接触してディスクやディスクドライブユニットが破損するおそれがあります。

### 磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- ディスクドライブユニットは高精度の磁気ヘッドを使用しています。ディスクドライブユニットを長時間使用していくうちに、磁気ヘッドはフロッピーディスクの磁性粉で汚れてきます。磁気ヘッドが汚れてくると、録音や再生(データの書き込みや読み取り)にエラーが生じることがあります。

- ディスクドライブユニットを良い状態でお使いいただくために、磁気ヘッドを定期的に(1ヵ月に1回程度)クリーニングしていただくことをお勧めします。
- 磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点で、ヤマハ推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をお求めいただくこともできます。

## フロッピーディスクについてのご注意

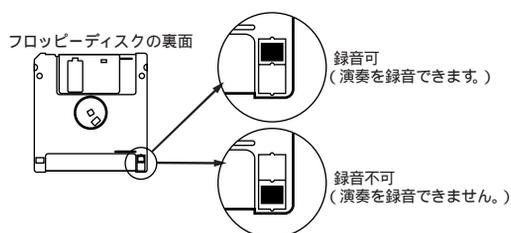
### フロッピーディスクの取り扱いと保管

フロッピーディスクの中にはデータを記録する磁性体が入っています。磁性体を保護し、さらにフロッピーディスクユニットの磁気ヘッドを防護するために、以下の点にご注意ください。

- (持ち運ぶ場合も含めて)必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物を乗せたり折り曲げたりしないでください。また、ディスク内部に水やほこりなどが入らないようにしてください。
- ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体に触れないでください。
- 磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。
- 直射日光の当たる場所や、過度に高温/低温の場所、多湿な場所などに置かないでください。
- シャッターやディスク本体が変形しているようなフロッピーディスクは絶対に使用しないでください。
- フロッピーディスクにはラベル以外のもの(メモなど)を貼らないでください。また、ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。

### 誤消去防止

フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまうことがないようにライトプロテクトタブが付いています。大切なデータの入っているディスクは、ライトプロテクトタブをオン(タブの窓が開いた状態)にして書き込みができないようにしてください。



### データのバックアップ

フロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータは、バックアップとして予備のディスクに保存しておかれることをお勧めします。バックアップディスク作成のためのディスクコピーについては、P.159ページをご参照ください。

市販フロッピーディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をお確かめの上、お求めください。

### フロッピーディスクのフォーマット(初期化)

- 新しいディスクや他の機器で使っていたディスクはそのままで使うことができません。この製品で使えるように最初にフォーマット(初期化)しておく必要があります。フォーマットのしかたについてはP.125、163をご参照ください。

# 演奏前の準備

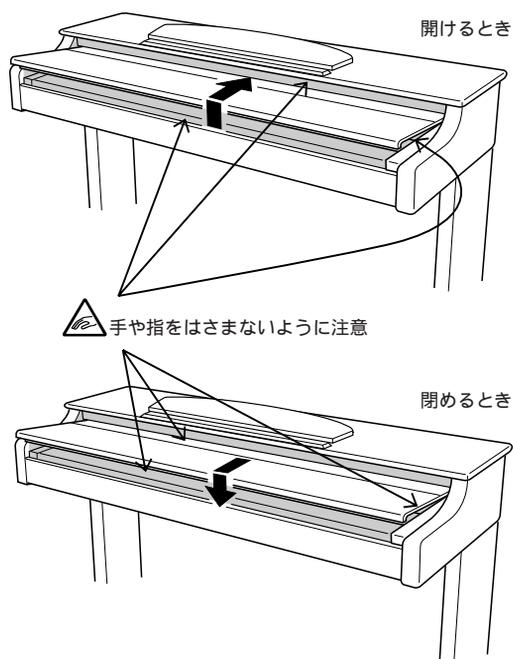
## キーカバーについて

### 開けるとき

- 1 少しだけ持ち上げます。  
持ち上げすぎないように、ご注意ください。
- 2 奥へすべらせて開けます。

### 閉めるとき

- 1 手前へすべさせます。
- 2 手を添えて静かに降ろします。



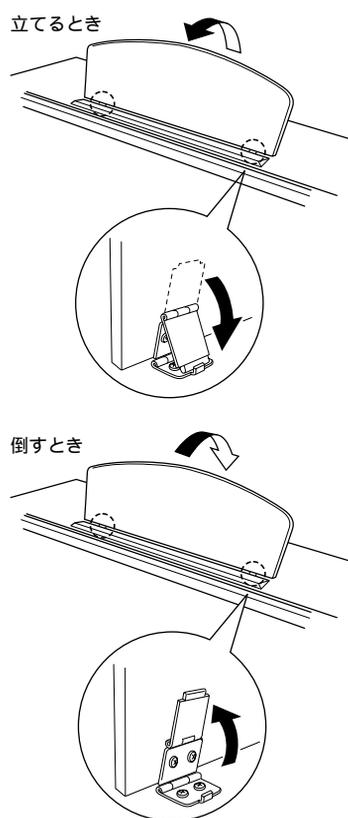
⊘ キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。

⚠ キーカバーを開けるとき、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

## 譜面立てについて

### 立てるとき

- 1 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
- 2 譜面立ての裏にある左右2つの金具を、下向きに開きます。
- 3 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。



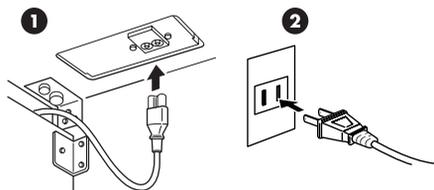
### 倒すとき

- 1 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
- 2 譜面立ての裏にある左右2つの金具を、上向きに閉じます。
- 3 譜面立てに手を添えてゆっくり戻します。

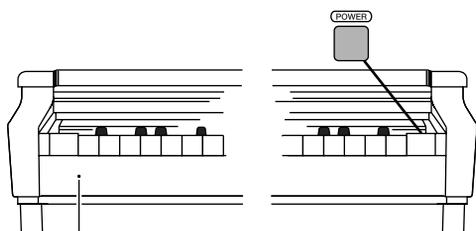
⊘ 譜面立ては、中間位置で使用または放置しないでください。また、譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

## 演奏準備

- 1** 電源コードの、本体側のプラグを最初に、次にコンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込み、接続します。



- 2** 本体パネル右の【POWER】を押して電源を入れます。  
 ⇨ 本体パネル中央のLCD画面に表示が現れ、本体前面左の電源ランプも点灯します。



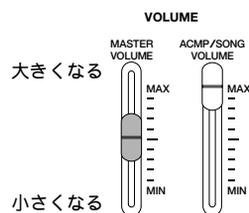
電源ランプが点灯

- 電源を切るときは、もう一度【POWER】を押します。  
 ⇨ LCD画面の表示が消え、本体前面左の電源ランプも消灯します。

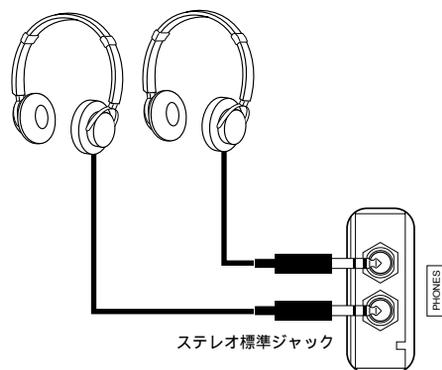
- 3** LCD画面左の【CONTRAST(コントラスト)】のつまみを左右に回して、LCD画面の明るさを調節します。



- 4** 本体パネル左の【MASTER VOLUME(全体ボリューム)】を真ん中の位置にします。  
 あとで実際に音を出してお好みのボリュームに調節してください。



- 5** ヘッドフォンを使う場合は、【PHONES】端子に接続します。  
 ヘッドフォンを接続すると、クラビノーバのスピーカーからは音が出ません。接続端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。(1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。)



- ⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。



## 入門編

第1章	機能説明(ヘルプ)を見てみましょう .....	14
第2章	デモ曲を聞いてみましょう .....	16
第3章	ミュージック データを使ってみましょう .....	18
第4章	自動伴奏を使ってみましょう .....	24
第5章	録音してきましょう .....	29

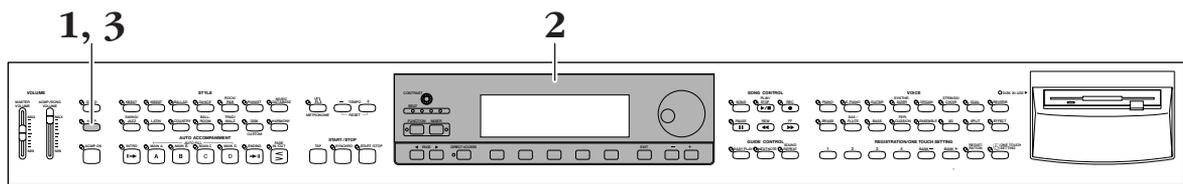
# 第1章 機能説明(ヘルプ)を見てみましょう

各機能の基本的な操作説明を、いつでもヘルプで見ることができます。

ヘルプとは...

パーソナルコンピューターなどで、画面上で機能説明などを見ることができる機能をヘルプと言います。CVPでも、LCD画面上で、機能説明を見ることができます。

## ここで使うボタン

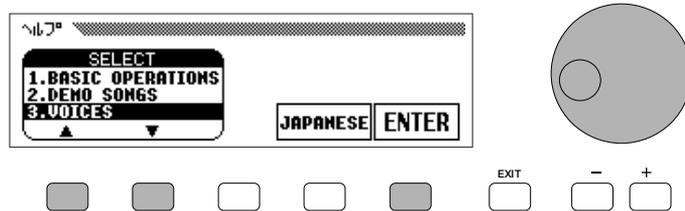


## 操作

- 1 【HELP(ヘルプ)】を押してヘルプ画面を表示させます。



- 2 【ダイヤル】で説明項目のメニューを選んでから<sup>エンター</sup>[ENTER]を押すと、説明文が表示されます。また、説明を読みたい機能のパネルのボタンを直接押しても、説明文が表示されます。



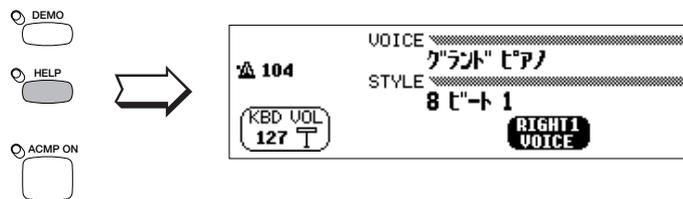
[◀][▶]を押すと、説明文の前後のページを読むことができます。

LCD画面の<sup>エグジット</sup>[EXIT]を押すと、ヘルプのメニュー画面に戻ります。



3 ヘルプを終了するときは、【HELP(ヘルプ)】を押します。

⇒基本画面に戻ります。

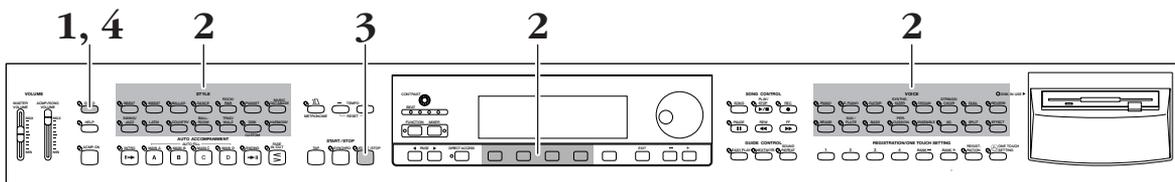


詳しい説明は...取扱説明書「本編」P.46～P.47

# 第2章 デモ曲を聞いてみましょう

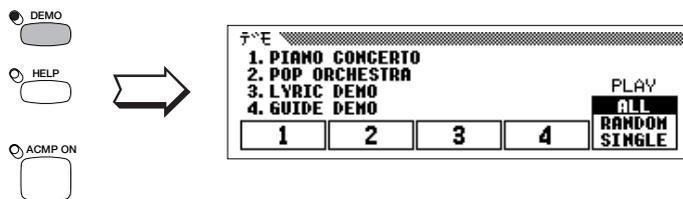
CVP-201には総合的なデモが4曲、伴奏スタイル紹介用が22曲、音色紹介用が24曲、計50曲のデモ曲が入っています。聞いてみましょう。

## ここで使うボタン



## 操作

1 【DEMO(デモ曲)】を押してデモ画面を表示させます。

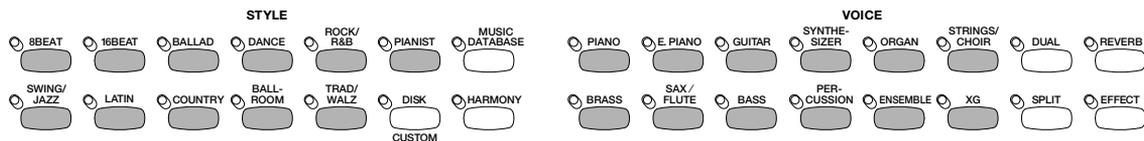


2 [1]~[4]のうち好きなボタンを押すと、選んだ曲のデモ演奏が始まります。

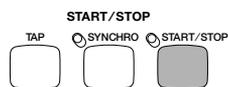


【8 BEAT(8ビート)】 ~ 【PIANIST(ピアニスト)】の11個のSTYLE(伴奏スタイル)ボタンや、【PIANO(ピアノ)】 ~ エックスサイズ【XG】の12個のVOICE(音色)ボタンを押しても、それぞれ選んだボタンのデモ曲を聞くことができます。

**NOTE** それぞれのボタンのデモ曲は2曲ずつあります。ボタンを2回押すと、2曲めのデモを聞くことができます。

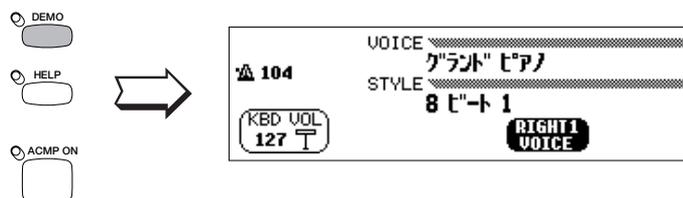


3 【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すと演奏が止まります。



4 デモを終了するときは、【DEMO(デモ曲)】を押します。

⇒基本画面に戻ります。



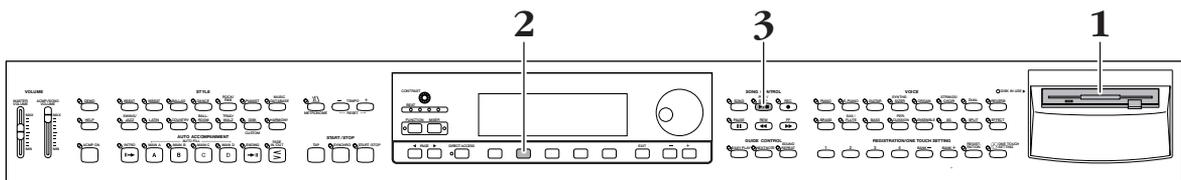
詳しい説明は...取扱説明書「本編」P.48～P.49

# 第3章 ミュージック データを 使ってみましょう

付属の「ミュージックソフト・コレクション」のディスクには、5曲のミュージック データが収録されています。オーケストラの伴奏をバックに演奏を楽しむことができます。1、2、4曲めでは、LCD画面に歌詞が表示され、カラオケを楽しむことができます。「ミュージックソフト・コレクション」の楽譜集に、ピアノパートの楽譜が掲載されています。

## 聞いてみましょう

### ここで使うボタン

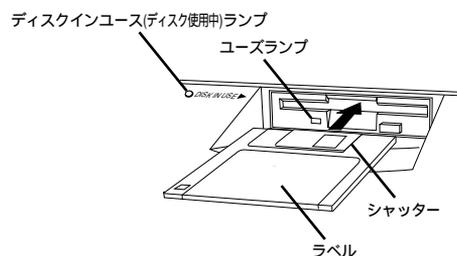


### 操作

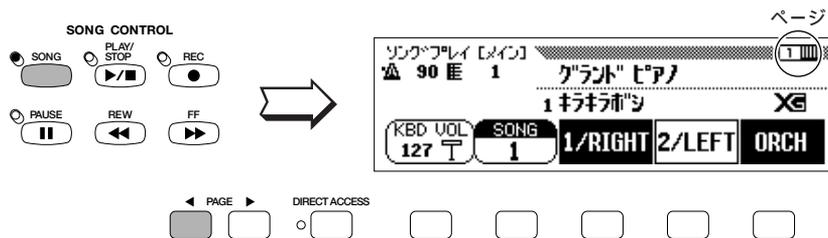
ディスクの取り扱い上の注意について、「フロッピーディスクの取り扱いについて」(P.10)をお読みください。

- 1 付属の「ミュージックソフト・コレクション」のディスクを、シャッター側を奥に、ラベル面を上にして、ディスクドライブに差し込みます。

⇒【SONG(ソング)】のランプが点灯し、ソングプレイ[メイン]画面が現れます。



**ディスクインユース** DISK IN USE(ディスク使用中)ランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。



この画面が出ない場合は、PAGE(ページ)【◀】を押して、1ページめにしてください。

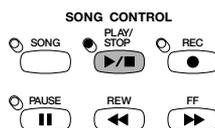
2 <sup>ソング</sup> [SONG]を押して再生させたい曲番号を選びます。

現在LCD画面に表示されている曲番号より若い数字の曲番号を選ぶ場合は【ダイアル】を使います。

**NOTE** 【ダイアル】は<sup>ソング</sup>[SONG]が反転表示されている場合に使えます。



3 【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押すと再生が始まります。

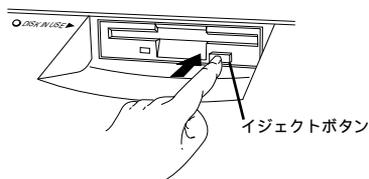


ボリュームは【MASTER <sup>ボリューム</sup>VOLUME(全体ボリューム)】で調節します。

曲の再生が終わると自動的にストップします。

再生の途中でストップしたいときは、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押します。

ディスクを使い終わったら必ず、イジェクトボタンを押して、ディスクをディスクドライブから抜いておきましょう。



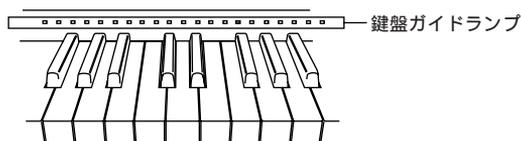
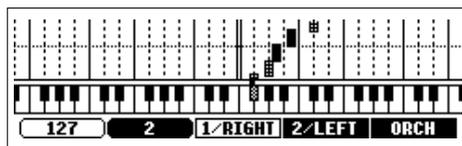
# 弾いてみましょう

## 例題曲：「華麗なる大円舞曲」曲番号3

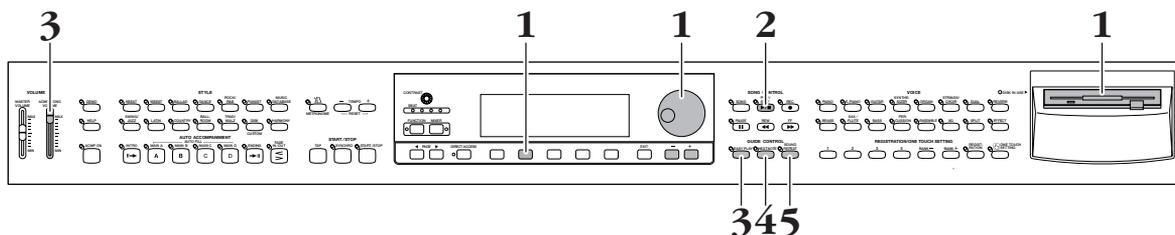
ここでは、ガイド機能の3段階ステップアップ練習を体験します。LCD画面に表示される"ピアノロール"と"鍵盤ガイドランプ"によって、鍵盤を弾くタイミングや音符の長さ、押さえる鍵盤位置を示してくれます。さらに、正しい鍵盤を押さえるまで伴奏が待っていてくれますので、マイペースで練習することができます。

### ピアノロールとは...

LCD画面に現れる、演奏練習用画面のことです。弾く鍵盤位置に向かって、弾く音符の長さと同じ長さのバーが、画面の上から降りてきます。バーが画面の下まで達したときが、鍵盤を弾くタイミングです。バーの長さ分鍵盤を押さえていると、正しい音符の長さ分鍵盤を弾いたことになります。



## ここで使うボタン



## 操作

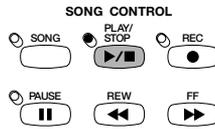
## まずは聞いてみましょう

- 1 「ミュージックソフト・コレクション」のディスクを入れて、3曲めを選びます。



## 2 【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して再生をスタートし、一度聞いてみましょう。

⇒曲の再生が終わると自動的にストップします。

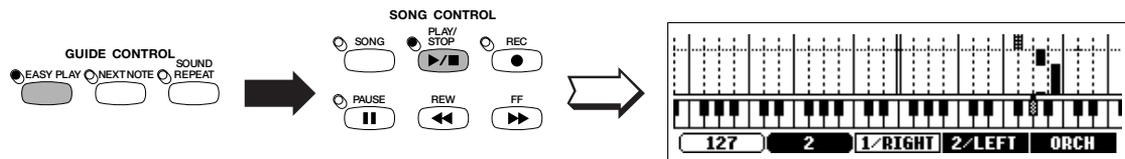


## メロディのリズムを練習しましょう(イージープレイ機能)

伴奏に合わせて鍵盤を弾き、メロディのリズムだけを練習します。鍵盤はどこを弾いても正しいメロディの音程が鳴りますので、どの鍵盤を弾くかは今は気にせずに練習してください。メロディをうたいながら鍵盤を弾くとうまくいくでしょう。

## 3 【EASY PLAY(イージープレイ)】を押してから、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して再生をスタートし、鍵盤を弾きます。

⇒イントロ(前奏)の演奏が終わると、ピアノロール画面にバーが降りてきます。



ディスク伴奏のボリュームは【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】で調節します。

曲の再生が終わると自動的にストップします。

再生の途中でストップしたいときは、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押します。

## メロディの音程を確認しましょう(ネクストノート機能)

弾く鍵盤の位置を確認する練習です。正しい鍵盤位置を弾くまで伴奏が待っていてくれます。鍵盤ガイドランプは、弾くタイミングがくると、点灯から点滅に変わります。

## 4 【NEXT NOTE(ネクストノート)】を押してから、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して再生をスタートし、鍵盤を弾きます。



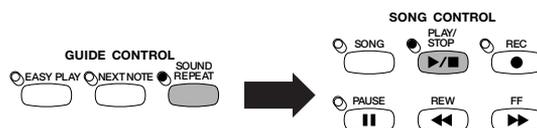
曲の再生が終わると自動的にストップします。

再生の途中でストップしたいときは、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押します。

## お手本演奏をまねして弾く練習をしましょう(サウンドリピート機能)

メロディを短く区切ったお手本演奏が再生されますので、それを聞いて強弱などをまねして練習します。正しく弾けると、次の区切りに進みます。

- 5 【SOUND REPEAT(サウンドリピート)】を押してから、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して再生をスタートし、鍵盤を弾きます。



曲の再生が終わると自動的にストップします。

再生の途中でストップしたいときは、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押します。

ディスクを使い終わったら必ず、イジェクトボタンを押して、ディスクをディスクドライブから抜いておきましょう。

デモ曲の4曲め「4. GUIDE DEMO」でも、ガイド機能が使えます。

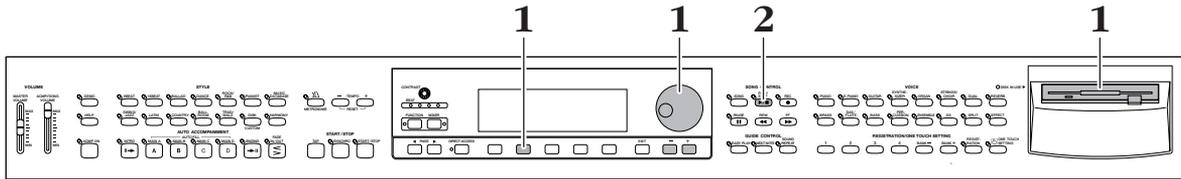
詳しい説明は...取扱説明書「本編」P.119～P.123

# 歌ってみましょう

## 例題曲：「TSUNAMI」曲番号4

LCD画面に表示される歌詞を見ながら、カラオケを楽しむことができます。

### ここで使うボタン



### 操作

- 1 「ミュージックソフト・コレクション」のディスクを入れて、4曲めを選びます。



- 2 【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して再生をスタートします。



⇒LCD画面に歌詞が表示されます。

曲の再生が終わると自動的にストップします。

再生の途中でストップしたいときは、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押します。

ディスクを使い終わったら必ず、イジェクトボタンを押して、ディスクをディスクドライブから抜いておきましょう。

詳しい説明は...取扱説明書「本編」P.107

# 第4章 自動伴奏を使ってみましょう

付属の「自動伴奏で弾く50曲集」に収録されている曲を、演奏してみましょう。付属の「ミュージックソフト・コレクション」のディスクには、その50曲を、自動伴奏を使って演奏するための、曲ごとの伴奏スタイル、音色、伴奏切り替えの設定データが入っていますので使ってみましょう。

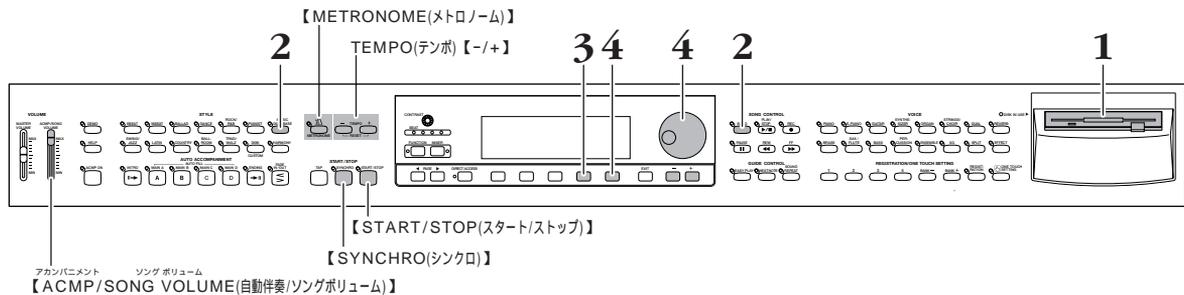
## 自動伴奏とは...

鍵盤でコード(和音)を押さえるだけで、選ばれているスタイルに合った伴奏が自動演奏される機能です。簡単な演奏方法で、さまざまなスタイルの伴奏付き演奏を楽しむことができます。コードの押さえ方には

- ドの鍵盤だけ押さえればCコード(ドミソ)の和音が出るシングルフィンガー
- ドミソと押さえてCコードを鳴らすフィンガード
- 普通にピアノを弾くように両手で演奏するとコードが鳴るフルキーボードなどがあります。

## 曲ごとの設定データを読み込んでみましょう

### ここで使うボタン



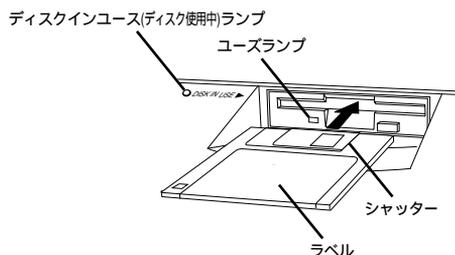
### 操作

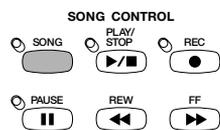
ディスクの取り扱い上の注意について、「フロッピーディスクの取り扱いについて」(P.10)をお読みください。

**1** 付属の「ミュージックソフト・コレクション」のディスクを、シャッター側を奥に、ラベル面を上にして、ディスクドライブに差し込みます。

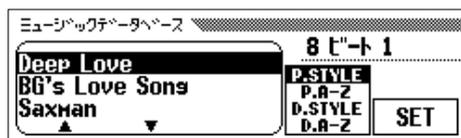
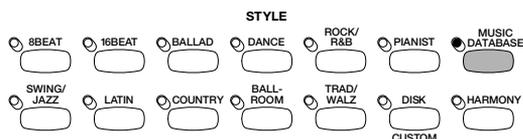
⇒【SONG(ソング)】のランプが点灯しますので、【SONG(ソング)】を押してランプを消します。

**⊘** ディスクインユース (DISK IN USE) ランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。

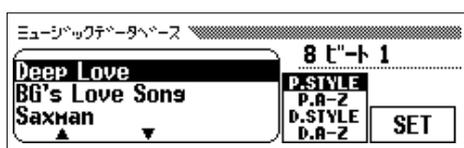




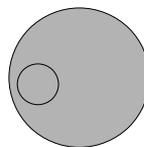
2 【MUSIC DATA BASE(ミュージックデータベース)】を押すと、ミュージックデータベース画面が現れます。



3 右から2番めのLCDボタンで<sup>エーゼット</sup>【D.A-Z】を選ぶと、データのメニューが、「自動伴奏で弾く50曲集」の順番に並べ替えられます。



4 【ダイアル】で、弾きたい曲のメニューを選び<sup>セット</sup>【SET】を押すと、伴奏スタイル、音色、伴奏切り替えの設定データが自動的にセットされます。

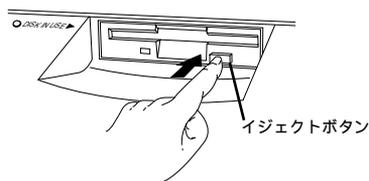


<sup>ディスクインユース</sup>DISK IN USE(ディスク使用中)ランプが1度点灯してから消灯すると、セットは完了です。

次の項を見ながら「自動伴奏で弾く50曲集」で演奏をお楽しみください。

**NOTE** <sup>アコンパニメントオン</sup>【ACMP ON(自動伴奏オン)】と【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)】を押して、ランプを消すと、自動伴奏とミュージックデータベース機能は<sup>オフ</sup>OFFになり、基本画面に戻ります。

**NOTE** ディスクを使い終わったら必ず、イジェクトボタンを押して、ディスクをディスクドライブから抜いておきましょう。



詳しい説明は...取扱説明書「本編」P.73~P.75

# シングルフィンガー奏法で弾いてみましょう

左手はドとソだけ

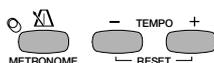
## 例題曲：「メリーさんのひつじ」シンプルバージョン

### 操作

- 1 「自動伴奏で弾く50曲集」P.6を見て、普通にピアノを弾くように練習します。まだ、自動伴奏は使いませんので、【ACMP ON(自動伴奏オン)<sup>アカンパニメント オン</sup>】と【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)<sup>オン</sup>】がONになっている場合は、それぞれのボタンを押してOFFにしてから練習してください。
- 2 「ミュージックソフト・コレクション」のディスクを入れて、「01\_1:メリーサン ノ ヒツジ」のメニューを選び、セットします。



- 3 【METRONOME(メトロノーム)】を押して、メトロノームの音を聞きながら、TEMPO(テンポ)【-/+]で弾ける速さにテンポを調節します。  
もう一度【METRONOME(メトロノーム)】を押すと、メトロノームが止まります。



- 4 【SYNCHRO(シンクロ)】のランプが点灯していることを確認して、操作1で練習したとおりに演奏します。  
⇒自動伴奏付きの演奏になります。

**NOTE** 自動伴奏付きで演奏すると、左手で弾いている鍵盤は自動伴奏のコード指定用になりますので、実際に弾いている鍵盤の音は鳴りません。

**NOTE** 伴奏ボリュームは【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)<sup>アカンパニメント ソング ボリューム</sup>】で調節します。

途中で演奏をやり直したい場合は、【START/STOP(スタート/ストップ)】でストップし、【SYNCHRO(シンクロ)】を押してから弾き直します。

エンディング(後奏)が終わると自動的にストップします。

- 5 【ACMP ON(自動伴奏オン)<sup>アカンパニメント オン</sup>】と【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)<sup>オン</sup>】を押してランプを消すと、自動伴奏とミュージックデータベース機能はOFFになり、基本画面に戻ります。

詳しい説明は...取扱説明書「本編」P.65～P.72

# フィンガード奏法で弾いてみましょう

左手はドミソとシファソだけ

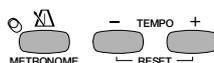
## 例題曲：「かっこう」

### 操作

- 1 「自動伴奏で弾く50曲集」P.18を見て、普通にピアノを弾くように練習します。まだ、自動伴奏は使いませんので、【ACMP ON(自動伴奏オン)<sup>アカンパニメント オン</sup>】と【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)<sup>オン</sup>】がONになっている場合は、それぞれのボタンを押してOFF<sup>オフ</sup>にしてから練習してください。
- 2 「ミュージックソフト・コレクション」のディスクを入れて、「05:かっこう」のメニューを選び、セットします。



- 3 【METRONOME(メトロノーム)】を押して、メトロノームの音を聞きながら、TEMPO(テンポ)【-/+]で弾ける速さにテンポを調節します。  
もう一度【METRONOME(メトロノーム)】を押すと、メトロノームが止まります。



- 4 【SYNCHRO(シンクロ)】のランプが点灯していることを確認して、操作1で練習したとおりに演奏します。  
⇒自動伴奏付きの演奏になります。

**NOTE** 自動伴奏付きで演奏すると、左手で弾いている鍵盤は自動伴奏のコード指定用になりますので、実際に弾いている鍵盤の音は鳴りません。

**NOTE** 伴奏ボリュームは【ACMP / SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)<sup>アカンパニメント ソング ボリューム</sup>】で調節します。

途中で演奏をやり直したい場合は、【START/STOP(スタート/ストップ)】でストップし、【SYNCHRO (シンクロ)】を押してから弾き直します。

エンディング(後奏)が終わると自動的にストップします。

- 5 【ACMP ON(自動伴奏オン)<sup>アカンパニメント オン</sup>】と【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)<sup>オン</sup>】を押してランプを消すと、自動伴奏とミュージックデータベース機能はOFF<sup>オフ</sup>になり、基本画面に戻ります。

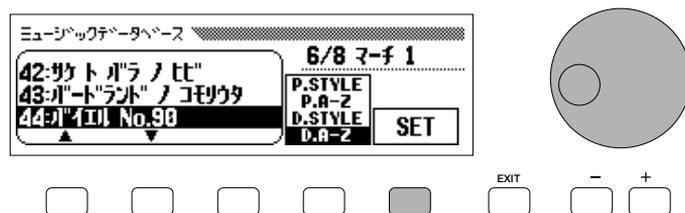
詳しい説明は...取扱説明書「本編」P.65～P.72

# フルキーボード奏法で弾いてみましょう

例題曲：「バイエル90番」

## 操作

- 1 「自動伴奏で弾く50曲集」P.90を見て、普通にピアノを弾くように練習します。また、自動伴奏は使いませんので、【ACMP ON(自動伴奏オン)<sup>アカンパニメント オン</sup>】と【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)<sup>オン</sup>】がONになっている場合は、それぞれのボタンを押してOFF<sup>オフ</sup>にしてから練習してください。
- 2 「ミュージックソフト・コレクション」のディスクを入れて、「44:バイエル No.90」のメニューを選び、セットします。



- 3 【METRONOME(メトロノーム)】を押して、メトロノームの音を聞きながら、TEMPO(テンポ)【-/+]で弾ける速さにテンポを調節します。  
もう一度【METRONOME(メトロノーム)】を押すと、メトロノームが止まります。



- 4 【SYNCHRO(シンクロ)】のランプが点灯していることを確認して、操作1で練習したとおりに演奏します。  
⇒自動伴奏付きの演奏になります。

**NOTE** 伴奏のボリュームは【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)<sup>アカンパニメント ソングボリューム</sup>】で調節します。

途中で演奏をやり直したい場合は、【START/STOP(スタート/ストップ)】でストップし、【SYNCHRO(シンクロ)】を押してから弾き直します。

エンディング(後奏)が終わると自動的にストップします。

- 5 【ACMP ON(自動伴奏オン)<sup>アカンパニメント オン</sup>】と【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)<sup>オフ</sup>】を押してランプを消すと、自動伴奏とミュージックデータベース機能はOFFになり、基本画面に戻ります。

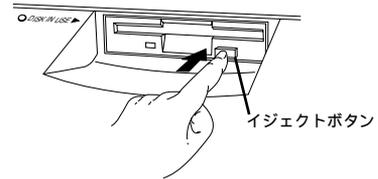
詳しい説明は...取扱説明書「本編」P.65～P.72

# 第5章 録音してみましよう

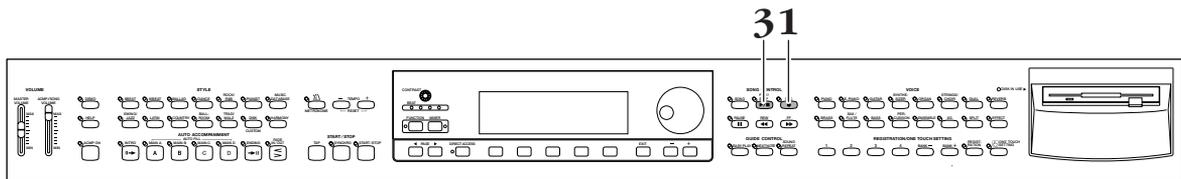
## 例題曲：「きらきら星」「自動伴奏で弾く50曲集」P.12

**NOTE** この曲用の設定データ(P.24)は使いません。

ここでは、一番簡単にできるクイック録音を体験します。  
フロッピーディスクを使わずに録音しますので、ディスクがディスクドライブに入っている場合は、イジェクトボタンを押して、ディスクを抜いておいてください。また、【ACMP ON(自動伴奏オン)】と【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)】がONになっている場合には、それぞれを押してOFFにしておきます。

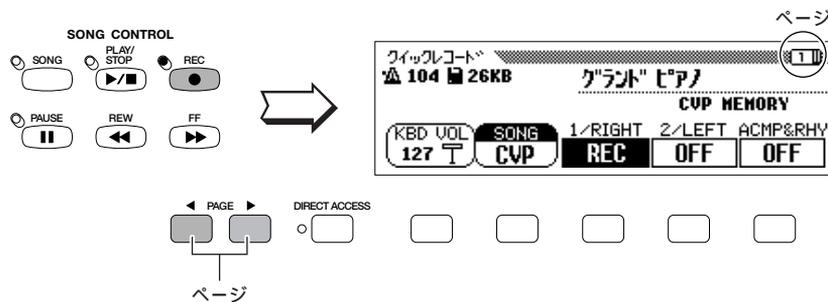


### ここで使うボタン



### 操作

- 1 **【REC(録音)】**を押してランプを点灯させると、クイックレコード画面が現れます。  
⇒自動的に[1/RIGHT]トラックが録音待機状態になります。



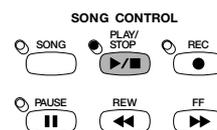
この画面が出ない場合は、PAGE(ページ)【◀】を押して、1ページめにしてください。

- 2 鍵盤で「きらきら星」を演奏します。  
⇒録音がスタートします。



- 3 演奏が終わったら、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して録音をストップします。

【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して再生してみましょう。



- 4 【SONG(ソング)】を押してランプを消すと、基本画面に戻ります。

右手と左手を別のトラックに録音しておいて、別々に再生したり、16個のトラックに分けて多重録音もできます。音色や伴奏スタイルの種類などのさまざまな設定、自動伴奏も録音できます。詳しくは本編をご覧ください。

詳しい説明は...取扱説明書「本編」P.126～P.127



## 本 編

第1章	はじめに .....	32
第2章	機能説明(ヘルプ)とデモ HELP&DEMO .....	46
第3章	音色 VOICE .....	50
第4章	伴奏スタイル STYLE .....	63
第5章	効果(リバーブ/コーラス/エフェクト) REVERB/CHORUS/EFFECT .....	97
第6章	パネル状態の登録(レジストレーション) REGISTRATION .....	104
第7章	曲の録音/再生 SONG CONTROL .....	107
第8章	便利なその他の諸設定(ファンクション) FUNCTION .....	149
第9章	その他 .....	175

# 第1章 はじめに

## 本編について

### 本編の構成

#### 第1章 はじめに(P.32)

CVP-201をお使いいただく上での、基本的な事項を説明します。

#### 第2章 機能説明(ヘルプ)とデモ(P.46)

CVP-201の中に入っている、ヘルプの使い方とデモ演奏の聞き方を説明します。

#### 第3章 音色(P.50)

音色の選び方を説明します。また、ペダル機能について知りたいときにもご覧ください。"音色一覧"は別冊「データリスト」にあります。

#### 第4章 伴奏スタイル(P.63)

伴奏スタイルの選び方、自動伴奏の使い方を説明します。また、オリジナルの自動伴奏パターンをご自分で作ってみたい、というときにもご覧ください。"伴奏スタイル一覧"は別冊「データリスト」にあります。

#### 第5章 効果(リバーブ/コーラス/エフェクト)(P.97)

リバーブ、コーラスなどの各種効果について説明します。

#### 第6章 パネル状態の登録(レジストレーション)(P.104)

パネルの設定状態の登録と呼び出し方を説明します。

#### 第7章 曲の録音/再生(P.107)

市販のミュージック データの再生方法や練習方法、自分で弾いた曲の録音再生方法を説明します。

#### 第8章 便利なその他の諸設定(ファンクション)(P.149)

CVP-201をさらに便利に使いこなすための細かい設定を説明します。チューニングや移調、ペダルに関する設定、ディスクに関する細かい機能、MIDI設定などを知りたいときはご覧ください。

#### 第9章 その他(P.175)

他の機器やパーソナルコンピューターとの接続、別売ミュージック データについて、MIDI及びデータの互換性など説明します。メッセージ一覧もご覧ください。

## 目的のページの見つけ方

### 「目次」を使う(P.8)

こんなことをしたいという目的や知りたい機能名から探すときに便利です。

### 「各部の名前」を使う(P.34)

ボタンの名前から探すときに便利です。

### 「索引」を使う(P.192)

用語から探すときに便利です。

## 基礎用語

本書で使われている主な用語の意味は下記のとおりです。

### 伴奏スタイル：

リズムや自動伴奏を使うときに選ぶ、音楽のジャンルなどのパターンの種類1つ1つを"伴奏スタイル"と呼びます。いろいろな伴奏スタイルが11個のグループに分かれて用意されています。パネル上の英語表記では"STYLE"となっています。本書でも、"伴奏スタイル"を省略して"スタイル"と表記する場合があります。

### ソング：

曲データのことを指して、クラピノーバでは"ソング"と呼びます。

### ミュージック データ：

市販されている、フロッピーディスクなどに曲データを収録したソフトを指して、"ミュージック データ"と呼びます。

### 基本設定：

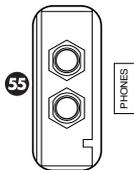
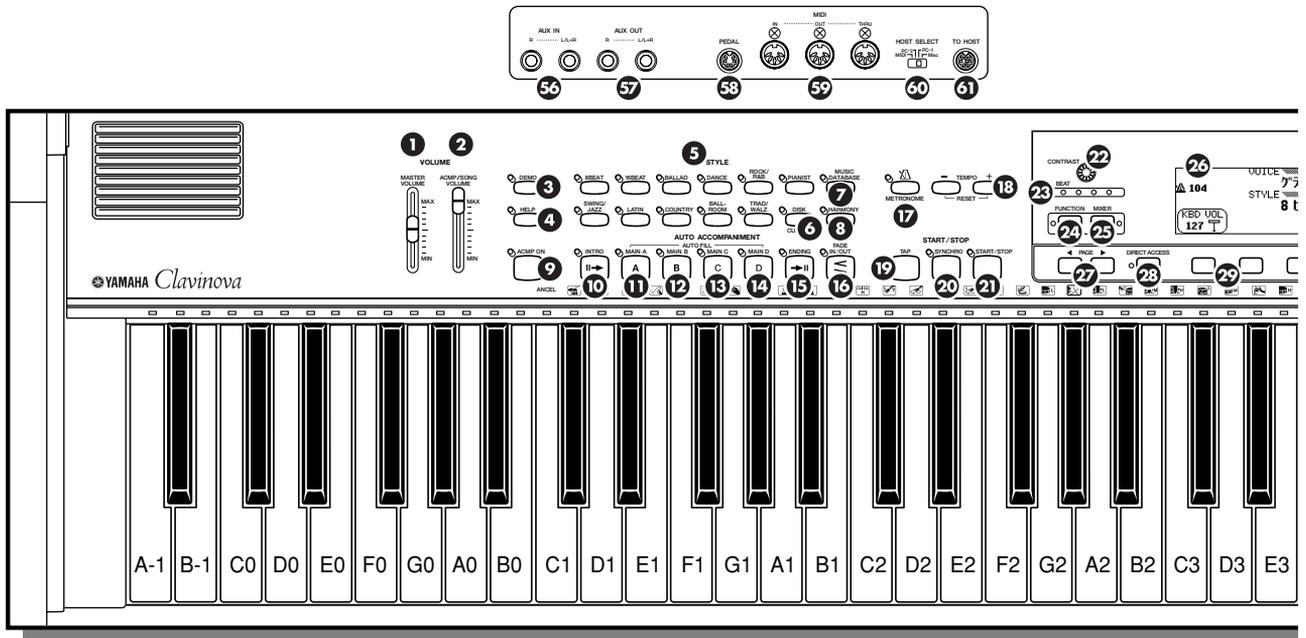
工場出荷時には、CVP-201の持つさまざまな設定値や機能が、標準値や標準の状態に設定されています。これらの設定値や機能の状態を基本設定と呼びます。各機能の基本設定は、好みや目的に合わせて変更することができますが、バックアップ機能(P.169)の設定によって、電源をOFFにしたあとも変更した値を保持するか、基本設定に戻すかを定めることができます。また、"リコール機能"(P.170)を使うといつでも基本設定に戻すことができます。

### 基本画面：

電源を<sup>オン</sup>にして、最初に表示される下記のLCD画面を意味します。



# 各部の名前



## ボリュームセクション

- 1 【MASTER VOLUME(全体ボリューム)】.....P.41
- 2 【ACMP / SONG VOLUME(自動伴奏/ソング ボリューム)】.....P.41、116

## デモ/ヘルプセクション

- 3 【DEMO(デモ曲)】.....P.16、48
- 4 【HELP(ヘルプ)】.....P.14、46

## 伴奏スタイルセクション

- 5 STYLE(伴奏スタイル)ボタン.....P.64
- 6 【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】.....P.82
- 7 【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)】.....P.61、73
- 8 【HARMONY(ハーモニー)】.....P.76

## 自動伴奏セクション

- 9 【ACMP ON(自動伴奏オン)】.....P.65
- 10 【INTRO(イントロ)】.....P.67
- 11 【MAIN A(メインA)】.....P.67
- 12 【MAIN B(メインB)】.....P.67
- 13 【MAIN C(メインC)】.....P.67
- 14 【MAIN D(メインD)】.....P.67
- 15 【ENDING(エンディング)】.....P.67
- 16 【FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)】.....P.68

## メトロノームセクション

- 17 【METRONOME(メトロノーム)】.....P.45
- 18 TEMPO(テンポ)【-/+].....P.43、110

## スタート/ストップセクション

- 19 【TAP(タップ)】.....P.44、66
- 20 【SYNCHRO(シンクロ)】.....P.66
- 21 【START/STOP(スタート/ストップ)】.....P.26、65、109、129

## ディスプレイコントロールセクション

- 22 【CONTRAST(コントラスト)】.....P.12
- 23 【BEAT(ビート)】.....P.43
- 24 【FUNCTION(諸設定)】.....P.149
- 25 【MIXER(ミキサー)】.....P.42、68、116
- 26 LCD画面.....P.37
- 27 PAGE(ページ)【◀】【▶】.....P.38
- 28 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】.....P.39
- 29 LCDボタン.....P.37
- 30 【EXIT(戻る)】.....P.38
- 31 【ダイヤル】.....P.36
- 32 【-/+].....P.36

## ソングコントロールセクション

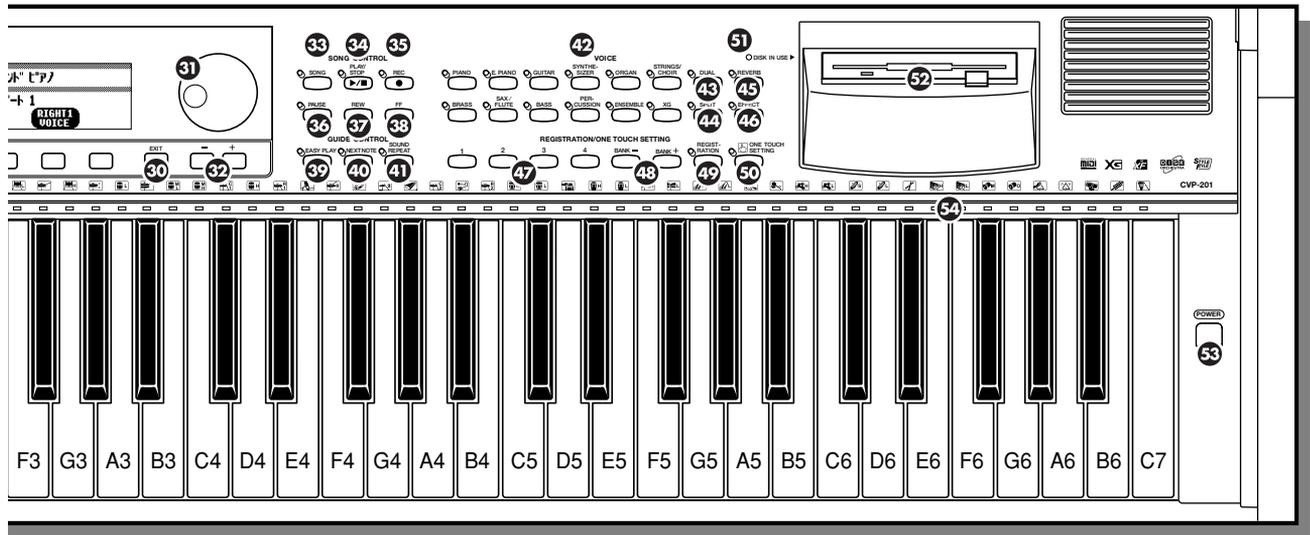
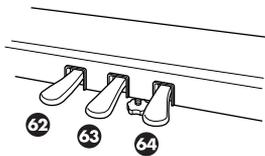
- 33 【SONG(ソング)】.....P.108、126
- 34 【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】.....P.19、109、127
- 35 【REC(録音)】.....P.29、127、128、136
- 36 【PAUSE(一時停止)】.....P.110
- 37 【REW(巻戻し)】.....P.110
- 38 【FF(早送り)】.....P.110

## ガイドコントロールセクション

- 39 【EASY PLAY(イージープレイ)】.....P.20、119
- 40 【NEXT NOTE(ネクストノート)】.....P.20、119
- 41 【SOUND REPEAT(サウンドリピート)】.....P.20、119

## 音色セクション

- 42 VOICE(音色)ボタン.....P.51
- 43 【DUAL(デュアル)】.....P.54
- 44 【SPLIT(スプリット)】.....P.55
- 45 【REVERB(リバーブ)】.....P.97
- 46 【EFFECT(エフェクト)】.....P.102



### レジストレーション/ワンタッチセッティングセクション

- 47 呼び出しボタン【1】～【4】.....P.61、104、105
- 48 BANK(バンク)【-】【+】.....P.104、105
- 49 【REGISTRATION(レジストレーション)】.....P.104、105
- 50 【ONE TOUCH SETTING(ワンタッチセッティング)】.....P.61
  
- 51 DISK IN USE(ディスク使用中)ランプ .....P.10、18、24、108、126、163
- 52 3.5"フロッピーディスクドライブ.....P.10
- 53 【POWER】.....P.12
- 54 鍵盤ガイドランプ.....P.20、119

### ヘッドフォン端子

- 55 【PHONES】.....P.12、175

### 端子

- 56 AUX IN【L/L+R】【R】.....P.176
- 57 AUX OUT【L/L+R】【R】.....P.176
- 58 【PEDAL】.....P.177
- 59 MIDI【THRU】【OUT】【IN】.....P.176、179、187
- 60 【HOST SELECT】.....P.177、178
- 61 【TO HOST】.....P.177、178

### ペダル

- 62 ソフトペダル.....P.62、154
- 63 ソステナートペダル.....P.62
- 64 ダンパーペダル.....P.62

### パネルのロゴマーク

CVP-201は、下記のフォーマットや機能に対応しています。

#### ジーエム GMシステムレベル1

「GMシステムレベル1」は、メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音源の音色配列やMIDI機能に関する一定の基準のことです。「GMシステムレベル1」に対応した音源やミュージック データには、このGMマークがついています。

#### エックスジー XG

「XG」は、音色配列に関する「GMシステムレベル1」をより拡張し、時代と共に複雑化、高度化していくコンピューター周辺環境にも対応させ、豊かな表現力とデータの継続性を可能とした、ヤマハの音源フォーマットです。「XG」では、音色の拡張方式やエディット方式、エフェクト構成やタイプなどを規定して、「GMシステムレベル1」を大幅に拡張しました。「XG」に対応した音源やミュージック データには、この「XG」マークがついています。

#### エックスエフ XF

「スタンダードMIDIファイル」(P.188)をより拡張し、時代と共に複雑化、高度化していくコンピューター周辺機器に対応させ、歌詞表示などを可能にしたヤマハ独自のMIDIファイルフォーマットです。

#### DOC

DOC(ディスクオーケストラ・コレクション)

クラビノーバをはじめとする、ヤマハの多くのMIDI機器で対応している音色配列フォーマットです。ディスクオーケストラ・コレクションに対応した音源やミュージック データには、DOCマークがついています。

#### スタイルファイル

スタイルファイルフォーマットとは、ヤマハの自動伴奏(オートアカンパニメント)機能のノウハウを集大成した伴奏スタイルに関するフォーマットです。

また、上記のロゴマーク以外にも、CVP-201を使用する上で関連するフォーマットについて、P.187で説明します。

# 基本操作

操作はLCD画面を見ながら行ないます。LCD画面の内容に応じて、画面の下のボタン及びその右横の【ダイヤル】や【-/+]を使って、さまざまな操作をスムーズに行なえるようになっていきます。これらの操作を一度覚えると、同じ要領で簡単にいろいろな機能を使えるようになります。



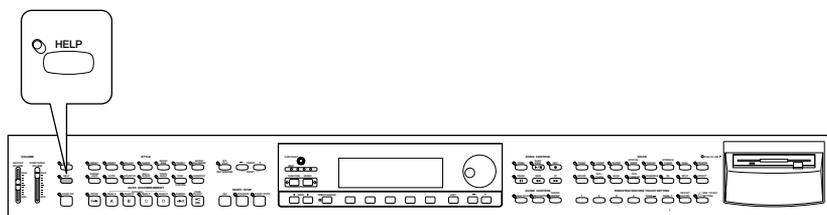
LCD画面が見えにくい場合は、【CONTRAST(コントラスト)】のつまみを左右に回して、LCD画面の明るさを調節してください。



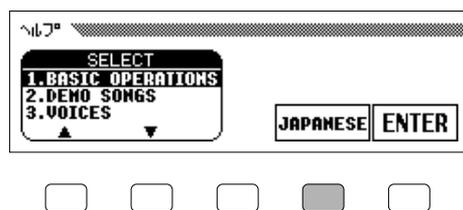
## 言語表示を切り替える

LCD画面は、基本設定で日本語表示になっていますが、ここで、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語に切り替えることができます。

- 1 【HELP(ヘルプ)】を押してヘルプ(HELP)画面を表示させます。



- 2 右から2番めのLCDボタンを押して、言語を切り替えます。



- 3 【HELP(ヘルプ)】を押してヘルプ機能を終了させます。  
⇒基本画面に戻ります。

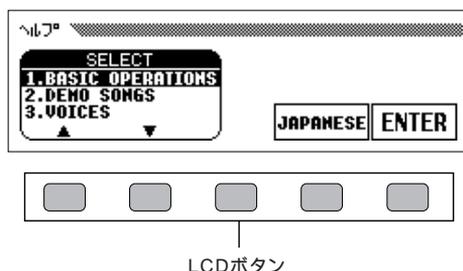
ジャパニーズ  
[JAPANESE(日本語)](基本設定)、  
イングリッシュ  
[ENGLISH(英語)]、[GERMAN(ドイツ語)]、  
ジャーマン  
フレンチ  
[FRENCH(フランス語)]、[SPANISH(スペイン語)]  
スパニッシュ  
を切り替えることができます。  
(FRENCHやGERMAN、SPANISHを選んだ場合には、ヘルプの説明文以外の画面では、英語表示となります。)

設定した言語は、電源をOFFにしたあとも保持されます。

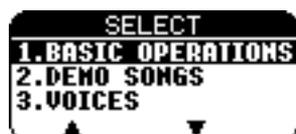
## LCD画面とLCDボタン

LCD画面の下に並んだ5つのボタンをLCDボタンと呼びます。このLCDボタンでLCD画面上に表示された項目を選んだり、数値を変えたりすることができます。

次の画面は【HELP(ヘルプ)】を押すと表示されます。



LCDボタンは、表示される画面に応じてその役割が変わります。画面表示には、角の丸い四角で囲んであるものと、角がある四角で囲んであるものの2種類があります。



角の丸い四角



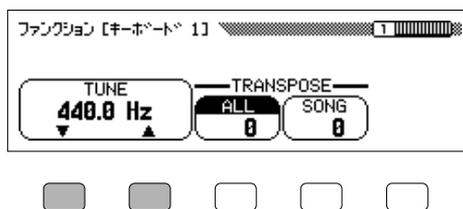
角がある四角

### 角の丸い四角で囲んである場合

その表示のすぐ下のLCDボタンを押して表示を反転させたあと、【ダイヤル】や【-/+】を使って設定します。

項目を選んだあと、さらにLCDボタンを押しても設定できます。たとえば、次のような画面でチューニングをする場合は、[TUNE]のすぐ下のLCDボタンを押して[TUNE]の表示を反転させたあと、【ダイヤル】や【-/+】で値を設定します。

次の画面は、電源を<sup>オン</sup>にして初めて【FUNCTION(諸設定)】を押したときに表示されます。



と、または◀と▶が表示される項目では、多くの場合、両方のボタン、または【-/+】を同時に押すと、設定されている値を基本設定に戻すことができます。覚えておくと便利です。

### 反転表示...

画面上の項目を選ぶと、選ばれた項目の表示が反転し、白抜きの文字で表示されます。

### ボタンを押し続けると...

LCDボタンと【-/+】は、押し続けると連続的に選択/変更できる場合があります。

と、◀と▶、【-/+】を同時に押しても基本設定に戻らない項目もあります。

## 角がある四角で囲んである場合

その表示のすぐ下のLCDボタンを押すだけで、直接選べたり、<sup>オン</sup> <sup>オフ</sup> ON/OFFの切り替えになります。

たとえば、次の画面でデモ曲の1曲めを選ぶ場合は、[1]の下のLCDボタンを押すと、すぐに1曲めの演奏が始まります。

この画面は、【DEMO(デモ曲)】を押すと表示されます。

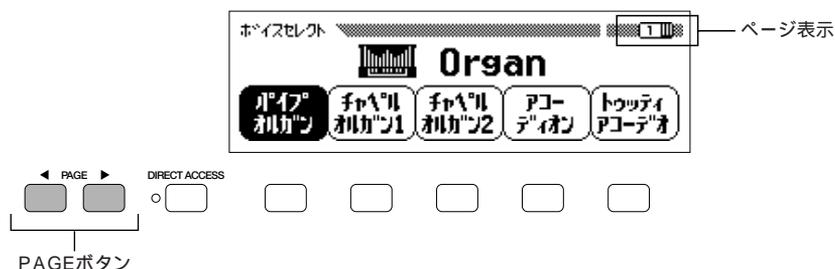


## ページ PAGE(ページ) 【◀】【▶】

LCD画面の右上に数字がある場合は、LCD画面に続きのページがあります。

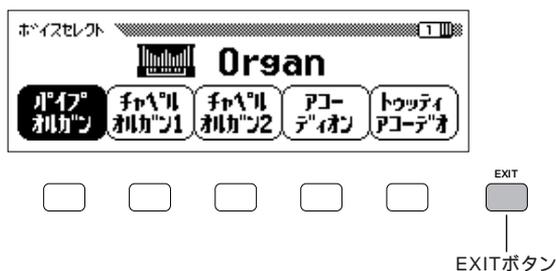
PAGE(ページ)【◀】【▶】を押すと、画面の次ページや前ページを表示させることができます。

次の画面は、【ORGAN(オルガン)】を押すと表示されます。



## エグジット 【EXIT(戻る)】

現在の機能から抜けたり、元の画面に戻したい場合は、<sup>エグジット</sup> 【EXIT(戻る)】を押します。



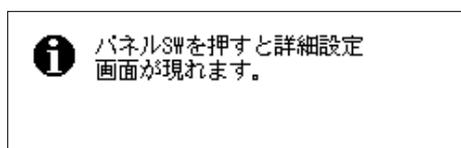
## 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】

CVPの機能の中には、必要に応じて詳細な設定をする画面を持っているものがあります。それらの機能の詳細設定画面を表示する場合は、【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】を押してから、各機能ボタンを押します。

詳細設定画面を持っている機能ボタンは下記のとおりです。

- 【HARMONY(ハーモニー)】
- 【ACMP ON(自動伴奏オン)  
アカンパニメント オン
- 【METRONOME(メトロノーム)】
- 【VOICE(音色)  
ボイス
- 【DUAL(デュアル)】
- 【SPLIT(スプリット)】
- 【REVERB(リバーブ)】
- 【EFFECT(エフェクト)】
- 【REGISTRATION(レジストレーション)】

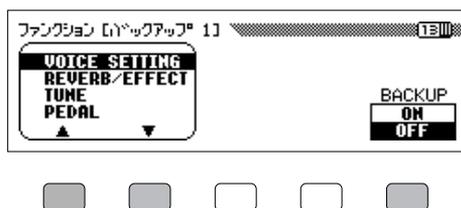
- 1 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】を押すと、「パネルSWを押すと詳細設定画面が現れます」のメッセージが数秒間表示されます。



- 2 メッセージ表示中に、各機能ボタンを押すと、その機能の詳細設定画面が表示されます。

## メモリーバックアップ

さまざまな数値や機能の設定内容は、バックアップ機能(P.169)の設定によって、電源をOFFにしたあとも保持できます。バックアップ機能の画面では、バックアップしたい内容をグループごとにも選べます。バックアップしないグループの内容は、電源をOFFにすると基本設定に戻ります。



- ! 電源をOFFにして約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容は消え、すべての設定内容が基本設定に戻ります。したがって、バックアップされている内容を保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

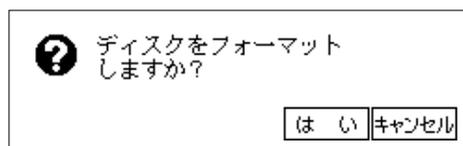
別冊「データリスト」には、バックアップ項目の一覧があります。

バックアップをONにしている項目でも、リコール機能(P.170)を使えばいつでも基本設定に戻ることができます。

メモリー=記憶

## メッセージ

LCD画面には、操作中、各種のメッセージが表示されます。次の操作を促すものや、操作の内容を確認するもの、操作の結果、また、無効な操作をしたときにもメッセージが出ます。操作を促すメッセージが出たときは、その内容に従って操作をすれば安心です。また、無効な操作を指摘するメッセージが出たときは、P.180のメッセージ一覧で詳しい内容を確認してください。





キーボード ボリューム

## [ KBD VOL ]

鍵盤で弾いている音のボリュームを調節することができます。

基本画面のキーボード ボリューム [ KBD VOL ]を押して表示を反転させ、【ダイアル】や【-/+】で設定します。

キーボード ボリューム [ KBD VOL ]を押し続けても、数値が大きくなります。数値が大きいほど手弾き音は大きくなります。



## 【MIXER(ミキサー)】

【MIXER(ミキサー)】を押すと、ミキサー(MIXER)画面が表示されます。ミキサー画面では、自動伴奏や曲データの各パートのボリュームを個別に調節することができます。もう一度【MIXER(ミキサー)】を押すと元の画面に戻ります。エグジット【EXIT(戻る)】を押しても元の画面に戻ります。



ミキサー画面には次の2種類があります。

### 自動伴奏のパート別ボリューム調節



詳しくは、自動伴奏の"パート別ボリューム調節"(P.68)をご覧ください。

### 曲データのトラック別ボリューム調節



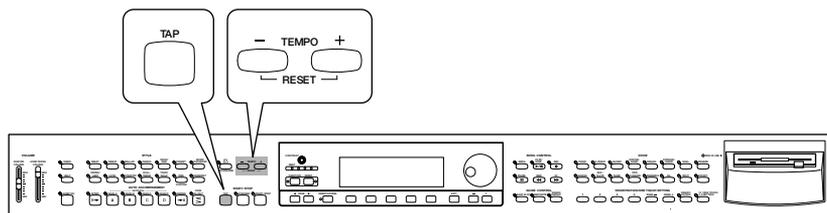
詳しくは、曲データの"トラック別のボリュームなどの調節"(P.116)をご覧ください。

ミキサー=パートごとのボリュームを調節してバランスをとる機能

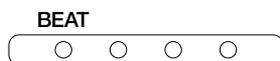
# テンポ調節について

CVP-201には、曲の再生や自動伴奏、メトロノームを使った演奏時のテンポを調節するテンポボタンがあります。また、実際にボタンをたたいた速さで曲のテンポを設定することができる、タップ機能もあります。

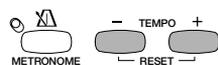
テンポの設定値は基本画面のテンポ表示で確認することができます。



また、ビートランプの点灯によっても、テンポを確認することができます。曲や伴奏が鳴っている間、ビートランプが左から順に1拍ごとに点滅します。(1拍めは赤で、2拍め以降は緑色で点滅します。)



## TEMPO(テンポ)【-/+】



TEMPO(テンポ)【-/+】を押してテンポを調節します。

テンポ表示が反転しているとき、【ダイヤル】でも調節できます。

テンポ表示の数値が大きくなるほど、速くなります。

### 基本テンポ

各伴奏スタイルや曲データには、基本テンポが設定されていますので、伴奏スタイルや曲などを選ぶと、テンポは自動的に設定されます。また、テンポを変更したあとでも、TEMPO(テンポ)【-/+】を同時に押すと、すぐに基本テンポに戻ります。

テンポの数値は、1分間に刻まれるタイミングの回数です。

### テンポ...

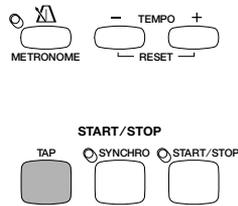
設定範囲：32～280

基本設定値：伴奏スタイル、曲データごとの設定

リズムや自動伴奏が鳴っているときに伴奏スタイルを選んだ場合は、テンポは変わりません。

## 【TAP(タップ)】

タップ機能を使うと、ボタン1つで、テンポを指定すると同時に再生をスタートさせることができます。

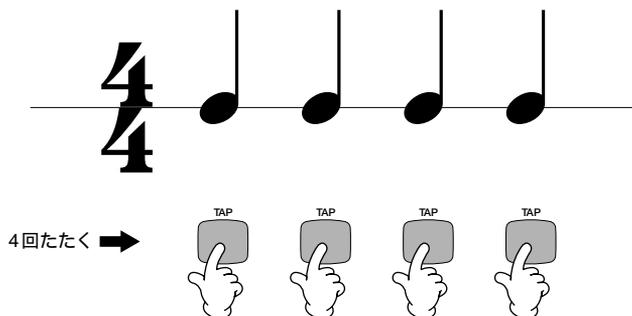


【TAP(タップ)】を数回たたくと、たたいた速さで曲がスタートします。

2拍子、4拍子の曲の場合は4回、3拍子の曲の場合は3回、5拍子の場合は5回たたきます。

また、演奏中に【TAP(タップ)】を2回たたくと、その速さのテンポに変えることができます。

4拍子の曲の場合

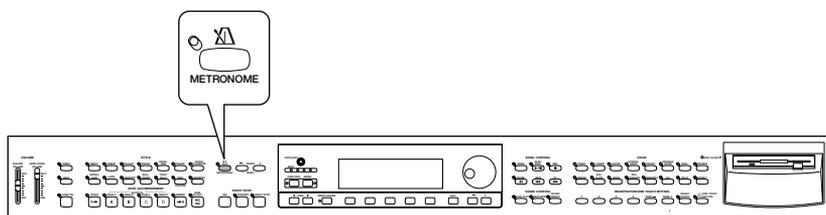


【TAP(タップ)】を、演奏する曲の拍子に必要な回数(たとえば、3拍子の場合は3回)たたかなかつた場合、数秒後にタップ機能は解除されます。

【TAP(タップ)】をたたくとクリック音が鳴りますが、曲や自動伴奏の再生中に【TAP(タップ)】をたたいた場合は、クリック音は鳴りません。

# メトロノームの使い方

正確なテンポで演奏したいとき、また、実際のテンポを音で聞いて確認したいとき、メトロノームをお使いください。

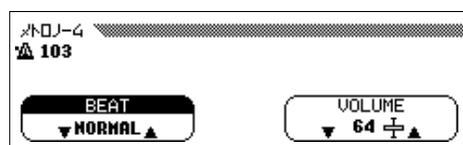


【METRONOME(メトロノーム)】を押すとランプが点灯し、メトロノームが鳴り出します。テンポを調節して(P.43)お使いください。

もう一度【METRONOME(メトロノーム)】を押すとランプが消え、メトロノームはストップします。

## メトロノームの詳細設定

- 1 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】を押してから【METRONOME(メトロノーム)】を押して、メトロノーム画面を表示させます。  
⇒ 現在選ばれている拍子(BEAT)とボリューム(VOLUME)が示されます。



## メトロノームの拍子設定

ビート  
[BEAT] を押して表示を反転させたあと、【ダイアル】や【-/+】で選びます。

ビート  
[BEAT] を押し続けても選べます。

ノーマル  
[NORMAL]を選ぶと、特定の拍子につきません。

[2]、[3]、[4]、[5]を選ぶと、各小節の頭でアクセント音が鳴るようになります。

## メトロノームのボリューム設定

ボリューム  
[VOLUME] を押して表示を反転させたあと、【ダイアル】や【-/+】で設定します。

ボリューム  
[VOLUME] を押し続けても選べます。

または、伴奏スタイルのボリュームと同じように、アカンパニメント 【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】でも調節できます。

曲データや、伴奏スタイルと一緒に使うことができます。

## メトロノームの拍子...

設定範囲：NORMAL、2、3、4、5  
基本設定：NORMAL

アカンパニメント  
曲データ再生時は、【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】でメトロノームのボリューム調節はできません。

## メトロノームのボリューム...

設定範囲：0～127  
基本設定：64

## 曲データや伴奏スタイルとメトロノームをいっしょに使うとき...

メトロノームと、曲データや伴奏スタイルは一緒に鳴らせます。このとき拍子は、曲データや伴奏スタイルの拍子になります。また、曲データや伴奏スタイルをストップすると、メトロノームもストップします。

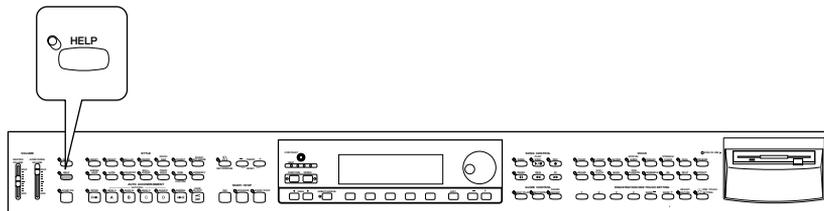
## フリーテンポの市販ミュージックデータ再生時...

フリーテンポの市販ミュージックデータ(P.107)を再生しているときは、メトロノームは使えません。

# 第2章 機能説明(ヘルプ)とデモ HELP & DEMO

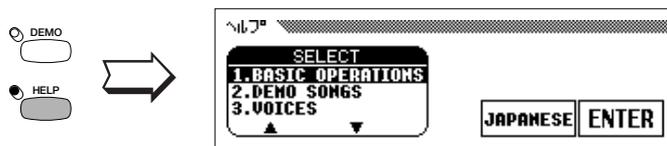
## 機能説明(ヘルプ)

各機能の基本的な説明を、いつでもヘルプで見ることができます。



### 操作

- 1 【HELP(ヘルプ)】を押して、ヘルプ機能を<sup>オン</sup>にします。  
⇒ヘルプ(HELP)画面が表示されます。



- 2 【ダイヤル】で、説明を見たいメニューを選んで<sup>エンター</sup>[ENTER]を押すか、直接、説明を見たい機能のパネルのボタンを押します。  
⇒選ばれたメニューの説明が、表示されます。

ヘルプのメニューは以下の8項目が用意されています。

1. BASIC OPERATIONS(基本操作)  
ベーシック オペレーション
2. DEMO SONGS(デモ)  
デモ ソング
3. VOICES(音色)  
ボイス
4. STYLES(伴奏スタイル)  
スタイル
5. ACCOMPANIMENT(自動伴奏)  
アカンパニメント
6. SONG PLAYBACK(ソングの再生)  
ソング プレイバック
7. SONG RECORDING(ソングの録音)  
ソング レコーディング
8. FUNCTION(ファンクション)

ヘルプ=パーソナルコンピューターなどで、画面上で機能説明などを見ることができる機能。CVPでも、LCD画面上で、機能説明を見ることができる。

ヘルプ機能が<sup>オン</sup>になっていると、ヘルプ以外の操作は行なえません。

<sup>ジャパニーズ</sup>[JAPANESE]を押して表示を切り替えると、以下の言語で、LCD画面を表示することができます。  
<sup>イングリッシュ</sup>[ENGLISH(英語)]、<sup>ジャーマン</sup>[GERMAN(ドイツ語)]、<sup>フレンチ</sup>[FRENCH(フランス語)]、<sup>スパニッシュ</sup>[SPANISH(スペイン語)](FRENCHやGERMAN、<sup>フレンチ</sup>SPANISHを選んだ場合には、ヘルプの説明文以外の画面では、英語表示となります。)  
一度表示言語を切り替えると電源<sup>オフ</sup>にしたあとも保持されます。

メニューは、<sup>セレクト</sup>[SELECT] を押しても選べます。



[◀] [▶] を押すと、説明文の前後のページを読むことができます。LCD画面の<sup>エグジット</sup>[EXIT]を押すと、ヘルプのメニュー画面に戻ります。別のメニューを選ぶか、他のパネルボタンを押して、さらに説明を見ることができます。

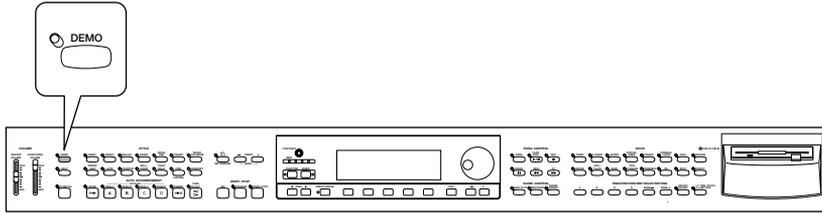
**3** ヘルプを終了するときは、【HELP(ヘルプ)】を押します。

<sup>エグジット</sup>【EXIT(戻る)】を押しても終了します。

⇒ 基本画面に戻ります。

# デモ

CVP-201には総合的なデモが4曲、伴奏スタイル紹介用が22曲、音色紹介用が24曲、計50曲のデモ演奏が入っています。聞いてみましょう。  
デモ曲の曲名を知りたい場合は、別冊「データリスト」の"デモ曲一覧"をご覧ください。

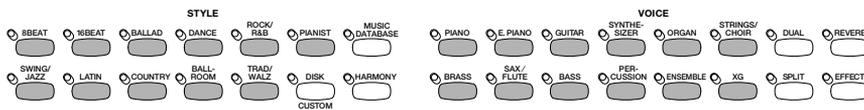


## 操作

- 1 【DEMO(デモ曲)】を押して、デモ演奏機能を<sup>オン</sup>にします。  
⇒ <sup>スタイル</sup>STYLE(伴奏スタイル)ボタンと<sup>ボイス</sup>VOICE(音色)ボタンのランプが連続して点滅し、デモ(DEMO)画面が表示されます。



- 2 [1]~[4]、または<sup>スタイル</sup>STYLE(伴奏スタイル)ボタン、<sup>ボイス</sup>VOICE(音色)ボタンの1つを押すと、デモ演奏が始まります。  
⇒ LCD画面の上に演奏中のメニューが表示されます。また、<sup>スタイル</sup>STYLE(伴奏スタイル)ボタン、<sup>ボイス</sup>VOICE(音色)ボタンの1つを押した場合は、押したボタンのランプが点滅します。  
ボリュームは、【MASTER VOLUME(全体ボリューム)】で調節します。



[1]~[4]を選ばると、総合的なデモが、<sup>スタイル</sup>STYLE(伴奏スタイル)ボタンを押すと伴奏スタイル紹介用デモが、<sup>ボイス</sup>VOICE(音色)ボタンを押すと音色紹介用デモがスタートします。

アカンパニメント ソング ボリューム  
【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】は使えません。

【START/STOP(スタート/ストップ)】や【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押しても、デモ演奏をスタートすることができます。この場合は、[1]が再生されます。

STYLE(伴奏スタイル)ボタンとVOICE(音色)ボタンには、各2曲のデモ曲があります。ランプが点滅中のSTYLE(伴奏スタイル)またはVOICE(音色)ボタンをもう1度押すと、すぐに2曲めが演奏されます。

### デモ演奏とご一緒に...

デモ演奏中に、一緒に鍵盤を弾くことができます。テンポを変更したり(P.43)、【REW】、【FF】、【PAUSE】の各ボタンも使えます。音色の変更はできません。

「3. LYRIC DEMO」ではLCD画面に表示される歌詞を見ながら歌うことができます。

「4. GUIDE DEMO」では、ガイド機能(P.20、119)も使えます。

**3** 【START/STOP(スタート/ストップ)】か【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押すと演奏がストップします。

演奏中の[1]~[4]を押してもストップします。

**4** デモを終了するときは、【DEMO(デモ曲)】を押します。

⇒基本画面に戻ります。

【EXIT(戻る)】を押しても終了します。

## 解説

### 連続再生の方法

デモ(DEMO)画面で、[ALL]、[RANDOM]、[SINGLE]の中から連続再生の方法を選ぶことができます。デモ演奏をスタートする前に、一番右のLCDボタンを押して選びます。



**[ALL]**.....最初に選んだ曲から順番にすべての曲が続けて演奏されます。ストップするまで繰り返し演奏されます。

**[RANDOM]**....最初に選んだ曲からランダム(順不同)にすべての曲が演奏されます。ストップするまで繰り返し演奏されます。

**[SINGLE]**.....選んだ曲を1回だけ演奏します。演奏が終わると自動的にストップします。

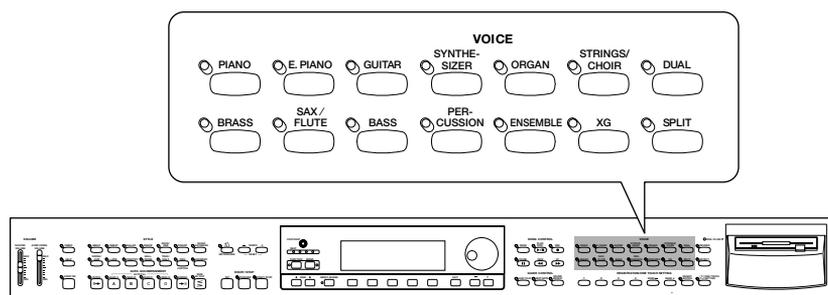
演奏中に別の曲に変更したいとき...  
別の曲のVOICE(音色)ボタンやSTYLE(伴奏スタイル)ボタン、LCDボタンを押すと、その曲の演奏に切り替わります。

デモ演奏のデータはMIDI【OUT】から出力されませんが、一緒に弾いた鍵盤の情報は、MIDI【OUT】から出力されます。

# 第3章 音色 VOICE

## 音色の選び方

CVP-201では、ピアノをはじめ、鍵盤楽器、弦楽器、管楽器などの音色を選んで弾くことができます。また、ドラムやパーカッション(打楽器)を選んで、鍵盤で演奏することもできます(キーボードパーカッション機能(P.52))。



## 音色の内訳

• クラビノーバオリジナルノーマル音色 195音色

• <sup>エクスジ-</sup>XG 音色 480音色

• ドラム/<sup>エスエフエクス</sup>SFX キット 12キット

• 別冊「データリスト」に"音色一覧"があります。

• 各音色は12グループに分けられ、各音色グループはパネル上の<sup>ボイス</sup>VOICE(音色)ボタンに割り当てられています。

<sup>エスエフエクス</sup>SFX =効果音

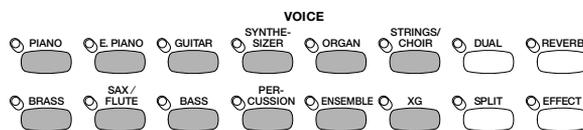
## 音色グループ一覧

- ピアノ(PIANO).....アコースティックピアノ各種と、  
ハープシコード
- エレクトリックピアノ(E.PIANO).....エレクトリックピアノ各種
- ギター(GUITAR).....アコースティックギター、エレクトリックギター各種とバンジョー、  
マンドリン
- シンセサイザー(SYNTHESIZER).....シンセサイザー各種
- オルガン(ORGAN).....オルガン各種
- スtrings/クワイア(STRINGS/CHOIR).....弦楽器各種とクワイア
- ブラス(BRASS).....金管楽器各種
- サックス/フルート(SAX/FLUTE).....木管楽器各種とハーモニカ
- ベース(BASS).....ベース各種
- パーカッション(PERCUSSION).....打楽器各種とドラムキット
- アンサンブル(ENSEMBLE).....2つの音色を重ねたような音色群
- <sup>エックスジェー</sup>XG .....ヤマハの音源フォーマット「<sup>エックスジェー</sup>XG」  
に準拠した音色群

## 基本的な音色の選び方

### 操作

- 1 <sup>ボイス</sup> VOICE(音色)ボタンを押して音色グループを選びます。  
⇒ボイスセレクト(VOICE SELECT)画面が表示されます。



<sup>エックスジェー</sup>【XG】を選んだ場合は、<sup>エックスジェー</sup>【XG】を押したままさらに他の音色ボタンを押すと、<sup>エックスジェー</sup>XG 音色中の各音色グループに関連した音色から表示させることができます。

2 LCDボタンを押して音色を選びます。

【ダイヤル】や【-/+】も使えます。

ボイスセレクト(VOICE SELECT)画面に続きのページがある場合は、PAGE(ページ)【◀】【▶】を使ってページをめくりま

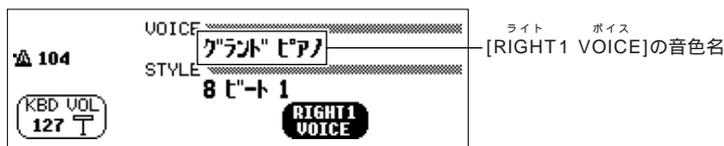
演奏する際は、【MASTER VOLUME(全体ボリューム)】でボリュームを調節してください。

【EXIT(戻る)】を押すと、基本画面に戻ります。

## 基本画面での選び方

基本画面で、[RIGHT1 VOICE]を押すか、[RIGHT1 VOICE]が反転表示されている状態で、【ダイヤル】を使って音色を選びます。

【-/+】も使えます。この方法で音色を選ぶ場合は、音色グループの中だけでなく、全音色の中から選ぶことができます。



## 鍵盤で打楽器を演奏する(キーボードパーカッション)

鍵盤をたたいて打楽器を演奏することができる機能を、キーボードパーカッションと言います。VOICE(音色)ボタンの【PERCUSSION(パーカッション)】グループの3~5ページめに、12種類のドラム/ SFX キットがあります。ドラム/ SFX キットを選択すると、各種の打楽器音や効果音が鍵盤1つ1つに割り当てられ、それらの鍵盤をたたいて打楽器を演奏することができます。

各ドラム/ SFX キットの打楽器音や効果音の種類については、別冊「リストブック」P.10の"ドラム/ SFX キット一覧"をご参照ください。

### 音色選択のバックアップ...

各グループの中で最後に選ばれた音色や、電源を切る直前に選ばれていた音色は、バックアップ機能(P.169)の設定をONにしておくと、電源をOFFにしたあとも保持されます。

### 音色付随効果の自動設定...

音色を選ぶと、選んだ音色に付随した効果や設定も、自動的に選ばれます。ファンクション(FUNCTION)のボイスセッティング(VOICE SETTING)(P.153)で自動的に選ばれないようにもできます。

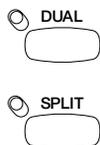
エスエフエックス SFX =効果音

ドラムキットを選択しているときは、パネルのイラストに対応した鍵盤だけが発音します。SFX キットを選択しているときは、各効果音が割り当てられている鍵盤(別冊「データリスト」)だけが発音します。

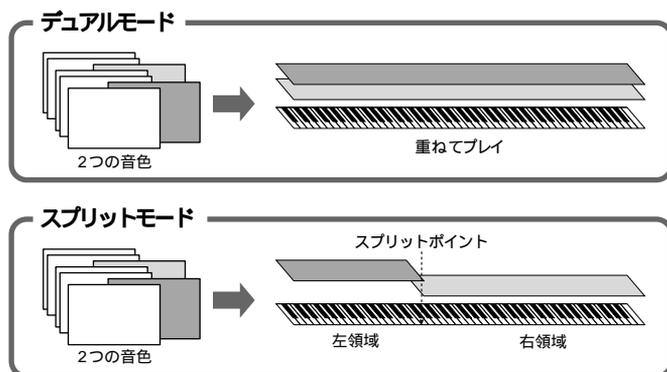
トランスポーズ(P.152)、チューン(P.152)、音域の設定(P.56)はドラム/ SFX キットには効きません。



## 2音色を同時に選んで弾く



2音色を同時に選んで弾く方法には、2つの音色を重ねて弾くデュアル(DUAL)と、鍵盤を好きな位置で左側と右側の領域に分け、別々の音色を選んで弾くスプリット(SPLIT)があります。



## 2つの音色を重ねて弾く(デュアル[DUAL])

2つの音色を重ねる機能をデュアルと言います。ソロやサビなどで厚みのある音がほしいときなど、たいへん効果的です。2つの音色はそれぞれ、**[RIGHT1 VOICE]**、**[RIGHT2 VOICE]**と呼びます。

### 操作

- 1 【DUAL(デュアル)】を押してデュアル機能を<sup>オン</sup>にします。  
⇒基本画面に<sup>ライト ボイス</sup>**[RIGHT2 VOICE]**が現れます。



- 2 <sup>ライト ボイス</sup>**[RIGHT1 VOICE]**または、<sup>ライト ボイス</sup>**[RIGHT2 VOICE]**を押して反転させ、基本的な選び方(P.51)と同じ方法で、重ねたい2つの音色を選びます。  
<sup>ライト ボイス</sup>RIGHT2 VOICEは、すべての音色グループの中から選ぶことができます。  
また、<sup>ライト ボイス</sup>RIGHT1 VOICEと同じ音色を選ぶこともできます。

【DUAL(デュアル)】を押してランプを消すと、デュアル機能は<sup>オフ</sup>になります。

デュアル(DUAL)+スプリット(SPLIT)...  
【DUAL(デュアル)】と【SPLIT(スプリット)】(P.55)は同時に使えます。その場合は、スプリットで設定した右領域の音色がデュアルになります。基本画面には、<sup>ライト ボイス</sup>**[RIGHT1 VOICE]**と、<sup>ライト ボイス</sup>**[RIGHT2 VOICE]**か<sup>ライト ボイス</sup>**[LEFT VOICE]**のどちらかが、表示されます。

<sup>ライト ボイス</sup>RIGHT2 VOICE...  
設定範囲：すべての音色  
基本設定：<sup>ストリングス</sup>Str スロー

<sup>キーボードボリューム</sup>【KBD VOL】やテンポ表示が反転しているときに音色を選ぶ操作をすると、<sup>ライト ボイス</sup>**[RIGHT1 VOICE]**を選ぶ操作となります。

## 鍵盤の左右に違う音色を選んで弾く(スプリット[SPLIT])

鍵盤を、好きな位置で左側と右側の領域に分け、別々の音色を選んで演奏する機能をスプリットと言います。たとえば、左手でベース音色を、右手でピアノ音色を演奏することができます。右側に選ぶ音色をライト ボイス [RIGHT1 VOICE]、左側に選ぶ音色をレフト ボイス [LEFT VOICE]と呼びます。

### 操作

- 1 【SPLIT(スプリット)】を押してスプリット機能をオンにします。

⇒ 基本画面にレフト ボイス [LEFT VOICE]が現れます。



- 2 レフト ボイス [LEFT VOICE]または、ライト ボイス [RIGHT1 VOICE]を押して反転させ、基本的な選び方(P.51)と同じ方法で、左右の2つの音色を選びます。

左右の領域の境め：スプリットポイント(SPLIT POINT)は好きな位置に設定できます。「左領域と右領域の境め：[SPLIT POINT]」(P.60)をご覧ください。

【SPLIT(スプリット)】を押してランプを消すと、スプリット機能はオフになります。

デュアル(DUAL)+スプリット(SPLIT)...  
【DUAL(デュアル)】(P.54)と【SPLIT(スプリット)】は同時に使えます。その場合は、スプリットで設定した右領域の音色がデュアルになります。基本画面には、ライト ボイス [RIGHT1 VOICE]と、ライト ボイス [RIGHT2 VOICE]がレフト ボイス [LEFT VOICE]のどちらかが、表示されます。

#### 左領域音色...

設定範囲：すべての音色  
基本設定：アコベース1

自動伴奏のシングルフィンガー、マルチフィンガー、フィンガード1/2 (P.69)とスプリット機能を、同時に使って演奏することもできます。この場合、左領域で押さえた鍵盤の音は、自動伴奏音と一緒に左領域音色で鳴ります。

キーボードボリューム  
[KBD VOL]やテンポ表示が反転しているときに音色を選ぶ操作をすると、ライト ボイス [RIGHT1 VOICE]を選ぶ操作となります。

# ライト ボイス ライト ボイス [RIGHT1 VOICE][RIGHT2 VOICE] レフト ボイス [LEFT VOICE]に関する各種の設定

ライト ボイス ライト ボイス レフト ボイス  
[RIGHT1 VOICE][RIGHT2 VOICE][LEFT VOICE]には、それぞれのボリュームや音域変更、スプリット(SPLIT)で弾く場合の、スプリットポイントの変更など、細かい設定をすることができる、キーボード(KEYBOARD)画面があります。

以下の内容が、各画面で変更できます。

## キーボード [ライト1](KEYBOARD [RIGHT1])画面で変更できる内容

- [RIGHT1 VOICE]のボリューム ..... ボリューム
- [RIGHT1 VOICE]の音域 ..... オクターブ
- [RIGHT1 VOICE]の音像定位 ..... パン

## キーボード [ライト2](KEYBOARD [RIGHT2])画面で変更できる内容

- [RIGHT2 VOICE]のボリューム ..... ボリューム
- [RIGHT2 VOICE]の音域 ..... オクターブ
- [RIGHT2 VOICE]の音像定位 ..... パン
- [RIGHT1 VOICE]との音程を微妙にずらす ..... デチューンデプス

## キーボード [レフト](KEYBOARD [LEFT])画面で変更できる内容

- [LEFT VOICE]のボリューム ..... ボリューム
- [LEFT VOICE]の音域 ..... オクターブ
- [LEFT VOICE]の音像定位 ..... パン
- ペダル効果が効く領域 ..... ペダル
- 左右の領域の境め ..... スプリットポイント

## 操作

- 1 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】とVOICE(音色)ボタンを続けて押し、キーボード(KEYBOARD)画面を表示させます。[ライト1]([RIGHT1])[ライト2]([RIGHT2])[レフト]([LEFT])のうち、そのとき選ばれているパートの画面が表示されます。

【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】と【DUAL(デュアル)】で、キーボード [ライト2](KEYBOARD [RIGHT2])画面が、

【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】と【SPLIT(スプリット)】で、キーボード [レフト](KEYBOARD [LEFT])画面が表示されます。

各キーボード(KEYBOARD)画面は、PAGE(ページ)【◀】【▶】を使って切り替えることができます。

ここでの設定値は、[RIGHT1 VOICE][RIGHT2 VOICE][LEFT VOICE]にどの音色が選ばれていても、共通に働きます。音色ごとに異なる設定をすることはできません。

2 LCDボタンを押して変更したい項目を反転させたあと、【ダイヤル】や【-/+】で値を変更したり、直接LCDボタンを押して設定を変更します。

エグジット  
【EXIT(戻る)】を押すと、基本画面に戻ります。

## 解説

### キーボード [ライト1] (KEYBOARD [RIGHT1]) 画面

ボリューム：<sup>ボリューム</sup>[VOLUME]

<sup>ライト</sup> [RIGHT1 VOICE] <sup>ボイス</sup> で選ばれている音色のボリュームを変更できます。

デュアル(DUAL)やスプリット(SPLIT)の場合は、<sup>ライト</sup> [RIGHT2 VOICE] <sup>ボイス</sup> や <sup>レフトボイス</sup> [LEFT VOICE] とのボリュームバランスをとることができます。数値が大きいほどボリュームは大きくなります。



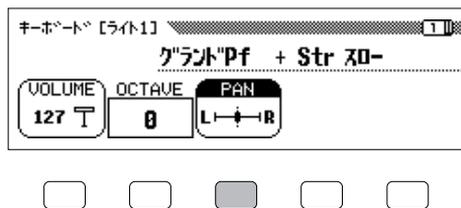
音域：<sup>オクターブ</sup>[OCTAVE]

<sup>ライト</sup> [RIGHT1 VOICE] <sup>ボイス</sup> の音域を、オクターブ単位で変更できます。LCDボタンを押すごとに設定値が変わります。



音像定位：<sup>パン</sup>[PAN]

<sup>ライト</sup> [RIGHT1 VOICE] <sup>ボイス</sup> の演奏音が、左右のどのあたりから聞こえてくるようにするか(音像定位)を変更できます。



【ダイヤル】や【-/+】は、反転表示されている角の丸い四角で囲まれた項目で使えます。

ボリューム...

基本設定：127  
設定範囲：0～127

手弾き音全体のボリュームを調節する場合は、基本画面の <sup>キーボードボリューム</sup> [KBD VOL] (P.42) を使います。

オクターブ...

設定値の範囲：-2(2オクターブダウン)、-1(1オクターブダウン)、0(オクターブシフト無し)、+1(1オクターブアップ)、+2(2オクターブアップ)  
基本設定：0(オクターブシフト無し)

オクターブの自動設定...

音色によっては、音色固有データにより、実際の音域がここでの設定値から変わる場合があります。ファンクション(FUNCTION)のボイスセッティング(VOICE SETTING)(P.153)で、音色固有のデータを呼び出さないようにすることもできます。

パン...

設定値の範囲：L(左)～(中央)～R(右)  
基本設定：中央

## キーボード [ライト2](KEYBOARD [RIGHT2])画面

ボリューム：<sup>ボリューム</sup>[VOLUME]

<sup>ライト</sup> [RIGHT2 VOICE]のボリュームを変更できます。

操作や設定値については、キーボード [ライト1](KEYBOARD [RIGHT1])画面の<sup>ボリューム</sup> [VOLUME](P.57)と同じです。



音域：<sup>オクターブ</sup>[OCTAUE]

<sup>ライト</sup> [RIGHT2 VOICE]の音域を、オクターブ単位で変更できます。

操作や設定値については、キーボード [ライト1](KEYBOARD [RIGHT1])画面の<sup>オクターブ</sup> [OCTAUE](P.57)と同じです。



音像定位：<sup>パン</sup>[PAN]

<sup>ライト</sup> [RIGHT2 VOICE]の演奏音が、左右のどのあたりから聞こえてくるようにするか(音像定位)を変更できます。

操作や設定値については、キーボード [ライト1](KEYBOARD [RIGHT1])画面の<sup>パン</sup> [PAN](P.57)と同じです。



## 音程を微妙にずらす：デチューン

ライト ボイス  
[RIGHT1 VOICE]との音程を微妙にずらすことができます。それにより音に厚みが出ます。数値が大きくなるほど、音程のずれは大きくなります。【-/+】を同時に押すと、基本設定値になります。



デチューン = 2つの音色の音程を微妙にずらし、音に厚みを出す効果

### デチューン...

設定値の範囲：0 ~ 10

基本設定：5

## キーボード [LEFT](KEYBOARD [LEFT])画面

### ボリューム：ボリューム [VOLUME]

レフトボイス  
[LEFT VOICE]のボリュームを変更できます。

操作や設定値については、キーボード [ライト1](KEYBOARD [RIGHT1])画面のボリューム [VOLUME](P.57)と同じです。



### 音域：オクターブ [OCTAVE]

レフトボイス  
[LEFT VOICE]の音域を、オクターブ単位で変更できます。操作や設定値については、キーボード [ライト1](KEYBOARD [RIGHT1])画面のオクターブ [OCTAVE](P.57)と同じですが、基本設定の値は+1です。

### オクターブ...

設定値の範囲：-2(2オクターブダウン)、-1(1オクターブダウン)、0(オクターブシフト無し)、+1(1オクターブアップ)、+2(2オクターブアップ)  
基本設定：+1(1オクターブアップ)



### パン 音像定位 : [PAN]

レフト ボイス  
[LEFT VOICE]の演奏音が、左右のどのあたりから聞こえてくるようにするか(音像定位)を変更できます。

操作や設定値については、キーボード [ライト1](KEYBOARD [RIGHT1])画面のパン  
[PAN](P.57)と同じです。



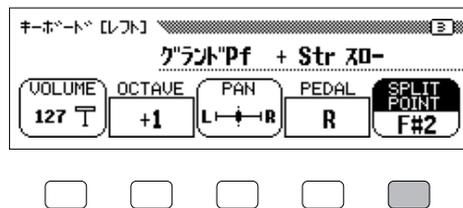
### ペダル ペダル効果の効く領域 : [PEDAL]

ダンパー、グライドのペダル効果が効く領域を、右領域だけ、左領域だけ、右領域/左領域の両方、の中から選ぶことができます。LCDボタンを押すごとに設定値が変わります。



### スプリットポイント 左領域と右領域の境め : [SPLIT POINT]

スプリットの際の左右の領域の境めを、自由に設定することができます。スプリットポイントの鍵盤は、左領域に含まれます。



#### ペダル...

設定値の範囲 : L(左領域だけ)、R(右領域だけ)、L+R(両方の領域)

基本設定 : R

ペダル効果について詳しくは、P.62をご覧ください。

#### スプリットポイント...

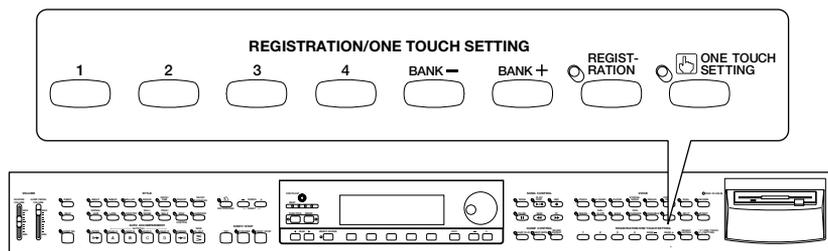
設定範囲 : すべての鍵盤

基本設定 : F#2

## おすすめ音色の選び方

### 伴奏スタイル(P.63)ごとのおすすめ音色の選び方 (ワンタッチセッティング[ONE TOUCH SETTING])

【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】グループを除くすべての伴奏スタイル(P.63)には、1スタイルにつき4種類ずつのおすすめ音色が用意されています。この機能をワンタッチセッティング(ONE TOUCH SETTING)と言います。選んだ伴奏スタイルに合う音色を選ぶとき、ワンタッチでエフェクト(P.97)なども含むおすすめ音色を設定することができます。



#### 操作

- 1 演奏する伴奏スタイルを選びます。(P.64)
- 2 【ONE TOUCH SETTING(ワンタッチセッティング)】が<sup>オン</sup>になっている状態で、【1】～【4】のひとつを押して音色を選びます。  
⇒LCD画面に、選ばれた音色名が表示されます。  
アコンパニメント<sup>オン</sup> 【ACMP ON(自動伴奏オン)】も自動的に<sup>オン</sup>になりますので、自動伴奏(P.65)を使って演奏してください。

【ONE TOUCH SETTING(ワンタッチセッティング)】が<sup>オン</sup>になっていない場合は、【ONE TOUCH SETTING(ワンタッチセッティング)】を押して、<sup>オン</sup>にしてください。



### イメージや曲名ごとのおすすめ音色の選び方 (ミュージックデータベース[MUSIC DATABASE])

音楽のイメージや曲名のメニューを選ぶと、おすすめ音色が自動設定されます。この機能をミュージックデータベース(MUSIC DATABASE)と言います。伴奏スタイルや音色の選択に迷ったとき、曲のイメージからパネル設定を選ぶことができます。

操作は、「イメージや曲名ごとのおすすめ伴奏スタイルの使い方(ミュージックデータベース)」(P.73)をご覧ください。

パネル状態を基本状態に戻すヒント...

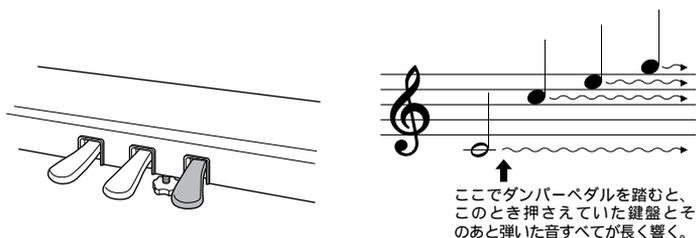
レジストレーション機能を使って、[REGIST A-1]にパネルの基本状態 = レジスト 初めに電源を入れたときの状態を登録しておく(P.104)、[REGIST A-1]を呼び出せば、パネルを基本状態に戻すことができますので、便利です。

# ペダルの使い方

CVP-201には3本のペダルがついています。

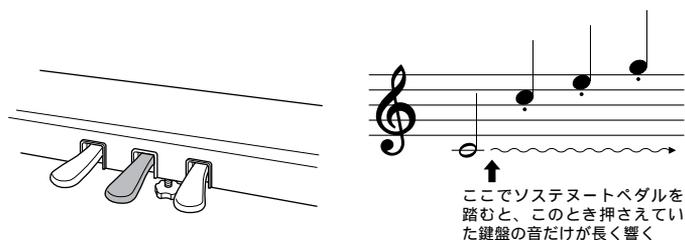
## ダンパーペダル(右のペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。



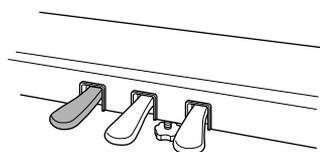
## ソステヌートペダル(まん中のペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



## ソフトペダル(左のペダル)

このペダルを踏むと、ボリュームがわずかに下がり、音の響きが柔らかくなります。



音色によって、ダンパーペダル使用時に、音がゆっくり減衰して消えるものと、持続して消えないものがあります。

ダンパーペダルは、【PERCUSSION(パーカッション)】<sup>エックスジョー</sup>【XG】グループの中で、ダンパー機能に適さない音色には機能しません。

ソステヌートペダルは、【PERCUSSION(パーカッション)】<sup>エックスジョー</sup>【XG】グループの中で、ソステヌート機能に適さない音色には機能しません。

【STRINGS/CHOIR(ストリングス/クワイア)】や【BRASS(ブラス)】などの持続音系の音色では、ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず踏んでいる間鳴り続けます。

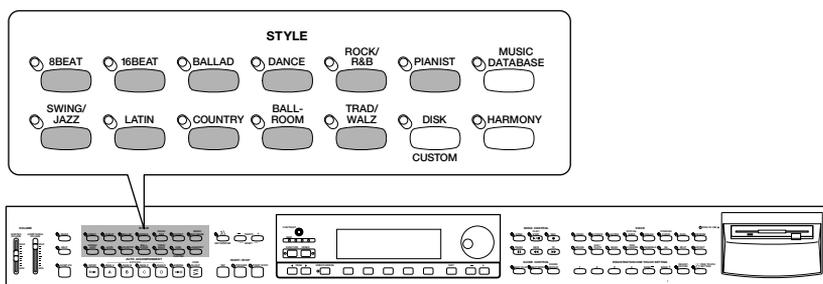
このペダルは、自動伴奏をスタート/ストップしたり、フィルインを入れるスイッチとして使うなど、いろいろな機能を割り当てて使うことができます(P.154)。

ソフトペダルは、音色によって効果が薄い場合があります。

# 第4章 伴奏スタイル STYLE

## 伴奏スタイルの使い方

CVP-201には、ポップス、ジャズ、ラテン、ダンスミュージックなどの自動伴奏パターンが用意されており、これらのことを伴奏スタイルと言います。伴奏スタイルは、リズムだけを鳴らしたり、コードネームを指定して、ベースやコードバックなどの伴奏パートをリズムと一緒に鳴らすこともできます。また、伴奏スタイルの中には、ピアノの音色だけの伴奏「ピアニスト」スタイルも用意されています。



### 伴奏スタイルの内訳

- ノーマルスタイル125種類+ピアニストスタイル35種類
- 別冊「データリスト」に伴奏スタイル一覧があります。
- 各伴奏スタイルは11グループに分けられ、各スタイルグループはパネル上のボタンに割り当てられています。

### 伴奏スタイルグループ一覧

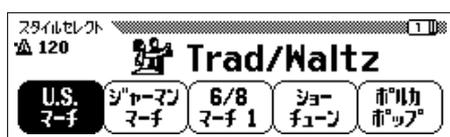
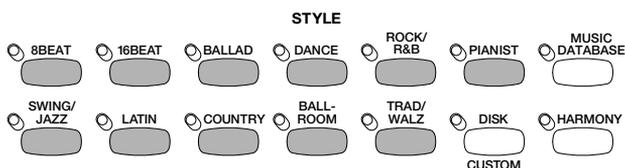
8ビート(8BEAT).....	8ビートの伴奏各種
16ビート(16BEAT).....	16ビートの伴奏各種
バラード(BALLAD).....	4拍子系のバラード各種とゆったりしたワルツ
ダンス(DANCE).....	クラブ系、ディスコ系ダンス各種
ロック/リズム&ブルース(ROCK/R&B).....	ロック、ロックンロール、ブルースなど
スイング/ジャズ(SWING/JAZZ).....	ジャズ系の伴奏各種、デキシーランド、ジャズワルツも
ラテン(LATIN).....	サンバ、ボサノバ、レゲエなど
カントリー(COUNTRY).....	カントリー各種、ブルーグラスも
ボールルーム(BALL ROOM).....	社交ダンス用伴奏各種
トラッド/ワルツ(TRAD/WALTZ).....	マーチ、ポルカ、ワルツなど、演歌も
ピアニスト(PIANIST).....	ピアノ音色のみの伴奏各種

【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】  
について...  
自分で作ったオリジナルのスタイル  
(P.82)を使うために、  
【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】の  
ボタンも用意されています。

# 基本的な伴奏スタイルの選び方

## 操作

- 1 <sup>スタイル</sup> STYLE(伴奏スタイル)ボタンを押して伴奏スタイルグループを選びます。  
⇒スタイルセレクト(STYLE SELECT)画面が現れます。



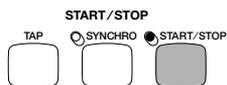
- 2 LCDボタンを押して伴奏スタイルを選びます。  
【ダイヤル】や【-/+] も使えます。  
スタイルセレクト(STYLE SELECT)画面に続きのページがある場合は、<sup>ページ</sup> PAGE(ページ) 【◀】 【▶】 を使ってページをめくります。  
<sup>エグジット</sup> 【EXIT(戻る)】 を押すと、基本画面に戻ります。

## 伴奏スタイルの使い方

### 操作

### リズムだけを鳴らす使い方

- 1 伴奏スタイルを選びます。(P.64)
- 2 【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すとリズムが鳴り出します。



- ⇒テンポは、TEMPO(テンポ)【-/+] を押して調節します。(P.43)
  - ⇒ボリュームは、<sup>アコンパニメント</sup> 【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】で調節します。(P.41)
- 3 【START/STOP(スタート/ストップ)】を押してランプを消すと、リズムはストップします。

②. スタイルボタンが<sup>オン</sup>ONできない...  
【SONG(ソング)】が<sup>オン</sup>ONになっていると、伴奏スタイルは選べません。

伴奏スタイル選択のバックアップ...  
各グループの中で最後に選ばれた伴奏スタイルや、電源を切る直前に選ばれていた伴奏スタイルは、バックアップ機能(P.169)の設定を<sup>オン</sup>ONにしておくと、電源を<sup>オフ</sup>OFFにしたあとも保持されます。

【PIANIST(ピアニスト)】と【TRAD/WALTZ(トラッド/ワルツ)】の【Guitar Waltz(ギター・ワルツ)】を選んだ場合は、リズムは鳴りません。これらの伴奏スタイルは、自動伴奏を使ってお楽しみください(次項参照)。

ファンクション(FUNCTION)の<sup>レフトペダル</sup>【LEFT PEDAL】(P.154)で<sup>スタート</sup>【START/STOP】を設定すると、左のペダルでスタートできます。

スタート方法のバリエーション...  
リズムのスタート方法には、<sup>スタート</sup>【START/STOP】のほかに<sup>ストップ</sup>【SYNCHRO(シンクロ)】(P.66)や<sup>スタート</sup>【TAP(タップ)】(P.66)を使う方法もあります。

伴奏スタイルを選んだ時点で、自動的にそのスタイルに設定されている基本テンポになります。(リズムや自動伴奏が鳴っているときに伴奏スタイルを選んだ場合は、基本テンポにはなりません。)

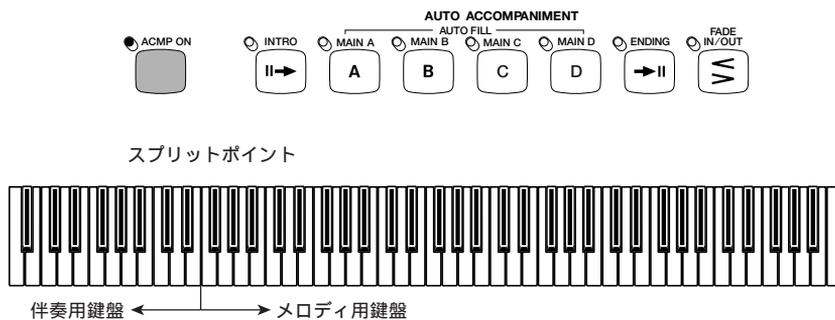
ファンクション(FUNCTION)の<sup>レフトペダル</sup>【LEFT PEDAL】(P.154)で<sup>スタート</sup>【START/STOP】を設定すると、左のペダルでストップできます。

## 基本的な自動伴奏の使い方

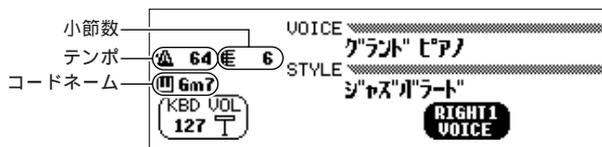
自動伴奏とは、鍵盤でコード(和音)を指定するだけで、クラビノーバが伴奏パートを自動演奏してくれる機能です。自動伴奏の奏法(コードの押さえ方)には、初心者用、両手演奏用など5種類の方法があります。(P.69)

### 操作

- 1 伴奏スタイルを選びます。(P.64)
- 2 アカンパニメント オン【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押して、自動伴奏機能をオンにします。  
アカンパニメント オン⇨【ACMP ON(自動伴奏オン)】のランプと、伴奏用鍵盤とメロディ用鍵盤の境めを示す、スプリットポイントの鍵盤ガイドランプが点灯し、【SYNCHRO(シンクロ)】(P.66)がオンになります。



- 3 伴奏用鍵盤でコードを押さえると、自動伴奏が鳴り出します。  
**【START/STOP(スタート/ストップ)】**を押してリズムをスタートさせてから、伴奏用鍵盤を押さえても、自動伴奏が鳴り出します。  
 ⇨基本画面に、テンポ、小節数、コードネームが表示されます。



- ➡テンポは、TEMPO(テンポ)【-/+]を押して調節します。(P.43)
- ➡ボリュームは、アカンパニメント ソングボリューム【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】で調節します。(P.41)

- 4 **【START/STOP(スタート/ストップ)】**を押してランプを消すと、自動伴奏はストップします。
- 5 自動伴奏機能をオフにする場合は、アカンパニメント オン【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押します。  
アカンパニメント オン⇨【ACMP ON(自動伴奏オン)】のランプが消灯します。

ちょっと覚えておこう...

自動伴奏といっしょに、スプリット(P.55)やデュアル(P.54)も使えます。

【PIANIST(ピアニスト)】の伴奏スタイルを選んだ場合は、自動的に自動伴奏機能がオンになります。

スプリットポイントは自由な位置に設定できます。(P.72)

自動伴奏の奏法(コードの押さえ方)には、初心者用、両手演奏用など5種類の方法があります。(P.69)

伴奏スタイルを選んだ時点で、自動的にそのスタイルに設定されている基本テンポになります。(リズムや自動伴奏が鳴っているときに伴奏スタイルを選んだ場合は、基本テンポにはなりません。)

自動伴奏の再生データは、通常はMIDI【OUT】から出力されませんが、ファンクション(FUNCTION)の\*自動伴奏/ハーモニーの送信(P.167)の設定により、出力することもできます。

## 鍵盤を弾くと同時にスタートさせるシンクロスタートの使い方

シンクロスタートを使うと、鍵盤を弾くと同時にリズムや自動伴奏をスタートさせることができます。

【SYNCHRO(シンクロ)】を押してランプを点灯させると、シンクロスタート待機になります。(もう一度【SYNCHRO(シンクロ)】を押してランプを消灯させるとシンクロスタートが解除されます。)



このあと、鍵盤を弾くと同時にリズムや自動伴奏がスタートします。

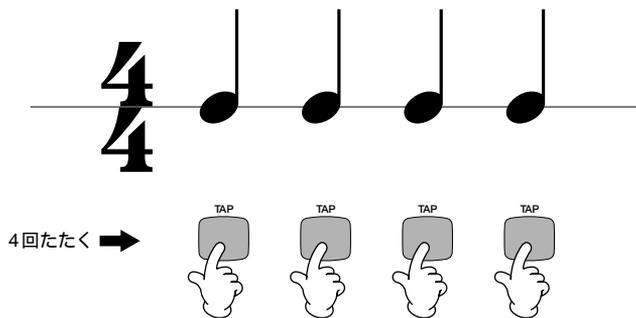
スプリット機能(P.55)が<sup>オン</sup>ONのときと、自動伴奏を使って鍵盤がスプリットされているときは、左領域の鍵盤(伴奏用鍵盤)を弾いたときにスタートします。

## テンポを指定すると同時にスタートさせるタップスタートの使い方

タップスタートを使うと、ボタン1つで、テンポを指定すると同時にリズムをスタートさせることができます。

【TAP(タップ)】を、タイミングをとりながら指で数回たたくと、クリック音が鳴り、そのテンポでリズムがスタートします。2拍子、4拍子の伴奏スタイルの場合は4回、3拍子の場合は3回、5拍子の場合は5回たたきます。

\*4拍子の曲の場合



リズムや自動伴奏を鳴らしている間に【TAP(タップ)】を2回たたくと、そのタイミングのテンポに変えることができます。この場合は【TAP(タップ)】をたたいたときのクリック音は鳴りません。

シンクロ = 同時の

アカンパニメントオン  
【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押して自動伴奏機能をONにすると、自動的に【SYNCHRO(シンクロ)】がONになります。

【TAP(タップ)】を、必要な回数(たとえば3拍子の場合は3回)たたかなかつた場合、数秒後にタップ機能は解除されます。

# メイン(MAIN A/B/C/D)とイントロ(INTRO)、エンディング(ENDING)の使い方

1曲の中で伴奏に変化をつけるために、メインA/B/C/D、イントロ、エンディングなど、伴奏パターンを切り替えるセクションボタンが用意されています。伴奏スタイルの再生中にメインA/B/C/Dボタンを押すと、伴奏パターンのバリエーションを切り替えることができます。そのとき自動的に、伴奏にアクセントを付けるオートフィルを経由して切り替わります。イントロ(前奏)のパターンは3種類ずつあります。【INTRO(イントロ)】を押したときに、どのメインボタンのランプが点滅しているかで、種類(イントロA、イントロB、イントロC/D)が決まります。また、演奏を終わるときに使うエンディング(後奏)パターンも3種類ずつ用意されています。【ENDING(エンディング)】を押したときに、どのメインボタンのランプが点灯していたかで種類(エンディングA、エンディングB、エンディングC/D)が決まります。

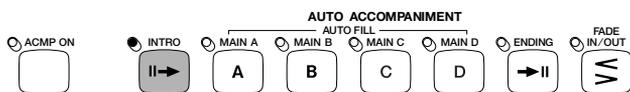
## 操作

- 1 伴奏スタイルを選びます。(P.64)
- 2 アカンパニメント オン 【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押して、自動伴奏機能をオンにします。(P.65)

- 3 【INTRO(イントロ)】を押してランプを点灯させます。

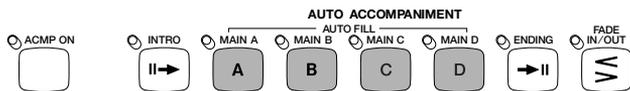
⇒選ばれているメインボタンのランプが点滅します。

スタート前にもう一度【INTRO(イントロ)】を押してランプを消すと、イントロは解除されます。



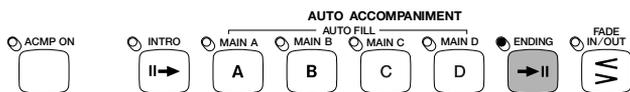
- 4 伴奏用鍵盤でコードを押さえると、イントロの演奏が始まり、続いてメインの自動伴奏が鳴り出します。

⇒メインボタン【MAIN A(メインA)】【MAIN B(メインB)】【MAIN C(メインC)】【MAIN D(メインD)】を押すと、自動伴奏のパターンが変化します。パターンが変わるときには、オートフィルも鳴ります。



- 5 【ENDING(エンディング)】を押すと、エンディングが鳴ったあと、自動伴奏がストップします。

エンディング演奏中にもう一度【ENDING(エンディング)】を押すと、リタルダンド(徐々にテンポを遅くすること)をかけることができます。



ここでは自動伴奏を使っていますが、リズムだけを鳴らす場合でも同様の使い方ができます。

選ばれているメインと違うイントロを鳴らすには...

【MAIN C(メインC)】⇒【INTRO(イントロ)】  
⇒【MAIN A(メインA)】の順に押すと、【MAIN C(メインC)】のランプが点灯、【MAIN A(メインA)】のランプが点滅し、イントロC/Dのあと、メインAが鳴ります。

小節の最後の8分音符以降でメインボタンを押すと、次の小節にオートフィルが入ります。

オートフィルが鳴っているときに、点滅しているボタンを小節の最後の8分音符以前で押すと、オートフィルは解除されます。

メインボタンを切り替えるときに、すばやく2回ボタンを押すと、オートフィルを経由せずに次のメインパターンへ切り替わります。

ブレイク(BREAK)とブレイクフィル(BREAK FIL)...

ファンクション(FUNCTION)のリフトペダル【LEFT PEDAL】(P.154)を使って【BREAK】や【BREAK FIL】を選んでおくと、左のペダルを使って、ブレイク(一時的にスタイルの音を消して空白を作る効果)や、ブレイクフィル(ブレイクぎみのフィル)を入れることができます。

伴奏スタイルが鳴っているときに左ペダルを踏むと、ブレイクやブレイクフィルを入れることができます。ペダルから足を離すと、次の小節の頭から元に戻ります。ブレイクまたはブレイクフィル中にもう一度左のペダルを踏むと、すぐに元に戻ります。

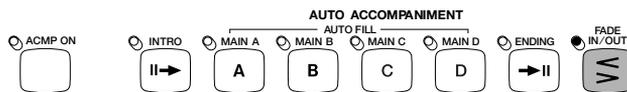
ファンクション(FUNCTION)のリフトペダル【LEFT PEDAL】(P.154)でエンディング【ENDING/RIT】を設定すると、左のペダルでエンディングやリタルダンドをかけることができます。

## フェードイン/アウト(FADE IN/OUT)の使い方

【FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)】のランプを点灯させて、自動伴奏の演奏を始めると、はじめは小さく、徐々にボリュームが大きくなる方法で自動伴奏が鳴り出します。また、演奏が終わるときに【FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)】を押すと、徐々にボリュームが小さくなって終わります。

### 操作

- 1 伴奏スタイルを選びます。(P.64)
- 2 アカンパニメント オン 【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押して、自動伴奏機能をオンにします。(P.65)
- 3 【FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)】を押してランプを点灯させます。イントロやメインボタンも選べます。(P.67)(もう一度【FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)】を押してランプを消灯させるとフェードインが解除されます。)



- 4 伴奏用鍵盤でコードを押さえると自動伴奏がフェードインして鳴り出します。
- 5 【FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)】を押すと、徐々にボリュームが小さくなって終わります。

## パート別ボリューム調節

ミキサー機能を使うと、自動伴奏のパートごとのボリュームを設定することができます。自動伴奏は、次のようにリズム、ベース、コード、パッド、フレーズの5つの伴奏パートから構成されています。

- **リズム** .....伴奏の中心となるリズムパートです。通常、ドラムキットの1つが使われます。
- **ベース** .....ベースパートです。アコースティックベース、シンセベースなど、各スタイルに合ったベース音が使われます。
- **コード** .....ピアノやギターなどの音で作られるリズムカルなコードの伴奏パートです。
- **パッド** .....ストリングス、オルガン、クワイアなどの音を使った長く伸びるコードの響きをつけるパートです。
- **フレーズ** .....パンチのきいたプラスセクションやコードアルペジオなど、さまざまな装飾音をつけるパートです。

ここでは自動伴奏を使っていますが、リズムだけを鳴らす場合でも同様の使い方ができます。

ファンクション(FUNCTION)のフェードイン/アウト **[LEFT PEDAL]**(P.154)で**[FADE IN/OUT]**を設定すると、左のペダルでフェードインやフェードアウトをかけることができます。

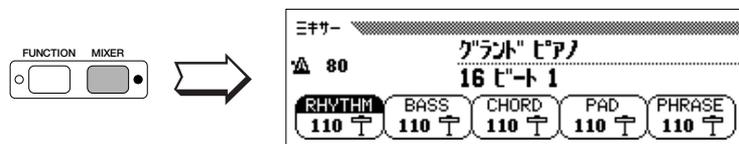
【FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)】を押して演奏が終わると、数秒間、【FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)】のランプが点灯したあと、ランプが消えます。

この機能を利用して、あるパートのボリュームを0にして、鳴らすパートの組み合わせを変えると、いろいろなタイプの伴奏になります。

スタイルによっては、5つの伴奏パートを全部使っていないものもあります。

## 操作

- 1 【MIXER(ミキサー)】を押すと、ミキサー(MIXER)画面が表示されます。



- 2 <sup>リズム</sup> [RHYTHM]、<sup>ベース</sup> [BASS]、<sup>コード</sup> [CHORD]、<sup>パッド</sup> [PAD]、<sup>フレーズ</sup> [PHRASE]を押してパートを選び、【ダイヤル】や【-/+】を使ってボリュームを調節します。

数値が大きくなるほど、ボリュームが大きくなります。【-/+】を同時に押すと、それぞれの基本設定の"110"に戻ります。複数のパートを選んで同時に調節することもできます。

もう一度【MIXER(ミキサー)】を押すとランプが消え、元の画面に戻ります。または【EXIT(戻る) <sup>エグジット</sup>】を押しても元の画面に戻ります。

②. 違うミキサー画面が出る...

【SONG(ソング)】のランプが点灯している、曲データのパート別ボリューム調節画面が表示されることがあります。そのときは、【SONG(ソング)】を押してランプを消し、もう一度【MIXER(ミキサー)】を押してください。

各パートのボリューム...

設定範囲：0～127(最大)  
基本設定：110

各パートのリバーブデプス...

P.99の方法で、自動伴奏のリズムとその他のパートのリバーブデプスを別々に設定することができます。

## 解説

### ミキサー画面でのパート別の消音

<sup>リズム</sup> [RHYTHM]、<sup>ベース</sup> [BASS]、<sup>コード</sup> [CHORD]、<sup>パッド</sup> [PAD]、<sup>フレーズ</sup> [PHRASE]が選ばれている状態で各パートのボタンをすばやく押し離すと、ボリュームが0になり、パートの消音をすることができます。もう一度パートボタンをすばやく押し離すと、ボリュームは設定値に戻ります。

### 自動伴奏の奏法(コードの押さえ方)

自動伴奏の奏法には、次の5種類があります。ご自身に合った方法を選んでください。

## 操作

- 1 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】を押してから <sup>アカンパニメントオン</sup> 【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押して、自動伴奏の詳細設定画面を表示させます。

⇒アカンパニメントモード(ACCOMPANIMENT MODE)画面が現れます。



モード=種類、方式、状態

## 2 【フィンガリング (FINGERING)】 を押して奏法を選びます。以下の5種類があります。

### • シングルフィンガー (SINGLE FINGER)

自動伴奏用鍵盤を、簡単なルールに従って押さえるだけで、メジャー、セブンス、マイナー、マイナーセブンスの4種類のコードを使った自動伴奏をつけることができます。(P.70)

### • マルチフィンガー (MULTI FINGER)

シングルフィンガーとフィンガード1の押さえ方の両方が使えます。(P.71)

### • フィンガード1 (FINGERED1)

自動伴奏用鍵盤で、コード(和音)のとおり鍵盤を押さえるだけで自動伴奏をつけることができます。(P.71)

### • フィンガード2 (FINGERED2)

押さえ方はフィンガード1と同じですが、コードの転回形を押さえるとオンコードを鳴らすことができます。(P.72)

### • フルキーボード (FULL KEYBOARD)

ピアノ両手演奏をするだけで、コードを押さえなくても、弾いたフレーズに応じた自動伴奏がつきます。鍵盤のどこを弾いても自動伴奏が演奏されます。(P.72)

【EXIT(戻る) <sup>エグジット</sup>】を押すと、元の画面に戻ります。

#### 自動伴奏の奏法...

設定範囲：シングルフィンガー、マルチフィンガー、フィンガード1、フィンガード2、フルキーボード  
基本設定：マルチフィンガー

シングルフィンガー、マルチフィンガー、フィンガード1/2を使う場合は、自動伴奏用鍵盤はコード指定用になりますので、実際に押さえている鍵盤の音は鳴りません。ただし、スプリット機能(P.55)も一緒に使っている場合は鳴ります。

## 解説

### シングルフィンガー (SINGLE FINGER)

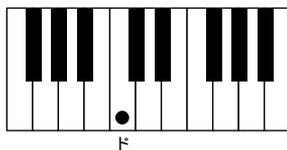
自動伴奏用鍵盤(スプリットポイントから左)を下記のルールに従って1つ~3つ押さえるだけで、自動伴奏が鳴ります。

下記の4種類のコードで演奏できます。

#### メジャー

コードのルート音(根音)の鍵盤を押します。

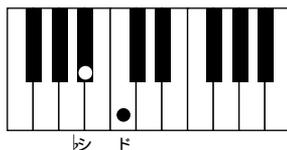
例) C(シーメジャー)を出す場合「ド」の音を押さえる



#### マイナー

コードのルート音とそれより左側の黒鍵を同時に押します。

例) Cm(シーマイナー)を出す場合「ド」と「シのフラット」を押さえる

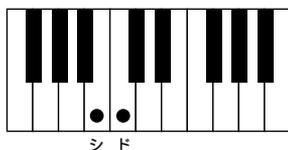


左領域の鍵盤でコードを押さえたあと指を離しても、次のコードを押さえるまでは同じコードの伴奏が続きます。

## セブンス

コードのルート音とそれより左側の白鍵を同時に押します。

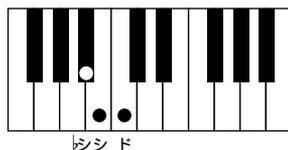
例) C7(シーセブンス)を出す場合「ド」と「シ」を押さえる



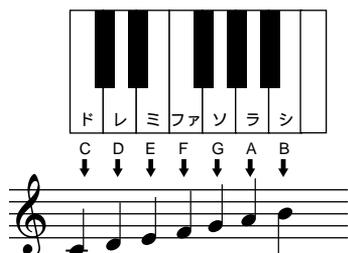
## マイナーセブンス

コードのルート音とそれより左側の白鍵と黒鍵を同時に押します。

例) Cm7(シーマイナーセブンス)を出す場合「ド」と「シ」と「シのフラット」を押さえる



コードのルート音(根音)がどの鍵盤に対応しているかは、下記のように覚えましょう。



## マルチフィンガー(MULTI FINGER)

シングルフィンガーとフィンガード1(下記参照)の両方の演奏方法が使えます。

ただし、シングルフィンガーの押さえ方で、マイナー、セブンス、マイナーセブンスコードを鳴らしたいときは、コードのルート音に一番近い白鍵や黒鍵を押してください。

## フィンガード1 (FINGERED1)

自動伴奏用鍵盤(スプリットポイントから左)でコード(和音)を押さえると、自動伴奏が鳴ります。

下記のコードで演奏できます。

別冊「データリスト」に、「Cコードの押さえ方一覧」が用意されています。

- メジャー
- シックス[6]
- マイナーセブンスイレブンス[m7(11)]
- マイナーメジャーセブンスフラットファイブ[mM7(b5)]
- マイナーメジャーセブンス[mM7]
- マイナーメジャーセブンスナインス[mM7(9)]
- マイナーフラットファイブ[m(b5)]
- ディミニッシュセブンス[dim7]
- マイナーセブンスナインス[m7(9)]
- メジャーセブンス[M7]
- メジャーセブンスフラットファイブ[M7(b5)]
- メジャーセブンスシャープイレブンス[M7(#11)]
- アッドナインス[add9]
- メジャーセブンスナインス[M7(9)]
- シックスナインス[6(9)]
- フラットファイブ(b5)

押さえたコードが、CVP-201で検出できなかった場合、LCD画面のコード名の部分に"\*"が表示されます。

鍵盤を2つしか押さえなかった場合、前のコードから適当なコードが検出されます。

連続した3つの鍵盤(たとえば、C、#C、D)を押さえると、コードなしとなります。リズムだけを鳴らす場合などに利用します。この場合、LCD画面のコード名の部分には"---"が表示されます。

- セブンス[7]
- セブンスサスフォー[7sus4]
- セブンスナインス[7(9)]
- セブンスシャープイレブンス[7(#11)]
- セブンスサーティーンス[7(13)]
- セブンスフラットファイブ[7(b5)]
- セブンスフラットナインス[7(b9)]
- セブンスフラットサーティーンス[7(b13)]
- セブンスシャープナインス[7(#9)]
- オーギュメント[**aug**]
- セブンスオーギュメント[7(#5)]
- メジャーセブンスオーギュメント[**M7**(#5)]
- マイナー[m]
- マイナーシックス[m6]
- マイナーセブンス[m7]
- マイナーセブンスフラットファイブ[m7(b5)]
- マイナーアッドナインス[madd9]
- サスフォー[sus4]

## フィンガード2 (FINGERED 2)

鳴らせるコードの種類はフィンガード1と同じですが、押さえたコード(和音)の一番低い音が、ベースとして鳴りますので、コード(和音)を転回形で押さえると、オンコードを鳴らすことができます。たとえば、Cメジャーコードを「ミソド」と押さえると、C<sup>onE</sup>のコードが鳴ります。

## フルキーボード (FULL KEYBOARD)

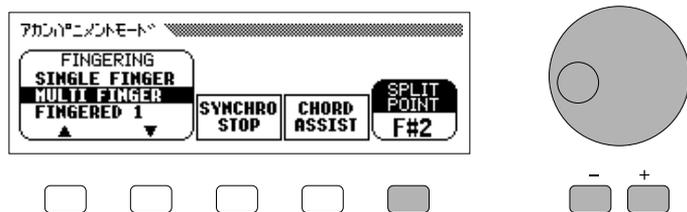
全鍵域で通常のピアノ両手演奏をするだけで、コードを押さえなくても自動伴奏が再生されます。特定のコードの弾き方にとらわれず、鍵盤のどこで演奏してもリズム、ベース、コードやフレーズによる自動伴奏がつきます。(曲のアレンジによっては、フルキーボードでの演奏に合わない場合もあります。)

フルキーボードでは、小節のはじめからだいたい8分音符間隔でコードが検出されます。この間隔以内で弾かれた短いコードは検出されません。

## スプリットポイントの変更方法

伴奏用鍵盤とメロディ用鍵盤の境め(スプリットポイント)は、好きな位置に設定することができます。

- 1 自動伴奏詳細設定画面を表示させます。(P.69)
- 2 スプリットポイント [SPLIT POINT]を押して反転表示させ、【ダイヤル】で設定します。  
スプリットポイント [-/+ ]も使えます。 [SPLIT POINT]を押しても設定できます。



**スプリットポイント...**  
設定範囲：すべての鍵盤  
基本設定：F#2

スプリットポイントの鍵盤は、左領域に含まれます。

自動伴奏機能が<sup>オン</sup>ONのとき(フルキーボード以外)とスプリットがONのときは、スプリットポイントが鍵盤ガイドランプで表示されます。

ここで設定したスプリットポイントと、キーボード[レフト] (KEYBOARD [LEFT])画面(P.60)のスプリットポイントの設定値は共通です。

フルキーボードが選ばれているときは、スプリットポイントの変更はできません。

# 自動伴奏を使った演奏に便利な機能

自動伴奏をさらに便利に使うための機能が用意されています。

ここでは、次の機能を説明します。

イメージや曲名ごとのおすすめ伴奏スタイルがメニューから選べる  
ミュージックデータベース(P.73)

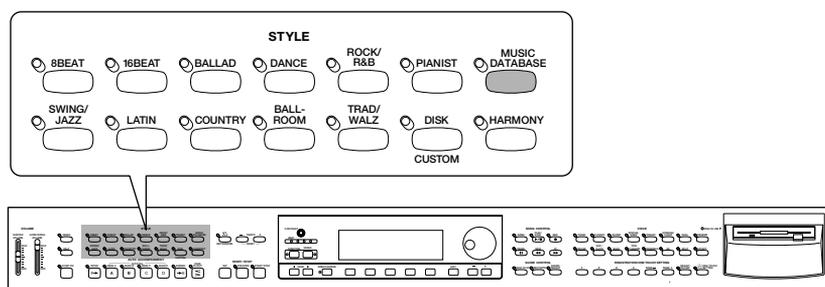
演奏しているメロディに、自動的に、和音や装飾音をつけることができる  
ハーモニー機能(P.76)

自動伴奏で演奏中、鍵盤から手を離すと自動伴奏も一時的にストップする  
シンクロストップ機能(P.79)

鍵盤でのコードの押さえ方を、鍵盤ガイドランプで教えてくれる  
コードアシスト(P.80)

## イメージや曲名ごとのおすすめ伴奏スタイルの使い方 (ミュージックデータベース[MUSIC DATABASE])

ミュージックデータベースには、曲のイメージや曲名ごとのおすすめ伴奏スタイルが用意されていますので、弾きたい曲に合う伴奏スタイルがうまく探せないという場合に、メニューを選ぶだけで伴奏スタイルがセットされます。また、同時に、おすすめの音色設定もセットされます。ミュージックデータベースのメニューは、CVP本体に463種類と、付属の「ミュージックソフト・コレクション」のディスクに50種類入っています。



ミュージックデータベースは、ご自身で演奏を楽しんでいただくための伴奏スタイルや音色などを設定するもので、曲データそのものではありません。

ミュージックデータベースの設定項目については、別冊「データリスト」をご覧ください。

## ミュージックデータベースの使用手順

[準備] 付属の「ミュージックソフト・コレクション」ディスクを、ディスクドライブに差し込む。

- 1 ミュージックデータベース機能を<sup>オン</sup>にする。
- 2 メニューを並べ替える方法を選ぶ。
- 3 メニューを選びセットする。
- 4 演奏する。

## 操作

[準備] 付属の「自動伴奏で弾く50曲集」用のメニューを使用したい場合は、付属の「ミュージックソフト・コレクション」ディスクを、シャッター側を奥に、ラベル面を上にして、ディスクドライブに差し込みます。

⇒【SONG(ソング)】のランプが点灯していますので、【SONG(ソング)】を押してランプを消しておきます。

**1** 【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)】を押して、ミュージックデータベース機能を<sup>オン</sup>にします。

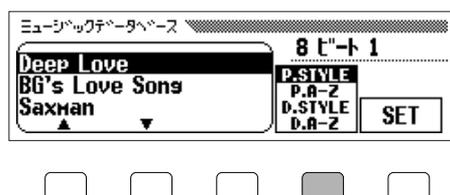
⇒ランプが点灯し、ミュージックデータベース(MUSIC DATABASE)画面が現れます。現在パネルで選ばれている伴奏スタイルがセットされているメニューが、自動的に選ばれ、パネルの状態が、そのメニューの内容に設定されます。【ACMP ON(自動伴奏<sup>アカンパニメント</sup>オン)】(P.65)と【SYNCHRO(シンクロ)】(P.66)も自動的に<sup>オン</sup>になります。



**2** 右から2番めのLCDボタンを押して、メニューを並べ替える方法を選びます。次の4つの方法があります。

- [P.STYLE].....本体にプリセットされているメニューを、パネルの<sup>スタイル</sup>STYLE(伴奏スタイル)の順に並べる。
- [P.A-Z] .....本体にプリセットされているメニューを、アルファベット順に並べる。
- [D.STYLE].....ディスクから読み込んだメニューを、パネルの<sup>スタイル</sup>STYLE(伴奏スタイル)の順に並べる。
- [D.A-Z] .....ディスクから読み込んだメニューを、アルファベット順に並べる。

⇒選ばれた方法に従って、メニューが並べ替えられます。



<sup>スタイル</sup>[P.STYLE]以外が選ばれていても、<sup>スタイル</sup>STYLE(伴奏スタイル)ボタンを押すと、そのとき、そのスタイルグループの中で選ばれているスタイルのミュージックデータベースのメニューが選ばれ、<sup>スタイル</sup>[P.STYLE]が反転します。

<sup>エーゼット</sup>[D.A-Z]を選ぶと、「自動伴奏で弾く50曲集」の収録順に並びます。

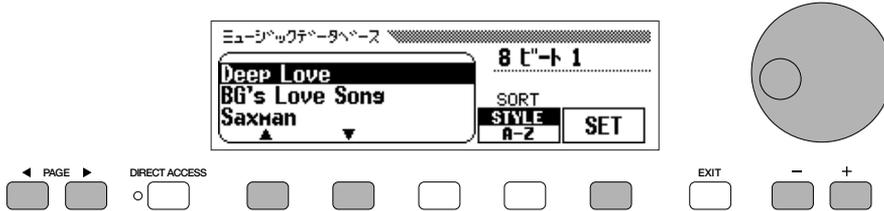
### 3

【ダイアル】でメニューを選び、<sup>セット</sup>[SET]を押します。

【-/+]も使えます。PAGE(ページ)<sup>ページ</sup>【◀】【▶】でページをめくることができます。

⇒選んだメニューのパネル状態がセットされ、画面の右上には、メニューで選ばれているミュージックデータベースの、伴奏スタイル名が表示されます。

ディスクのメニューを選んでセットした場合は、自動的に伴奏切り替えデータも読み込まれます。



ディスクのメニューを選んでセットすると...

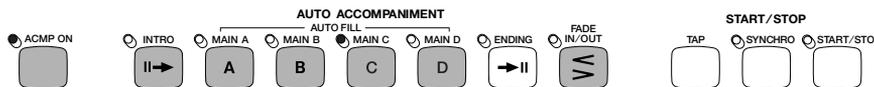
自動的に伴奏切り替えデータも読み込まれます。ここで、付属の「ミュージックソフト・コレクション」ディスクがディスクドライブに入っていないと、「ミュージックソフト・コレクション」ディスクを挿入してくださいのメッセージが表示されます。ディスクを挿入すると、伴奏切り替えデータが読み込まれます。伴奏切り替えデータの読み込みが必要ない場合は、[キャンセル(CANCEL)]を押します。

「ミュージックソフト・コレクション」ディスクを挿入してください。」のメッセージが表示されていない場合に、付属の「ミュージックソフト・コレクション」ディスクを挿入すると、【SONG(ソング)】のランプが点灯し、ミュージックデータベース機能は、いったんOFFになります。この場合は、【SONG(ソング)】を押してランプを消し、もう一度【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)】を押して、ONにしてください。

### 4

セクションボタンを押して、どのパターンからスタートするかを選びます。(P.67)

伴奏切り替えデータも読み込んだ場合は、自動的に選ばれ、切り替えできません。



### 5

伴奏用鍵盤でコードを押さえると、自動伴奏が鳴り出します。

【START/STOP(スタート/ストップ)】でリズムをスタートさせてから、伴奏用鍵盤でコードを押さえても、自動伴奏が鳴り出します。

自動伴奏の奏法には、初心者用、両手演奏用など5種類の方法があります。(P.69)

⇒テンポは、TEMPO(テンポ)【-/+]を押して調節します。(P.43)

⇒ボリュームは、<sup>アカンパニメント</sup>【ACMP / <sup>ソングボリューム</sup>SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】で調節します。(P.41)

### 6

【START/STOP(スタート/ストップ)】を押してランプを消すと、自動伴奏はストップします。

または、【ENDING(エンディング)】(P.67)を押すと、エンディング(後奏)を演奏してストップします。

ディスクから伴奏切り替えデータも読み込んであった場合は、自動的にストップします。この場合は、エンディングは使えません。

呼び出した設定状態は、必要に応じて自由に変更することができます。また、その状態を、レジストレーション機能(P.104)を使って登録しておくこともできます。

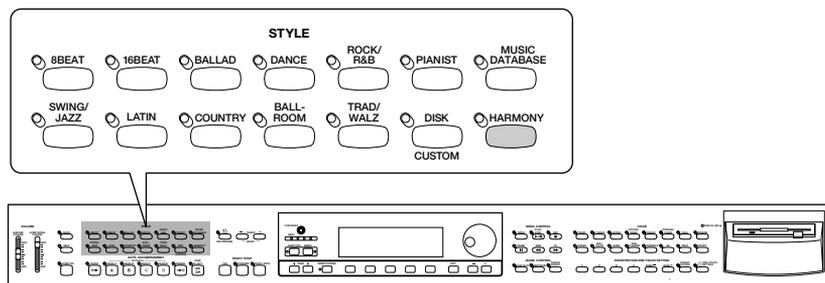
もう一度【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)】を押すと、ランプが消灯し、この機能を終了します。

パネル設定状態は、ミュージックデータベースを<sup>オン</sup>にする前の状態に戻ります。

【MUSIC DATABASE(ミュージックデータベース)】を押さずに<sup>エグジット</sup>【EXIT】を押すと、この機能を終了せずに、画面だけ前の状態に戻すことができます。

## 演奏するメロディに自動的に和音や装飾音をつける(ハーモニー[HARMONY])

ハーモニー機能を使うと、自動伴奏に加えて、右領域の鍵盤で演奏しているメロディにハーモニーや装飾音が付加えられます。付け加えられる音は、自動的に、自動伴奏によって演奏されているコードに合ったものになります。



### 操作

[準備] 伴奏スタイルや自動伴奏の奏法を選び、自動伴奏を使って演奏する準備をします。

- 1 【HARMONY(ハーモニー)】を押して、ハーモニー機能を<sup>オン</sup>にします。  
⇒ランプが点灯します。



- 2 自動伴奏を使って(P.65)演奏します。  
⇒メロディにハーモニーや装飾音が付加えられます。

もう一度【HARMONY(ハーモニー)】を押すと、ランプが消え、ハーモニー機能が<sup>オフ</sup>になります。

ハーモニータイプを15種類のメニューの中から選ぶこともできます(P.77)。

自動伴奏の奏法が<sup>フルキーボード</sup>[FULL KEYBOARD]のときは、ハーモニー機能を<sup>オン</sup>にすることはできません。

ハーモニーは、<sup>ライト</sup>[RIGHT1 VOICE]の音色に付きます。

ハーモニーの種類によって、現在選ばれている音色とは違う音色が鳴る場合があります。

イントロ、エンディングが鳴っている間や、自動伴奏が<sup>オフ</sup>OFFのときは、<sup>オクターブ</sup>[Octava]、<sup>エコー</sup>[1+5]、<sup>エコー</sup>[Echo]、<sup>トレモロ</sup>[Tremolo]、<sup>トリル</sup>[Trill]のハーモニータイプ(P.78)だけがハーモニー音が鳴ります。

右領域の鍵盤で和音を演奏した場合は、一番あとに弾かれた音に対してハーモニーが加わります。

ハーモニー機能は演奏中にもON/OFFすることができますので、盛り上げたいフレーズにだけハーモニーを付けることもできます。

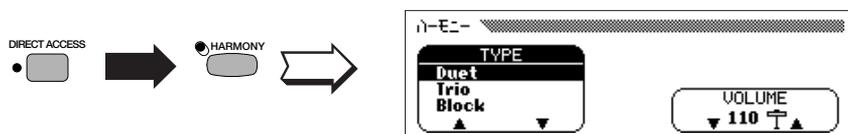
### 左のペダルによるコントロールの方法

レフトペダルの機能をHARMONY ON/OFFに設定すると(P.154)、レフトペダルを踏んでいる間だけ、右領域での演奏にハーモニーや装飾音をつけることができます。この方法を使うと、両手で鍵盤を弾きながら左ペダルによってハーモニー機能がON/OFFできますので、曲の途中で必要なフレーズにだけハーモニーを付けるのに便利です。

## ハーモニータイプの選び方

デュエット、エコー、トレモロなど、ハーモニーのタイプを15種類のメニューの中から選ぶことができます。

- 1 【HARMONY(ハーモニー)】を押して、ハーモニー機能をONにします。  
⇒ランプが点灯します。
- 2 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】を押して【HARMONY(ハーモニー)】を押し、ハーモニー(HARMONY)画面を表示させます。  
⇒現在選ばれているハーモニータイプが反転表示されます。



- 3 【TYPE】を押して表示を反転させ、【ダイヤル】を使って、ハーモニータイプを選びます。  
【-/+]も使えます。  
⇒選ばれたハーモニータイプが反転表示になります。  
【EXIT】を押すと、この機能を終了せずに、画面だけ前の状態に戻すことができます。  
もう一度【HARMONY(ハーモニー)】を押すと、ランプが消灯し、この機能を終了します。

### ハーモニータイプ一覧

- |             |               |                 |                |
|-------------|---------------|-----------------|----------------|
| デュエット       | トリオ           | ブロック            | パート            |
| • Duet*     | • Trio*       | • Block*        | • 4 Part*      |
| カントリー       | オクターブ         |                 | エコー            |
| • Country*  | • Octave*     | • 1+5*          | • Echo         |
| トレモロ        | トリル           | ストラミング          | アッドジャズギター      |
| • Tremolo   | • Trill       | • Strumming     | • Add Jazz Gtr |
| アッドブラス      | アッドストリングス     | インザフォレスト        |                |
| • Add Brass | • Add Strings | • In The Forest |                |

【HARMONY(ハーモニー)】のランプが消えてハーモニー機能がOFFになっているときは、レフトペダルによるハーモニーのON/OFFは機能しません。

音色ごとのハーモニータイプの自動設定...  
RIGHT1の音色を選ぶと、その音色に合ったハーモニータイプも自動的に設定されます。ファンクション(FUNCTION)のボイスセッティング(VOICE SETTING)(P.153)で、自動的に設定されないようにもできます。

ハーモニータイプ...  
設定範囲: "ハーモニータイプ一覧"を参照  
基本設定: RIGHT1の音色ごと

トリル  
[Trill]を選んでいる場合は、鍵盤を2音以上同時に弾くと、トリルの効果が付きまます。

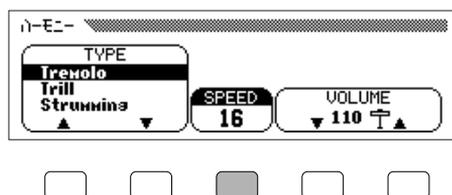
## ハーモニーのその他の設定

### ハーモニースピード

ハーモニータイプで、エコー [Echo]、トレモロ [Tremolo]、トリル [Trill] を選ぶと、LCD画面に<sup>スピード</sup> [SPEED] ボタンが現れ、効果のスピードを設定することができます。

<sup>スピード</sup> [SPEED] を押して選びます。

<sup>スピード</sup> [SPEED] が反転していると、【ダイヤル】や【-/+】も使えます。

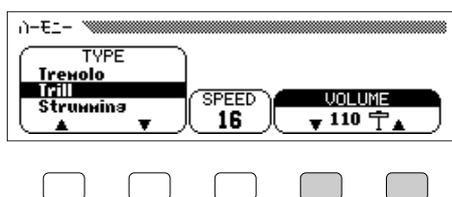


### ハーモニーボリューム

ハーモニー音のボリュームを調節することができます。

<sup>ボリューム</sup> [VOLUME] を押して表示を反転させ、【ダイヤル】で調節します。

【-/+】も使えます。<sup>ボリューム</sup> [VOLUME] を押しても調節できます。



ハーモニースピード...

設定範囲：4、6、8、12(Echo)  
8、12、16、32(Tremolo)  
12、16、24、32(Trill)  
基本設定：RIGHT1の音色ごと

鍵盤を押さえたままハーモニースピードを変えると、効果が止まります。ハーモニースピードを変えたあとに、弾き直してください。

ハーモニーボリューム...

設定範囲：0 ~ 127  
基本設定：RIGHT1の音色ごと

# 自分のテンポで自動伴奏を使う (シンクロストップ[SYNCHRO STOP])

シンクロストップ機能を使うと、自動伴奏用鍵盤(スプリットポイントより左)を押さえている間だけ、自動伴奏が鳴ります。鍵盤から手を離すと、自動的に自動伴奏がストップし、再び鍵盤を押さえると再スタートします。一定のテンポで演奏するのが難しいときや、演奏の途中にブレイクを入れるときに使用すると便利です。

## 操作

[準備] 伴奏スタイルや自動伴奏の奏法を選び、自動伴奏を使って演奏する準備をします。

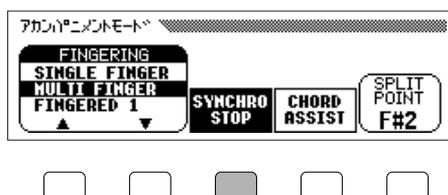
1 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】を押してから【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押して、自動伴奏の詳細設定画面を表示させます。

⇒アカンパニメントモード(ACCOMPANIMENT MODE)画面が現れます。



2 【SYNCHRO STOP(シンクロストップ)】を押して表示を反転させます。

⇒【SYNCHRO(シンクロ)】のランプが点灯します。



3 自動伴奏を使って(P.65)演奏します。

もう一度【SYNCHRO STOP(シンクロストップ)】を押して表示を元に戻すと、シンクロストップ機能がOFFになります。

【EXIT(戻る)】を押すと元の画面に戻ります。

フルキーボード  
自動伴奏の奏法で[FULL KEYBOARD]を選んでいたり、自動伴奏がOFFのときは、使えません。

# コードの押さえ方を確認する (コードアシスト[CHORD ASSIST])

コードアシスト機能を使うと、コードの押さえ方を簡単に知ることができます。知りたいコードをLCD画面上で指定するだけで、押さえる鍵盤のガイドランプが点灯しますので、コードを確認したり、覚えるために利用することができます。

## 操作

- 1 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】を押してから【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押して、自動伴奏の詳細設定画面を表示させます。

⇒アカンパニメントモード(ACCOMPANIMENT MODE)画面が現れます。



- 2 【CHORD ASSIST(コードアシスト)】を押してコードアシスト機能をONにします。

⇒コードアシスト(CHORD ASSIST)画面が現れます。また、【ACMP ON(自動伴奏オン)】がONになり、自動伴奏の奏法(P.69)は【FINGERED1(フィンガード)】が選ばれます。



- 3 【ROOT(ルート)】や【TYPE(タイプ)】を押して反転表示させたあと、【ダイヤル】や【-/+]を使って、知りたいコードのルート音(根音)とタイプを指定します。

【ROOT(ルート)】や【TYPE(タイプ)】を押しても、指定できます。

⇒鍵盤ガイドランプによって、押さえる鍵盤の位置が示されます。

- ⇒【INVERT(インバート)】を押すと、コードの転回形が示されます。【INVERT(インバート)】を押すごとに、次の転回形に変わります。【INVERT(インバート)】に転回形の番号が表示されます。【0】は基本形です。



以下のコードの種類をLCD画面上で指定することができます。

- メジャー[Maj]
- セブンス[7]
- マイナーセブンスフラットファイブ[m7(b5)]
- マイナーシックス[m6]
- サスフォー[sus4]
- マイナーフラットファイブ[m(b5)]
- セブンスオーギュメント[7(#5)]
- フラットファイブ[(b5)]
- マイナーメジャーセブンス[mM7]
- マイナー[m]
- マイナーセブンス[m7]
- シックス[6]
- メジャーセブンス[M7]
- オーギュメント[aug]
- セブンスサスフォー[7sus4]
- デミニッシュセブンス[dim7]
- セブンスフラットファイブ[7(b5)]

【EXIT(戻る)】を押すと、コードアシスト機能を終了し、元の画面に戻ります。  
または【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押すと、ランプが消え、コードアシスト機能を終了し、自動伴奏機能もOFFになります。

## 指定したコードの音を鳴らす方法

ルートとタイプを指定したコードを鳴らし、実際に音を聞いて確認することができます。

### 操作

- 1 コードアシスト画面を表示させ、【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すか、自動伴奏用鍵盤(P.65)でコード(和音)を押さえて、自動伴奏をスタートします。
- 2 コードを指定し(P.80)、[ENTER]を押すと、指定したコードの音が鳴ります。また、鍵盤ガイドランプのとおりに鍵盤を押さえても、指定したコードの音が鳴ります。  
鍵盤ガイドランプが点滅している鍵盤は、そのコードを押さえるときに省略してもよい鍵盤です。



- 3 【START/STOP(スタート/ストップ)】でストップします。

【EXIT(戻る)】を押すと、コードアシスト機能を終了し、元の画面に戻ります。  
または、【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押すと、ランプが消え、コードアシスト機能を終了し、自動伴奏機能もOFFになります。

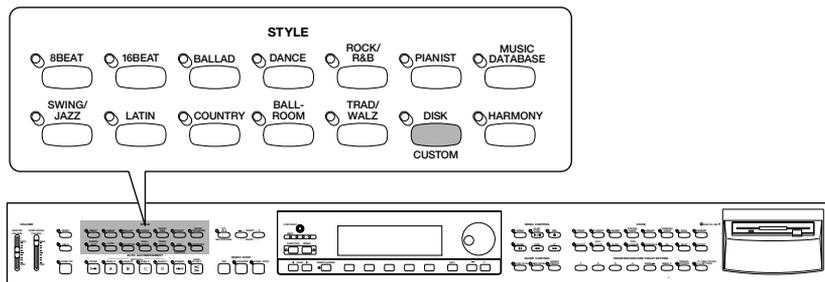
コードアシスト機能をONしているときは、スプリットポイントは鍵盤ガイドランプでは表示されません。スプリットポイントがF#2より下に設定されているときは、自動的にF#2になります。

鍵盤を押さえると、画面の左に実際に鳴っているコードが表示されます。そのコードと[ROOT]や[TYPE]に表示されているコードが一致すれば、正しく鍵盤を押さえたことになります。実際に鳴っているコードは、前に鳴っていたコードによって、同じコードでも「#」で表示されたり「b」で表示されたりします。下記のようにそれぞれ2つの場合があります。

C<sup>#</sup>=D<sup>b</sup>  
D<sup>#</sup>=E<sup>b</sup>  
F<sup>#</sup>=G<sup>b</sup>  
G<sup>#</sup>=A<sup>b</sup>  
A<sup>#</sup>=B<sup>b</sup>

# オリジナルの伴奏スタイルを作る (カスタムスタイル[CUSTOM STYLE])

カスタムスタイル機能を使って、オリジナルの伴奏スタイルを作ることができます。作った伴奏スタイルは、【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】に記憶させてパネルの伴奏スタイルと同様に使えます。また、フロッピーディスクに保存しておき、必要な時に読み込んで使用することもできます。



❗ カスタムスタイルのデータは、電源をOFFにすると消えてしまいますので、作成したデータは電源をOFFにする前に必ずフロッピーディスクに保存してください。(P.90)

電源をONにしたときはいつでも、あらかじめプログラムされた仮の伴奏スタイルが1つ、【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】に入っています。

## カスタムスタイルの作り方

### 操作

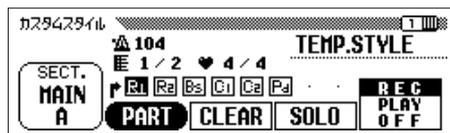
- 1 【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】を押して、カスタムスタイル機能を<sup>オン</sup>にします。

⇒ランプが点灯し、ディスク/カスタムスタイル(DISK/CUSTOM STYLE)画面が表示されます。



- 2 <sup>カスタムスタイル</sup>【CUSTOM STYLE】を押すと、「元になるスタイルを選んでください。(CUSTOM STYLE Select a source style.)」のメッセージが表示され、数秒後にカスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の1ページへ移行します。

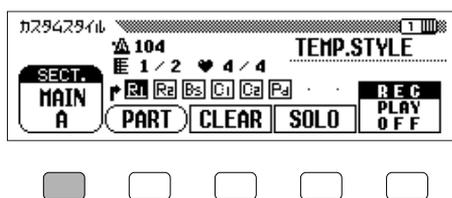
また、同時に現在【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】に記憶されているスタイルが鳴ります。



3 基本的な伴奏スタイルの選び方(P.64)で、パネルの伴奏スタイルの中から、作成しようとしているスタイルに似ているものを、基のスタイルとして選びます。基のスタイルとしてカスタムスタイルを使いたい場合は、もう一度【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】を押し、<sup>スタイル</sup>【STYLE】が反転している状態で、【ダイヤル】や【-/+】を使って使いたいスタイルを選びます。

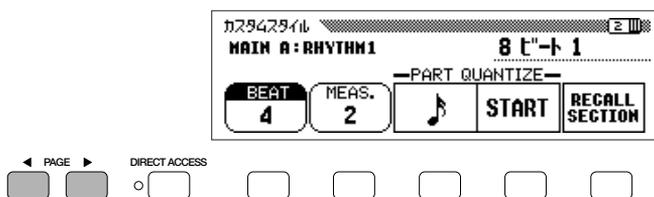
⇒伴奏スタイルを選んだら、<sup>エグジット</sup>【EXIT(戻る)】を押し、カスタムスタイル画面に戻ります。

4 <sup>セクション</sup>【SECT.】を押し、<sup>メイン</sup>【MAIN A】、<sup>メイン</sup>【MAIN B】、<sup>メイン</sup>【MAIN C】、<sup>メイン</sup>【MAIN D】、<sup>イントロ</sup>【INTRO】、<sup>フィルイン</sup>【FILL IN】、<sup>エンディング</sup>【ENDING】の中から最初に作りたいセクションを選びます。(画面を開いたときはMAIN Aが選ばれています。)



伴奏スタイルの拍子やセクションの小節数を変更する必要がある場合は、操作5へ、必要なければ操作6に進んでください。

5 基になるスタイルとは異なる拍子のスタイルを作りたい場合や、選んでいるセクションの小節数(パターンの長さ)を変更したい場合は、<sup>ページ</sup>PAGE【◀】【▶】でカスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の2ページを表示させます。



## 拍子の変更

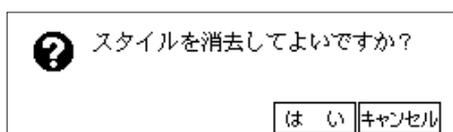
⇒ <sup>ビート</sup>【BEAT】を押し、拍子を選びます。

<sup>ビート</sup>【BEAT】が反転していると、【ダイヤル】や【-/+】も使えます。

⇒拍子を変更しようとすると、LCD画面には「スタイルを消去してよいですか?(Clear style?)」のメッセージが表示されます。(拍子を変えて録音する場合、スタイルそのものを消去して最初から録音し直す必要があるからです。)

消去してよい場合は[はい(OK)]を、中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

スタイルを消去したあとは、[2]、[3]、[4]、[5]の拍子の中から新しい拍子を選ぶことができます。



セクション(SECTION)とパート(PART)について...  
<sup>メイン</sup>MAIN A/B/C/D、<sup>イントロ</sup>INTRO、<sup>フィルイン</sup>FILL IN、<sup>エンディング</sup>ENDINGを、1つの伴奏スタイルを構成する"セクション"と言います。  
<sup>リズム</sup>RHYTHM1/2、<sup>ベース</sup>BASS、<sup>コード</sup>CHORD 1/2、<sup>パッド</sup>PAD、<sup>フレーズ</sup>PHRASE1/2を"パート"と言います。元になるイントロ、フィルイン、エンディングのパターンのバリエーションは、<sup>オン</sup>カスタムスタイル機能をONにしたときにどのメインボタンが選ばれていたかによって決まります。  
 カスタムスタイルで作成できるイントロ、フィルイン、エンディングは、それぞれ1パターンずつです。

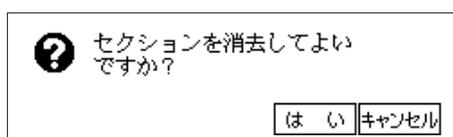
## 小節数の変更

➡ 現在選んでいるセクションの小節数を変更したい場合は、<sup>メジャー</sup>[MEAS.]を押して小節数を選びます。<sup>メジャー</sup>[MEAS.]が反転していると、【ダイアル】や【-/+]も使えます。

⇨ 小節数を変更しようとする、LCD画面には「セクションを消去してよいですか? (Clear section?)」のメッセージが表示されます。(小節数を変えて録音する場合、セクションそのものを消去して最初から録音し直す必要があるからです。)

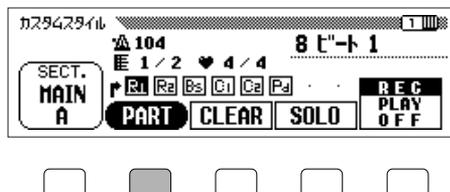
消去してよい場合は[はい(OK)]を、中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

セクションを消去したあとは、1~8小節の中から新しい小節数を選ぶことができます。ただし、<sup>フィルイン</sup>[FILL IN]セクションの小節数は1小節と決められていますので、消去しても1小節しか選ぶことができません。



拍子や小節数を決めたら、<sup>ページ</sup>PAGE(ページ)【◀】【▶】でカスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の1ページに戻ってください。

6 <sup>パート</sup>[PART]で録音したいパートを選びます。<sup>パート</sup>[PART]が反転していると、【ダイアル】や【-/+]も使えます。



次の8つのパートの中から選ぶことができます。

選ばれているパートには下線が表示されます。

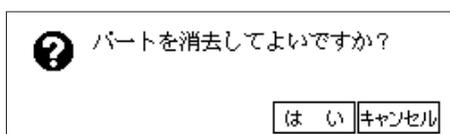
- R1: .....RHYTHM 1(リズム1)
- R2: .....RHYTHM 2(リズム2)
- Bs: .....BASS(ベース)
- C1: .....CHORD 1(コード1)
- C2: .....CHORD 2(コード2)
- Pd: .....PAD(パッド)
- P1: .....PHRASE 1(フレーズ1)
- P2: .....PHRASE 2(フレーズ2)

➡ 選択したパートは、一番右側のLCDボタンを押して<sup>レコード</sup>[REC(録音)]を選ぶと、録音状態にすることができます。

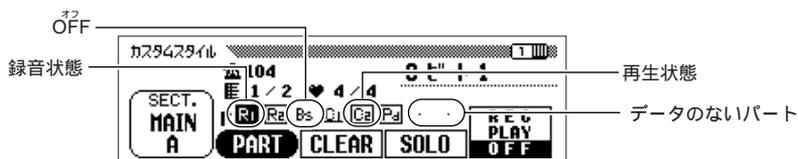
最初は自動的にR1(リズム1)パートが選ばれ、録音状態(反転表示)になっています。

基になるスタイルがパネルの伴奏スタイルの場合、R1(リズム1)、R2(リズム2)以外のパートは、消去してからでないと録音できないことになっていますので、これらのパートを録音状態にしようとする、まず「パートを消去してよいですか? (Clear part ?)」のメッセージが表示されます。

[はい(OK)]を押すと、そのパートが録音状態になります。キャンセルしたいときは[キャンセル(CANCEL)]を押します。



一度に録音状態にできるのは1パートだけです。あるパートを録音状態にすると、次の図のようにその他のパートは再生状態(パート表示が四角い枠で囲まれている状態)、またはOFFの状態(パート表示だけの状態)になります。データの無いパートは、何も表示されません。



## 7 基本的な音色の選び方(P.51)で、録音にしたい音色を選びます。

(最初は、選んだパートではじめに使われていた音色が自動的に選ばれます。)

以下の音色が使用できます。

- R1(リズム1)パート.....ドラム/<sup>エスエフエックス</sup>SFX キットの音色。
- R2(リズム2)パート.....すべての音色。
- 他のパート.....ドラム/<sup>エスエフエックス</sup>SFX キット以外のすべての音色。

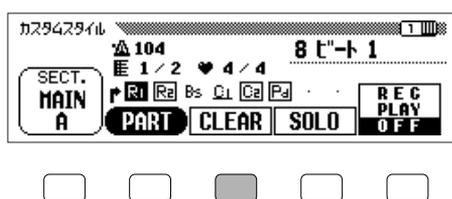
⇒ 音色を選んだら、【EXIT(戻る)<sup>エグジット</sup>】を押して、カスタムスタイル画面に戻ります。

## 8 鍵盤を弾くと選んだパートへ新しい音が録音されます。

すでにデータが録音されているパートの場合、鍵盤を弾いたタイミングで新しい音が追加されます。

カスタムスタイルではCメジャーセブンス[CM7]のパターンとして録音されますので、ここではCメジャーセブンス[CM7]のパターンとして弾いてください。

何もデータがない状態から新しく録音を始めたい場合は、録音を始める前に[CLEAR<sup>クリア</sup>]を押して、そのパターンを消去してください。なお、R1(リズム1)、R2(リズム2)パートを両方とも消去した場合、タイミングをとるためのガイドとしてメトロノームの音が鳴ります(このメトロノーム音は録音されません)。

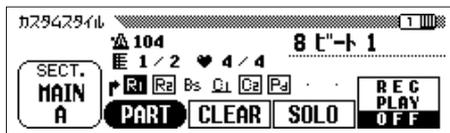


また、R1(リズム1)、R2(リズム2)パートへドラム/<sup>エスエフエックス</sup>SFX キットの音色を録音しているときは、各ドラム音色単位で不要な音を消去することもできます。

「C1」(<sup>キャンセル</sup>CANCELと印刷されている、下から2番目の「ド」)の鍵盤を押さえながら、消したいドラム音色の鍵盤を押します。

<sup>キャンセル</sup>C1(CANCEL)の鍵盤を押さえながら、メトロノーム(A1の鍵盤)をクリアすれば、タイミングのガイドを消すことができます。

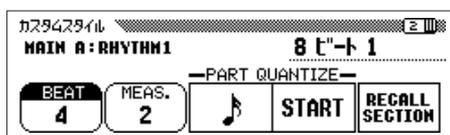
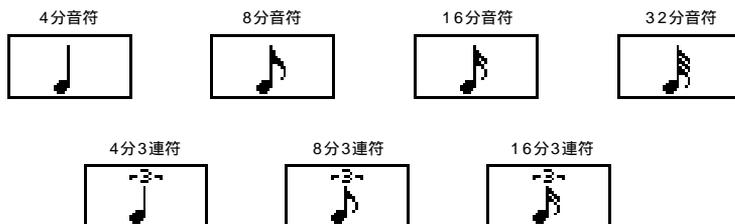
ソロ  
[SOLO]を押して反転させると、選ばれているパートの音だけが鳴り、他のパートの音はミュート(消音)されます。1つのパートだけを聞いて確認する場合に便利です。もう一度[SOLO]を押すと、通常どおりに音が鳴ります。



9 パートクオンタイズ機能を使って、一度録音したパートの音のずれを特定の音符のタイミングに合わせて修正することができます。たとえば、録音した音符を正確に8分音符や16分音符のタイミングに合わせて並べることができます。

ページ  
PAGE(ページ)【◀】【▶】でカスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の2ページめを表示させます。

⇒ 音符のイラストのLCDボタンを押して、次の中からタイミングを合わせたい音符の長さを選びます。



⇒ 音符の長さを選んだら、<sup>スタート</sup>[START]を押します。

⇒ クオンタイズが実行され、<sup>スタート</sup>[START]が<sup>アンドゥ</sup>[UNDO(取り消し)]の表示に変わります。クオンタイズの結果が期待どおりでない場合は、この<sup>アンドゥ</sup>[UNDO(取り消し)]を押すと、クオンタイズをかける前の状態に戻すことができます。クオンタイズをかけたあと、他のボタンを操作してしまうと、<sup>アンドゥ</sup>[UNDO(取り消し)]は使えなくなります。

10 上記の操作4~9を繰り返して、その他のパートや別のセクションを選んで録音します。

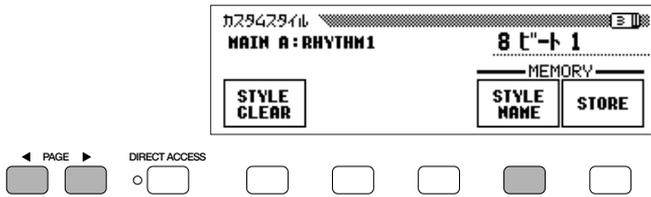
【START/STOP(スタート/ストップ)】で、作成中のスタイルの再生をストップしたり、再びスタートさせることができます。再生がストップしているときは鍵盤を弾いても録音されません。

すべてのパートで、パターン<sup>オフ</sup>の終わりのポイント(繰り返しの切れめ)では、音が自動的にOFFされます。したがってパターンの繰り返しの切れめをまたいで録音しないよう、ご注意ください。

カスタムスタイルの録音中は、ミキサー(MIXER)画面によるボリューム調節は機能しません。

# 11 カスタムスタイルが完成したら、作成したカスタムスタイルに名前をつけることができます。

PAGE(ページ) <sup>ページ</sup>【◀】【▶】でカスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の3ページめを表示させ、<sup>スタイルネーム</sup> [STYLE NAME]を押すと、ネーム(NAME)画面が表示されます。



【▶】を押して下線の位置を移動し、文字位置を選びます(スタイル名は最大12文字までつけることができます)。

【ダイアル】や【-/+]を使って入力したい文字や記号を反転させ、<sup>キャラクターセット</sup> [CH.SET]を押すと、選んだ文字や記号がスタイル名の下線が置かれている位置に入力されます。

入力を間違ったときは、<sup>バック</sup> [BACK]を押します。下線の一つ前の文字が消去され、消去された位置に下線が戻ります。

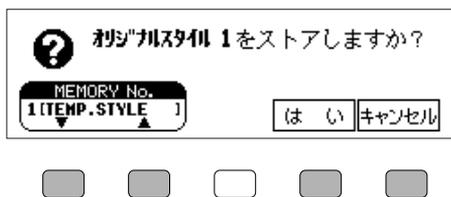
同じ要領で別の文字位置に下線を移動して、文字や記号を入力していきます。



スタイル名が完成したら、<sup>オーケー</sup> [OK]を押すと、入力したスタイル名がそのカスタムスタイルの名前として登録されます。

作業を中止したい場合は<sup>キャンセル</sup> [CANCEL]を押します。

# 12 カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の3ページにある<sup>ストア</sup> [STORE]を押すと、作成したカスタムスタイルを本体内のメモリーに保存する画面に変わります。



⇒「\*\*\*\*\* をストアしますか? (Store\*\*\*\*\*?)」のメッセージが表示されます。(\*\*\*\*\*のところには実際のスタイル名が入ります。)

<sup>メモリーナンバー</sup> [MEMORY No.] でストア先のメモリー番号を1~4の中から選びます。

⇒ [はい](OK)を押すと、カスタムスタイルが選んだメモリー番号に保存されます。

中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

メモリー=データの保管場所

カスタムスタイルをストアしたときのテンポの値が、そのスタイルの基本設定値になります。

選んだメモリー番号にすでにスタイルがストアされていた場合、そのスタイル名がメモリー番号の横に表示されます。その番号にストアを実行すると、元のスタイルは新しいスタイルに置き換えられます。

❗ カスタムスタイルのデータは、電源を<sup>オフ</sup>OFFにすると消えてしまいますので、作成したデータは、電源を<sup>オフ</sup>OFFにする前に必ずフロッピーディスクに保存してください。(P.90)

<sup>エグジット</sup>【EXIT(戻る)】を押すと、カスタムスタイルの作成を終了し、通常の演奏状態に戻ります。

## カスタムスタイルに関するその他の機能

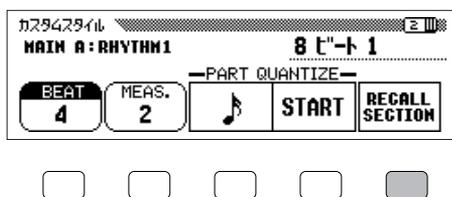
カスタムスタイルには、そのほかにもいくつかの機能が用意されています。

### リコールセクション機能

この機能を使うと、録音中のセクションを最後にストアしたときのデータに戻すことができます。(そのセクションの全パートが同時に戻ります。)

カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の2ページにある<sup>リコール セクション</sup>【RECALL SECTION】を押すと、リコールセクション機能が実行されます。

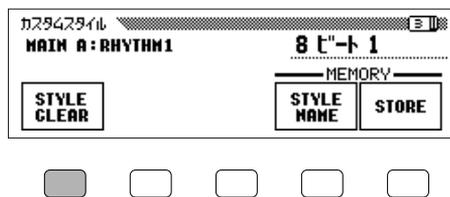
拍子を変更している場合は、「リコールできません！(Can't recall!)」のメッセージが表示され、リコールセクション機能は実行できません。このような場合、[はい(OK)]を押すと前の画面に戻ります。



### スタイルのクリア(消去)

カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の3ページにある<sup>スタイルクリア</sup>【STYLE CLEAR】を押すと、現在のカスタムスタイルそのものを消去することができます。

「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示され、[はい(YES)]を押すと実行されます。中止する場合は[いいえ(NO)]を押します。



## ボリュームとエフェクト

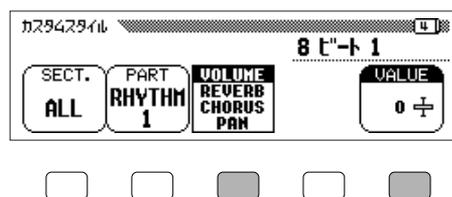
カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の4ページでは、各セクションのパート単位でボリューム、リバーブ、コーラス、パンを設定することができます。これらの値をうまく設定することにより、各パートのバランスが取れたクオリティの高いスタイルに仕上げることができます。

- 1 <sup>セクション</sup> [SECT.]、<sup>パート</sup> [PART]でセクションやパートを選びます。  
(<sup>オール</sup> "ALL"を表示させると、セクション全体またはパート全体を選択することができます。)



- 2 真ん中のLCDボタンで、選んだセクション/パートに対して設定したい機能を [VOLUME]、[REVERB]、[CHORUS]、[PAN]の中から選びます。

[VOLUME]は、すべてのセクションに共通の設定となるため、<sup>ボリューム</sup> [VOLUME]を選ぶと、<sup>セクション</sup> [SECT.]は"<sup>オール</sup>ALL"に固定されます。



[CHORUS]を選んだ場合は、<sup>タイプ</sup> [TYPE]が表示されます。<sup>タイプ</sup> [TYPE]を押してコーラスタイプを選ぶことができます。



以下のコーラスタイプから選べます。

- CHORUS 1(コーラス1)
- CELESTE 1(セレステ1)
- FLANGER 1(フランジャー-1)
- CHORUS 2(コーラス2)
- CELESTE 2(セレステ2)
- FLANGER 2(フランジャー-2)
- CHORUS 3(コーラス3)
- CELESTE 3(セレステ3)
- OFF(オフ)

基になったスタイルで使われているコーラスタイプが、ここで選択できるタイプ以外の場合は、コーラスの<sup>タイプ</sup> [TYPE]に"OTHERS"が表示されます。<sup>アワーズ</sup> 1度他のタイプに変更すると、<sup>アワーズ</sup> "OTHERS"を選び直すことはできません。

### 3 <sup>バリュー</sup> [VALUE] (または<sup>デプス</sup> [DEPTH]) で値を設定します。

各機能で設定できる値は次のとおりです。

- <sup>ボリューム</sup> VOLUME : ..... -50 ~ 0 ~ +50 (基になるスタイルに設定されているボリューム  
に対する相対値です。)
- <sup>リバーブ</sup> REVERB : ..... 0 (効果なし) ~ 127 (効果最大)
- <sup>コーラス</sup> CHORUS : ..... 0 (効果なし) ~ 127 (効果最大)
- <sup>パン</sup> PAN (音の定位) : ..... L10 (左端) ~ C (真ん中) ~ R10 (右端)



通常、選んだセクション/パートに基本設定されている各機能の値が最初に選ばれますが、[PART]に<sup>パート</sup> "ALL" を選んでいるときは、R1(リズム1)のパートに設定されている値が表示されます。また、[SECT.]に<sup>セクション</sup> "ALL" を選んでいるときは、MAIN A(メインA)のセクションに設定されている値が表示されます。

## カスタムスタイルの保存(SAVE)と削除(DELETE)

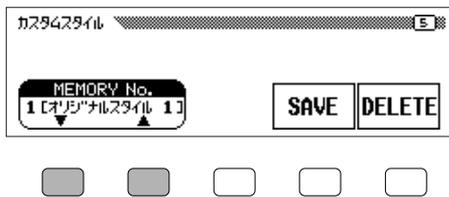
カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の5ページには、作ったカスタムスタイルをフロッピーディスクに<sup>セーブ</sup>保存(SAVE)する機能があります。カスタムスタイルは個別に保存したり、4個まとめて1セットとして保存することもできます。また、フロッピーディスクから<sup>デリート</sup>削除(DELETE)することもできます。

保存したカスタムスタイルファイルは、カスタムスタイルファイルの読み込み機能(P.94)を使って本体に読み込み、使うことができます。

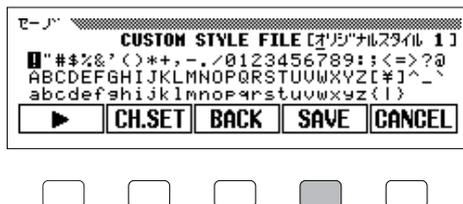
### フロッピーディスクへの保存

#### 操作

- 1 フロッピーディスクドライブにフォーマット済みのディスクが正しく差し込まれていることを確認したあと(P.10)、<sup>メモリーナンバー</sup> [MEMORY NO.] を使って保存したいカスタムスタイルを選びます。4個のカスタムスタイルをまとめて1<sup>オール</sup>セットとして保存したい場合は、"ALL" を選びます。



- 2 <sup>セーブ</sup> [SAVE] を押すと、カスタムスタイルに名前を付けたときと同様の画面(P.87)が現れますので、同じ要領で、ディスクに保存するファイル名を付けます。



### 3 さらに[<sup>セーブ</sup>SAVE]を押すと、フロッピーディスクに保存されます。

保存先のディスクにすでに同じ名前のスタイルファイルが存在する場合は、「同じ名前のファイルがあります。入れ替えますか？(Same name! Overwrite?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、保存が実行され元のファイルは新しいファイルに置き換えられます。中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

カスタムスタイルはディスクに保存する前に、必ず本体内のメモリーにストア(P.87)されている必要があります。ストアされていないカスタムスタイルをディスクへ保存しようとする、「ディスクセーブの前にストアしてください。(Store in memory before saving to disk.)」のメッセージが表示されます。この場合は[はい(OK)]を押して、ストア機能があるカスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の3ページに戻り、ストアしたあともう一度保存を行なってください。

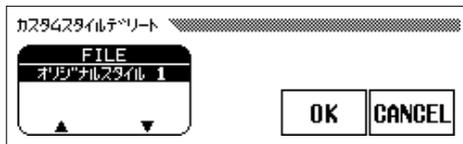
## フロッピーディスクからの削除

### 操作

カスタムスタイルを保存してあるフロッピーディスクを、ディスクドライブに正しく差し込み、[<sup>デリート</sup>DELETE]を押します。

⇒ [FILE] <sup>ファイル</sup> を使って削除したいカスタムスタイルを選び [OK] <sup>オーケー</sup> を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、削除が実行されスタイルが削除されます。

中止する場合は[いいえ(NO)]を押します。



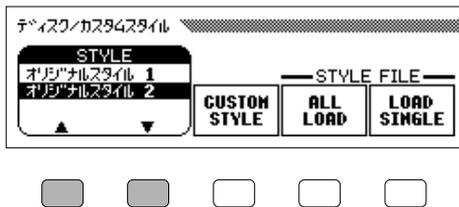
⇒ [EXIT(戻る)] <sup>エグジット</sup> を押すと、カスタムスタイルの機能がOFF <sup>オフ</sup> になり、通常の演奏状態に戻ります。

⇒ ディスクドライブのイジェクトボタンを押してディスクを取り出します。

⊗ <sup>ディスクインユース</sup> DISK IN USE(ディスク使用中)  
ランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。

## カスタムスタイルの再生方法

- 1 【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】を押して、ディスク/カスタムスタイル(DISK/CUSTOM STYLE)画面を表示させます。
- 2 <sup>スタイル</sup>【STYLE】 で、使いたいスタイルを選びます。【ダイヤル】【-/+] も使えます。選んだスタイルは、パネルの伴奏スタイルと同じように再生スタート/ストップでき、自動伴奏に使用することができます。(P.63)

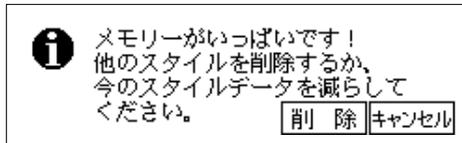


カスタムスタイルでは、作成できるイントロ、フィルイン、エンディングは、それぞれ1パターンずつになります。したがって、再生時にもパターンのバリエーションはありません。

## カスタムスタイルに関するその他のメッセージ

カスタムスタイルについての、その他のメッセージを説明します。

### ストアするためのメモリーが不十分な場合



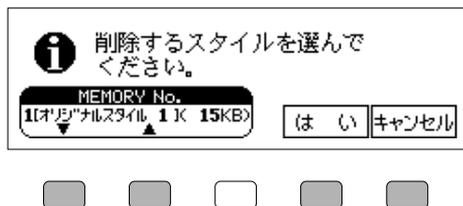
ストアするためのメモリーが足りない場合に表示されます。この場合、不要なスタイルをカスタムスタイルのメモリーから削除するか、今ストアしようとしているスタイルのデータ量を減らす必要があります。

データ量を減らす場合は、いったん[キャンセル(CANCEL)]を押して、カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の1ページに戻り、スタイルのパートをクリアするなどしてデータを減らします。

不要なスタイルを削除する場合は[削除(DELETE)]を押します。

➡次の画面が表示されますので、<sup>メモリーナンバー</sup>【MEMORY NO.】 で不要なスタイルを選び、[はい(OK)]で削除を実行することができます。

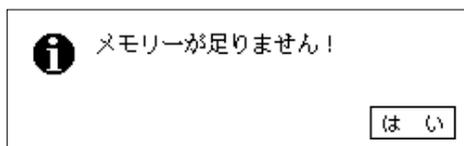
中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。



スタイルが使用しているメモリー容量がおおよそのキロバイト(KB)で、画面に表示されます。カスタムスタイルのメモリー全体が100KBですので、どのスタイルを削除するかを決める目安にしてください。

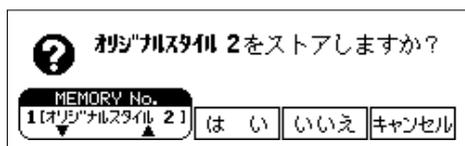
ここで[はい(OK)]を押したとき、「このスタイルは削除できません。(Can't delete this style!）」のメッセージが表示されることがあります。これは、削除しようとしたスタイルが、ストアしようとしているカスタムスタイルの基になったスタイルだった場合です。この場合は、[はい(OK)]を押して前の画面に戻り、削除するスタイルを選び直してください。

### 録音中にメモリーがいっぱいになった場合



録音中にメモリーがいっぱいになった場合、このメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押して、カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の1ページに戻り、現在録音中のスタイルのパートをクリアするなどしてデータを減らしてください。

### ストアする前にカスタムスタイル機能を終了しようとした場合

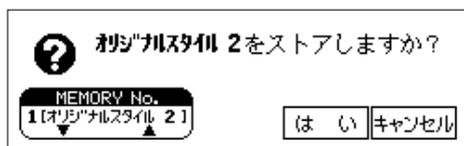


ストアする前に、【EXIT(戻る)<sup>エグジット</sup>】を押してカスタムスタイル機能を終了しようとした場合に、このメッセージが表示されます。

[MEMORY NO.]<sup>メモリーナンバー</sup> でストア先のメモリー番号を選び、[はい(YES)]を押すと、ストアされたあとカスタムスタイル機能が終了します。

[いいえ(NO)]を押すと、ストアされずにカスタムスタイル機能が終了します。終了せずにもう一度カスタムスタイルの画面に戻る場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

### ストアする前に別のスタイルを選択しようとした場合



ストアする前に、別のスタイルを基になるスタイルとして選択しようとした場合に、このメッセージが表示されます。[MEMORY NO.]<sup>メモリーナンバー</sup> でストア先のメモリー番号を選び、[はい(YES)]を押すと、現在のカスタムスタイルがストアされ、基になるスタイルを新たに選択することができます。[キャンセル(CANCEL)]を押すと元のカスタムスタイルの画面に戻ります。

現在のカスタムスタイルをストアせずに、基になるスタイルを新たに選択したい場合は、すぐ前で述べた"ストアする前にカスタムスタイル機能を終了しようとした場合"のやり方で、ストアせずにカスタムスタイル機能をいったん終了します。それから新たにカスタムスタイル機能をONにしてやり直します。

# ディスクに保存したカスタムスタイルファイルの読み込み方

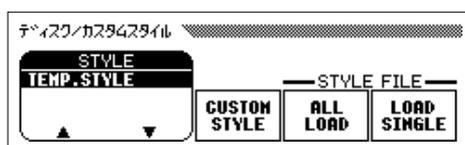
ディスクに保存したカスタムスタイルファイルは、いつでもCVP本体に読み込んで使用することができます。ディスクから読み込んだカスタムスタイルファイルは、【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】に記憶され、パネルの伴奏スタイルと同様に使えます。

## 操作

1 カスタムスタイルファイルの入ったディスクを、シャッター側を奥に、ラベル面を上にして、ディスクドライブに差し込みます。

⇒CVP-201がディスクを読み込んで認識するまで、DISK IN USE(ディスク使用中)ランプが点灯します。

- カスタムスタイルファイルだけが入ったディスクが差し込まれた場合は、スタイルファイルロード(STYLE FILE LOAD)画面(操作2の画面)が表示されます。
- 差し込んだディスクにカスタムスタイルファイルと曲ファイルが入っている場合は、自動的に【SONG(ソング)】がONになります。この場合は、最初に【SONG(ソング)】を押してランプを消します。【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】を押し、表示されたディスク/カスタムスタイル(DISK/CUSTOM STYLE)画面で[LOAD SINGLE]を押して、スタイルファイルロード(STYLE FILE LOAD)画面を表示させます。
- すでにディスクが差し込まれていてスタイルファイルロード(STYLE FILE LOAD)画面が表示されていない場合は、【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】を押し、表示されたディスク/カスタムスタイル(DISK/CUSTOM STYLE)画面で[LOAD SINGLE]を押して、スタイルファイルロード(STYLE FILE LOAD)画面を表示させます。



なお、カスタムスタイルの保存機能の"ALL"<sup>オール</sup>(P.90)を使って、4個のファイルを1セットで保存したものを一括して読み込む場合は、[LOAD SINGLE]<sup>ロード シングル</sup>ではなく[ALL LOAD]<sup>オール ロード</sup>を押してください。

ディスク取り扱い上の注意について...  
"フロッピーディスクの取り扱いについて"(P.10)をお読みください。

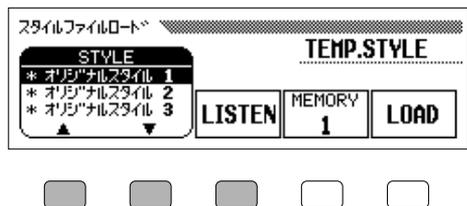
CVP-201より前のモデルで作成されたカスタムスタイルファイルをCVP-201で読み込んで再生すると、セクション構成が異なるため、適切に再生されない場合があります。

読み込んだカスタムスタイルファイルは電源をOFFにすると消えます。

電源をONにしたときはいつでも、あらかじめプログラムされた仮のスタイルが1つ、【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】に入っています。

2 <sup>スタイル</sup> [STYLE] を押して、読み込みたいカスタムスタイルファイル(<sup>オールロード</sup>[ALL LOAD])の場合はファイルのセット)を選びます。【ダイアル】、【-/+】も使えます。

また、<sup>リッスン</sup>[LISTEN]を押すと、現在選択されているカスタムスタイルファイルが鳴り出し、読み込む前に試聴することができます。もう一度<sup>リッスン</sup>[LISTEN]を押すか、<sup>オールロード</sup>【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すと、ストップします(操作1で<sup>リッスン</sup>[ALL LOAD]を選択した場合は、<sup>リッスン</sup>[LISTEN]はありません)。



3 <sup>ロード シングル</sup> [LOAD SINGLE]の場合、<sup>メモリー</sup> [MEMORY]を押して、選んだカスタムスタイルファイル<sup>ロード</sup>を記憶するメモリー番号を選び、<sup>ロード</sup> [LOAD]を押すと、カスタムスタイルファイルがそのメモリー番号に記憶されます。

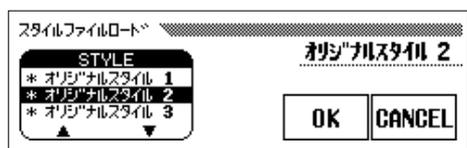
メモリー番号は1～4の中で選ぶことができます。



操作の2と3を繰り返して、必要なカスタムスタイルファイルを各メモリー番号に記憶させることができます。

操作の1で<sup>オールロード</sup> [ALL LOAD]を押した場合は、メモリー番号を選択する必要はありません。<sup>オーケー</sup> [OK]を押すと「よいですか?(Are you sure?)」のメッセージが出ます。[はい(YES)]を押すと、すべてのカスタムスタイルファイルが読み込まれ、1～4の各メモリー番号に記憶されます。

<sup>キャンセル</sup> [CANCEL]を押すと、スタイルファイルの読み込みがキャンセルされます。



カスタムスタイルファイルを読み込むためのメモリーが十分確保できない場合は、「メモリーが足りません。他のスタイルを削除しますか?(Not enough memory! Delete an unneeded style?)」のメッセージが表示されます。

この場合、<sup>メモリー ナンバー</sup> [MEMORY No.] を使って不要なスタイルを選択し、<sup>デリート</sup> [DELETE]を押して削除することができます。削除したくない場合は、[キャンセル(CANCEL)]を押すと、元の画面に戻ります。

カスタムスタイルファイルを読み込む前にテンポを変更すると、そのテンポが読み込んだスタイルの基本設定値となります。

カスタムスタイルファイルによっては、<sup>リッスン</sup>ファイルサイズが大きすぎるため<sup>リッスン</sup> [LISTEN]が使えない場合があります。このような場合、「データが大きすぎて<sup>ロード</sup>[LISTEN]は効きません。<sup>ロード</sup> [LOAD]を押してロードして下さい。(Too much data for LISTEN function! Load data)」というメッセージが表示されます。その場合は操作3で直接データを読み込んでください。

<sup>ロード シングル</sup> [LOAD SINGLE]を押すと、自動的に自動伴奏機能が<sup>オン</sup>ONになります。また、<sup>リッスン</sup> [LISTEN]を押すと、選んでいるカスタムスタイルファイルがCメジャーのコードで再生されます。このとき、自動伴奏の演奏方法でコードを変えたりメロディを弾いてみたりすることもできます。

選んだメモリー番号にすでにスタイルファイルがある場合、そのスタイル名が画面右下に表示されます。その番号に読み込みを実行すると、元のスタイルは新しいスタイルに置き換えられます。

オールロードを実行した場合は、1～4すべてのメモリーの内容が新しいデータに置き替わります。

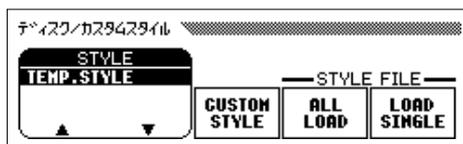
スタイルが使用しているメモリー容量が、おおよそのキロバイト(KB)で画面に表示されます。スタイルファイルのメモリー全体が100KBですので、どのスタイルを削除するかを決める目安にしてください。



【EXIT(戻る)<sup>エグジット</sup>】を押すと基本画面に戻ります。ディスクドライブのイジェクトボタンを押してディスクを取り出します。

## 読み込んだカスタムスタイルの使い方

【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】を押すとランプが点灯し、ディスク/カスタムスタイル(DISK/CUSTOM STYLE)画面が表示されます。<sup>スタイル</sup>【STYLE】 や【ダイアル】、【-/+】を使って、使いたいスタイルを選びます。選んだスタイルは、パネルの伴奏スタイルと同じように使用することができます。(P.63)



<sup>リッスン</sup>【LISTEN】、<sup>ロード</sup>【LOAD】、<sup>エグジット</sup>【EXIT(戻る)】はカスタムスタイルファイルの読み込み中(DISK IN USE(ディスク使用中)ランプ点灯中)は使えません。

⊗ <sup>ディスク インユース</sup>DISK IN USE(ディスク使用中)ランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。

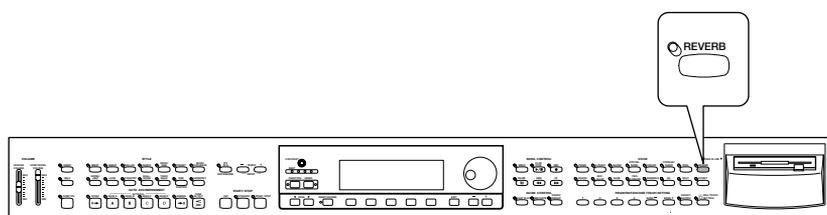
# 第5章 効果(リバーブ/コーラス/エフェクト) REVERB/CHORUS/EFFECT

変更した設定値を戻すには...

- ・ と、または ◀ と ▶ が表示される項目では、多くの場合、両方のボタン、または【-/+]を同時に押すと、設定されている値を基本設定に戻すことができます。
- ・ ファンクション(FUNCTION)のバックアップ(BACKUP)(P.170)で、変更した設定値を一括して基本設定に戻すことができます。

## 残響効果(リバーブ:REVERB)の使い方

残響を付ける機能をリバーブ(REVERB)と言います。CVPの音に残響を付けると、コンサートホールなどで演奏しているような臨場感を味わうことができます。CVPでは、いろいろなタイプのリバーブを好みの深さ(効果のかけ具合)でかけることができます。



ボリューム、マイク、エコー  
【VOLUME MIC./ECHO】でマイク  
にエコーをかけることができます。

## リバーブのかけ方

### 操作

1 【REVERB(リバーブ)】を押してリバーブ機能を<sup>オン</sup>にします。

はじめから<sup>オン</sup>になっている音色もあります。

⇒ランプが点灯し、鍵盤で演奏する音に残響がかかります。



【REVERB(リバーブ)】を押してランプを消すと、リバーブは<sup>オフ</sup>になります。

リバーブの<sup>オン</sup>/<sup>オフ</sup>...

基本設定：音色ごとの設定

音色ごとのリバーブ<sup>オン</sup>/<sup>オフ</sup>の自動  
設定...

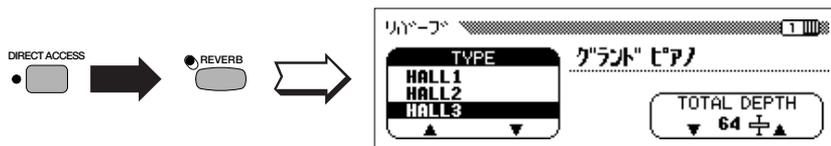
音色を選ぶと、リバーブの<sup>オン</sup>/<sup>オフ</sup>も自動的に設定されます。ファンクション(FUNCTION)のボイスセッティング(VOICE SETTING)(P.153)で、自動的に設定されないようにもできます。

パネル上でのリバーブの<sup>オン</sup>/<sup>オフ</sup>は、曲データや自動伴奏の再生音には無効です。

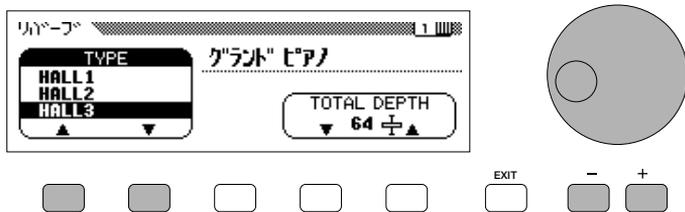
# リバーブのタイプの選び方と楽器全体のリバーブのかかり具合の調節のしかた

## 操作

- 1 【REVERB(リバーブ)】を押してリバーブ機能を<sup>オン</sup>にします。
- 2 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】を押して、【REVERB(リバーブ)】を押し、リバーブの詳細設定画面を表示させます。  
⇒リバーブ(REVERB)画面が表示されます。この画面が出ない場合は、PAGE(ページ)【◀】【▶】で1ページめを表示させます。



- 3 <sup>タイプ</sup>【TYPE】を押してリバーブのタイプを選びます。  
<sup>タイプ</sup>【TYPE】が反転していると、【ダイアル】や【-/+]でも選べます。リバーブは12タイプあります。リバーブのタイプについて詳しくは、「データリスト」"エフェクトタイプ一覧"をご覧ください。

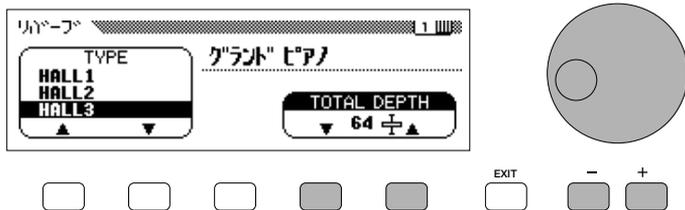


- 4 <sup>トータル デプス</sup>【TOTAL DEPTH】を押して表示を反転させ、【ダイアル】や【-/+]を使って楽器全体にかかる残響のかかり具合を設定します。

<sup>トータル デプス</sup>【TOTAL DEPTH】を押しても設定できます。

数値が大きいほど効果は深くかかります。

<sup>トータル デプス</sup>【TOTAL DEPTH】か【-/+]を同時に押すと基本設定の"64"に戻ります。



<sup>エグジット</sup>【EXIT(戻る)】を押すと、基本画面に戻ります。

リバーブ画面表示中に、<sup>ページ</sup>PAGE(ページ)【◀】【▶】を使って、コーラス(P.100)やエフェクト(P.102)の詳細設定画面を表示させることができます。

### リバーブのタイプ...

設定範囲：エフェクトタイプ一覧を参照  
基本設定：そのとき選ばれている伴奏スタイルに設定されているタイプが自動的に選ばれます。

リバーブのタイプはどの音色パートと自動伴奏パートでも共通です。音色パートや自動伴奏パートごとに異なるタイプのリバーブを設定することはできません。

リバーブのかかり具合(デプス)は、パートごとに設定できます。(P.99)

### ちょっと覚えておこう...

同じリバーブのタイプを選んでいても、音色によって効果が深く(強く)感じたり、浅く(弱く)感じたりする場合があります。なお、AUX IN【L/L+R】【R】から入力した音には効果はかかりません。

### トータルデプス...

設定範囲：0(効果なし)～127(最大)  
基本設定：64

デプス=深さ

# パートごとのリバーブのかかり具合(デプス)の調節

必要な場合は、さらにパートごとのかかり具合を設定することができます。

以下のパート別に、リバーブのかかり具合を設定することができます。

- 自動伴奏(P.65)のリズムパート ..... [RHYTHM]  
リズム
- 自動伴奏(P.65)のリズム以外のすべてのパート ..... [ACMP]  
アカンパニメント
- [LEFT VOICE]で選ばれている音色 ..... [LEFT]  
レフト ボイス
- [RIGHT1 VOICE]で選ばれている音色 ..... [RIGHT1]  
ライト ボイス
- [RIGHT2 VOICE]で選ばれている音色 ..... [RIGHT2]  
ライト ボイス

## 操作

1 ページ PAGE(ページ)【◀】【▶】で、リバーブの詳細設定画面2ページめのリバーブデプス(REVERB DEPTH)画面を表示させます。



2 [RHYTHM][ACMP][LEFT][RIGHT1][RIGHT2]でパートを選び、【ダイヤル】や【-/+】を使って設定します。

[RHYTHM][ACMP][LEFT][RIGHT1][RIGHT2]をそれぞれ押しても、数値を変更することができます。複数のパートを同時に選ぶこともできます。数値が大きいほど効果は深くかかります。【-/+】を同時に押すとそれぞれのパートごとの基本設定値に戻ります。



### パートごとのリバーブデプス...

設定範囲：各パートとも0(効果なし)～127(最大)

基本設定：RHYTHM、ACMPは64、LEFT、RIGHT1、RIGHT2は音色ごと

### 音色ごとのリバーブデプスの自動設定

音色を選ぶと、その音色に合ったリバーブデプスも自動的に設定されます。ファンクション(FUNCTION)のボイスセッティング(VOICE SETTING)(P.153)で、自動的に設定されないようにもできます。

実際のリバーブデプスは、各パートのリバーブデプスとトータルデプスを総合したものになります。したがって、どちらかの設定が"0(効果なし)"になっている場合は、もう一つの設定が"127"になっていたとしても効果はかかりません。

# 広がりをつける効果(コーラス: CHORUS)の使い方

音に広がり感をつける音色効果を、コーラス(CHORUS)と言います。CVPでは、いろいろなタイプのコーラスを好みの深さ(効果のかかり具合)で手弾き音に設定し、演奏することができます。

## コーラスのかけ方

### 操作

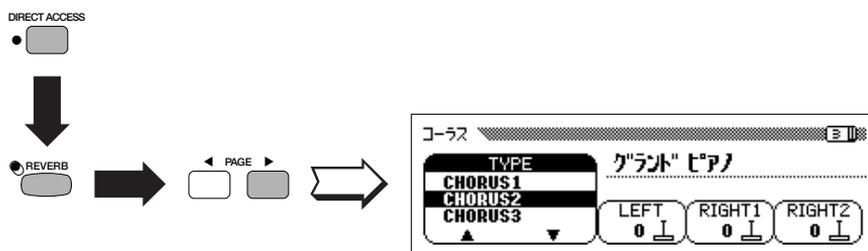
パネル上にコーラスのボタンはありませんが、コーラス効果は、内部的に常時<sup>オン</sup>ONになっています。コーラスの詳細設定画面(次項参照)で、コーラスタイプを選んだり、コーラスのかかり具合を調節することができます。

現在演奏中の音色パートのコーラスデプスを0にすると(P.101)コーラスを<sup>オフ</sup>OFFしたことになります。

## コーラスのタイプの選び方とパートごとのコーラスのかかり具合の調節のしかた

### 操作

- 1 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】を押して、【REVERB(リバーブ)】を押し、リバーブの詳細設定画面を表示させます。
- 2 PAGE(ページ)【▶】で3ページめを表示させます。  
⇒コーラス(CHORUS)画面が表示されます。



コーラスの詳細設定画面での設定内容は、曲データや自動伴奏の再生音には無効です。

コーラス画面表示中に、<sup>ページ</sup>PAGE(ページ)【◀】【▶】を使って、リバーブ(P.98)やエフェクト(P.102)の詳細設定画面を表示させることができます。

- 3 <sup>タイプ</sup> [TYPE] を押してコーラスのタイプを選びます。  
<sup>タイプ</sup> [TYPE]が反転していると、【ダイアル】や【-/+】でも選べます。コーラスは9種類あります。コーラスのタイプについて詳しくは、「データリスト」"エフェクトタイプ一覧"をご覧ください。



- 4 <sup>レフト</sup> [LEFT]または<sup>ライト</sup> [RIGHT1]、<sup>ライト</sup> [RIGHT2]を押して表示が反転したあと、【ダイアル】や【-/+】を使って、各音色パートごとのコーラスのかかり具合(デプス)を設定します。

<sup>レフト</sup> [LEFT]または<sup>ライト</sup> [RIGHT1]、<sup>ライト</sup> [RIGHT2]を押しても設定できます。複数のパートを同時に選ぶこともできます。数値が大きいほど効果は深くかかります。【-/+】を同時に押すと現在選ばれている音色の基本設定値に戻ります。



<sup>エグジット</sup> 【EXIT(戻る)】を押すと、基本画面に戻ります。

#### コーラスのタイプ...

設定範囲：エフェクトタイプ一覧を参照

基本設定：そのとき選ばれている伴奏スタイルに設定されているタイプが自動的に選ばれます。

コーラスのタイプはどの音色パートでも共通です。音色パートごとに異なるタイプのコーラスを設定することはできません。

コーラスのかかり具合(デプス)は、音色パートごとに設定できます。

#### ちょっと覚えておこう...

同じコーラスのタイプを選んでいても、音色によって効果が深く(強)感じたり、浅く(弱)感じたりする場合があります。

#### コーラスデプス...

設定範囲：0(効果なし)~127(最大)

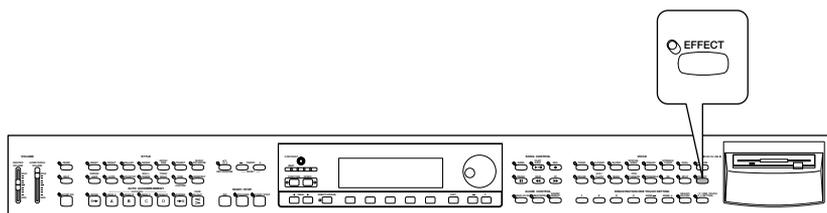
基本設定：音色ごと

#### 音色ごとのコーラスデプスの自動設定...

音色を選ぶと、その音色に合ったコーラスデプスも自動的に設定されます。ファンクション(FUNCTION)のボイスセッティング(VOICE SETTING)(P.153)で、自動的に設定されないようにもできます。

# その他の効果(エフェクト : EFFECT)の使い方

CVPには、リバーブ(P.97)やコーラス(P.100)の他にも、特殊な効果を出すいろいろなタイプのエフェクトが用意され、手弾き音に設定して弾くことができます。各エフェクトは好みの深さ(効果のかけ具合)でかけることができます。



## エフェクトのかけ方

### 操作

- 1 【EFFECT(エフェクト)】を押してエフェクト機能を<sup>オン</sup>にします。  
はじめから<sup>オン</sup>になっている音色もあります。  
⇒ランプが点灯し、鍵盤で演奏する音にエフェクトがかかります。

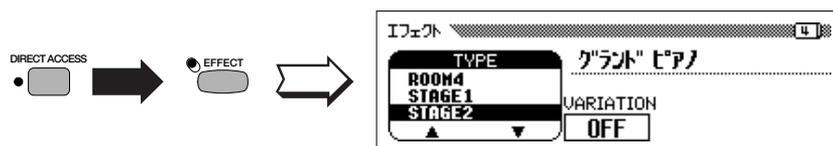


【EFFECT(エフェクト)】を押してランプを消すと、エフェクトは<sup>オフ</sup>になります。

## エフェクトのタイプの選び方と各種の設定のしかた

### 操作

- 1 【EFFECT(エフェクト)】を押してエフェクト機能を<sup>オン</sup>にします。
- 2 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】を押して、【EFFECT(エフェクト)】を押し、エフェクトの詳細設定画面を表示させます。  
⇒エフェクト(EFFECT)画面が表示されます。



エフェクトデプス(EFFECT DEPTH)画面が表示された場合は、PAGE(ページ)【◀】を押し、エフェクト(EFFECT)画面を表示させてください。

エフェクトの<sup>オン/オフ</sup>...  
基本設定：音色ごとの設定

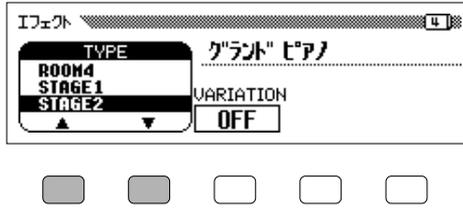
エフェクトボタンが<sup>オン</sup>にならない場合は、エフェクトデプス(P.103)で、エフェクトのかけ具合が0になっていないかを確認してください。

エフェクトが使われている曲データや自動伴奏を再生すると、パネルのエフェクトボタンは<sup>オフ</sup>になる場合があります。ここで、パネルのエフェクトボタンを<sup>オン</sup>にすると手弾き音にエフェクトがかかりますが、曲データや自動伴奏に設定されていたエフェクトがからなくなる場合があります。

### 3

<sup>タイプ</sup>  
[TYPE] を押してエフェクトのタイプを選びます。

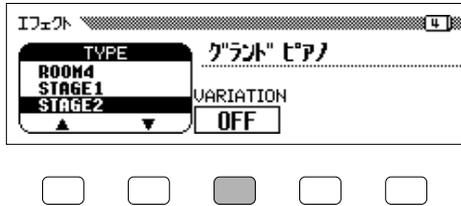
<sup>タイプ</sup>  
[TYPE]が反転していると、【ダイアル】や【-/+】も使えます。エフェクトは45タイプあります。エフェクトのタイプについて詳しくは、「データリスト」"エフェクトタイプ一覧"をご覧ください。



### 4

<sup>バリエーション</sup>  
[VARIATION]を押して、バリエーションの<sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFFを切り替えます。

⇒ [ON]にすると、現在選ばれているエフェクトの表情が少し変わります。

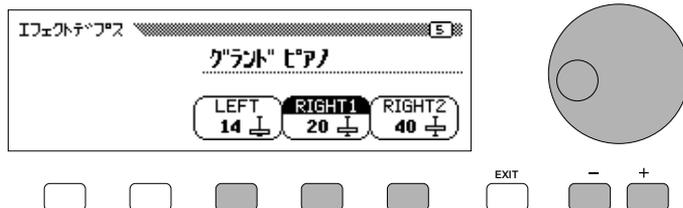


### 5

<sup>ページ</sup>  
PAGE(ページ)【◀】【▶】で、エフェクトデプス(EFFECT DEPTH)画面を表示させ、エフェクトのかかり具合(デプス)を設定します。

⇒ <sup>レフト</sup>[LEFT]または<sup>ライト</sup>[RIGHT1]、<sup>ライト</sup>[RIGHT2]を押して表示を反転させ、【ダイアル】や【-/+】を使って、各音色パートごとのデプスを設定します。

<sup>レフト</sup>[LEFT]または<sup>ライト</sup>[RIGHT1]、<sup>ライト</sup>[RIGHT2]を押しても設定できます。数値が大きいほど効果は深くかかります。【-/+】を同時に押すと現在選ばれている音色の基本設定値に戻ります。



#### エフェクトのタイプ...

設定範囲：エフェクトタイプ一覧を参照  
基本設定：音色ごと

#### 音色ごとのエフェクトのタイプの自動設定...

音色を選ぶと、その音色に合ったエフェクトのタイプも自動的に設定されます。ファンクション(FUNCTION)のボイスセッティング(VOICE SETTING)(P.153)で、自動的に設定されないようにもできます。

<sup>タイプ</sup> [TYPE] か、<sup>タイプ</sup> [TYPE]が反転しているときに【-/+】を同時に押すと、エフェクトタイプとバリエーションの設定(下記参照)は、現在の音色の基本設定になります。

エフェクトのタイプはどの音色パートでも共通です。音色パートごとに異なるタイプのエフェクトを設定することはできません。

エフェクトのかかり具合(デプス)は、音色パートごとに設定できます。

#### ちょっと覚えておこう...

同じエフェクトのタイプを選んでいても、音色によって効果が深く(強)感じたり、浅く(弱)感じたりする場合があります。

#### デュアルやスプリットを使用している場合...

デュアルやスプリットで、異なる2~3タイプの音色を選んでいる場合には、最適なエフェクトタイプとエフェクトデプス(P.103)が自動的に選ばれます。

#### バリエーション...

設定範囲：OFF、<sup>オン</sup>ON  
基本設定：音色ごと

#### 音色ごとのエフェクトのバリエーションの自動設定...

音色を選ぶと、その音色に合ったエフェクトのバリエーションも自動的に設定されます。ファンクション(FUNCTION)のボイスセッティング(VOICE SETTING)(P.153)で、自動的に設定されないようにもできます。

#### エフェクトデプス...

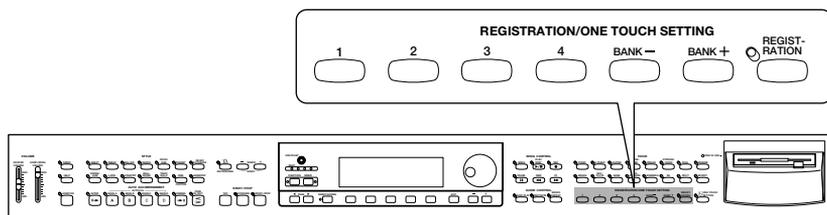
設定範囲：0(効果なし)~127(最大)  
基本設定：音色ごと

#### 音色ごとのエフェクトデプスの自動設定...

音色を選ぶと、その音色に合ったエフェクトデプスも自動的に設定されません。ファンクション(FUNCTION)のボイスセッティング(VOICE SETTING)(P.153)で、自動的に設定されないようにもできます。

# 第6章 パネル状態の登録 (レジストレーション) REGISTRATION

現在のパネル上の設定状態を、そのままボタンに登録しておき、好きな時に呼び出すことができます。20種類(5バンク×4メモリー)の設定状態を登録することができます。また、登録した内容は、フロッピーディスクに保存し、必要なときにCVPに読み込んで使うことができます。



## パネル状態の登録方法

- 1 音色や伴奏スタイルなどを選び、パネルの設定状態を作ります。  
レジストレーション機能によって登録できる内容は、別冊「データリスト」の"設定値一覧"をご覧ください。
- 2 BANK(バンク)【-】【+】を押して、【A】～【E】の5つのレジストレーションバンクの中からどれか1つを選びます。  
⇒基本画面の左上にバンクが表示されます。



- 3 【REGISTRATION(レジストレーション)】を押したまま、【1】～【4】の1つを押して登録します。  
⇒設定内容が登録されます。押したボタンに以前に登録されていた設定内容は消えます。また、登録されたレジストレーション番号(バンク/ボタンの番号)が、基本画面の左上に表示されます。たとえば、操作の2でバンクのAを選んで、【1】のボタンに登録した場合は、次のようにRマークの横に"A-1(Aバンクの1)"と表示されます。



レジストレーションバンク...  
設定範囲：A～E  
基本設定：A

レジストレーション登録ボタン...  
設定範囲：A-1～E-4

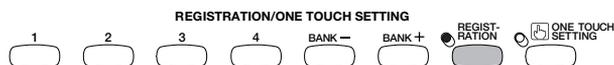
工場出荷時には、あらかじめプログラムされた設定が各バンク/ボタンに入っています。

レジストレーション内容のバックアップ(P.169)の基本設定はONになっていますので、電源をOFFにしたあとも保持されます。さらに、1つ1つのレジストレーションデータや、20種類のレジストレーションデータを1セットにして、フロッピーディスクに保存しておき、必要なときに読み込んで使用することができます。(P.156)

## 登録したパネル状態の呼び出し方法

- 1 【REGISTRATION(レジストレーション)】を押してレジストレーション機能を<sup>オン</sup>ONにします。

⇒ランプが点灯します。



- 2 BANK(バンク)【-】【+】を押して、呼び出したいパネル状態が登録されているバンクを選びます。

⇒基本画面の左上にバンクが表示されます。

- 3 目的の【1】～【4】を押すと、登録されているパネル状態が呼び出されます。

⇒呼び出されたレジストレーション番号(バンク/ボタンの番号)がLCD画面の左上に表示されます。

呼び出したあとにパネルのボタンや設定を変更すると、レジストレーション番号の右横に鉛筆マークが表示され、パネル状態が呼び出したレジストレーションの設定から変更されたことを示します。



## パネル状態の固定：レジストレーションフリーズの使い方

登録したパネル状態を呼び出すときに、レジストレーションフリーズ機能を<sup>オン</sup>ONにしておくと、レジストレーション[フリーズ](REGISTRATION[FREEZE])画面で指定した項目の内容を、元のままに固定しておくことができます。この機能により、自動伴奏を使った演奏中に別のパネル状態を呼び出しても、突然伴奏スタイルが変更されたり音量が変わったりなど、しないようにすることができます。

以下の項目を指定できます。

- VOICE SETTING ボイス セッティング
- REVERB/EFFECT リバーブ エフェクト
- TUNE チューン
- PEDAL ペダル
- ACMP SETTING アコンパニメント セッティング

各フリーズ項目の内容は、別冊「データリスト」の"設定値一覧"をご覧ください。

別のバンクに切り替えても、その時点で別のパネル状態が呼び出されることはありません。操作3で【1】～【4】を押したときだけ、別のパネル状態が呼び出されます。

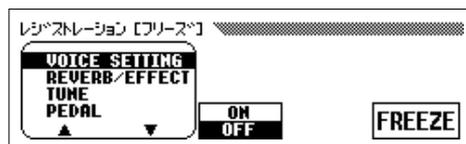
ファンクション(FUNCTION)のペダル(PEDAL)設定で、<sup>レジストレーション</sup>レフトペダル機能(P.154)を[REGISTRATION]に設定しておく、左ペダルを踏むごとに、次のレジストレーション番号に登録されているパネル状態を呼び出すことができます。ただしこの場合は、レジストレーションに設定されているレフトペダル機能は呼び出されません。

**パネル状態を基本状態に戻すヒント...**  
レジストレーション機能を使って、<sup>レジスト</sup>[REGIST A-1]にパネルの基本状態=初めて電源を入れたときの状態を登録しておく、<sup>レジスト</sup>[REGIST A-1]を呼び出せば、パネルの基本状態に戻すことができますので、便利です。

## フリーズ項目の選び方

- 1 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】を押して、【REGISTRATION(レジストレーション)】を押すと、レジストレーション[フリーズ](REGISTRATION[FREEZE])画面が表示されます。

⇒フリーズが<sup>オン</sup>ONの項目名には"\*"が表示され、[<sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFF]表示は<sup>オン</sup>ONが反転します。



- 2 を押して項目を選び、<sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFFを押して、フリーズする(<sup>オン</sup>ONが反転)フリーズしない(<sup>オフ</sup>OFFが反転)を設定します。

【ダイヤル】や【-/+】でも項目を選べます。

## フリーズ機能の<sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFF

フリーズ機能の<sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFFは、レジストレーション[フリーズ](REGISTRATION[FREEZE])画面で一番右のLCDボタンを押して決めます。[FREEZE]が反転していると、フリーズ機能は<sup>オン</sup>ONになります。

<sup>エグジット</sup>【EXIT】を押すと、基本画面に戻ります。

### フリーズ項目の設定...

設定範囲：<sup>オン</sup>ON、<sup>オフ</sup>OFF

基本設定：<sup>アランバニメントセッティング</sup>ACMP SETTINGがフリーズ<sup>オン</sup>ON(他の項目は<sup>オフ</sup>OFF)

バックアップの基本設定：<sup>オン</sup>ON

### フリーズ...

設定範囲：<sup>オン</sup>ON、<sup>オフ</sup>OFF

基本設定：<sup>オフ</sup>OFF

バックアップの基本設定：<sup>オン</sup>ON

ファンクション(FUNCTION)のペダル(PEDAL)設定で、<sup>レフトペダル機能</sup>レフトペダル機能(P.154)を[REG.FREEZE]に設定しておく<sup>と</sup>、<sup>左ペダルを踏むごとに</sup>左ペダルを踏むごとに、<sup>フリーズ</sup>フリーズの<sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFFができます。

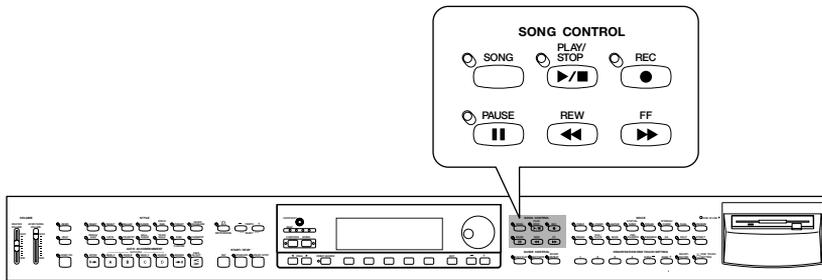
# 第7章 曲の録音/再生

## SONG CONTROL

ここで掲載するLCD画面のイラストはすべて操作説明のためのものです。曲名などは、実際にご使用になるディスクによって異なります。

### 曲の再生

CVP-201では、曲の録音機能(P.124)を使って録音した自分の演奏や、「ピアノアンサンブル」など市販のミュージックデータのいろいろなジャンルの音楽を再生したり、再生している音楽と一っしょに演奏することができます。また、あるパートの再生だけを消してそのパートを練習したり、ガイド機能(P.119)やリピート機能(P.114)を使って練習するなど、いろいろな使い方ができます。さらに、「歌楽」(P.191)などの歌詞データの入ったミュージックデータを再生する場合には、LCD画面に歌詞を表示することもできます。



#### ミュージックデータ「ピアノアンサンブル」について

市販の「ピアノアンサンブル」は、1曲につき3種類のファイルがディスクの中に入っています。CVP-201では、すべてのファイルを再生することができますが、CVP-201で再生する最適のファイルは、「XGファイル(SMF / XGフォーマット)」です。付属の「ミュージックソフト・コレクション」には、「ピアノアンサンブル」のXGファイルが入っています。ファイルフォーマットについて詳しくは、P.188をご覧ください。

「ピアノアンサンブル」の3種類のファイルの内訳とCVP-109/107/105での再生順序

- 1曲め 曲A XGファイル(SMF / XGフォーマット)
- 2曲め 曲B XGファイル(SMF / XGフォーマット)
- 3曲め 曲A DOCファイル(ESEQ / DOCフォーマット)
- 4曲め 曲B DOCファイル(ESEQ / DOCフォーマット)
- 5曲め 曲A サイレントアンサンブルピアノ用ファイル(ESEQ / XGフォーマット)
- 6曲め 曲B サイレントアンサンブルピアノ用ファイル(ESEQ / XGフォーマット)

市販の「ピアノアンサンブル」を再生するときは、1曲めと2曲め(3曲入りの場合は3曲めまで)をお使いください。なお、サイレントアンサンブルピアノ用ファイルは「サイレントアンサンブルピアノ」用のフリーテンポのミュージックデータですので、テンポ表示が「----」となり、ビートランプは点滅しません。

クラビノーバでは、自分で演奏を録音した演奏データや、市販のミュージックデータなどの曲データを指して「ソング」と呼びます。

#### いろいろな曲の再生...

「ピアノアンサンブル」や自分で録音した曲以外にも、「XGソングデータライブラリー」や市販のGMデータなどのディスクを同様に再生することができます。「各種の曲データの再生」(P.118)をご参照ください。また、P.189に「CVP-201で再生できる別売ミュージックデータのご紹介」が掲載されていますので、参考にしてください。

ディスクの取り扱いについて、「フロッピーディスクの取り扱いについて」(P.10)をお読みください。

再生される曲データは、通常MIDI【OUT】から出力されませんが、ファンクション(FUNCTION)の[MIDI4]画面(P.167)で、出力するようにもできます。

市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、個人で楽しむ範囲でご利用ください。

#### フリーテンポのミュージックデータとは...

ヤマハ「ピアノプレーヤ」や「サイレントアンサンブルピアノ」用のミュージックデータで、曲のテンポに関係なく一定のテンポが設定されているミュージックデータのことで、これらをCVP-201で再生した場合、テンポ表示が「----」となり、ビートランプは点滅しません。また、小節番号は実際の曲の小節番号とは一致せず、単に曲の進行を示す目安となります。「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」「ピアノアンサンブル」のサイレントアンサンブルピアノ用ファイルなどがこれに該当します。また、他のミュージックデータの中にも一部該当するものがあります。

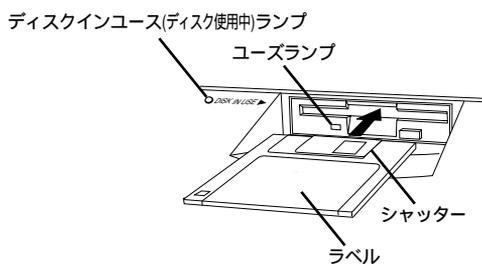
# 基本的な再生方法

## 操作

- 1 付属の「ミュージックソフト・コレクション」のディスクや録音した演奏データが入っているディスクを、シャッター側を奥に、ラベル面を上にして、ディスクドライブに差し込みます。

⇒CVP-201がディスクを読み込んで認識するまで、DISK IN USE(ディスクインユース)ランプが点灯し、認識されると【SONG(ソング)】のランプが点灯し、ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面(ソングプレイの1ページめ)が表示されます。

すでにディスクが差し込まれていて、【SONG(ソング)】のランプが点灯していない場合は、【SONG(ソング)】を押してください。ここで、ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面が表示されていないときは、PAGE(ページ)【◀】で1ページを出してください。



- 2 **ソング**【SONG】を押すか、【ダイヤル】や【-/+】を使って、再生させたい曲番号を選びます。

⇒選ばれた曲の番号と曲名、ファイルの種類を表すファイルアイコン、現在のテンポなどが表示されます。



曲データの入ったディスクをディスクドライブに差し込むと、自動的に【SONG(ソング)】がONになりますが、ディスクに関するファンクションの画面や、カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面のときは、ディスクを差し込んでも、自動的に【SONG(ソング)】ONにはなりません。それぞれの機能を終了してから(P.82、149)【SONG(ソング)】を押してください。

ここで【-】を押して**オール**【ALL】を選ぶと、すべての曲を順番に再生することができます。もう一度【-】を押して**ランダム**【RANDOM】を選ぶと、すべての曲をランダム(順不同)に再生することができます。(P.114)

曲番号は、曲データの無い番号も含めて1~99まで表示されます。100番以上の曲は再生できません。

曲データの無い曲番号では曲名は表示されません。

## ファイルアイコン

ファイルの種類を示すファイルアイコン表示には、次の4種類があります。

[  (エックスジー) ] / [  ] : ..... エスエムエフ エックスジー SMF / XG フォーマットのファイルのとき。

[  (ディスクオーケストラ) ] / [  ] : ..... イーシーク ディーオーシー ESEQ / DOC フォーマットのファイルのとき。

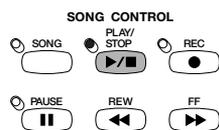
[  (ピアノソフト) ] / [  ] : ..... ピアノプレーヤ、サイレントアンサンブルピアノ用ファイルのとき。

[  (シーブイピー) ] / [  ] : ..... CVP-201で録音した曲データのとき。

### 3 【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して、再生をスタートします。

または、【START/STOP(スタート/ストップ)】を押してもスタートします。

⇒1曲が最後まで再生されると自動的にストップします。再生中は現在の小節番号とテンポがLCD画面に表示されます。



テンポはTEMPO(テンポ)【-/+(P.43,110)】で調節します。

ボリュームは【アカンパニメント ACMP / ソング ボリューム SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】(P.41,116)で調節します。

再生の途中でストップするときは、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】をもう一度押します。または、【START/STOP(スタート/ストップ)】を押してもストップします。

### 4 ディスクを使い終わったら、ディスクドライブのイジェクトボタンを押してディスクを取り出します。

⇒LCD画面が基本画面に戻ります。

市販のGMデータや、CVP-201(109/107/105/103/98/96/94/92/CLP-870)以外のCVP各モデルで録音した曲データのファイルの場合は、アイコンは出ません。

サイレントアンサンブルピアノ(音源内蔵モデル)のSMFフォーマットで録音したデータの場合は[  (ピアノソフト) ] / [  ]アイコンは出ません。

【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押してから、実際に曲がスタートするまで少し時間がかかる場合があります。

リズムの入っていない曲などで、ビートランプが点滅しないものもあります。

曲データによっては、LCD画面に表示される小節番号が楽譜の小節番号からずれることがあります。

#### 再生音色の選択...

1/RIGHT & 2/LEFTパートの再生音色は、ソングプレイ[L&Rボイス](SONG PLAY[L&R VOICE])画面(P.113)で変更することもできます。

#### 鍵盤ガイドランプを消したいとき...

再生中、1/RIGHT、2/LEFTパートの再生音に合わせて、鍵盤ガイドランプが付きませんが、ソングプレイ[ガイドモード](SONG PLAY[GUIDE MODE])画面(P.123)でランプを消すことができます。

#### 歌詞表示を消したいとき...

「からく 歌楽」(P.191)などの歌詞データの入ったミュージックデータを再生するとLCD画面に歌詞が表示されます。歌詞を表示したくないときは、ソングプレイ[ガイドモード](SONG PLAY[GUIDE MODE])画面(P.123)で歌詞表示を消すことができます。

#### ペダルによるスタート/ストップ...

ファンクション(FUNCTION)のレフトペダル(P.154)で【START/STOP】を選んでおくと、レフトペダルが【START/STOP(スタート/ストップ)】と同様に機能します。

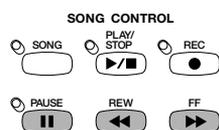
#### トラックごとのボリューム調節...

ミキサー(MIXER)画面(P.116)でトラックごとのボリューム調節ができます。

CVP-109/107/105/103/201で録音した曲の再生の場合は、【アカンパニメント オン ACMP ON(自動伴奏オン)】をONにすることができます。

 DISK IN USE(ディスク使用中)ランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。

## 再生に関するその他のボタン



### 一時停止

曲の再生中に【PAUSE(一時停止)】を押すと、一時的にストップします。もう一度【PAUSE(一時停止)】を押すか、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押すと、停止していた位置から再スタートします。

### 巻き戻しと早送り

【REW(巻き戻し)】と【FF(早送り)】を使って、曲の再生位置を戻したり進めたりすることができます。

### 再生の停止中や一時停止中

【REW(巻き戻し)】や【FF(早送り)】を押すごとに1小節ずつ戻したり進めたりすることができます。どちらのボタンも押し続けると連続的に移動させることができます。

### 再生中

【REW(巻き戻し)】や【FF(早送り)】を押し続けると、すばやく曲の位置を戻したり進めたりすることができます。この場合【REW(巻き戻し)】を押している間は、音が鳴りません。

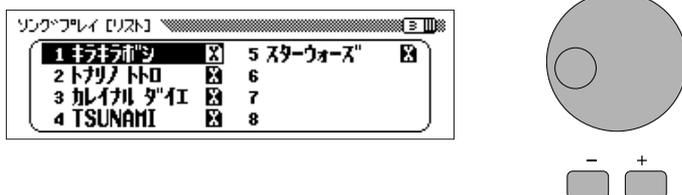
## テンポ調節

曲の再生テンポは、いつでも変更することができます。また、TEMPO(テンポ)【-/+]を同時に押すと、選んだ曲の基本設定テンポに戻すことができます。通常、テンポは数字で表示されますが、フリーテンポのミュージックデータ(P.107)の場合は[---]が表示され、その場合にはLCD画面上に表示されている小節番号は、小節番号ではなく曲の進行を示す目安となります。テンポ変更をした場合は、基本設定テンポをもとにした増減具合を、「-99~+99」以内の範囲(ミュージックデータによって増減幅は異なります)でパーセント(%)の値を表示します。

【REW(巻き戻し)】を使うと、音色、テンポ、ボリュームが変わることがあります。

## その他の選曲方法

ページ PAGE(ページ)【◀】【▶】で、3ページめソングプレイ[リスト](SONG PLAY[LIST])画面を開くと、ディスクに入っている曲名を一覧表示させることができます。再生させたい曲を【ダイアル】や【-/+】を使って簡単に選ぶことができます。ディスクに9曲以上入っている場合、9曲め以降を選ぶと画面が切り替わって次の8曲の曲名が表示されます。



曲名表示のところにも何も表示されない場合は、この曲番号には、曲データがないことを示しています。

## 消音(パートキャンセル)再生

ピアノの右手パートだけ、またはあるトラックだけを消して、消音再生ができます。たとえば、右手や左手のパートを消音して、そのパートの手弾き練習をすることができます。

## パートごとの消音

### 操作

- 再生させたい曲番号を選びます。(P.108)
- ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面で、**[1/RIGHT(=右手)]**、**[2/LEFT(=左手)]**、**[ORCH(=伴奏)]**を押して消音するパートを決めます。パートのボタンが反転していると、そのパートは再生されます(再生ON)。反転していないと、そのパートは再生されません(再生OFF)。



- 再生をスタートさせます。(P.109)  
消音したパートを鍵盤で演奏してください。

手弾き音と伴奏音のボリュームバランスは、**【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】**で調節します。LCD画面の**【KBD VOL】**も使えます。(P.42)

再生をストップするときは、**【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】**を押します。**【START/STOP(スタート/ストップ)】**も同様に使えます。

演奏中でもパートの再生ON/OFFを切り替えることができます。

**[1/RIGHT]**と**[2/LEFT]**ボタンへのトラックの割り当てを、6ページのソングプレイ[L&Rボイス](SONG PLAY[L&R VOICE])画面(P.113)で変更することができます。

データのないパート(割り当てられているトラック(P.113)にデータがない場合や、2/LEFTにトラックOFFが割り当てられている(P.113)場合はONになりません。

また、「ピアノソフト」と、「ピアノアンサンブル」のDOCファイル、サイレントアンサンブルピアノ用ファイルのパート表示では、データのないパートのボタン表示は出ません。

## トラック別の消音

通常、<sup>オーケストラ</sup> [ORCH(=伴奏)]を押すことにより、伴奏パート(TRACK3~16)、または1/RIGHT、<sup>ライト</sup> 2/LEFT以外のすべてのパートの再生が一度にON/OFFされます。2ページのソングプレイ[トラックプレイ](SONG PLAY[TRACK])画面を使って、これらのパートの再生をトラック別にON/OFFすることもできます。

### 操作

- 再生させたい曲番号を選びます。(P.108)
- PAGE(ページ)【◀】【▶】で2ページのソングプレイ[トラックプレイ](SONG PLAY[TRACK PLAY])画面を開きます。  
 ⇨データのあるトラックが<sup>トラック</sup> [TRACK] ◀ ▶ の上に表示されます。再生できるトラックは番号が四角い枠で囲まれた状態になっています。データの無いトラックは表示されません。



CVP-201 (109/107/105/103/98/96/94/92/CLP-870)で録音したものではないSMF(スタンダードMIDIファイルデータ)(P.188)の場合は、トラックにデータが含まれているかいないかに関らず、すべてのトラックの番号が表示されます。

- <sup>トラック</sup> [TRACK] ◀ ▶ や、【ダイヤル】、【-/+]を使ってトラックを選びます。  
 ⇨選ばれているトラックには下線が表示されます。
- 選ばれているトラックについて、一番右側のLCDボタンを押して<sup>プレイ</sup> [PLAY(=再生)]、または<sup>オフ</sup> [OFF]を選ぶことができます。  
 ⇨再生を<sup>オフ</sup>にしたトラックは、トラック表示の枠囲いが消え、番号だけの表示となります。現在選ばれているトラックの再生時の音色が<sup>プレイ</sup> [PLAY/<sup>オフ</sup> OFF]の上に表示されます。



<sup>ソロ</sup> [SOLO]を押して表示を反転させると、選んだトラックだけを再生することができます。もう一度<sup>ソロ</sup> [SOLO]を押すと解除されます。

- 再生をスタートさせます。(P.109)  
 消音したパートを鍵盤で演奏してください。  
 再生をストップするときは、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押します。  
 【START/STOP(スタート/ストップ)】も同様に使えます。

## 消音再生に関するその他の機能

### [1/RIGHT]、[2/LEFT]へのトラック割り当て

特定のトラックを、ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面の[1/RIGHT]、[2/LEFT]にそれぞれ割り当て、[1/RIGHT]、[2/LEFT]ボタンで再生をON/OFFすることができます。[2/LEFT]にはTRACK-(OFF)も割り当てることができます。同じトラックを両方のパートに割り当てることはできません。

### 操作

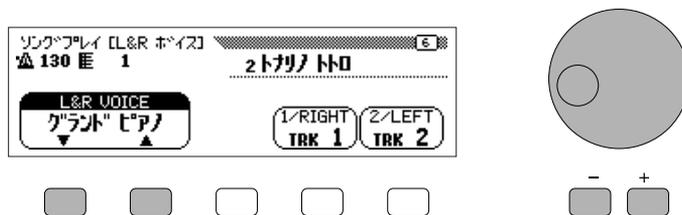
- 1 ページ PAGE(ページ)【◀】【▶】で6ページのソングプレイ[L&Rボイス](SONG PLAY[L&R VOICE])画面を開きます。
- 2 [1/RIGHT]、[2/LEFT]を押して表示を反転させたあと、【ダイヤル】や【-/+】でトラックを割り当てます。[1/RIGHT]、[2/LEFT]を押してもトラックが選べます。



### 1/RIGHT & 2/LEFT パートの再生音色指定

ソングプレイ[L&Rボイス](SONG PLAY[L&R VOICE])画面で1/RIGHTと2/LEFTパートの再生音色を指定することができます。

- 1 ソングプレイ[L&Rボイス](SONG PLAY[L&R VOICE])画面を開きます。(P.113)
- 2 [L&R VOICE] を押して表示を反転させたあと、【ダイヤル】や【-/+】を使って選びます。[L&R VOICE] を押しても選べます。



「ピアノ アンサンブル」のDOCファイル、「ピアノソフト」は、トラックの割り当ては固定されていて変更できません。

曲途中の位置や再生中はトラックの割り当てはできません。

トラック割り当て...  
設定範囲：1～16([2/LEFT]はTRACK-(OFF)も)

基本設定：ファイルの種類によって異なります。

曲途中の位置や再生中は再生音色の指定はできません。

## その他の再生方法

1枚のフロッピーディスクに入っている曲データ全曲を連続で再生させたり、1曲を、続けて何度も再生させることができます。

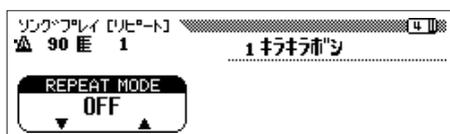
### 連続再生

基本的な再生手順2(P.108)で再生させたい曲番号を選ぶとき、【ダイヤル】や【-/+】を使って[ALL]を選ぶ(1曲めの1つ前)と、ディスクに入っているすべての曲が順番に連続再生されます。[RANDOM]を選ぶ(1曲めの2つ前)と、ディスクに入っているすべての曲がランダム(順不同)に連続再生されます。どちらの場合もストップするまで繰り返し再生されます。



### 繰り返し再生

4ページのソングプレイ[リピート](SONG PLAY[REPEAT])画面では、3種類の繰り返し再生の方法が選べます。1曲を繰り返したり、曲のある部分を繰り返し再生させることができます。難しいフレーズを繰り返して練習するときなどに便利です。



以下の繰り返し方法が準備されています。

- PHRASE(フレーズリピート).....「ピアノ アンサンブル」の楽譜に書いてあるフレーズ番号を指定して繰り返します。
- 1 SONG(1ソングリピート).....1曲を繰り返します。
- AB mode(ABリピート).....繰り返す範囲を自由に指定できます。
- OFF(リピート機能OFF).....リピートしません。

#### フレーズリピート(「ピアノアンサンブル」の XG ファイル/ DOC ファイル)

「ピアノ アンサンブル」の楽譜に書いてあるフレーズ番号を指定して、そのフレーズだけ繰り返して練習することができます。この機能を使いたいときは、XG ファイルが、DOCファイル(P.107)を使用してください。XG ファイルの中(1997年3月以前に発売になったもの)には、フレーズリピートが使用できないものがあります。その場合には、同じ曲のDOCファイルをお使いください。

#### 特定の曲からの連続再生...

ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面で[ALL]を選んだあと、3ページのソングプレイ[リスト](SONG PLAY[LIST])画面で曲を選ぶと、選んだ曲からすべての曲を順番に繰り返し再生させることができます。

リピート方法を選ぶと、ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面で[ALL]や[RANDOM]を選んでいたら、これらの再生機能は解除されます。

他の曲番号に切り替えると、リピートは「OFF(繰り返し機能OFF)」に戻ります。

モード = 種類、方式

- 1 <sup>リピートモード</sup> [REPEAT MODE] で <sup>フレーズ</sup> [PHRASE] を選びます。  
⇒ フレーズ番号を指定するための <sup>フレーズ</sup> [PHRASE] 表示が現れます。



- 2 <sup>フレーズ</sup> [PHRASE] を押して表示を反転させたあと、【ダイヤル】や【-/+] で <sup>フレーズ</sup> フレーズ番号を選びます。 <sup>フレーズ</sup> [PHRASE] を押しても選べます。

- 3 曲の再生をスタートすると、指定されたフレーズが、ストップするまで繰り返し再生されます。

### 1ソングリピート

現在選ばれている1曲を、繰り返し再生します。

- 1 <sup>リピートモード</sup> [REPEAT MODE] で <sup>ソング</sup> [1 SONG] を選びます。
- 2 曲の再生をスタートすると、現在選ばれている曲が、ストップするまで繰り返し再生されます。

### ABリピート

曲のある特定の範囲(A点とB点)を指定して、繰り返し練習することができます。

- 1 <sup>リピートモード</sup> [REPEAT MODE] で <sup>エービーモード</sup> [AB mode] を選びます。  
⇒ A点とB点を指定するための [A ] と [B] が現れます。



- 2 曲を再生させ、[A ] を一度だけ押すと、範囲の開始位置としてA点が指定されます。
- 3 続いて[B]を押すと、範囲の終了位置としてB点が指定され、A点からB点までの繰り返し再生がスタートします。

一度指定したA点からB点までの範囲は、別の曲や別のリピートモードに切り替えるまで保持されます。【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を使って、同じ範囲を何度でも繰り返し再生させることができます。

演奏中でもパートの <sup>オン</sup> ON / <sup>オフ</sup> OFF (P.111) を切り替えることができます。

ガイド機能(P.119)も同時に使えます。

フレーズリピートが開始されるときに、カウントが鳴ります。ただし、再生している曲が、フリーテンポのミュージック データ(P.107)の曲の場合は、カウントは入りません。

B点が選べない...

A点を選ばれていないと、B点は選べません。

A-Bリピートが開始されるときに、カウントが鳴ります。ただし、再生している曲がフリーテンポのミュージック データ(P.107)の曲の場合は、カウントは鳴りません。

指定したA点からB点までの範囲は、別の曲や別のリピート方法に切り替えると解除されます。

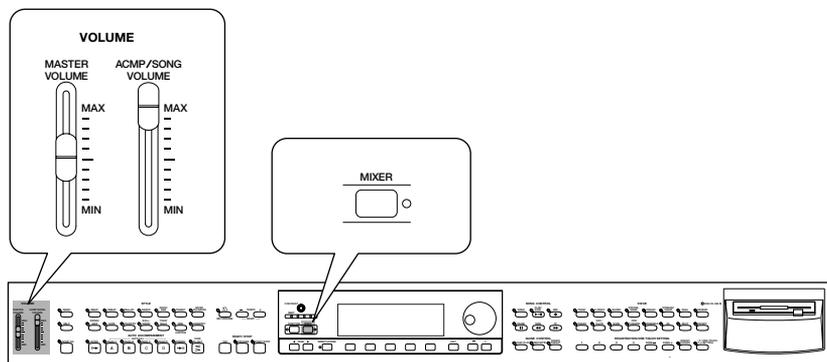
A点だけ指定した場合は、A点から曲の最後まで繰り返し再生となります。また、再生スタート前に[A ] を押すと曲の始まりをA点に指定することができます。この場合、リピート開始時のカウントは鳴りません。

指定範囲の解除...

A点からB点までの範囲が指定されているときに、[B]を押してOFFになるとB点が解除され、別のB点の指定ができます。

A点からB点までの範囲が指定されているときに、[A ] を押すとA点もB点も解除されます。同じ曲の中で、別のA点、B点の指定ができます。

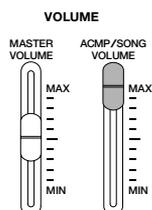
## ボリューム調節



### 曲全体のボリューム調節

アカソバニメント ソング ボリューム  
【ACMP / SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】を使って、曲全体の再生ボリュームを調節することができます。【SONG(ソング)】のランプが点灯した時点では、スライダの位置に関係なく、前の曲再生時に設定していたボリュームになります。その後、スライダを動かすと、動かした位置のボリュームになります。

CVP-109/107/105/103/201で録音した曲の再生中には、自動伴奏機能をONにすることができます。その場合、アカソバニメント ソング ボリューム【ACMP / SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】では、曲の再生ボリュームではなく、自動伴奏のボリューム調整ができます。



### 手弾きパートのボリューム調節

キーボード ボリューム  
ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面の[ KBD VOL ]で、手弾き音のボリュームを調節することができます。(P.42)

### トラック別のボリュームなどの調節

ミキサー機能を使うと、トラックごとの再生ボリュームなどを個別に調節することができます。

以下の項目の変更ができます。項目について詳しくは、各参照ページをご覧ください。

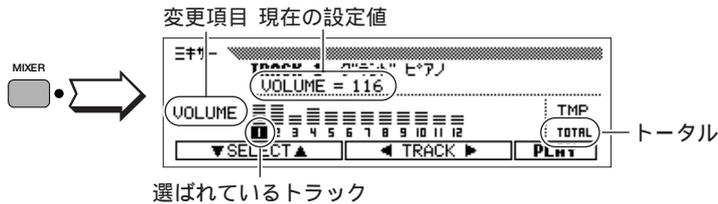
1～16の各トラックを選んでいる場合

- VOLUME(ボリューム)(P.41,116)
- VOICE(ボイス)(P.50)
- PAN(パン)(P.56)
- REVERB DEPTH(リバーブデプス)(P.98)
- CHORUS DEPTH(コーラスデプス)(P.100)
- EFFECT DEPTH(エフェクトデプス)(P.102)

トータル  
[TOTAL]を選んでいる場合

- TEMPO(テンポ)(P.43)
- REVERB DEPTH(トータルリバーブデプス)(P.98)
- REVERB TYPE(リバーブタイプ)(P.98)
- CHORUS TYPE(コーラスタイプ)(P.100)
- EFFECT TYPE(エフェクトタイプ)(P.102)

1 【SONG(ソング)】が<sup>オン</sup>のときに、【MIXER(ミキサー)】を押してミキサー(MIXER)画面を表示させます。



2 <sup>トラック</sup> [TRACK] ◀ ▶ を押して、設定を変更したいトラックを選びます。ここで、<sup>トータル</sup> [TOTAL]を選ぶと、トラックごとの設定変更でなく、曲全体の設定を変更することになります。

選択したトラックは、一番右側のLCDボタンを押して<sup>プレイ</sup> [PLAY(再生)]、<sup>オフ</sup> [OFF]、または<sup>ソロ</sup> [SOLO]を選ぶことができます。<sup>ソロ</sup> [SOLO]を選ぶと、選んだトラックだけを再生することができます。

3 <sup>セレクト</sup> [SELECT] を押して、設定を変更したい項目を選び、【ダイヤル】や【-/+]で設定値を変更します。

曲を再生しながら設定の変更をすることができますので、変更した効果の具合を確認しながら設定できます。

もう一度【MIXER(ミキサー)】を押すと、元の画面に戻ります。<sup>エグジット</sup> 【EXIT(戻る)】も同様に使えます。

CVP-109/107/105/103/201で録音した曲の再生中で、自動伴奏機能を<sup>オン</sup>にしている場合は、自動伴奏のボリューム調節用ミキサー画面(P.69)が表示されます。

ファイルの種類によって、「Fixed」<sup>フィックスド</sup>が表示され、変更できない項目がある場合もあります。

VOICE(ボイス)を選んだ場合、MIDIでの音色選択に使われる、<sup>プログラムチェンジナンバー</sup> Program Change Number [PRG#]、<sup>バンクセレクト</sup> Bank Select LSB [BLK]、<sup>バンクセレクト</sup> Bank Select MSB [BKM]も表示されます。

VOICE(ボイス)の変更は、ファイルの種類によって、1または2トラックだけできる場合もあります。

<sup>トータル</sup> [TOTAL]を選び、リバーブデプス(REVERB DEPTH)の設定を変更すると、その設定効果は手弾きの音にもかかります。

自動伴奏、リズム、ハーモニーのデータが録音されているトラックの音色も変更できます。

ボリューム設定範囲：0 ~ 127

別の曲を選択すると、すべての設定は選ばれた曲の基本設定値(または録音したときの値)に戻ります。

## 各種の曲データの再生

### 市販のミュージックデータのフォーマットについて

CVP-201では、付属の「ミュージックソフト・コレクション」に入っている「ピアノアンサンブル」や「<sup>からく</sup>歌楽」などのほかにも、下記のフォーマットのミュージックデータを再生することができます。

シーケンスフォーマット：<sup>エスエムエフ</sup>SMF(フォーマット0と1)、<sup>イーシーク</sup>ESEQ

音色配列フォーマット：<sup>ジーエム</sup>GMシステムレベル1、<sup>エックスジーディーオーシー</sup>XG、DOC

シーケンスフォーマット、音色配列フォーマットについての説明は、「データの互換性について」(P.187)をご覧ください。

CVP-201で再生できる別売ミュージックデータについて詳しくは、「CVP-201で再生できる別売ミュージックデータのご紹介」(P.189)をご覧ください。

CVP-201の内部音源は、再生データに応じて、ヤマハの<sup>エックスジー</sup>XGフォーマット(<sup>ジーエム</sup>GMシステムレベル1を含む)(P.188)、またはヤマハの<sup>ディーオーシー</sup>DOC音色配列(P.188)に自動的に切り替えて対応します。(ただし、パネル上で選ばれる音色配列は変わりません。)

### 他の楽器で録音された曲データ

クラビノーバCVP-109/107/105/103/98/96/94/92/89/79/69/59/87/85/83、CVP-75/65/55/70/50、CLP-705/870で録音された曲データをCVP-201で再生すると、ほぼ適切な音色で再生されるようになっていますが、ボリュームバランスなどに若干違いが出ます。ただし、CVP-70/50の自動伴奏(ABC)を使用して録音した曲データは、正しく再生されません。

ヤマハのピアノプレーヤ、サイレントアンサンブルピアノで録音された曲データも再生できます。

<sup>エックスエフ</sup>

XFについて...

<sup>エックスエフ</sup>

CVP-201では、XFファイルフォーマット(P.190)の歌詞データにも対応していますので、XF対応のミュージックデータ(P.190,191)の再生時には、画面に歌詞を表示させることができます。

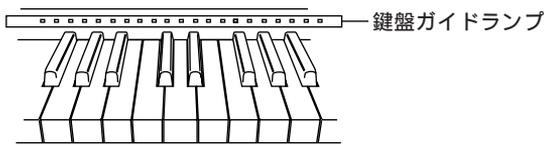
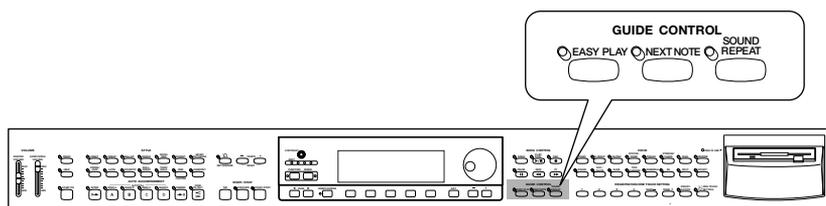
<sup>エスエムエフ</sup>

SMFフォーマット1で録音されたミュージックデータでは、歌詞表示の機能は使えません。

どのようなタイプの音楽データを再生する場合でも、CVP-201では、3.5インチ2DD(720KBフォーマット)、または3.5インチ2HD(1.44MBフォーマット)のフロッピーディスクだけ使用することができます。

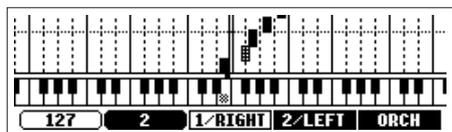
# 初心者向け練習方法 ガイドコントロール(GUIDE CONTROL)

CVP-201には、ミュージックデータを使って演奏の練習ができる、ガイド機能があります。"鍵盤ガイドランプ"とLCD画面に表示される"ピアノロール"によって、鍵盤を弾くタイミングや音符の長さ、押さえる鍵盤位置を示してくれます。さらに、正しい鍵盤を押さえるまで伴奏が待っていてくれますので、マイペースで練習することができます。



## ピアノロール

ピアノロールは、ガイド機能を使って曲の再生をスタートすると、LCD画面に現れます。弾く鍵盤位置に向かって、弾く音符の長さと同じ長さのバーが画面の上から降りてきます。バーが画面の下まで達したときが、鍵盤を弾くタイミングです。バーの長さ分鍵盤を押さえていると、正しい音符の長さ分鍵盤を弾いたことになります。



ガイド機能はデモ曲の「4. ガイドデモ GUIDE DEMO」再生中にも使えます。デモ曲「4. ガイドデモ GUIDE DEMO」再生中にガイドコントロールボタンの1つを押すと、メロディパートをガイドを使って演奏することができます。

**鍵盤ガイドランプを消したいとき...**  
ソングプレイ[ガイドモード](SONG PLAY[GUIDE MODE])画面で、鍵盤ガイドランプのON/OFFができます。(P.123)

**ピアノロールを表示させたくないとき...**  
5ページめのソングプレイ[ガイドモード](SONG PLAY[GUIDE MODE])の画面でON/OFFができます。(P.123)

## ガイドの種類

次の3種類のガイドが用意されています。最初は、イージープレイ(EASY PLAY) ネクストノート(NEXT NOTE) サウンドリピート(SOUND REPEAT)の順番で練習されることをおすすめします。

### 弾くタイミングの練習：イージープレイ(EASY PLAY)

イージープレイでは、弾くタイミングだけを練習します。鍵盤はどこを弾いても正しい音程でメロディが鳴ります。正しいタイミングで鍵盤を弾くと、メロディがスムーズに流れます。(伴奏は通常どおりに再生が進みます。)

### 弾く鍵盤位置の確認：ネクストノート(NEXT NOTE)

ネクストノートでは、ピアノロールや鍵盤ガイドランプを見ながら、弾く鍵盤位置を確認します。正しい鍵盤を弾くまで伴奏が待っていてくれますので、自分のペースで練習できます。鍵盤ガイドランプは、鍵盤を弾くタイミングがくると、点灯から点滅に変わります。

**お手本演奏を聞いて弾く：サウンドリピート(SOUND REPEAT)**サウンドリピートでは、短いフレーズのお手本演奏が再生されます。それを聞いて、強弱などをまねして練習します。基本設定では、正しく弾けるまでは、正しく弾けなかった部分だけのお手本演奏が繰り返されます。すべて正しく弾けると、自動的に次のフレーズのお手本演奏が鳴り始めます。

## ガイド機能を使った練習方法

[準備] ガイドに入る前に、ディスクドライブに正しくディスクが入っていることを確認し、ソングプレイ[メイン](SONGPLAY [MAIN])画面で、練習したい曲を選びます。さらに、練習するパートを消音(キャンセル)しておきます。(P.111)

**1** GUIDE CONTROL(ガイドコントロール)ボタンの1つ(【EASY PLAY(イージープレイ)】、【NEXT NOTE(ネクストノート)】または【SOUND REPEAT(サウンドリピート)】)を押して、ガイドの種類を選びます。

⇒ 押したボタンのランプが点灯します。



②。鍵盤ガイドランプが点滅しない...  
曲によっては、特別なガイド方式で、ランプの点灯しにくい曲もあります。

②。鍵盤ガイドランプやピアノロールの位置が1~2オクターブずれて表示される...

鍵盤ガイドランプの点灯とピアノロールの位置が、1~2オクターブ移調される場合があります。88鍵盤の外にある音符は、鍵盤ガイドランプやピアノロールでは表示されません。

ミュージック データ「CueTIME」(P.190)を使用する場合は、ネクストノート機能をお使いください。イージープレイやサウンドリピートは正しく機能しない場合があります。

お手本演奏のリピート回数...

5ページめのソングプレイ[ガイドモード](SONG PLAY[GUIDE MODE])の画面(P.122)で、お手本演奏のリピート回数を任意に設定すると、その回数だけお手本演奏が繰り返され、そのあと自動的に次のフレーズに移ります。

弾く練習を始める前に...

弾く練習を始める前に、弾くパートの消音(キャンセル)をせずに演奏を再生し、お手本演奏を聞きましょう。曲の全体像をつかんでおくと、このあとの練習もスムーズに進行します。

自動パートキャンセル...

練習するパートの消音をせずに、ガイドに入ったときは、自動的に1/RIGHTパート(2/LEFTパートにしかデータがない場合は2/LEFTパート)がガイドされますが、ガイドに入る前に、パートの消音をした場合は、その設定が曲を変更するまで保持されます。

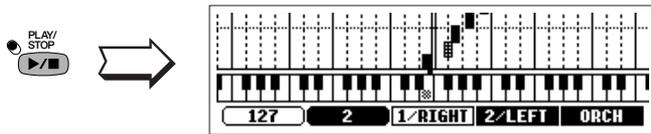
練習したいパートが[1/RIGHT]や[2/LEFT]ではない場合は「[1/RIGHT]、[2/LEFT]ボタンへのトラックの割り当て」(P.113)で、練習したいパートのトラックを[1/RIGHT]や[2/LEFT]に割り当ててください。

②。GUIDE CONTROL(ガイドコントロール)ボタンがONできない...  
GUIDE CONTROL(ガイドコントロール)ボタンは、【SONG(ソング)】のランプが点灯中か、デモ曲「4.GUIDE DEMO」が選ばれているときでなければ選べません。また3種類のガイドは、同時に2種類以上を選ぶことはできません。

## 2 【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して演奏を再生させます。

⇒画面にピアノロールが現れ、鍵盤ガイドランプが点灯/点滅します。

伴奏に合わせて練習してください。



曲が最後まで再生されると自動的にストップします。また、パネルの【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押すと、曲の再生がストップします。

⇒もう一度、GUIDE CONTROL(ガイドコントロール)ボタン(【EASY PLAY(イージープレイ)】、【NEXT NOTE(ネクストノート)】または【SOUND REPEAT(サウンドリピート)】)を押すとランプが消え、ガイド機能がOFFになります。

曲の再生テンポは、曲を選んだあとに、TEMPO(テンポ)【-/+]を使って変更することができます。

再生中にガイドの種類を変更することができます。(ただし、5ページめのソングプレイガイドモード(SONG PLAY[GUIDE MODE])の画面でガイドモードに[SPECIAL]が表示される曲の場合は変更できません。)

曲の再生中に、ガイド機能、ピアノロール、ガイドランプ、ガイドされるパートをON/OFFすることもできます。

ネクストノート、サウンドリピートのときは、【PAUSE(一時停止)】は使えません。

ソングプレイ[ガイドモード](SONG PLAY[GUIDE MODE])画面で[LAMP]がONになっている場合(=基本設定)は、ガイド機能を使わない通常の曲の再生中でも、鍵盤ガイドランプは1/RIGHT、2/LEFTパートの演奏された鍵盤を示して点灯します。このとき、1/RIGHT、2/LEFTパートが両方ともONまたはOFFになっていると、1/RIGHT、2/LEFTパートの鍵盤を示し、どちらかのパートがOFFになっているときは、OFFになっているパートの鍵盤を示します。

右手/左手パートを独立して鳴らせるように作られていないミュージックデータの場合、ガイド機能が効果的に機能しないことがあります。

ガイド機能のサウンドリピート(SOUND REPEAT)では、CVP-201が自動的にガイドのフレーズの長さを決めるため、音楽的なフレーズと正確に合わない場合もあります。また、右手/左手パートを両方ともガイドさせている場合は、ガイドのフレーズが短めになる場合があります。

## ガイドに関するその他の機能

5ページめのソングプレイ[ガイドモード](SONG PLAY[GUIDE MODE])の画面では、ガイドに関する様々な設定をすることができます。

### ガイドモード[GUIDE MODE]

[GUIDE MODE]は通常は[NORMAL]が表示されています。[GUIDE MODE]を押して表示を[ENSEMBLE]にすると、イージープレイと通常のパートの消音を同時に別々のパートに設定することができます。この場合、1ページめのソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])の画面で、消音したパートは通常の消音再生で、消音していないほうのパートはイージープレイで演奏できる状態になります。



### サウンドリピート回数の設定

[SOUND REPEAT]を押すと、サウンドリピート時のお手本演奏のリピート回数を設定することができます。AUTOの場合は、正しく弾けるまでは、正しく弾けなかった部分だけのお手本演奏が繰り返されます。すべて正しく弾けると、自動的に次のお手本演奏が鳴り始めます。



ここでの設定はデモ曲の「4.GUIDE DEMO」再生中のガイドにも有効です。

モード=種類、方式

ガイドモード...  
設定範囲: NORMAL、ENSEMBLE、(SPECIAL)  
基本設定: NORMAL/(SPECIAL)の自動表示

[ENSEMBLE]は[1/RIGHT]、[2/LEFT]の両パートにデータがある曲でのみ有効です。

ネクストノート、サウンドリピートのときは[ENSEMBLE]は使えません。

ガイドモードの設定は、曲の途中の位置でや、曲の再生中には行なえません。

[GUIDE MODE]に[SPECIAL]が表示される曲について...

ネクストノートのときに、特別なガイド方式で、鍵盤ガイドランプの点灯だけによるガイドで再生します。

[GUIDE MODE]を押して表示を[NORMAL]にすると、通常のネクストノートの状態になります。

[SPECIAL]は、再生する曲によって自動的に表示されます。自動的に表示されない曲のときに、[GUIDE MODE]を押して[SPECIAL]を表示させることはできません。

イージープレイ、サウンドリピートのときは、表示が[SPECIAL]であっても、通常のイージープレイ、サウンドリピートのガイドになります。

サウンドリピート回数...  
設定範囲: AUTO、2~10  
基本設定: AUTO

サウンドリピート回数の設定は、曲の途中の位置でや、曲の再生中には行なえません。

## 歌詞表示のON/OFF

「<sup>からく</sup>歌楽」(P.191)などの歌詞データが入っているミュージックデータを再生すると、LCD画面に歌詞が表示されます。<sup>リリック</sup>[LYRICS]を押して表示を<sup>オフ</sup>OFFにすると歌詞表示は出なくなります。



## ピアノロール表示の設定

[<sup>ピアノロール</sup>PIANO ROLL]を押すと、ピアノロールの<sup>オート</sup>AUTO/<sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFFの切り替えができます。<sup>オート</sup>AUTOでは、ガイド機能を使っているときにだけピアノロールが<sup>オン</sup>出ます。<sup>オン</sup>ONになると再生中はいつも表示されます。<sup>オフ</sup>OFFにするとピアノロールは出なくなります。



## 鍵盤ガイドランプのON/OFF

[<sup>ランプ</sup>LAMP]を押して表示を<sup>オフ</sup>OFFにすると鍵盤ガイドランプが点灯/点滅しないようにすることができます。



歌詞表示...  
設定範囲：<sup>オン</sup>ON、<sup>オフ</sup>OFF  
基本設定：<sup>オン</sup>ON

歌詞表示機能は、<sup>エスエムエフ</sup>SMFフォーマット1で作られた曲では使えません。

歌詞データの入っていない曲が選ばれている場合は、<sup>リリック</sup>[LYRICS]には「--」と表示され、歌詞表示機能は使えません。

ピアノロール...  
設定範囲：<sup>オート</sup>AUTO、<sup>オン</sup>ON、<sup>オフ</sup>OFF  
基本設定：<sup>オート</sup>AUTO

歌詞データの入っている曲の再生時には、画面には歌詞が優先表示され、ピアノロールは表示されません。上記の操作で歌詞表示を<sup>オフ</sup>OFFにすると、ピアノロールが表示されます。

鍵盤ガイドランプ...  
設定範囲：<sup>オン</sup>ON、<sup>オフ</sup>OFF  
基本設定：<sup>オン</sup>ON

# 曲の録音

CVP-201には、フロッピーディスクに自分の演奏を録音するソングレコード機能があります。簡単な操作で録音できる"クイック録音"(P.126)と、アンサンブルの曲を多重録音できる"トラック録音"(P.130)、自動伴奏をステップ録音する"コードシーケンス"(P.136)があります。

録音してできた曲は、1枚のフロッピーディスクに60曲まで保存しておくことができます(1曲のデータが大きい場合は、60曲より少なくなってしまうこともあります)。なお、曲を録音するにはフォーマット済みのフロッピーディスクが必要です(P.125)。

## 曲データの構成について

一例として、次の図のようにトラックごとに各パートを録音して曲を構成することができます。

トラック	1	ピアノ(右手)パート
	2	ピアノ(左手)パート
	3	ベースパート
	4	ストリングスパート
	⋮	⋮
	⋮	⋮
	9	リズムパート
	10	リズムパート
	⋮	⋮
	⋮	⋮
	16	****パート

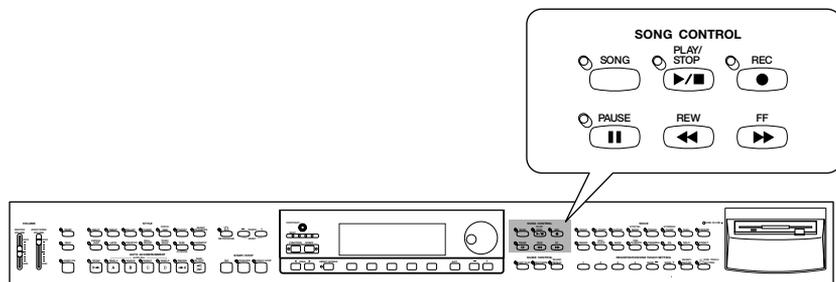
(最大16トラックまで)

操作中には、確認、警告、エラーなど、操作を導くためのメッセージがLCD画面に表示されることがあります。各メッセージについては、P.180にメッセージ一覧が載っていますので、ご参照ください。

ディスクの取り扱い上の注意について"フロッピーディスクの取り扱いについて"(P.10)をお読みください。

CVP-201で録音した曲は、SMF(フォーマット0)フォーマットになります。さらに、【XG】グループの音色を使用して録音した曲は、XG音色配列になります。XG / SMFについてはP.187をご参照ください。

録音した曲データは、再生時MIDI【OUT】からは出力されません。ただし、ファンクション(FUNCTION)の[MIDI4]画面(P.167)で、出力するようにもできます。



## 録音の手順

[準備] 録音したい音色や伴奏スタイルを選び、録音用のフロッピーディスクを用意する。

- 1 フロッピーディスクの何曲めに録音するかを決める。
- 2 録音機能をONにする。
- 3 録音パートを決める。
- 4 録音する音色や伴奏スタイルを設定する。
- 5 鍵盤を演奏または自動伴奏を鳴らして録音する。

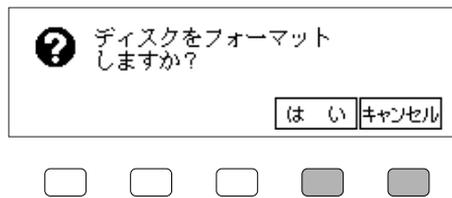
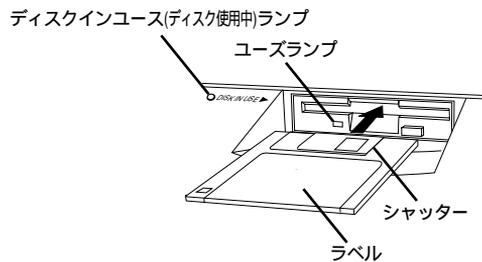
## 録音の準備(ディスクのフォーマット)

付属の「録音用ディスク」を初めて使うときは、最初にフォーマット(初期化)をします。市販のフロッピーディスクの場合も同様です。一度録音で使用したフロッピーディスクを再フォーマットする方法は、ファンクション(FUNCTION)のフォーマット(P.163)をご覧ください。

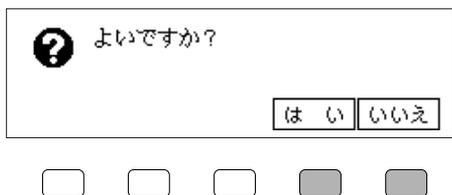
### 操作

- 1 付属の録音用ディスクを、シャッター側を奥に、ラベル面を上にして、ディスクドライブに差し込みます。

⇒数秒後に「ディスクをフォーマットしますか?」(「Start disk format?」)のメッセージが表示されますので、[はい(OK)]を押します。キャンセルする場合は、[キャンセル(CANCEL)]を押します。



- 2 「よいですか? (Are you sure?)」と確認を求める画面が現れますので、フォーマットを実行するときは[はい(OK)]を押します。中止する場合は[いいえ(NO)]を押します。



フォーマット中はLCD画面に横棒のグラフが表示され、フォーマットの経過を示します。フォーマットが完了すると自動的に元の画面に戻ります。

フォーマット(初期化)とは...

フロッピーディスクは、パーソナルコンピュータなどのいろいろな機器で、いろいろなデータの収納場所として使われます。その際、フロッピーディスクのデータの収納方式にはいくつかの種類があるため、その機器で対応している収納方式をフロッピーディスクに最初に指定する必要があります。(たとえば、白い紙に縦書きの線を入れるか横書きの線を入れるかというようなことです。)

市販の未フォーマットのフロッピーディスクや、異なるフォーマットのフロッピーディスクの場合も同様の画面が出ます。

フォーマットの種類...

2DDのディスクは720KB、2HDのディスクは1.44MBにフォーマットされます。

## 基本的な録音(クイック録音)

クイックレコード(QUICK RECORD)画面では、1/<sup>ライト</sup>RIGHTパート、2/<sup>レフト</sup>LEFTパート、<sup>アカンパニメントアンドリズム</sup>ACMP&RHY(自動伴奏)パートの3つのパートを選んで、1パートだけ録音したり、メロディと自動伴奏を同時に録音したりすることができます。

### 1パートのみの録音方法

練習中のピアノ曲を録音して聞いてみるなど、最も手軽にできる録音方法です。

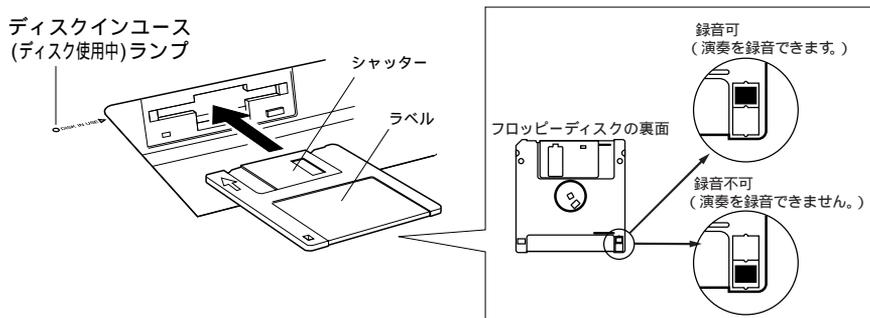
#### 操作

[準備] 録音したい音色を選び(P.51)、フォーマット済みのフロッピーディスクのライトプロテクトタブが"録音可"の位置になっていることを確認して、シャッター側を奥に、ラベル面を上にして、ディスクドライブに差し込みます。

⇒CVP-201がディスクを読み込んで認識するまで、DISK IN USEランプが点灯します。

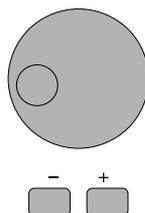
⇒【SONG(ソング)】がONになっていない場合は、【SONG(ソング)】を押してください。

⇒ランプが点灯し、ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面が表示されます。ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面が表示されていないときは、PAGE(ページ)【◀】【▶】で1ページを出してください。



1 <sup>ソング</sup>【SONG】を押すか、【ダイヤル】や【-/+]を使って録音する曲番号を1～60の中から選びます。

選んだ番号が曲を録音する場所になります。選んだ曲番号の横に曲名が表示されているものは、すでにデータが録音されていることを示しています。この場合、他の曲番号を選んでください。(データのある曲に録音すると、前のデータは消えてしまいますのでご注意ください。)



ディスクに関するファンクションの画面や、カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面のときは、ディスクを差し込んで、自動的に【SONG(ソング)】がONにはなりません。それぞれの機能を終了してから(P.82、149)【SONG(ソング)】を押してください。

録音する曲番号に61～99を選んだ場合、録音機能をONにすることはできません。CVPでは、再生は99曲までできますが、録音は60曲までになります。

- 2 **【REC(録音)】**を押して録音機能をONにします。  
 ⇒ **【REC(録音)】**のランプが点灯し、クイックレコード(QUICK RECORD)画面が現れます。**【REC(録音)】**のランプが点灯している場合、クイックレコード(QUICK RECORD)画面が表示されていない場合は、PAGE(ページ) **【◀】** **【▶】**を使って、1ページめの画面を開いてください。

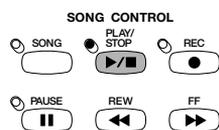
このあと、実際に録音開始する(操作5)までは、**【REC(録音)】**または**【EXIT(戻る)】**を押すと、録音せずに録音機能をOFFにすることができます。



- 3 **【1/RIGHT】**または**【2/LEFT】**を押して、**【REC】**にします。



- 4 通常の方法で、録音に使う音色を設定します。(P.51)  
 ここで、鍵盤を弾いたり、**【START/STOP(スタート/ストップ)】**を押すと録音がスタートしてしまいますので、音色を鳴らして確認しておきたい場合は、**【SONG(ソング)】**をONにする前にしておきます。
- 5 鍵盤を弾き始めるか、**【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】**を押して録音をスタートします。



- 6 弾き終わったら、**【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】**を押して録音をストップします。  
 ⇒ データがディスクに書き込まれると、**【REC(録音)】**のランプが消灯し、ソングプレイ画面になります。

録音後は、基本的な再生方法(P.108)で再生できます。

クイックレコード(QUICK RECORD)画面で、録音する曲番号を変更することができます。

**【REC(録音)】**をONにしたときに自動伴奏がONになっていた場合、**【ACMP&RHY】**トラックが自動的に**【REC】**表示になります。ここでは自動伴奏は録音しませんので、**【ACMP&RHY】**を押して**【OFF】**にしてください。

**【1/RIGHT】**と**【2/LEFT】**を、同時に**【REC】**にすることはできません。

どれか1つでもパートが**【REC】**(録音できる状態)に設定されると、自動的に、鍵盤を弾き始めると録音がスタートする録音待機状態になります。また、ディスクの記憶残容量が小節表示の下にKB(キロバイト)単位で示されます。2DD/2HDディスクの容量は、何も録音されていないときで約690KB/1400KBです。音数では、およそ69,000音/140,000音分ですが、機能をたくさん使うと減ります。

#### デュアル、スプリットを使った録音のトラック...

デュアル(P.54)やスプリット(P.55)を使って録音することもできます。この場合、1/RIGHTパート録音でデュアルを使うと1トラックと3トラックに、スプリットを使うと1トラックと5トラックに、2/LEFTパート録音でデュアルを使うと2トラックと4トラックに、スプリットを使うと2トラックと5トラックに録音されます。

メトロノーム(P.45)を鳴らしながら録音することができます。この場合、メトロノームの音は録音されません。

#### ディスクを入れていないとき...

短い曲であればそのまま本体に録音することができます。最大約2500音符[26KB]録音できますが、機能をたくさん使うと減ります。ただし、電源を切ったり別の曲が読み込まれた時点で消えてしまいます。詳しくは、「ディスクを使わない録音」(P.135)をご参照ください。

録音中は鍵盤ガイドランプは点灯しません。

録音をストップしてもディスクにデータを書き込むまで、少し時間がかかります。ディスクドライブのDISK IN USE(ディスク使用中)ランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。

録音した曲には、一時的に**【SONG \*\*\*】**(\*\*はナンバー)のような曲名が自動的に付けられます。曲名は好きなものに変えることができます(P.142)。

## 自動伴奏の録音方法

自動伴奏を弾きながら録音することができます。メロディと自動伴奏を同時に録音することもできます。

### 操作

[準備] 録音したい伴奏スタイルを選び(P.64)、録音用フロッピーディスクを、ディスクドライブに挿入します。(P.126)

1 <sup>ソング</sup> [SONG]を押すか、【ダイアル】や【-/+]を使って録音する曲番号を1~60の中から選びます。(P.126)

2 <sup>レコード</sup> 【REC(録音)】を押して録音機能を<sup>オン</sup>にします。(P.127)

3 <sup>アカンパニメント</sup> <sup>アンド</sup> <sup>リズム</sup> [ACMP&RHY]を押して、<sup>レコード</sup> <sup>レフト</sup> <sup>レフト</sup> <sup>レコード</sup> 【REC】にします。メロディも同時に録音する場合は、<sup>1/RIGHT</sup>または<sup>2/LEFT</sup>も【REC】にします。

⇒ パネルの<sup>アカンパニメント</sup> <sup>オン</sup> 【ACMP ON(自動伴奏オン)】も自動的に<sup>オン</sup>になり、シンクロスタートでの録音待機状態になると同時に、タイミングをとるためのメトロノームが鳴り出します。



4 通常の方法で、録音に使う伴奏スタイル(P.64)とテンポ(P.43)を設定します。メロディも同時に録音する場合は音色も選びます。

ここで、鍵盤を弾いたり、【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すと録音がスタートしてしまいますので、音色や伴奏スタイル、テンポを鳴らして確認しておきたい場合は、<sup>オン</sup> 【SONG(ソング)】をONにする前にしておきます。

自動伴奏の録音方法にはインテンポで弾かずに録音できるコードシーケンス(P.136)もあります。

ディスクに入っているカスタムスタイルファイルを使うとき...  
録音操作に入る前に、「カスタムスタイルファイルのディスクからの読み込み方」(P.94)の手順でスタイルを読み込んでおいてください。

<sup>レコード</sup> <sup>オン</sup> 【REC(録音)】をONにしたときに、すでに自動伴奏が<sup>オン</sup>ONになっていた場合、<sup>アカンパニメント</sup> <sup>アンド</sup> <sup>リズム</sup> [ACMP&RHY]トラックが自動的に<sup>レコード</sup>レコード表示になります。

<sup>アカンパニメント</sup> <sup>オン</sup> <sup>アカンパニメント</sup> <sup>アンド</sup> <sup>リズム</sup> パネルの【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押しても、<sup>レコード</sup> [ACMP&RHY]パートを自動的に<sup>レコード</sup>レコードにすることができません。

リズムだけの録音...  
<sup>アカンパニメント</sup> <sup>アンド</sup> <sup>リズム</sup> [ACMP&RHY]を<sup>レコード</sup>レコードにしておいて、<sup>アカンパニメント</sup> <sup>オン</sup> 【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押してランプを消すと、リズムだけの録音ができます。

自動伴奏を使った録音のトラック...  
自動伴奏の録音トラック構成は、トラック9~10にリズム、トラック11にベース、トラック12~16にコードとなっています。

ハーモニーを使った録音のトラック...  
ハーモニー機能(P.76)を使ってハーモニーの演奏データを録音することもできます。この場合、Duet、Trio、<sup>デュエット</sup> <sup>トリオ</sup> Block、4 Part、Country、Octave、<sup>ブロック</sup> <sup>パート</sup> <sup>カントリー</sup> <sup>オクターブ</sup> 1+5のタイプでは、ハーモニーは手弾きと同じトラックに録音されますが、それ以外のタイプでは、ハーモニーは6、7、8トラックに録音されます。

5 鍵盤を弾き始めるか、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して録音をスタートします。

リズムだけを録音したい場合は、【START/STOP(スタート/ストップ)】を押して録音をスタートします。

⇒ 録音中は現在の小節位置がLCD画面に表示されます。

6 弾き終わったら、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して録音をストップします。(P.127)

録音後は、基本的な再生方法(P.108)で再生できます。

## 解説

### 先に手弾き音の録音を始めて途中から自動伴奏やリズムを入れる方法

録音スタート時に、まず、スプリットポイントより右側の鍵盤を弾くか、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して録音をスタートします。

⇒ 伴奏用鍵盤(スプリットポイントより左側)の鍵盤を弾くか、【START/STOP(スタート/ストップ)】を押して、自動伴奏またはリズムを録音します。

### 先に自動伴奏やリズムの録音をストップして、続けて手弾きの音を録音する方法

自動伴奏の録音方法の操作6で、【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すと、自動伴奏&リズムの録音だけがストップします。

⇒ そのまま続いて手弾きの演奏を続けると、自動伴奏&リズムなしの録音ができます。

⇒ 最終的に録音を終わるときは、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押します。

自動伴奏を録音するときには、イントロ(INTRO)やオートフィル(AUTO FILL)、エンディング(ENDING)、フェードイン/アウト(FADE IN/OUT)も録音できます。(P.68)

#### 録音中のボリューム調節...

録音中は、アンプ/モニタ【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】やMIXER(ミキサー)画面で自動伴奏のボリュームを、クイックレコード(QUICK RECORD)画面のキーボード【KBD VOL】で手弾き音のボリュームを調節できます。

#### 録音中のスプリット機能、ハーモニー機能のON/OFF...

1/ライトRIGHTパートを選んで録音しているときは、録音の途中の一部分だけ【SPLIT(スプリット)】や【HARMONY(ハーモニー)】をオンにして録音することができます。2/レフトLEFTパートを選んで録音しているときは、そのようにしても、スプリットの左領域の音や、6~8トラックに録音されるタイプのハーモニーの音(P.128のノート参照)は、録音されません。また、録音パートを変更すると、【SPLIT(スプリット)】、【HARMONY(ハーモニー)】は自動的にオフOFFされます。

⊗ 録音をストップしてもディスクにデータを書き込むまで、少し時間がかかります。ディスクドライブのDISK IN USE(ディスク使用中)ランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。

自動伴奏やハーモニー機能を使って録音をした場合、録音をストップすると、アンプ/モニタ【ACMP ON(自動伴奏オン)】ランプは自動的に消えます。

曲再生のボリュームは、録音をストップしたときに、アンプ/モニタ【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】スライダーの位置に関係なく、自動的に最大値(=MAXの値)になります。

伴奏スタイルの切り替えが曲途中で録音された場合や、デュアルとフルキーボードを同時に使用して録音された場合、再生が多少遅れぎみになる場合があります。

## 多重録音(トラック録音)

トラックレコード(TRACK RECORD)画面では、1～16のトラックを選んで、多重録音ができます。

### 操作

[準備] 録音用フロッピーディスクを、ディスクドライブに挿入します。(P.126)

- 1 <sup>ソング</sup> [SONG]を押すか、【ダイアル】や【-/+]を使って録音する曲番号を1～60の中から選びます。(P.126)
- 2 <sup>レコード</sup> 【REC(録音)】を押して録音機能を<sup>オン</sup>にします。(P.127)
- 3 <sup>ページ</sup> PAGE(ページ)【◀】【▶】で2ページめのトラックレコード(TRACK RECORD)画面を開きます。  
→ <sup>トラック</sup> 【TRACK】◀ ▶を押すか、【ダイアル】や【-/+]で録音するトラックを選び、一番右のLCDボタンで、<sup>レコード</sup> 【REC】を選びます。すでにデータが入っているトラックでは、<sup>プレイ</sup> 【PLAY】=再生も選べます。  
⇒ <sup>レコード</sup> 【REC】にしたトラックは、トラック番号が反転表示されます。  
再生できるトラックはトラック番号が四角い枠で囲まれた状態になっています。再生をOFFにしたトラックはトラック表示の枠囲いが消え、番号だけの表示になります。データが何も入っていないトラックは何も表示されません。



- 4 音色や伴奏スタイルを選び、テンポ調節やリバーブなどの演奏に必要な設定を行ないます。
- 5 鍵盤を弾き始めるか、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して録音をスタートします。  
⇒ 録音中は現在の小節位置がLCD画面に表示されます。
- 6 弾き終わったら、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して録音をストップします。(P.127)

上記の手順を繰り返して、別の録音トラックや音色を選び、新しいパートを録音します。必要に応じて、録音済みのトラックを再生させながら録音します。この操作を繰り返して1つの曲が完成します。

録音後は、基本的な再生方法(P.108)で再生できます。

どれか1つでもパートが<sup>レコード</sup>【REC】(録音できる状態)に設定されると、自動的に、鍵盤を弾き始めると録音がスタートする録音待機状態になります。

自動伴奏やハーモニーを<sup>オン</sup>にした状態で、トラック録音の画面を開いた場合、自動的にそれぞれの録音に必要なトラックが選ばれ、シンクロスタートでの録音待機状態になります。

演奏を間違えたときは、パンチイン/アウト録音(P.133)を使って間違えたところだけを録音し直すことができます。

④ 録音をストップしてもディスクにデータを書き込むまで、少し時間がかかります。ディスクドライブの<sup>ディスクインユース</sup>DISK IN USE(ディスク使用中)ランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。

すでに録音されているトラックを選んで録音すると、元の内容が消え、新しく録音された内容が上書きされます。

#### バックアップのおすすめ...

ある程度曲を録音したら、別の曲番号にコピーをとっておくことをお勧めします(コピーの操作についてはP.159を参照してください)。録音中に誤ってデータを消してしまったときでも、バックアップがあれば安心です。

## リズムだけの録音方法

- 操作3(P.130)で、<sup>リズム</sup> [RHYTHM]を押すと、リズムトラックとしてトラック9と10が同時に選ばれます。  
 ➡ 一番右側のLCDボタンを使って、<sup>レコード</sup> [REC]を選びます。



- 操作5(P.130)で、【START/STOP(スタート/ストップ)】を押して録音をスタートします。

## デュアルやスプリットを使った録音方法

デュアル(P.54)やスプリット(P.55)機能によって2音色を使う演奏を録音する場合は、操作3(P.130)で、録音トラックを2つ選びます。デュアルとスプリット機能を同時に使う場合は3つ選びます。

## 自動伴奏やハーモニーの録音方法

自動伴奏やハーモニーを録音する場合は、自動的にその録音トラックが決まります。

- <sup>アカンパニメント オン</sup> 【ACMP ON(自動伴奏オン)】をONにすると、自動的にトラック9～16が同時に録音状態になります。それらのトラックに自動伴奏のデータが録音されます。
- <sup>オン</sup> 【HARMONY(ハーモニー)】をONにすると、<sup>デュエット トリオ ブロック パート カントリー</sup> Duet, Trio, Block, 4Part, Country, <sup>オクターブ</sup> Octave, 1+5以外のハーモニータイプの場合、自動的にトラック6～8が同時に録音状態になります。それらのトラックにハーモニーのデータが録音されます。

トラック10は、伴奏スタイルのリズム音を録音するためにだけ使われ、鍵盤の手弾きパートの録音用には使えません。トラック9も同様の場合があります。

<sup>レコード</sup> リズムトラック(9と10)を[REC]にすると、シンクロスタートでの録音待機状態になり、タイミングをとるガイドとしてメトロノームが鳴り出します。

鍵盤の手弾き演奏を録音するトラックは、同時に3つまで選ぶことができます。

<sup>アカンパニメント オン</sup> 【ACMP ON(自動伴奏オン)】をONにすると、自動的にシンクロスタートでの録音待機状態になります。

手弾きパートは、ハーモニーや自動伴奏用トラック以外のトラックに録音してください。

## 録音されるデータ

---

### トラック別に録音される内容

- ノート(音符)
- 音色
- キーボードボリューム(手弾きのボリューム)
- バン
- ダンパーペダル
- レフトペダル(P.154)
- ソステヌートペダル
- リバースデプス
- コーラスデプス
- エフェクトデプス
- パート別のボリューム(RIGHT1、RIGHT2、LEFT)
- フェードイン/アウト(ボリュームデータに変換して録音)
- スケールチューニング(P.172)

### 曲全体に録音される内容

- テンポ
- リバースタイプ
- リバースデプス
- コーラスタイプ
- エフェクトタイプ\*
- 伴奏スタイル
- イントロ
- メインA/B/C/D
- フィルイン
- エンディング

\* エフェクトに関しては、最後に録音されたトラックのエフェクトが優先されます。

### その他の録音内容

伴奏スタイルのデータについては、上記に示したものの以外に、パート別のボリューム(伴奏スタイル固有の値+録音時のMIXER(ミキサー)の設定)も録音されます。

## 部分的に録音し直す(パンチイン/アウト録音)

パンチイン/アウト録音を使えば、演奏を間違えた場所だけを部分的に録音し直すことができます。録音済みのトラックを再生させて、録音をやり直したい位置から録音をスタート(パンチイン)し、好きな位置で録音をストップ(パンチアウト)することができます。それ以外の部分は元のまま残すことができます。

### 操作

- 1 曲を再生(P.108)させ、録音をやり直したい場所(パンチインする場所)の少し手前で【PAUSE(一時停止)】を押し、一時停止させます。パンチインする場所の1、2小節前で止めておくと、タイミングが合わせやすく便利です。
- 2 【REC(録音)】を押し、パンチイン/アウト機能を<sup>オン</sup>にします。  
⇒パンチイン/アウト(PUNCH IN/OUT)画面が現れます。



- 3 <sup>トラック</sup> [TRACK] ◀ ▶ を押すか、【ダイヤル】や【-/+】で録音するトラックを選び、一番右のLCDボタンで、<sup>レコード</sup> [REC]を選びます。すでにデータが入っているほかのトラックでは、<sup>プレイ</sup> [PLAY](=再生)、<sup>オフ</sup> [OFF](=再生しない)も選べます。  
⇒選ばれているトラックには下線が表示されます。

- 4 右から2番目のLCDボタンで、パンチインの方法を選びます。次の2種類の方法があります。

<sup>ファーストキー</sup>  
1ST KEY : .....操作6のパンチイン再生スタート後、最初に弾かれた鍵盤の音から録音が始まる方法です。

<sup>ペダル</sup>  
PEDAL : .....操作6のパンチイン再生スタート後、左のペダルが踏まれたときから録音が始まる方法です。



自動伴奏、リズム、ハーモニーが録音されている場合の6～8トラックにはパンチイン/アウト録音はできません。

パンチイン/アウトトラックの自動設定...

トラックを指定しないと、最後に<sup>レコード</sup> [REC]になっていたトラックが自動的に選ばれます。

パンチインの方法で<sup>ペダル</sup> PEDALを選んだときは、左のペダルはパンチイン/アウトの機能にだけ使用することができます(通常の機能はキャンセルされます)。

5 真ん中のLCDボタンで、パンチアウトの方法を選びます。次の2種類の方法があります。

リプレイス  
REPLACE : ..... 録音をストップした位置からあとのデータが消えます。

パンチアウト  
PNCH.OUT : ..... 録音をストップした位置からあとのデータは消えずに残ります。



6 【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押すか、【PAUSE(一時停止)】を押すと先ほど一時停止していた位置から再生がスタートします。

⇒ ファーストキー 1ST KEYの方法を選んでいるときは、録音を開始したい位置で鍵盤を弾くと、パンチイン録音がスタートします。

⇒ ペダル PEDALの方法を選んでいるときは、録音を開始したい位置で左のペダルを踏むと、パンチイン録音がスタートします。

7 【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して、録音をストップします。

⇒ データがディスクに書き込まれると、レコード【REC(録音)】のランプが消灯し、ソングプレイ(SONG PLAY)画面になります。

ペダル PEDALを選んでいるときは、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】や【PAUSE(一時停止)】を押して再生をスタートしなくても、直接左のペダルを踏んで録音をスタートすることもできます。

ペダル PEDALを選んでいるときは、左のペダルを踏んで録音をストップすることもできます。

## ディスクを使わない録音

CVP-201には約26 KBの内部メモリーキロバイトがあり、ディスクを使わなくても約2500音程度の録音は行なえるようになっています。ディスクを入れずに【REC(録音)】をオンオンにすると、次のように[SONG]に[CUP]、音色表示の下に"CVP MEMORY"が表示され、クイック録音、トラック録音、パンチイン/アウト録音の方法で録音することができます。

内部メモリーを使って録音を行なうときのクイックレコード画面



内部メモリーに録音した曲データは、基本的な再生方法(P.108)で再生することができます。



内部メモリーへ録音した曲データがあるときに、ディスクを差し込んで曲番号を選ぶと、「CVP MEMORYを消去してよいですか?(Delete CVP MEMORY?)」のメッセージが出ます。ここで、[はい(YES)]を押すと、内部メモリーへ録音した曲データは消えます。また、電源をOFFにしても、内部メモリーへ録音した曲データは消えてしまいます。内部メモリーのデータが必要であれば、ソングコピー機能(P.159)を使ってフロッピーディスクへ保存してください。

コードシーケンス機能を使って、内部メモリーへ録音することはできません。

ソングネーム(P.142)、セットアップメモリー(P.148)の各機能は、内部メモリーに録音したデータに対しては使用できません。

トラックエディット機能(P.143)、イニシャルエディット機能(P.146)は、内部メモリーで録音したデータに対しても使えます。

カスタムスタイルファイルを読み込んだ場合にも、内部メモリーへ録音した曲データは消えます。この場合は、確認のメッセージは出ません。

## コードのステップ録音(コードシーケンス)

リズムに合わせて一定のテンポで弾かなくても、コードネームを基に自動伴奏を1コードずつ入力して、伴奏パートを録音することができます。

### コードシーケンスデータの作り方の手順

[準備] 今からデータを作る曲にふさわしい、伴奏スタイルの種類やセクションの切り替えのタイミングを決めておく。コードネームも調べておく。

- 1 コードシーケンス画面を表示させる。
- 2 データを入力する位置にカーソルを移動する。
- 3 入力する伴奏スタイルやセクションの種類をセットする。
- 4 入力するコードネームを表示させる。
- 5 各入力データを記録させる。

2-5の手順を繰り返して1曲分のデータを作る。

- 6 曲の終わりの位置を決めるデータを記録する。

### 操作

[準備] 1パートのみの録音方法(P.126)の操作準備~2までと同じように、フォーマット済みのフロッピーディスクをセットし、録音する曲番号を選んだあと、**【REC(録音)】**を押して録音機能をONにします。

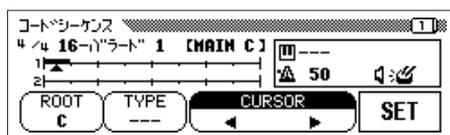
→ **PAGE(ページ)【◀】【▶】**で3ページめの**レコード エディット (RECORD EDIT)**画面を開きます。



## 1

**【CHORD SEQ.】**を押して、コードシーケンス機能をONにします。

→ コードシーケンス(CHORD SEQUENCE)画面が現れ、**【ACMP ON(自動伴奏オン)】**がONになります。自動伴奏の奏法は自動的に**【FINGERED1】**に切り替わります。



❓ **コードシーケンスがONできない...**  
フロッピーディスクがディスクドライブに差し込まれていないときは、コードシーケンス機能を使うことはできません。

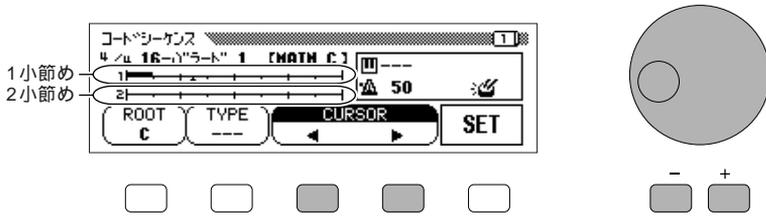
クイックレコードやトラック録音で録音した自動伴奏やリズムトラックのデータがあった場合は、コードシーケンスでの録音によって上書きされます。

**自動伴奏の奏法の変更...**  
自動伴奏の奏法は**【FINGERED1】**が自動的に選ばれますが、**【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス) + ACMP ON(自動伴奏オン)】**を押して表示される画面で、自動伴奏の奏法を**【SINGLE FINGER】**などに変更できます。**【FULL KEYBOARD】**は選べません。また、同じ画面で、**【SPLIT POINT】**(P.72)も変更できます。

コードシーケンス機能を使って、最大999小節まで録音することができます。

## 2

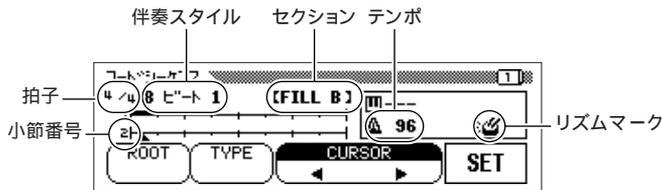
カーソル  
【CURSOR】◀ ▶ を押して表示を反転させ、【ダイヤル】を使って、三角形のカーソル( )を、データを入力したい位置に合わせます。【-/+]も使えます。カーソル  
【CURSOR】◀ ▶ を押しても、カーソルを移動することができます。



## 3

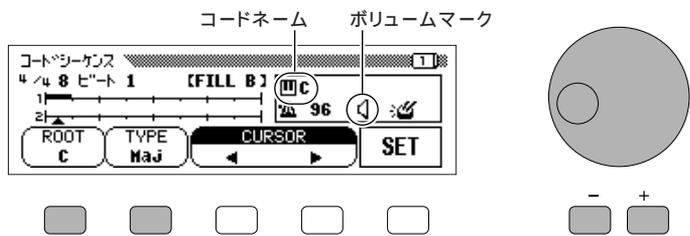
伴奏スタイルの種類やセクション切り替えなど、入力する内容を、それぞれ  
STYLE(伴奏スタイル)やAUTO ACCOMPANIMENT(自動伴奏)のセクションボタンなどを直接押して決めます。

⇒ LCD画面の左上に拍子、伴奏スタイル名とセクション名が、右側のボックスの中にテンポ、リズムマークが表示されます。



## 4

スプリットポイントから左の、自動伴奏用鍵盤でコードを押さえるか、LCD画面の【ROOT】、【TYPE】を押して表示を反転させたあと、【ダイヤル】を使ってコードネームを表示させます。【-/+]も使えます。【ROOT】と【TYPE】を何度か押してもコードを選ぶことができます。



## 5

入力する内容が決まったら、【SET】を押して入力を確定します。  
⇒ カーソルの位置にデータが記録され、小節バーの上に黒い長方形のボックスと、記録したコードネームが表示されます。カーソルは自動的に進みます。

同じ要領で、次の入力位置にカーソルを移動し、必要なセクションやコードを次々に録音していきます。入力作業中はいつでも、【START/STOP(スタート/ストップ)】で再生して、入力した内容を確認することができます。

小節バーの左側に、小節番号が表示されます。

伴奏スタイル選択後、画面を元に戻すには...  
LCD画面を前の状態に戻すときは、【EXIT(戻る)】を押します。

伴奏スタイルやセクションの切り替え位置...  
伴奏スタイルやセクションの切り替え位置は、各小節の先頭の位置にだけ入力することができます(イントロは曲の先頭のみ)。ただし、フィルインは自由な位置に入力できます。

フェードイン中はフェードアウトを設定することはできません。

コード入力の最小単位は、選ばれている伴奏スタイルによって自動的に決まります。2、3、4、5拍子の伴奏スタイルが選ばれていると、8分音符や8分3連音符単位になり、それ以外の拍子の伴奏スタイルの場合は、1小節単位でコードが入力されます。

鍵盤でコードを押さえた場合も、【ROOT】、【TYPE】にコードネームが表示されます。

録音できるコードの種類...  
コードシーケンスで入力できるコードの種類は、P.71のフィンガード1の一覧に載っているものと同じです。

コードを入れずに、他の内容を変更して【SET】を押すと、コード以外の変更内容だけ記録されます。このとき、【ROOT】と【TYPE】の表示は空白になります。

前の位置に記録された内容を何も変えずに、次のカーソル位置で【SET】を押しても、記録できません。

本編

6 曲を終わらせたい位置にカーソルを移動し、コードシーケンス画面の2ページ目で、[END MARK]を押してから[SET]を押して、曲の終わりの位置を確定します。

⇒終わりの位置を示すエンドマークが、LCD画面中段のボックスに表示されます。エンディングまたはフェードアウトで終了する場合は、エンドマークは不要です。

7 【REC(録音)】を押して録音を終了します。【REC(録音)】を押すと、「作成したデータをセーブしますか?(Save recorded data?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、録音された内容が保存され、コードシーケンス機能が自動的に終了し、ソングプレイ(SONG PLAY)画面になります。保存せずに終了したいときは[いいえ(NO)]、保存せずに入力続けたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

コードシーケンスデータが完成したら、再生しながら演奏してみてください。基本的な再生方法(P.108)で再生できます。

## 解説

### 入力できるデータ

- 伴奏スタイルの種類
- セクション(P.67)切り替え(MAIN A、B、C、D、INTRO、ENDING、AUTO FILL)
- コードネーム
- テンポ
- 自動伴奏のパートごとのボリューム(ミキサー画面での設定)
- リズムのON/OFF

### AUTO FILLを経由しないMAINセクション切り替えの入力

MAIN A、B、C、Dを切り替えると、自動的にAUTO FILLを経由して切り替わります。AUTO FILLを経由せずに切り替えたい場合は、小節の先頭でMAINボタンを続けて2回押してから、操作5で[SET]を押します。

### オンベースコードの入力

自動伴奏の押さえ方で[FINGERED2]を選んでおくと、オンベースコード(C<sup>on</sup>Eなど)を入力(P.72)することができます。

### 自動伴奏のボリューム情報の入力

ミキサー(MIXER)画面で自動伴奏のパート別ボリューム調節を行なうと、LCD画面中段のボックスにボリュームマーク(□)が表示され、コードシーケンス画面で[SET]を押すと、カーソルの位置にボリューム情報が記録されます。ボリューム情報をうまく使うと、曲の中で伴奏の音量変化を演出することができます。なお、曲の先頭には自動的にボリューム情報が録音されています。

### エンドマーク...

エンドマークを入力しなかった場合は、最後のデータがある小節の次の小節でストップします。エンディング、フェードアウトを入力した場合は、エンディング、フェードアウトの最後の小節でストップします。

コードシーケンス機能を使って録音したデータは、トラック9～16に録音されます。通常の方法で再生したり、トラック録音の方法でその他のトラックに録音を加えたり、自動伴奏のパートにオリジナルのフレーズを上書き録音したり、自由に取り扱うことができます。

コードシーケンス機能によって録音された曲は、あとでまたコードシーケンスの画面に入って修正することができます。ただし、その場合一度通常のトラック録音の方法で、自動伴奏のパートにオリジナルのフレーズを上書き録音したデータは、プリセットの伴奏スタイルのデータに書き替えられることになります。(たとえば、ベースパートを上書き録音しても、コードシーケンスの画面でデータ修正を行なうと元のベースパターンに戻ってしまいます。)

## リズムだけの入力

[<sup>タイプ</sup>TYPE]を"---"表示にして入力すると、コードを空白のまま入力することになります。リズムだけを鳴らしたい場合に使用します。

## ブレイク(コードもリズムも鳴らない状態)の入力

[<sup>タイプ</sup>TYPE]を"---"表示にし、さらにリズム<sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFF機能(後述参照)でリズムを<sup>オフ</sup>OFFにすると、ブレイクを作ることができます。

ブレイクフィル<sup>ブレイクフィル</sup>[BREAK FIL](P.154)は、入力できません。

## コードシーケンスデータの編集方法

コードシーケンス画面の2ページめでは、コードシーケンスデータの編集ができます。

以下の内容がこの画面で実行できます。

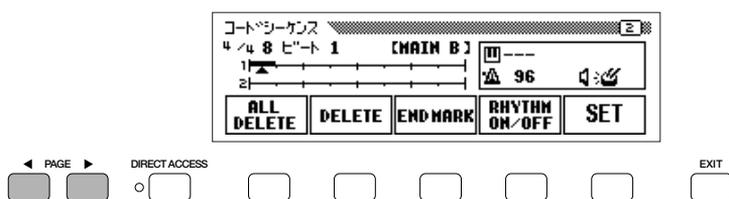
- すべてのデータを削除する
- 現在 カーソルのある位置のデータを削除する
- 現在 カーソルのある位置にエンドマークを入力する
- 現在 カーソルのある位置にリズム音の<sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFFを入力する

編集中はいつでも、【START/STOP(スタート/ストップ)】で再生して、編集した内容を確認することができます。

### 操作

[準備] コードシーケンス(CHORD SEQUENCE)画面が表示されていない場合は、コードシーケンス機能を<sup>オン</sup>ONにします(P.136)。

- 1 <sup>ページ</sup>PAGE(ページ)【◀】【▶】を押して、コードシーケンス(CHORD SEQUENCE)画面の2ページめを表示させます。



### すべてのデータを削除する

- ➡ <sup>オールデリート</sup>[ALL DELETE]を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示され、[はい(YES)]を押すと削除されます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

- 2 【ダイアル】を使って、カーソルを、編集したいデータの位置へ移動します。【-/+】も使えます。

### 現在 カーソルがある位置のデータを削除する

⇒ <sup>デリート</sup>[DELETE]を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示され、[はい(YES)]を押すと削除が実行されます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

### 現在 カーソルがある位置にエンドマークを入力する

⇒ <sup>エンドマーク</sup>[END MARK]を押して<sup>セット</sup>[SET]を押すと、エンドマークが記録されます。ただし、エンディングまたはフェードアウトで終了する場合はエンドマークは不要です。エンドマークは曲の終わりの位置を示すデータで、曲を意図どおりの位置で終わらせるために必要です。エンドマークを入力すると、それ以降の小節に、カーソルを移動させることはできなくなります。エンドマークも、他のデータと同様に<sup>デリート</sup>[DELETE]を使って削除することができます。

### 現在 カーソルがある位置にリズム音のON/OFFを入力する

⇒ <sup>リズム</sup>[RHYTHM <sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFF]を押して<sup>セット</sup>[SET]を押すと、リズム<sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFFが記録されます。中段のボックス内のリズムマーク(🎵)が消えているとリズム<sup>オフ</sup>OFFの状態、その位置からリズムが鳴らなくなります。中段のボックス内にリズムマーク(🎵)が表示されているとリズム<sup>オン</sup>ONの状態、その位置からリズムが鳴るようになります。

# 録音内容の編集方法

## (レコードエディット機能)

録音した曲データの完成度を高めるため、細かい変更や編集(エディット)ができる機能が用意されています。

以下の内容が、レコードエディット機能で実行できます。

録音した曲データのファイルに名前を付ける

**ソングネーム機能**(P.142)

あるトラックを削除したり、2つのトラックをミックスしたり、トラックに関する編集ができる

**トラックエディット機能**(P.143)

音色、リバーブ、エフェクト設定など、曲全体に関わるデータを変更できる

**イニシャルエディット機能**(P.146)

曲データに、曲を再生させながら弾くための、パネルの設定状態を保存できる

**セットアップメモリー機能**(P.148)

曲全体に関わるデータは、曲の最初の部分に記録されているため、イニシャル(初期)エディットと呼んでいます。

# 曲データに名前を付ける (ソングネーム[SONG NAME])

CVP-201で録音された曲データに名前を付けたり、変更することができます。

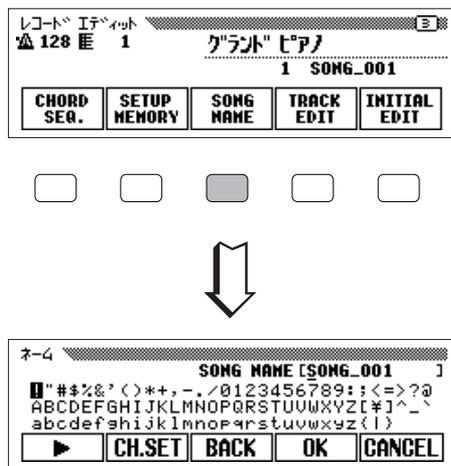
本体の内部メモリーの曲データ (P.135)に対しては、ソングネーム機能を使うことはできません。

## 操作

[準備] 名前を付けたい曲の入っているフロッピーディスクを挿入し、曲番号を選び、  
レコード オン  
【REC(録音)】をONにして、録音機能をONにします。

1 <sup>ページ</sup> PAGE(ページ)【◀】【▶】で、3ページめのレコードエディット(RECORD EDIT)画面を出し、  
レコード オン  
<sup>ソングネーム</sup>【SONG NAME】を押します。

⇒ネーム(NAME)画面が表示されます。



2 【▶】を押して下線の位置を移動し、文字位置を選びます(曲名は最大12文字まで付けることができます)。

【ダイヤル】や【-/+】を使って入力したい文字や記号を反転させ、  
キャラクター セット  
【CH. SET】を押すと、選んだ文字や記号が、下線が置かれている位置に入力されます。

入力を間違ったときは、<sup>バック</sup>【BACK】を押します。下線の一つ前の文字が消去され、消去された位置に下線が戻ります。

同じ要領で別の文字位置に下線を移動して、文字や記号を入力していきます。

3 <sup>オーケー</sup>【OK】を押して登録します。

新しい名前が現在の曲データ名として登録されます。中止したい場合は【キャンセル(CANCEL)】を押します。

# トラック別の編集 (トラックエディット[TRACK EDIT])

トラックエディット画面では、2つのトラックをミックスしたり、トラックを削除したり、録音した音符のタイミングをトラック単位で修正したりすることができます。

## トラックエディット[ミックス]

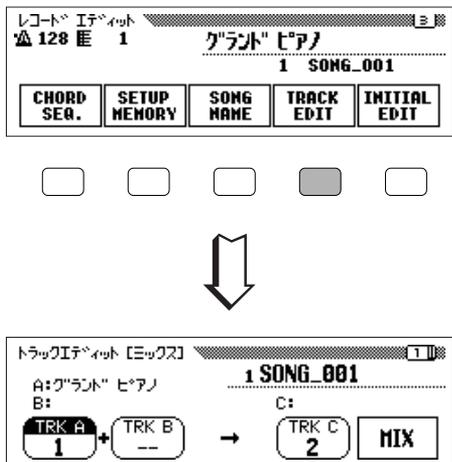
特定の2つのトラックのデータをミックスして、別のトラックにコピーすることができます。

### 操作

[準備] 編集したい曲の入っているフロッピーディスクを挿入し、曲番号を選び、  
【REC(録音)】をONにして、録音機能をONにします。

1 PAGE(ページ)【◀】【▶】で、3ページめのレコードエディット(RECORD EDIT)画面を出し、**[TRACK EDIT]**を押してトラックエディット機能をONにします。

⇒トラックエディット[ミックス](TRACK EDIT[MIX])画面が表示されます。



2 **[TRK A]**、**[TRK B]**を押して表示を反転させたあと、【ダイヤル】や【-/+】を使ってミックスしたい2つのトラックの番号を選びます。

⇒選んだトラックで使われている音色が、**[TRK A]**、**[TRK B]**の上にそれぞれ表示されます。

3 **[TRK C]**を押して表示を反転させたあと、【ダイヤル】や【-/+】を使ってミックス先のトラックの番号を選びます。

選んだトラックにすでにデータが入っている場合、ミックス後は上書きされて消去されることとなります。

ミックス後のトラックの、音色、ボリューム情報など(音符以外のすべてのデータ)は、**[TRK A]**で選ばれていた内容になります。

トラックコピー...  
**[TRK A]**、**[TRK B]**には、データが録音されているトラックだけが表示され、選べるようになっていきます。また、**[TRK B]**には、"---"(トラックを選ばない状態)も選択できるようになっています。これを選ぶと、結果として**[TRK A]**で選んであるトラックが、単純に**[TRK C]**にコピーされることとなります。

## 4

<sup>ミックス</sup> [MIX]を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。  
[はい(YES)]を押すと、トラックミックスが実行されます。中止したい場合は  
[いいえ(NO)]を押します。

⇒トラックミックスを実行すると、<sup>ミックス</sup> [MIX]の表示が<sup>アンドゥ</sup> [UNDO(取り消し)]の表示に  
変わります。トラックミックスの結果が期待通りでなかった場合に、  
<sup>アンドゥ</sup> [UNDO(取り消し)]を押すと、トラックミックスを実行する前の状態に戻すこ  
とができます。

トラックミックスの結果は、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して聞いて  
みることができます。

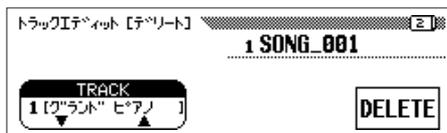
## トラックエディット[デリート]

特定のトラックのデータを削除することができます。

### 操作

1 <sup>オン</sup> トラックエディット機能をONにし(P.143)、<sup>ページ</sup> PAGE(ページ)【◀】【▶】  
でトラックエディット画面の2ページめを表示させます。

⇒トラックエディット[デリート](TRACK EDIT[DELETE])画面が表示されます。



2 <sup>トラック</sup> [TRACK] を押して表示を反転させたあと、【ダイヤル】や【-/+]を使っ  
て削除したいトラックを選びます。<sup>トラック</sup> [TRACK] を押しても選べます。

3 <sup>デリート</sup> [DELETE]を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示され  
ます。[はい(YES)]を押すと、トラックの削除が実行されます。中止したい場  
合は[いいえ(NO)]を押します。

⇒トラックの削除を実行すると、<sup>デリート</sup> [DELETE]の表示が<sup>アンドゥ</sup> [UNDO(取り消し)]の表示に  
変わります。結果が期待どおりでなかった場合に、<sup>アンドゥ</sup> [UNDO(取り消し)]を押す  
と、トラックの削除を実行する前の状態に戻すことができます。

トラック削除の結果は、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して聞いてみる  
ことができます。

トラックミックス実行中はLCD画面  
に横棒のグラフが、完了すると「終わ  
りました。(Completed)」が表示され画  
面が戻ります。

トラックミックスを実行しても、ミッ  
クス前の元のトラックのデータは残り  
ます。元のトラックのデータが不要に  
なった場合は、次に説明するトラック  
デリート機能で削除してください。

<sup>アンドゥ</sup> UNDOは、他のトラックを選んだり、  
この機能を終わると、できなくなります。

本体の内部メモリーの曲データ  
(P.135)に対しては、<sup>アンドゥ</sup> UNDOはでき  
ません。

データが録音されているトラックだけが  
表示され、選べるようになっています。

トラック削除実行中はLCD画面に横棒  
のグラフが、完了すると「終わりました。  
(Completed)」が表示され画面が戻ります。

<sup>アンドゥ</sup> UNDOは、他のトラックを選んだり、  
この機能を終わると、できなくなります。

本体の内部メモリーの曲データ  
(P.135)に対しては、<sup>アンドゥ</sup> UNDOはできま  
せん。

## トラックエディット[クオンタイズ]

一度録音したトラック内の音のタイミングのずれを、特定の音符のタイミングに合わせて修正することができます。たとえば、録音した音符を、正確に8分音符や16分音符のタイミングに合わせて並べることができます。

### 操作

- 1 トラックエディット機能を<sup>オン</sup>ONにし(P.143)、PAGE(ページ)【◀】【▶】でトラックエディット画面の3ページめを表示させます。  
⇒トラックエディット[クオンタイズ](TRACK EDIT[QUANTIZE])画面が表示されます。



- 2 <sup>トラック</sup>[TRACK] を押して表示を反転させたあと、【ダイヤル】や【-/+】を使ってクオンタイズしたいトラックを選びます。<sup>トラック</sup>[TRACK] を押しても選べます。
- 3 音符のイラストがついたLCDボタンを押して、次の中からタイミングを合わせたい音符の長さを選びます。



- 4 <sup>クオンタイズ</sup>[QUANTIZE]を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、クオンタイズが実行されます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。  
⇒トラッククオンタイズを実行すると、<sup>クオンタイズ</sup>[QUANTIZE]の表示が<sup>アンドゥ</sup>[UNDO(取り消し)]の表示に変わります。クオンタイズの結果が期待どおりでなかった場合に、<sup>アンドゥ</sup>[UNDO(取り消し)]を押すと、クオンタイズを実行する前の状態に戻すことができます。

クオンタイズの結果は、【PLAY/STOP(プレイ/ストップ)】を押して聞いてみる  
ことができます。

データが録音されているトラックだけが  
表示され、選べるようになっています。

ノートデータと音色データだけクオン  
タイズされます。

クオンタイズ実行中はLCD画面に横  
棒のグラフが、完了すると「終わしま  
した。(Completed)」が表示され画面が  
戻ります。

<sup>アンドゥ</sup>UNDOは、他のトラックを選んだり、  
新たな音符を選んだり、この機能を終  
わると、できなくなります。

本体の内部メモリーの曲データ  
(P.135)に対しては、<sup>アンドゥ</sup>UNDOはでき  
ません。

## 曲全体の初期値の編集 (イニシャルエディット[INITIAL EDIT])

16トラック全部を一度に表示して、ボリューム調節や音色、リバーブデプスなどの変更ができます。

以下の項目の変更ができます。項目について詳しくは、各参照ページをご覧ください。

### 1～16の各トラックを選んでいる場合

- VOLUME(ボリューム)(P.41,116)
- VOICE(ボイス)(P.50)
- PAN(パン)(P.56)
- REVERB DEPTH(リバーブデプス)(P.98)
- CHORUS DEPTH(コーラスデプス)(P.100)
- EFFECT DEPTH(エフェクトデプス)(P.102)

### <sup>トータル</sup> [TOTAL]を選んでいる場合

- TEMPO(テンポ)(P.43)
- REVERB DEPTH(トータルリバーブデプス)(P.98)
- REVERB TYPE(リバーブタイプ)(P.98)
- CHORUS TYPE(コーラスタイプ)(P.100)
- EFFECT TYPE(エフェクトタイプ)(P.102)

## 操作

[準備] 編集したい曲の入っているフロッピーディスクを挿入し、曲番号を選び、  
【REC(録音)】を<sup>レコード</sup>ONにして、録音機能を<sup>オン</sup>ONにします。

1 <sup>ページ</sup>PAGE(ページ)【◀】【▶】で、3ページめのレコードエディット(RECORD EDIT)画面を出し、<sup>イニシャルエディット</sup>[INITIAL EDIT]を押してイニシャルエディット機能を<sup>オン</sup>ONにします。

⇒イニシャルエディット(INITIAL EDIT)画面が表示されます。



曲全体に関わるデータは、曲の最初の部分に記録されているため、イニシャル(初期)エディットと呼んでいます。

2 <sup>トラック</sup> [TRACK] ◀ ▶ を押して、設定を変更したいトラックを選びます。ここで、<sup>トータル</sup> [TOTAL] を選ぶと、トラックごとの設定変更でなく、曲全体の設定を変更することになります。

3 <sup>セレクト</sup> [SELECT] を押して、設定を変更したい項目を選び、【ダイヤル】や【-/+】で設定値を変更します。曲を再生しながら設定の変更をすることができますので、変更した効果の具合を確認しながら設定できます。

4 必要な設定変更が終わったら、<sup>ライト</sup> [WRITE] を押します。「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、すべての変更結果が書き込まれます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

<sup>ライト</sup> [WRITE] を押すと、その表示が<sup>アンドゥ</sup> [UNDO(取り消し)]の表示に変わります。編集の結果が期待通りでなかった場合に、<sup>アンドゥ</sup> [UNDO(取り消し)]を押すと、編集を実行する前の状態に戻すことができます。

<sup>レコード</sup> 【REC(録音)】を押してランプを消すとイニシャルエディット機能を終了します。<sup>エグジット</sup> 【EXIT(戻る)】も同様に使えます。

書き込みを実行していない状態でこれらの操作を行なうと、「エディットしたデータを書き込みますか？(Write edited data?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、エディット内容が書き込まれ、イニシャルエディット機能が終了します。[いいえ(NO)]を押すと、エディット内容が書き込まれず、イニシャルエディット機能が終了します。キャンセルして作業を続けたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

<sup>ボイス</sup> VOICEを選んだ場合、<sup>ミディ</sup> MIDIでの音色選択に使われる <sup>プログラム・チェンジナンバー</sup> Program Change Number[PRG#]、<sup>バンク</sup> Bank LSB[BKL]、<sup>バンク</sup> Bank MSB[BKM] も表示されます。

<sup>トータル</sup> [TOTAL]を選び、リバーブデプス (REVERB DEPTH)の設定を変更すると、その設定効果は手弾きの音にもかかりません。

自動伴奏、リズム、ハーモニーのデータが録音されているトラックの音色も変更できます。

イニシャルエディットで<sup>ボイス</sup> VOICEを変更すると、元の曲データの途中にあった音色変更はなくなります。

データの種類によって、「Fixed」が表示され、変更できない項目がある場合や、1~2トラック以外の音色が変更できない場合があります。

設定変更中の再生時に<sup>リワインド</sup> 【REW(巻戻し)】を使うと、正確に再生されない場合があります。

変更結果の書き込み中はLCD画面に横棒のグラフが、完了すると「終わりました。(Completed!)」が表示され画面が戻ります。

1曲内の、編集されたすべてのトラックの内容が、1度の<sup>ライト</sup> [WRITE]を押す操作で書き替えられます。

<sup>アンドゥ</sup> UNDOは、設定変更の新たな操作をしたり、この機能を終わると、できなくなります。

本体の内部メモリーの曲データ<sup>トラック</sup> (P.135)に対しては、UNDOはできません。

## パネルの設定を曲データに記録する (セットアップメモリー[SETUP MEMORY])

曲を再生しながらの演奏に必要なパネルの設定を、曲データと共にフロッピーディスクに保存しておく、曲データを再生するときに、同時にパネル設定も読み込まれます。保存できる内容は、別冊「データリスト」の"設定値一覧"をご覧ください。

ここで保存した内容は、同じ曲番号に新たに録音し直したり、イニシャルエディット機能(P.146)で編集したりすると、消去されます。

### 操作

[準備] パネル設定を保存したい曲の入っているフロッピーディスクを挿入し、曲番号を選び、【REC(録音)】をONにして録音機能をONにしたあと、パネル設定をします。

1 <sup>ページ</sup>PAGE(ページ)【◀】【▶】で、3ページめのレコードエディット(RECORD EDIT)画面を出し、<sup>レコード</sup>【SETUP MEMORY】<sup>オン</sup>を押します。

⇒「パネルの設定をディスクに保存しますが、よろしいですか?(Save panel setting to disk?)」のメッセージが表示されます。

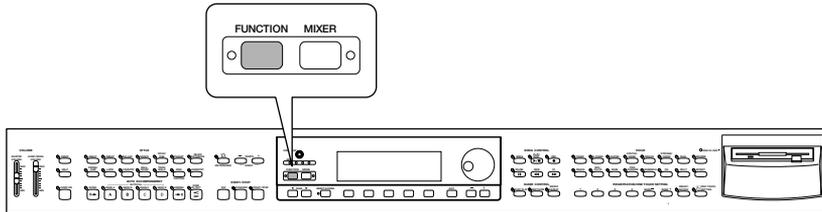


2 [はい(YES)]を押すと、パネル設定が書き込まれます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

パネル設定の書き込み中は、LCD画面に横棒のグラフが、完了すると「終わりました。(Completed!)」が表示され画面が戻ります。

# 第8章 便利なその他の諸設定(ファンクション) FUNCTION

ファンクションでは、ペダルやディスクに関する機能設定や、CVPをさらに便利に使いこなすための細かい設定ができます。



以下の項目が用意されています。

## キーボード(KEYBOARD)グループ

1 ページめ : [キーボード 1]画面(P.152)

- ピッチ調整 .....チューン[TUNE]
- 移調 .....トランスポーズ[TRANPOSE]
- 曲データ再生音の移調 .....ソングトランスポーズ[SONG TRANPOSE]

2 ページめ : [キーボード 2]画面(P.153)

- 鍵盤タッチの感度 .....キータッチ[KEY TOUCH]
- 音色付随の諸設定 .....ボイスセッティング[VOICE SETTING]

## ペダル(PEDAL)グループ

3 ページめ : [ペダル]画面(P.154)

- レフトペダルの機能 .....レフトペダル[LEFT PEDAL]
- グライド幅 .....グライドレンジ[GLIDE RANGE]
- ピッチバンド幅 .....ピッチバンドレンジ[BEND RANGE](CVP-109/107のみ)

## ディスク(DISK)グループ

4 ページめ : [ディスク 1]画面(P.156)

- ファイルの保存と読み込み

5 ページめ : [ディスク 2]画面(P.159)

- 曲データのコピー .....コピー[COPY]

6 ページめ : [ディスク 3]画面(P.161)

- 曲データの削除 .....ソングデリート[DELETE]

7 ページめ : [ディスク 4]画面(P.162)

- 曲データの変換 .....トランスフォーム[TRANSFORM]

8 ページめ : [ディスク 5]画面(P.163)

- ディスクのフォーマット .....フォーマット[FORMAT]

チューン=音程を合わせること

移調=曲全体の音程を上げたり下げたりして調を変えること

ファイル=あるデータのまとまりを1つの単位として保存したもの

## ミディ MIDIグループ

9ページめ：[MIDI 1]画面(P.164)

- 送信チャンネル.....送信チャンネルセンドチャンネル[SEND CH]
- ローカルコントロール.....ローカルコントロールローカル[LOCAL]
- 同期クロック.....シンクシンク[SYNC.]

10ページめ：[MIDI 2]画面(P.165)

- 送受信項目.....MIDIフィルターミディ フィルター[MIDI FILTER]

11ページめ：[MIDI 3]画面(P.166)

- 受信チャンネル.....レシーブフィルターレシーブフィルター[RECEIVE FILTER]

12ページめ：[MIDI 4]画面(P.167)

- 受信データへの移調付加.....MIDIトランスポーズミディ トランスポーズ[MIDI TRANS.]
- 自動伴奏送信/ハーモニー送信.....アコンパニメント アンド リズム [ACMP&RHY] ハーモニー [HARMONY]
- 曲の再生データ送信.....ソング [SONG]
- 手弾き音へのMIDIデータ受信.....リモート キーボード [REMOTE KBD]

## バックアップ(BACKUP)グループ

13ページめ：[バックアップ 1]画面(P.169)

- 電源OFF後も設定を保持する項目.....オフバックアップバックアップ[BACKUP]

14ページめ：[バックアップ 2]画面(P.170)

- 基本設定に戻す項目.....リコール [RECALL]

## ユーティリティ(UTILITY)グループ

15ページめ：[マイクロチューニング]画面(P.171)

- 1鍵盤ごとのチューニング.....マイクロ チューニング [MICRO TUNING]

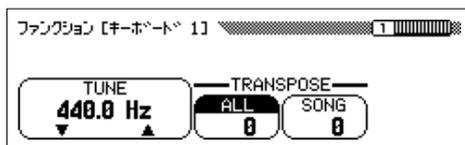
16ページめ：[スケールチューニング]画面(P.172)

- 音律.....スケール チューニング [SCALE TUNING]

スケール=音階

## 操作

- 1 **【FUNCTION(諸設定)】**を押してファンクション機能を<sup>オン</sup>にします。  
⇒ランプが点灯し、ファンクション画面が現れます。



- 2 **PAGE(ページ)【◀】【▶】**で使いたい機能の画面を開きます。  
ファンクションには全部で16ページあります。



- 3 LCDボタンを押して表示を反転させたあと**【ダイヤル】**や**【-/+]**を使って値を設定したり、直接LCDボタンで選んでさまざまな機能を実行します。
- 4 設定が完了したら**【FUNCTION(諸設定)】**を押して終了します。  
⇒**【FUNCTION(諸設定)】**のランプが消えます。  
**【EXIT(戻る)】**を押しても終了します。

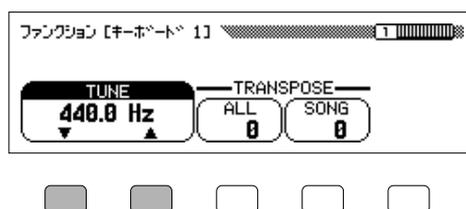
【ダイヤル】や【-/+]は、一度LCDボタンを押して表示が反転した、角の丸い四角で囲まれた項目で使えます。

# キーボード(KEYBOARD)グループ

## 1 ページめ[キーボード 1]画面

### チューン[TUNE]

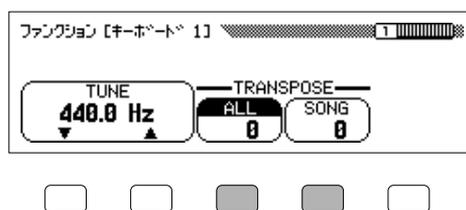
音程(ピッチ)を微調整することができます。合奏のときなどに、他の楽器と音程を正確に合わせることができます。**[TUNE]**にラの音(A3)の周波数(Hz)が表示されます。±約26Hz(±約100セント)の範囲を約0.2Hzきざみで設定できます。



### トランスポーズ[TRANSPOSE]

弾く鍵盤を変えずに、他の楽器や歌う人の声の高さにキーを合わせることができます。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。たとえば、トランスポーズ量を"+5半音"に設定すると、ドを弾いたときにファの音が出ることになり、言い替えれば八長調の弾き方でへ長調の演奏ができることになります。

**[ALL]**では手弾き音全体の、**[SONG]**では再生する曲データだけの音を移調することができます。**[ALL]**を設定すると、**[SONG]**も同じ分量の値が設定されます。**[ALL]**を設定したあと、**[SONG]**だけの設定を変えることができます。



チューン=音程を合わせること

チューン...  
設定範囲: 414.8Hz(-102.1セント)~  
466.6Hz(+101.62セント)  
基本設定: 440Hz

基本設定に戻すには...  
**[TUNE]** か **[-/+]** を同時に押します。

Hz = 音の高さを示す単位。1秒間に音波が何回振動するかという数値の単位。

セント = 半音を100等分した音程の単位。100セント = 半音

ドラム/SFXキット音色には、チューンは効きません。

XG Master Tuneのデータが入った曲の再生中は、XG Master Tuneの設定が有効になります。

トランスポーズ=移調(曲全体の音程を上げたり下げたりして調を変えること)

トランスポーズ...  
設定範囲: -24半音(-2オクターブ)~  
+24半音(+2オクターブ)  
基本設定: 0

基本設定に戻すには...  
**[-/+]** を同時に押します。

トランスポーズによって元の88鍵を越える音域になる音は、異質な響きになる場合があります。

各種のドラム/SFXキット音色にはトランスポーズはかかりません。

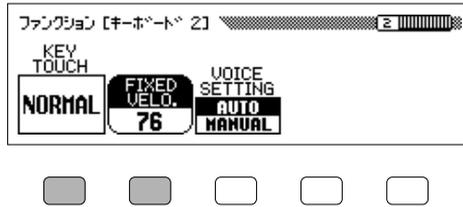
XG Transposeのデータが入った曲の再生中は、曲の再生音にだけそのトランスポーズデータが有効になります。手弾き音には、パネルで設定した値が有効です。

ここでの設定は、MIDI送信される演奏データに対しても有効になります。

## 2 ページめ [ キーボード 2 ] 画面

### キータッチ<sup>キー タッチ</sup> [ KEY TOUCH ]

弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感)を、4種類の中から選ぶことができます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。



以下の値が設定できます。

<sup>ノーマル</sup>  
[NORMAL] ...標準的なタッチです。(=基本設定)

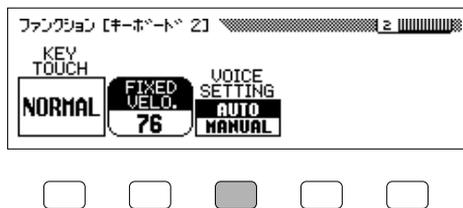
<sup>ソフト</sup>  
[SOFT] .....軽いタッチで大きな音を出すことができます。比較的につづがそろいやすいタッチです。

<sup>フィックス</sup>  
[FIXED] .....タッチによる音の強弱は付かず、一定のボリュームが出ます。そのボリュームは、<sup>フィックスド ベロシティ</sup> [FIXED VELO.] を押して表示を反転させたあと、【ダイヤル】や【-/+】で設定できます。

<sup>ハード</sup>  
[HARD] .....強いタッチで弾かないと大きな音が出にくい設定です。ピアノシモからフォルティッシモまで表情豊かな演奏ができます。

### ボイスセッティング<sup>ボイス セッティング</sup> [ VOICE SETTING ]

音色を選んだときに、音色ごとに設定されているリバーブやコーラスなどの各種の効果設定を、自動的に選ばれるようにするか、選ばれないようにするかを設定できます。<sup>オート</sup> [AUTO] にすると、自動的に選ばれるようになり、<sup>マニュアル</sup> [MANUAL] にすると自動的に選ばれないようになります。



#### 自動設定される内容

- リバーブの<sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFF .....(P.97)
- リバーブデプス .....(P.98)
- コーラスデプス .....(P.100)
- エフェクトの<sup>オン</sup>ON/<sup>オフ</sup>OFF .....(P.102)
- エフェクトタイプ .....(P.102)
- エフェクトデプス .....(P.103)
- エフェクトバリエーション .....(P.103)
- ハーモニータイプ .....(P.77)
- ハーモニースピード .....(P.78)
- ハーモニーボリューム .....(P.78)
- オクターブ .....(P.56)

キータッチ...<sup>ノーマル</sup>  
基本設定：NORMAL

鍵盤自体の重さは変わりません。

ベロシティ=速度(CVPでは鍵盤が打鍵によって押し下げられる速度から打鍵の強さを測り、ボリュームを導き出します。)

フィックスドベロシティ...  
設定範囲：1 ~ 127  
基本設定：76

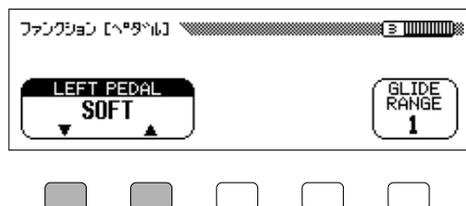
ボイスセッティング...<sup>オート</sup>  
設定範囲：AUTO/MANUAL  
基本設定：AUTO

# ペダル(PEDAL)グループ

## 3 ページめ [ペダル] 画面

### レフトペダル<sup>レフトペダル</sup>[LEFT PEDAL]

左のペダルに、いろいろな機能を割り当てることができます。



#### 設定できる機能と内容

- <sup>ソフト</sup>[SOFT] .....ソフトペダル(P.62)になります(基本設定)。
- <sup>スタート</sup> <sup>ストップ</sup>[START/STOP] .....【START/STOP(スタート/ストップ)】(P.26、65、109、129)と同じ機能になります。
- <sup>ハーモニー</sup>[HARMONY] .....ハーモニー機能(P.76)がONのとき、左ペダルを踏んでいる間だけ、ハーモニーをつけることができます
- <sup>レジストレーション</sup>[REGISTRATION] .....左ペダルを踏むごとに、次のレジストレーションナンバーに登録されているパネル状態を呼び出すことができます。(P.105)
- <sup>レジストレーション</sup> <sup>フリーズ</sup>[REG.FREEZE] .....レジストレーション[フリーズ]画面の<sup>フリーズ</sup>[FREEZE]ボタン(P.106)のON/OFFが、左ペダルでできます。
- <sup>エンディング</sup> <sup>リタルダント</sup>[ENDING/ RIT] .....【<sup>エンディング</sup>ENDING(後奏)】(P.67)と同じ機能になります。2回続けて左ペダルを踏むとリタルダントして終わります。
- <sup>ブレイク</sup>[BREAK] .....伴奏スタイルが鳴っているときに左ペダルを踏むと、踏んでいる間だけブレイクを入れることができます。ペダルから足を離すと、次の小節からもとに戻ります。1小節以内にもう一度左ペダルを踏むと、すぐにもとに戻すことができます。
- <sup>ブレイクフィル</sup>[BREAK FIL] .....伴奏スタイルが鳴っているときに左ペダルを踏むと、ブレイクぎみのフィルが鳴ります。ペダルから足を離すと、次の小節からもとに戻ります。1小節以内にもう一度左ペダルを踏むと、すぐにもとに戻すことができます。
- <sup>ベース</sup> <sup>ホールド</sup>[BASS HOLD] .....自動伴奏の演奏中に左ペダルを踏むと、踏んでいる間は、違うコードを弾いてもベースパートの音程を保持できます。オンコードが演奏できます。ただし、<sup>フルキーボード</sup>[FULL KEYBOARD]を選んでいる場合は、この機能は無効です。

レフトペダル<sup>ソフト</sup>...  
基本設定：SOFT

左ペダルを<sup>レジストレーション</sup>REGISTRATIONに設定している場合、レジストレーションに設定されているレフトペダル機能は呼び出されません。

フェードイン アウト  
 • **[FADE IN/OUT]** .....【FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)】(P.68)と同じ機能になります。

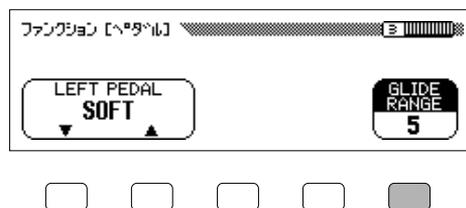
エフェクト バリエーション  
 • **[EFFECT VARI]** .....エフェクト画面の**[VARIATION]**ボタン(P.103)のON/OFFが左ペダルでできます。

グライドアップ スロー  
 • **[GLIDE UP S]**  
グライドアップ ミディアム  
 • **[GLIDE UP M]**  
グライドアップ ファスト  
 • **[GLIDE UP F]** .....左ペダルを踏むと音程が上がり、左ペダルを離すと一定の速度で(グライドアップスロー [ GLIDE UP S ]ではゆっくり、グライドアップミディアム [ GLIDE UP M ]では中位の速さで、グライドアップファスト [ GLIDE UP F ]では速く)元の音程に戻る、グライド(なめらかに音程を変化させる機能)をかけることができます。

グライドダウン スロー  
 • **[GLIDE DOWN S]**  
グライドダウン ミディアム  
 • **[GLIDE DOWN M]**  
グライドダウン ファスト  
 • **[GLIDE DOWN F]** .....左ペダルを踏むと音程が下がり、左ペダルを離すと一定の速度で(グライドダウンスロー [GLIDE DOWN S]ではゆっくり、グライドダウンミディアム [ GLIDE DOWN M ]では中位の速さで、グライドダウンファスト [ GLIDE UP F ]では速く)元の音程に戻る、グライド(なめらかに音程を変化させる機能)をかけることができます。

### グライドレンジ[GLIDE RANGE]

グライドの幅を設定します。



グライド = 一定の速度でなめらかに音程を変化させる機能

グライドレンジ...  
 設定範囲: 1半音 ~ 12半音(1オクターブ)  
 基本設定: 1

# ディスク(DISK)グループ

## 4ページめ[ディスク 1]画面

### ファイルの保存と読み込み

この画面では、レジストレーション(P.104)、オールセットアップ(P.156)の各ファイルを、フロッピーディスクに保存したり(<sup>セーブ</sup>SAVE)、ディスクに保存してあるファイルを読み込んだり(<sup>ロード</sup>LOAD)、ディスクから削除したり(<sup>デリート</sup>DELETE)、名前を付けたり(<sup>ネーム</sup>NAME)することができます。

これらの操作を行なう前に、正しいディスク(各ファイルが入っているもの、または保存するためのディスク)がディスクドライブにセットしてあり、【SONG(ソング)】のランプが消えているかどうか確認してください。

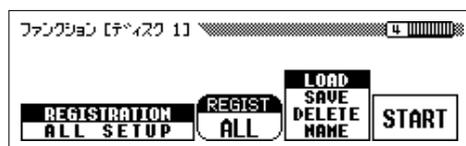
ファイル=あるデータのまとまりを1つの単位として保存したもの

この画面でのファイル操作は、【SONG(ソング)】のランプが点灯しているときは行なえません。【SONG(ソング)】のランプが点灯しているときは、【SONG(ソング)】を押してランプを消灯させてから操作し直してください。

レジストレーション、オールセットアップによって登録されているパネル状態の内容については、別冊「データリスト」の"設定値一覧"をご参照ください。

### 操作

- 1 左から1番めか2番めのLCDボタンを押して、操作の対象となるファイルの種類を選びます。



- <sup>レジストレーション</sup>[REGISTRATION] ..... 20種類のレジストレーションの各ファイル、またはすべてのファイルの1セット
- <sup>オールセットアップ</sup>[ALL SETUP] ..... 別冊「データリスト」の"設定値一覧"に載っているパネルセッティング内容のファイル

<sup>レジストレーション</sup>[REGISTRATION]を選び、読み込み<sup>ロード</sup>[LOAD]や保存<sup>セーブ</sup>[SAVE]をする場合は、さらに<sup>レジスト</sup>[REGIST]を押して、読み込み<sup>ロード</sup>[LOAD]の場合、本体の読み込み先の番号を、保存<sup>セーブ</sup>[SAVE]の場合、保存するレジストレーションファイルの番号を選びます。<sup>オール</sup>[ALL]、[A-1 ~ E-4]の中から選べます。

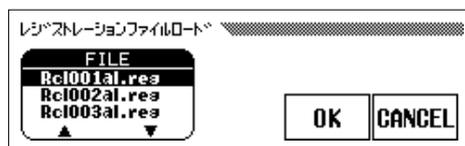
- 2 右から2番目のLCDボタンで、<sup>ロード</sup>[LOAD](読み込み)/<sup>セーブ</sup>[SAVE](保存)/<sup>デリート</sup>[DELETE](削除)/<sup>ネーム</sup>[NAME](名前変更)の中から実行したい操作を選びます。

- 3 <sup>スタート</sup>[START]を押すと、操作が始まります。

これから先の手順は、選んだ操作によって異なります。以下の各操作の説明をご参照ください。

ロード  
[LOAD] (読み込み)

ロード  
[LOAD]を選ぶと、ロード画面が表示されます。ファイルを読み込むと本体のファイルは上書きされて消えますので、消したくない場合は、先にディスクに保存 (P.157)してください。



- 1 読み込みたいファイルを選び、[OK]を押します。  
⇒「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。
- 2 [はい(YES)]を押すと、選んだファイルが読み込まれます。  
中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

セーブ  
[SAVE] (保存)

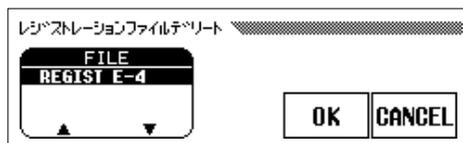
セーブ  
[SAVE]を選ぶと、保存するファイルに名前を付ける画面が現れます。



- 1 [▶]を押して下線の位置を移動し、文字位置を選びます(名前は最大12文字まで付けることができます)。  
【ダイアル】や【-/+]を使って入力したい文字や記号を反転させ、  
キャラクターセット  
[CH.SET]を押すと、選んだ文字や記号が、下線の位置に入力されます。  
入力を間違ったときは、バック  
[BACK]を押します。下線の一つ前の文字が消去され、消去された位置に下線が戻ります。  
同じ要領で別の文字位置に下線を移動して、文字や記号を入力していきます。  
キャンセル  
[CANCEL]を押すと、名前を付ける作業を中断して、ファンクション[ディスク1]画面に戻ります。
- 2 名前が完成したら、セーブ  
[SAVE]を押して保存を実行します。  
保存を実行したときに保存先のディスクにすでに同じ名前のファイルが存在する場合は、「同じ名前のファイルがあります。入れ替えますか？(Same name! Overwrite?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、既存のファイルに上書きされます。キャンセルしたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

デリート  
[DELETE] (削除)

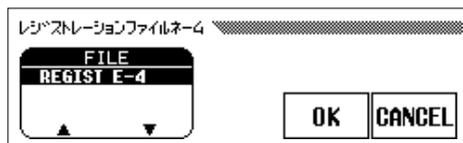
デリート  
[DELETE] を選ぶと、デリート画面が表示されます。



- 1 削除したいファイルを選び、[OK]を押します。  
⇒「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。
- 2 [はい(YES)]を押すと、選んだファイルが削除されます。  
中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

ネーム  
[NAME] (名前変更)

ネーム  
[NAME] を選ぶと、ファイルネーム画面が表示されます。



- 1 名前を変更したいファイルを選び、[OK]を押します。  
⇒保存[SAVE]の時と同じ、名前を付ける画面が現われます。
- 2 保存[SAVE]の時と同じ方法で新しい名前を入力します。  
⇒[OK]を押すと新しい名前に変更されます。  
中止したい場合は[CANCEL]を押します。[OK]を押したとき、ディスクにすでに同じ名前のファイルが存在する場合は、「同じ名前のファイルがあります。入れ替えますか？(Same name! Overwrite?)」のメッセージが表示されます。  
[はい(OK)]を押すと、名前を変更したファイルが、既存のファイルに上書きされます。キャンセルしたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

## 5 ページめ [ディスク 2] 画面

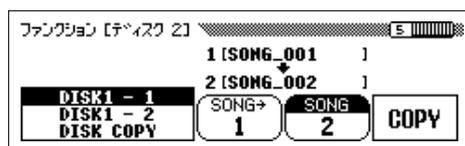
### コピー [COPY]

この画面では、CVP-201で録音した曲データを、同じディスクの中で別の曲番号にコピーしたり、別のディスクにコピーしたり、ディスクの内容すべてを別のディスクにコピーすることができます。

### 操作

[準備] コピー元の曲データが入ったディスクをディスクドライブに差し込みます。

1 左から1番目か2番目のLCDボタンを押して、コピーの方法を選びます。



次の3種類の方法が用意されています。

- **[DISK 1-1]**.....曲を同じディスク内の別の曲番号にコピーします。
- **[DISK 1-2]**.....曲を別のディスクへコピーします。
- **[DISK COPY]**.....ディスクの内容すべてを別のディスクにコピーします。

コピーの方法として**[DISK COPY]**を選んだ場合は操作4へ進んでください。

2 **[SONG ]**が反転している状態で、【ダイヤル】や【-/+]を使ってコピー元となる曲番号(1~99)を選びます。

⇒ 選んだ曲名がLCD画面の中段に表示されます。

コピーの方法として**[DISK 1-1]**を選んだ場合は操作3へ、**[DISK 1-2]**を選んでいるときは操作4へ進んでください。

3 **[SONG ]**を押して表示を反転させたあと、【ダイヤル】や【-/+]を使ってコピー先となる曲番号(1~60)を選びます。

⇒ 選んだ曲番号にすでに曲データが入っている場合、その曲名がLCD画面の中段に表示されます。また、この場合コピーを実行すると、コピー元の曲が上書きされコピー先の曲は消えます。

市販ミュージックデータのコピー時の注意

- ・ 市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、コピー機能は個人で楽しむ範囲でご利用ください。
- ・ 市販のミュージックデータの中には、内部プロテクトがかけられており、コピーできないものもあります。

コピー操作は、【REC(録音)】のランプが点灯しているときは行なえません。【REC(録音)】のランプが点灯しているときは、【REC(録音)】を押してランプを消灯させてから、操作し直してください。

ディスクを使わずに内部メモリーへ録音した曲データがある場合は、コピーの方法は自動的に[CUP-DISK]になり、**[DISK 1-1]**、**[DISK 1-2]**、**[DISK COPY]**の方法は選べません。この場合は、まず内部メモリーの曲データを、ディスクにコピーしたあと、ソングデリート機能(P.161)を使って削除してください。

コピー先の曲番号として、61以上の番号は選べません。

同じディスク内でコピーを行なう場合に、コピー元を選んだあと、コピー元と同じ曲番号をコピー先として選んでも、コピーは実行されません。このような操作をした場合、「他の曲番号を選んでください！(Select a different song number!)」が表示されます。

## 4

<sup>コピー</sup>  
[COPY]を押してコピーを実行します。

### 同じディスクに曲のコピーを行なう場合

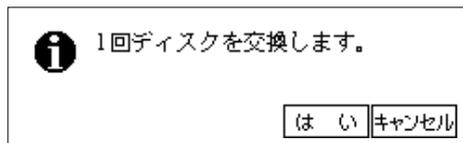
⇒「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。

- ⇒ [はい(YES)]を押すと、コピーが続きます。  
中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

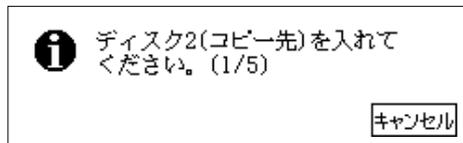
### 別のディスクに曲のコピーを行なう場合とディスクの内容すべてを別のディスクへコピーする場合

⇒「\*\*回ディスクを交換します。(Number of disk exchange (\*\*))」が表示され、コピーを完了するまでに、何回コピー元とコピー先のディスクを入れ替える必要があるかが示されます。

- ⇒ [はい(OK)]を押すとコピーが続きます。  
中止したい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。



別のディスクへのコピーを続けた場合、次のようなLCD画面の指示に従ってコピー元とコピー先のディスクを入れ替えながら、コピー作業を進めます。



別のディスクへの曲のコピーの場合、最初にコピー先のディスクを入れたときに、次のLCD画面が表示されますので、【ダイヤル】や【-/+]を使ってコピー先の曲番号(1~60)を選びます。

⇒ 選んだ曲番号にすでに曲が入っている場合、その曲名がLCD画面に表示されます。また、この場合コピーを実行すると、コピー元の曲データが上書きされコピー先の曲は消えます。

- ⇒ [はい(OK)]を押すと、コピーが続きます。  
キャンセルしたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。



ディスクの内容すべてを別のディスクにコピーする場合に、コピー元のディスクへコピーを実行しようとする、「同じディスクにコピーしようとしています！(Can't copy to source disk)」が表示されます。

ディスクの内容すべてを別のディスクにコピーする場合に、2DDディスクから2HDディスクに、2HDディスクから2DDディスクにコピーしようとする、「フロッピーディスクのタイプ(2DD/2HD)が違います！(Destination disk isn't same type(2DD/2HD)as source)」が表示されます。

CVP-109/107/105/103/201以外で作られたデータを1度コピーしたディスクから、さらに別のディスクにコピーすることはできません。また、コピーしたDOCファイルの右手/左手パート以外には追加録音できません。

## ディスクを使わずに録音した曲データのコピー

ディスクを入れずに曲を録音した場合、CVP-201本体の内部メモリーに曲データが入っています。このデータをディスクへコピーする場合、まずファンクション[ディスク2]画面を開き、フォーマットされたディスクを差し込みます。

⇒ [CUP-<sup>ディスク</sup>DISK]の方法が自動的に選ばれます。

➡ コピー先の曲番号を選んで、通常のコピー操作を行ないます。

これにより、内部メモリーのデータがコピー元となり、ディスクにコピーすることができます。



内部メモリーにデータがある場合、<sup>ディスク</sup>[DISK 1-1]、<sup>ディスク</sup>[DISK 1-2]、<sup>ディスク</sup>[DISK COPY]の方法は選べません。

## 6ページめ[ディスク 3]画面

### デリート<sup>デリート</sup>[DELETE]

この画面では、ディスクから不要な曲データを削除<sup>デリート</sup>[DELETE]することができます。削除したあとは、元に戻すことはできませんので、大切なデータを誤って削除してしまわないよう、ご注意ください。

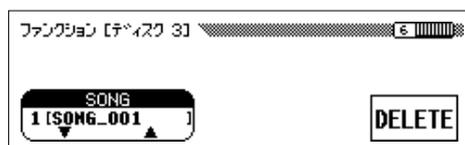
デリート操作は、【REC(録音)】のランプが点灯しているときは行なえません。【REC(録音)】のランプが点灯しているときは、【REC(録音)】を押してランプを消灯させてから、操作し直してください。

### 操作

[準備] 削除したい曲データが入ったディスクをディスクドライブに差し込みます。

1 【ダイヤル】や【-/+]を使って削除したい曲を選びます。

CVP-201の内部メモリーの曲データを削除したい場合は、曲番号の代わりに[CUP <sup>メモリー</sup>MEMORY]を選びます。



2 <sup>デリート</sup>[DELETE]を押して、削除を実行します。

⇒ 「よいですか? (Are you sure?)」のメッセージが表示されます。

➡ [はい(YES)]を押すと、選んだ曲が削除されます。

中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

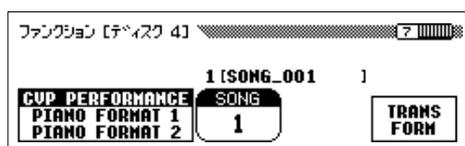
## 7ページめ[ディスク 4]画面

### トランスフォームトランスフォーム[TRANSFORM]

この画面では、CVP-201で録音したソングデータを、他のクラビノーバやピアノプレーヤ、サイレントアンサンブルピアノで再生できるように変換することができます。これらのファイル操作を行なう前に、正しいディスク(変換したい曲が入っている2DDのディスク)がディスクドライブにセットしてあり、【SONG(ソング)】のランプが消えているかどうか確認してください。

### 操作

- 1 左から1番めか2番めのLCDボタンで、どの楽器用にデータ変換をするのかを決めるために変換形式を選びます。



次の3種類の変換形式が用意されています。

- **[CUP PERFORMANCE]** パフォーマンス .....この変換形式を選ぶと、CVP-70/50/75/65/55/89/87/85/83、CLP-705、DOM-30、DOU-10で再生できるようになります。
- **[PIANO FORMAT 1]** ピアノフォーマット .....この変換形式を選ぶと、ピアノプレーヤSXシリーズ、RFシリーズ、HG、HQ、HQ Grand、サイレントアンサンブルピアノで再生することができます。
- **[PIANO FORMAT 2]** ピアノフォーマット .....この変換形式を選ぶと、ピアノプレーヤMXシリーズで再生できるようになります。

- 2 【ダイヤル】や【-/+]で変換したい曲を選びます。

- 3 トランスフォーム [TRANSFORM]を押して、変換を実行します。

⇒「よいですか?(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。

➡【はい(YES)]を押すと、選んだ曲のデータ変換が始まります。

中止したい場合は【いいえ(NO)]を押します。

変換が終了すると、「SONG No.\*\*に入りました。(Completed! SONG No.\*\*)」が表示され、変換された曲が何曲めに保存されたかを示します。変換された曲は自動的に曲番号が決まります。また、**[CUP PERFORMANCE]**の変換形式によって変換を行なった場合は、元の名前の最初に"C"が付けられ、**[PIANO FORMAT 1/2]**の変換形式によって変換を行なった場合は、元の名前の最初に"P"が付けられます。

トランスフォーム操作は、【SONG(ソング)】のランプが点灯しているときは行なえません。【SONG(ソング)】のランプが点灯しているときは、【SONG(ソング)】を押してランプを消灯させてから操作し直してください。

**データ変換に使用できるディスクの種類...**  
2DDのディスクに入っている曲データのみ変換することができます。2HDのディスクでこの操作を実行しようとすると、「2HDディスクは使えません! 2DDディスクにコピーしてください。(2HD disk not valid! Copy to 2DD disk.)」が表示されます。このような場合、まず、ソングコピー機能(P.159)を使って、変換したい曲データを2DDのディスクにコピーし、そのディスクを使ってここでこの操作を実行してください。

**内部メモリー上にある曲データは...**

CVP-201で録音された、ディスクに入っている曲データだけ変換することができます。CVP-201の内部メモリー上にある曲データは、一度ディスクに保存してからでないと変換できません。

データ変換後も変換前の曲データは、そのまま残ります。

以下の楽器では、曲データを変換しなくてもそのまま再生できます。

- ・ 左の表に掲載されていないCVPシリーズのモデル
- ・ CLP-870
- ・ MDP10
- ・ EMR1
- ・ DGP-2XG

ただし、より高いデータの再現性を確保するために、MDP10で再生する前提で曲データを作成する場合はXG音色を、それ以外の楽器で再生する前提で曲データを作成する場合は、ピアノ以外の音色についてXG音色を使用することをおすすめします。

変換された曲は、1~60の曲番号に保存されます。(61以上の番号は使われません。)

変換後の曲データには録音や編集はできません。

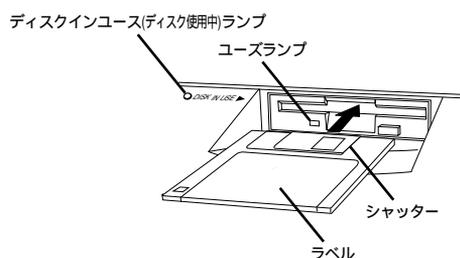
## 8 ページめ[ディスク 5]画面

### フォーマット<sup>フォーマット</sup>[FORMAT]

フロッピーディスクをCVP-201用に初期化(フォーマット)します。何もデータの入っていない新しいディスクや、異なるフォーマットのディスクの初期化については、P.125をご覧ください。ここでの操作は、すでにCVP-201で使用中のディスクを、すべてのデータを消去するために初期化する場合の操作です。

### 操作

- 1 ライトプロテクトタブ(P.10)が"録音可"の位置になっていることを確認して、フロッピーディスクを、シャッター側を奥に、ラベル面を上にして、ディスクドライブにカチッと音がするまでいねいに差し込みます。



- 2 <sup>スタート</sup>[START]を押して、初期化を実行します。  
⇒「よいですか？(Are you sure?)」と確認を求めるメッセージが現われますので、初期化を実行する場合は[はい(YES)]を、中止する場合は[いいえ(NO)]を押します。



初期化中はLCD画面に横棒のグラフが表示され、経過を示します。完了すると、そのディスクに曲を録音したり、コピーしたり、その他のデータを保存することができるようになります。

使用中のディスクを初期化すると、それまでディスクに記録されていたデータは全部消えてしまいます。ご注意ください。

**フォーマットの種類...**  
2DDのディスクは720KB、2HDのディスクは1.44MBにフォーマットされます。

フォーマット操作は、【SONG(ソング)】のランプが点灯しているときは行なえません。【SONG(ソング)】のランプが点灯しているときは、【SONG(ソング)】を押してランプを消灯させてから操作し直してください。

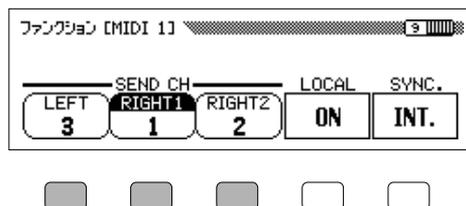
<sup>ディスクインユース</sup>DISK IN USE(ディスク使用中)ランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。

# ミディ MIDIグループ

## 9ページめ[MIDI 1]画面

### 送信チャンネル[SEND CH]

ミディ楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でミディチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここではCVP-201からミディデータを送信するときのチャンネルを設定します。



次の3種類の演奏情報に対して、それぞれ個別に設定することができます。

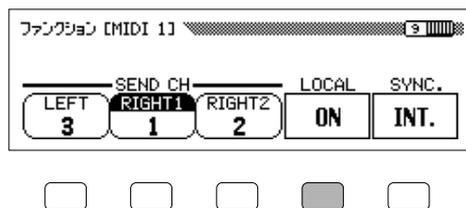
- **[LEFT]**.....スプリット機能ON時の左領域音色
- **[RIGHT1]**.....スプリット機能ON時の右領域音色/デュアル機能ON時の第1音色/通常演奏時の音色
- **[RIGHT2]**.....デュアル機能ON時の第2音色

### ミディMIDI受信について

CVP-201の音源部は"マルチティンバー"と呼ばれる仕様になっており、外部ミディ機器から別々のミディチャンネルによって送信されるデータを、チャンネルごとに異なる音色で同時に鳴らすことができます。たとえば、コンピューターやミディシーケンサーを使ってCVP-201でアンサンブル演奏をさせることができます

### ローカルコントロール[LOCAL]

通常、クラビノーバは、鍵盤を弾いて内蔵されている音源をコントロールし、音を出すしくみになっています。この状態はローカルコントロールONと呼ばれます。ローカルコントロールをOFFにすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもCVP-201からは音が出なくなります。CVP-201から音が出なくなっても、鍵盤を弾いた演奏情報はミディ出力されますので、CVP-201では音を鳴らさずにミディで他の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールを[OFF]にします。



ミディMIDI端子を使う場合はHOST SELECTスイッチを「MIDI」に設定してください。

### 送信チャンネル...

**[LEFT]**  
設定範囲：OFF(送信しない)、1~16チャンネル  
基本設定：3

**[RIGHT1]**  
設定範囲：OFF(送信しない)、1~16チャンネル  
基本設定：1

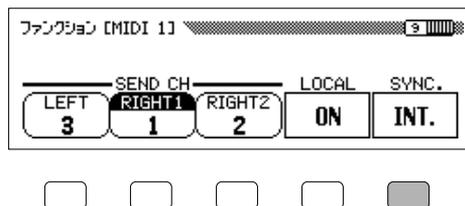
**[RIGHT2]**  
設定範囲：OFF(送信しない)、1~16チャンネル  
基本設定：2

### ローカルコントロール...

設定範囲：ON/OFF  
基本設定：ON

## シンク<sup>シンク</sup>[SYNC.]

通常、曲データ、市販のミュージック データ、自動伴奏などは、CVP-201で指定したテンポに従い、内部クロック(INT.)によって演奏されます。このクロックを外部(EXT.)に設定することによって、CVP-201のテンポを外部のシーケンサーやリズムマシンからコントロールすることができます。たとえば、外部のシーケンサーのテンポに合わせてCVP-201の自動伴奏を演奏させることができます。

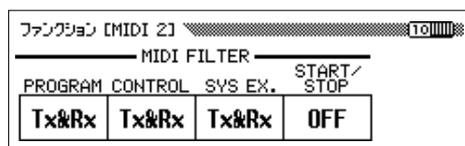


シンク...

設定範囲：INT.(内部クロック)/EXT.(外部クロック)

基本設定：INT.(内部クロック)

## 10ページめ[MIDI 2]画面



## ミディ<sup>ミディ</sup> フィルター<sup>ミディ フィルター</sup>[MIDI FILTER]

この画面には、どのタイプのMIDIデータを送信したり、受信したりできるようにするかを設定する、MIDIフィルター(MIDI FILTER)の機能があります。

## プログラム<sup>プログラム</sup>[PROGRAM]

MIDIでは、プログラムチェンジを使って送信側の機器から受信側の機器の音色ナンバーを切り替えることができます。たとえば、外部MIDIシーケンサーからプログラムチェンジがCVP-201に送信されると、CVP-201で受信するMIDIの演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音は切り替わりません)。また、CVP-201からプログラムチェンジを送信すると外部MIDI機器の音色を切り替えることができます。(CVP-201のパネル上で音色を切り替えたときにプログラムチェンジが送信されます。)

いろいろなMIDIシステムを組んでいくと、このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合とがあります。他の機器と音色切り替えを連動させたくない場合は、[PROGRAM]を[OFF]にしてください。[PROGRAM]を[Tx&Rx]にすると送/受信がONになります。

プログラム...

設定範囲：Tx&Rx(送/受信できる状態)/OFF(送/受信できない状態)

基本設定：Tx&Rx(送/受信できる状態)

プログラムの設定がOFFの場合でも、BANK MSB、LSBの送受信は行なわれます。

## コントロール [CONTROL]

MIDIでは、コントロールチェンジを使って、ダンパーペダルの操作やエフェクトやボリュームなどの演奏表現を、送信側の機器から受信側の機器に伝えることができます。たとえば、外部MIDIシーケンサーからコントロールチェンジがCVP-201に送信されると、CVP-201で受信するMIDIの演奏データがそれに反応します(このとき鍵盤での手弾き音には影響しません)。また、CVP-201から、外部へコントロールチェンジを送信すると、外部MIDI機器の演奏をコントロールすることができます。(CVP-201でダンパーペダルなどの操作をしたときにコントロールチェンジが送信されます。)コントロールチェンジを送/受信したくない場合は、[CONTROL]を[OFF]にしてください。

CVP-201がコントロールチェンジとして扱える情報は、別冊「リストブック」P.17の"MIDIデータフォーマット"に詳しくまとめてあります。

## システムエクスクルーシブ [SYS EX.]

MIDIでは、システムエクスクルーシブメッセージを使って、MIDI機器やメーカー固有の各種のデータを送信側の機器から受信側の機器に伝えることができます。システムエクスクルーシブメッセージを送/受信したくない場合は、[SYS EX.]を[OFF]にしてください。[SYS EX.]を[TX&RX]にすると送/受信がONになります。

CVP-201がシステムエクスクルーシブメッセージとして扱える情報は、別冊「データリスト」の"MIDIデータフォーマット"に詳しくまとめてあります。

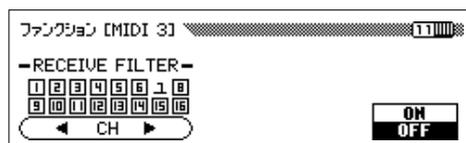
## スタート/ストップ [START/STOP]

MIDIでは、スタート/ストップコマンドを使って、送信側の機器から受信側の機器のリズムや演奏をスタート/ストップすることができます。たとえば、外部MIDIシーケンサーからスタート/ストップコマンドをCVP-201に送信し、自動伴奏やソングなどの演奏をスタート/ストップすることができます。また、CVP-201で自動伴奏などのスタート/ストップ操作をしたときに、外部MIDIシーケンサーやリズムマシンの演奏をスタート/ストップすることができます。スタート/ストップを送受信したくない場合は、[START/STOP]を[OFF]にしてください。[START/STOP]を[TX&RX]にすると送受信がONになります。

## 11ページめ[MIDI 3]画面

### レシーブフィルター[RECEIVE FILTER]

CVP-201が、どのチャンネルのMIDIデータを受信するかを設定します。  
[CH] ◀▶ で1~16のチャンネルを選び、一番右のLCDボタンでON/OFFを設定します。



### コントロール...

設定範囲：Tx&Rx(送/受信できる状態)/OFF(送/受信できない状態)  
基本設定：Tx&Rx(送/受信できる状態)

### システムエクスクルーシブメッセージ...

設定範囲：Tx&Rx(送/受信できる状態)/OFF(送/受信できない状態)  
基本設定：Tx&Rx(送/受信できる状態)

### スタート/ストップ...

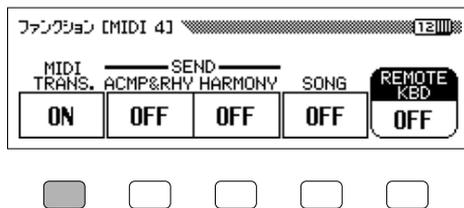
設定範囲：Tx&Rx(送/受信できる状態)/OFF(送/受信できない状態)  
基本設定：OFF(送/受信できない状態)

### レシーブフィルター...

設定範囲：ON/OFF  
基本設定：ON

## 12ページ目[MIDI 4]画面

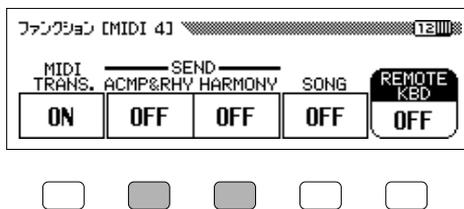
**MIDIトランスポーズ[MIDI TRANSPOSE]**  
 [MIDI TRANS.]をONにすると、P.152のトランスポーズの設定が、CVP-201で受信するMIDIデータに対して有効になります。



### 自動伴奏送信/ハーモニー送信 [ACMP&RHY] [HARMONY]

自動伴奏とハーモニーの再生データをMIDI送信するかどうかを設定します。  
 [ACMP&RHY]を[9-16]にすると、自動伴奏やリズムの再生時に、再生音がMIDIデータとしてMIDI【OUT】から送信されます。この場合、MIDIチャンネルの9~16を使って送信されます。

[HARMONY]を[6-8]にすると、ハーモニー機能の下記のハーモニータイプを使用しているときのハーモニー(付加されている装飾音など)の再生音が、MIDIデータとしてMIDI【OUT】から送信されます。この場合、MIDIチャンネルの6~8を使って送信されます。下記以外のタイプを使用している場合は、P.164の送信チャンネル[RIGHT 1]で設定されているチャンネルで、送信されます。



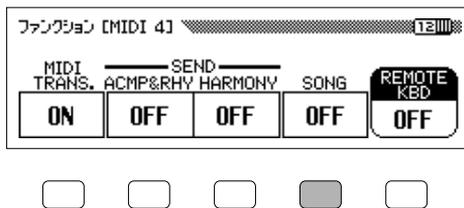
#### 6~8チャンネルを使って送信されるハーモニータイプ

- Echo • Tremolo • Trill • Strumming • Add Jazz Gtr • Add Brass
- Add Strings • In The Forest

これらの機能を使えば、自動伴奏やハーモニーの演奏情報を、コンピューターや外部シーケンサーなどで録音することができます。

### ソング[SONG]

[SONG]をONにすると、曲データの再生時に、再生音がMIDIデータとしてMIDI【OUT】から送信されます。CVPで曲データを再生しながら、外部の音源を鳴らすことができます。



**トランスポーズの受信...**  
 設定値: ON(有効)/OFF(無効)  
 基本設定: ON(有効)

MIDI送信される演奏データに対するトランスポーズは、ファンクション1ページ目[キーボード 1]での設定が有効になります。

**自動伴奏/ハーモニーの送信...**  
 [ACMP&RHY]の設定値: OFF(送信しない)、9-16(送信する)  
 基本設定: OFF(送信しない)

[HARMONY]の設定値: OFF(送信しない)、6-8(送信する)  
 基本設定: OFF(送信しない)

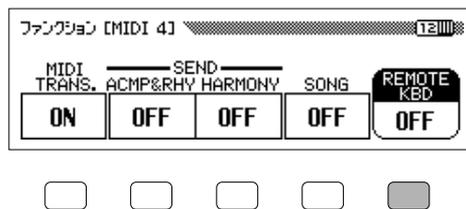
自動伴奏やハーモニーデータをMIDIで送信するときは、手弾きの演奏データの送信チャンネル(P.164)を設定する際、自動伴奏の送信に使われる送信チャンネル9~16や、ハーモニーの送信に使われる送信チャンネル6~8と重ならないようにしておきましょう。そうしないと、手弾き音と自動伴奏やハーモニーの音色が同じになってしまうなどの不都合が生じる場合があります。

[ACMP&RHY]、[HARMONY]のどちらかがONになっていれば、送信チャンネル[RIGHT 1]がOFFになっていても、自動伴奏やハーモニーの再生データはMIDI送信されます。

**ソングの送信...**  
 設定範囲: OFF/ON  
 基本設定: OFF

## リモートキーボード [REMOTE KBD]

リモートキーボード [REMOTE KBD]で設定したMIDIチャンネルの情報を受けると、手弾きの音にもその情報が有効になります。また、ここで受信した情報は録音することもできます。外部からのMIDI情報が手弾き音に影響しないようにしたいときは、[OFF]を選びます。



受信できる情報は次のとおりです。

- Key ON/OFF (押鍵情報)
  - Control Change (演奏表現情報) の下記項目
    - # 1 Modulation
    - # 7 Volume
    - # 11 Expression
    - # 64 Sustain Pedal
    - # 66 Sostenuto Pedal
    - # 67 Soft Pedal
    - # 123 All notes off
    - # 0 Bank Select MSB\*
    - # 32 Bank Select LSB\*
    - # 6 Data Entry MSB (RPN Pitch Bend Range用)
    - # 96 Data Increment (RPN Pitch Bend Range用)
    - # 97 Data Decrement (RPN Pitch Bend Range用)
    - # 100 RPN LSB (Pitch Bend Rangeのみ)
    - # 101 RPN MSB (Pitch Bend Rangeのみ)
  - Program Change (音色切替情報)\*
  - Pitch Bend (ピッチベンド情報)
- \*Bank Select MSB、Bank Select LSB、Program Change (音色切替情報)は、RIGHT1の音色を切り替えます。

### リモートキーボード...

設定範囲：OFF(無効)、1～16(指定したチャンネルで有効)  
基本設定：OFF(無効)

リモートキーボードで受信したMIDI情報は、MIDI【OUT】からは出力されません。

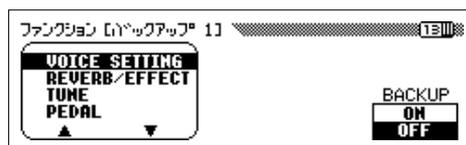
# バックアップ(BACKUP)グループ

## 13ページめ[バックアップ 1]画面

### バックアップ<sup>バックアップ</sup>[BACKUP]

この画面では、さまざまな機能の設定内容が、電源をOFFにしたあとも基本設定に戻らないで保持されるよう、グループごとにバックアップのON/OFFを設定することができます。

[ ]を押すか、【ダイヤル】や【-/+】を使ってバックアップさせたいグループを選び、一番右のLCDボタンで、選んだグループのバックアップON/OFFを設定します。グループ名の前に"\*"のマークが付いているものは、現在そのグループのバックアップの設定がONになっていることを示しています。バックアップの設定をOFFにしているグループの内容は、電源をOFFにすると基本設定に戻ります。



次のグループが用意されています。

- VOICE SETTING<sup>ボイス セッティング</sup> ..... 音色に関する設定
- REVERB/EFFECT<sup>リバーブ エフェクト</sup> ..... リバーブ/エフェクトの設定
- TUNE<sup>チューン</sup> ..... マスターチューニング、マイクロチューニング、スケールチューニング
- PEDAL<sup>ペダル</sup> ..... ペダルの設定
- ACMP SETTING<sup>アカンパニメント セッティング</sup> ..... 自動伴奏に関する設定
- SONG SETTING<sup>ソング セッティング</sup> ..... 曲データに関する設定
- REGISTRATION<sup>レジストレーション</sup> ..... レジストレーション
- MIDI SETTING<sup>ミディ セッティング</sup> ..... MIDIに関する設定

各グループ内の設定項目については、別冊「データリスト」の"設定値一覧"をご参照ください。

- ❗ バックアップの設定をONにしても、電源をOFFにして約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定に戻ります。したがって、バックアップされている内容を保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

バックアップ...  
設定範囲：ON、OFF  
基本設定：REGISTRATION(レジストレーション)はON、その他はOFF

以下については、常にバックアップされるようになっています。

- ヘルプやLCD画面の言語
- 曲の再生時の  
アカンパニメント ソング ボリューム  
【ACMP / SONG VOLUME(自動伴奏 / ソングボリューム)】の値
- バックアップON/OFFの設定

## 14ページめ[バックアップ 2]画面

### リコール<sup>リコール</sup>[RECALL]

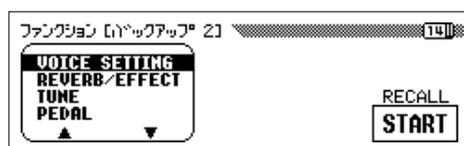
この画面では、さまざまな機能の設定内容を、グループ単位、またはすべての内容を同時に基本設定に戻すことができます。

[ ]を押すか、【ダイヤル】や【-/+】を使って基本設定に戻したいグループを選び、<sup>スタート</sup>[START]を押します。

⇒「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。

➡ [はい(YES)]を押すと、選んだグループの内容が基本設定に戻ります。

中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。



次のグループが用意されています。

- VOICE SETTING<sup>ボイス セッティング</sup> ..... 音色に関する設定
- REVERB/EFFECT<sup>リバーブ エフェクト</sup> ..... リバーブ/エフェクトの設定
- TUNE<sup>チューン</sup> ..... マスターチューニング、マイクロチューニング、スケールチューニング
- PEDAL<sup>ペダル</sup> ..... ペダルの設定
- ACMP SETTING<sup>アカンパニメント セッティング</sup> ..... 自動伴奏に関する設定
- SONG SETTING<sup>ソング セッティング</sup> ..... 曲データに関する設定
- REGISTRATION<sup>レジストレーション</sup> ..... レジストレーション
- MIDI SETTING<sup>ミディ セッティング</sup> ..... MIDIに関する設定
- ALL<sup>オール</sup> ..... 上記のすべての設定

各グループ内の設定項目については、別冊「データリスト」の"設定値一覧"をご参照ください。

ヘルプやLCD画面の言語、曲の再生時の【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】、バックアップ ON/OFFの設定については、このリコール機能を使っても基本設定に戻りません。

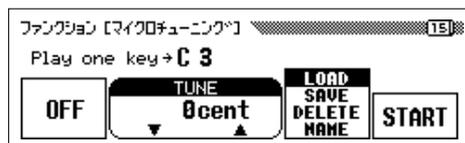
完全に工場出荷時の状態に戻すには...  
リコール機能では基本設定に戻らない上記の項目も含めて、CVP-201本体を完全に工場出荷時と同じ状態に戻したい場合は、一番右側の鍵盤(C7)を押しながら【POWER】をONにします。  
"バックアップデータは消去されました。(Back up data erased and replaced by Factory data)"が表示され、バックアップされていたデータが消え、工場出荷時の状態になったことを示します。このあと基本画面が表示されます。この操作をすると、「ミュージックソフト・コレクション」のディスクから読み込んだ、「自動伴奏で弾く50曲集」の設定データも消えます。必要なときは、もう一度ディスクからの読み込みを行ってください。(P.73)

## ユーティリティ(UTILITY)グループ

### 15 ページ目[マイクロチューニング]画面

#### マイクロチューニングマイクロチューニング[MICRO TUNING]

この画面では、鍵盤1つずつの音程(ピッチ)を微調整できます。この機能を使って、特定の鍵盤の音程を微調整することができます。また、作った音程の設定をディスクに保存したり、必要なときに読み込んで使うこともできます。設定した音程は、この画面の一番左のLCDボタンで、いつでもオン/オフON/OFFできます。



#### 操作

- 1 一番左のLCDボタンを押してオン[ON]にします。
- 2 チューニングを行ないたい鍵盤を押します。  
⇒ 押した鍵盤の音名とその鍵盤の現在のチューニング値が表示されます。
- 3 チューン[TUNE] を押すか、【ダイヤル】や【-/+】を使って選んだ鍵盤の音程をチューニングします。  
チューニングしている鍵盤を弾いて音を確認しながら調節してください。  
チューン[TUNE] を同時に押すと、その鍵盤の基本設定である"±0"に戻すことができます。
- 4 上記の2と3の操作を繰り返して、他の鍵盤のチューニングを行ないます。  
設定したチューニングは、一番左のLCDボタンで、いつでもオン/オフON/OFFできます。

設定したチューニングは、名前を付けて1つのチューニングファイルとして、ディスクに保存することができます。また、必要なときに読み込んで使ったり、不要であれば簡単に削除することができます。これらの操作を行なう前に、正しいディスク(マイクロチューニングデータが入っているもの、または保存するためのディスク)がディスクドライブにセットしてあるかどうか確認してください。

マイクロチューニング...  
設定範囲：-100cent(-半音)~  
+100cent(+半音)  
基本設定：すべての鍵盤が0

## 操作

- 1 右から2番めのLCDボタンで、実行したい操作を[LOAD]<sup>ロード</sup>(読み込み)、[SAVE]<sup>セーブ</sup>(保存)、[DELETE]<sup>デリート</sup>(削除)、[NAME]<sup>ネーム</sup>(名前変更)の中から選びます。
- 2 [START]<sup>スタート</sup>を押すと選んだファイル操作を実行する画面が表示されます。  
これから先の操作は、P.156～P.158の操作と同じです。選んだ操作によってそれぞれ下記ページをご参照ください。
  - [LOAD]<sup>ロード</sup>(読み込み) .....P.157
  - [SAVE]<sup>セーブ</sup>(保存) .....P.157
  - [DELETE]<sup>デリート</sup>(削除) .....P.158
  - [NAME]<sup>ネーム</sup>(名前変更).....P.158

## 16ページめ[スケールチューニング]画面

### スケールチューニング[SCALE TUNING]

この画面では、[PRESET]<sup>プリセット</sup>を選ぶと音律(調律法)が選べます。また、[USER]<sup>ユーザー</sup>を選ぶと、1オクターブ分の設定を作ったときに全鍵盤がオクターブ単位でその設定になる、ユーザースケールを作ることができます。作った調律をディスクに保存したり、必要なときに読み込んで使うこともできます。

スケールチューニングの設定は、曲データの再生音には影響しません。

### プリセットスケール

音律(調律法)が選べます。

現在最も一般的な調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共に様々な音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。当時の調律法で演奏することで、その曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

次の7種類の音律(調律法)が用意されています。

#### <sup>イコール</sup>[EQUAL]平均律

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律方法です。

#### <sup>ピュア メジャー</sup>[PURE(MAJOR)]純正律(長調)

#### <sup>ピュア マイナー</sup>[PURE(MINOR)]純正律(短調)

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

#### <sup>ミントーン</sup>[MEANTONE]中全音律

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

ピタゴリアン

### [PYTHAGOREAN]ピタゴラス音律

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた、5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

ヴェルクマイスター

### [WERCKMEISTER]ヴェルクマイスター音律

キルンベルガー

### [KIRNBERGER]キルンベルガー音律

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者は、その組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハーブシコード(=チェンバロ)などで演奏するときに、しばしば用いられます。

## 操作

- 1 1番左のLCDボタンで<sup>プリセット</sup>[PRESET]を選びます。
- 2 <sup>スケール</sup>[SCALE] を押すか、【ダイアル】や【-/+】を使って音律の種類を選びます。  
<sup>イコール</sup>[EQUAL]平均律以外の音律を選んだときは、基音(演奏する曲の調の主音)を設定する必要があります。設定した基音の調に対して、各音律の効果が得られます。



- 3 <sup>キー</sup>[KEY]を押して表示を反転させたあと【ダイアル】や【-/+】を使って基音を選びます。

基音...

設定範囲：C、C♯、D、E、E♭、F、F♯、G、A、A♭、B、B♭

基本設定：C

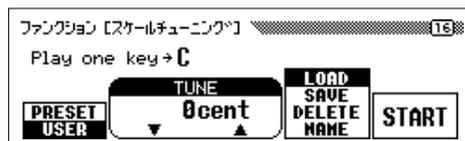
### ユーザースケール

1オクターブ(12鍵)単位で鍵盤1つずつの音程(ピッチ)を微調整できます。

1オクターブ分の設定を作ると、オクターブの違う同じ音にもその設定が有効になります。

## 操作

- 1 1番左のLCDボタンで<sup>ユーザー</sup>[USER]を選ぶと次の画面が現れます。



- 2 設定する鍵盤を押します。  
⇒ 押した鍵盤の音名とその鍵盤の現在のチューニング値が表示されます。

- 3 <sup>チューン</sup> [TUNE] を押すか、【ダイアル】や【-/+] を使って音程を設定します。  
チューニングしている鍵盤を弾いて音を確認しながら調節してください。  
<sup>チューン</sup> [TUNE] を同時に押すと、その鍵盤の基本設定である"± 0"に戻すことができます。

- 4 上記の2と3の操作を繰り返して他の鍵盤のチューニングを行ないます。  
作った調律は、名前を付けて1つのチューニングファイルとして、ディスクに保存することができます。また、必要なときに読み込んで使ったり、不要であれば簡単に削除することができます。操作は、P.172「チューニングファイルの保存/名前変更/読み込み/削除」をご参照ください。  
これらの操作を行なう前に、正しいディスク(スケールチューニングデータが入っているもの、または保存するためのディスク)がディスクドライブにセットしてあるかどうか確認してください。

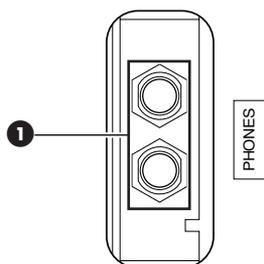
スケールチューニング ユーザー...  
設定範囲: -64 cent ~ +63 cent  
基本設定: すべての鍵盤が0

# 第9章 その他

## 他の機器と接続する端子

- ❗ 外部のオーディオ機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。

感電または機器損傷のおそれがあります。



### ① フォーンズ【PHONES】端子

ヘッドフォンをフォーンズ【PHONES】端子(標準フォーン端子)に接続して使います。

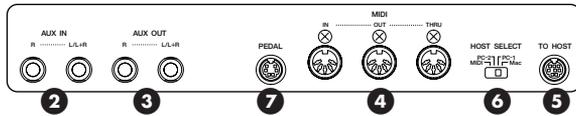
ヘッドフォンを接続すると、CVP-201のスピーカーからは音が出なくなります。

また、フォーンズ【PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して、2人で演奏を楽しむこともできます。(1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。)

推奨ヘッドフォン...

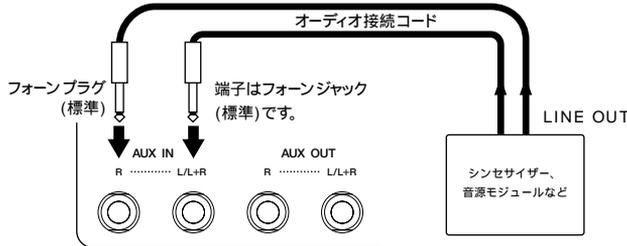
YAMAHAヘッドフォン HPE-160(税別価格:5,500円)

- ⚠ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。



## ② <sup>イン</sup>AUX IN【L/L+R】【R】端子

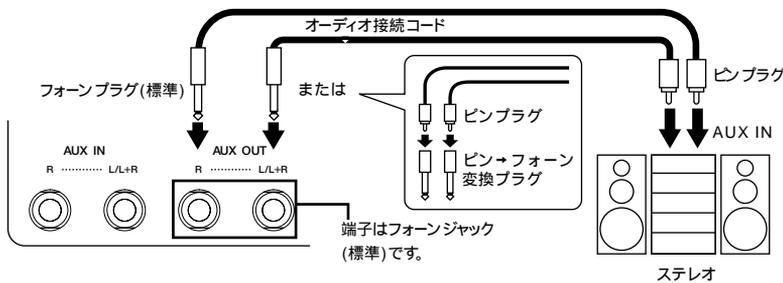
オーディオ接続コードを使って図のように接続すると、他の楽器や機器の音を、CVP-201のスピーカーから出すことができます。



- ❗ クラビノーバの<sup>イン</sup>AUX INを使う場合、電源を入れるときは、外部機器 クラビノーバの順に、電源を切るときは、クラビノーバ 外部機器の順に行なってください。

## ③ <sup>アウト</sup>AUX OUT【L/L+R】【R】端子

オーディオ接続コードを使って図のように接続すると、CVP-201をステレオなどに接続してより大きな音を出したり、演奏を録音したりできます。ステレオに接続したときは、CVP-201の【MASTER VOLUME(全体ボリューム)】ではなく、ステレオ側でボリュームを調節してください。



- ❗ クラビノーバの<sup>アウト</sup>AUX OUTを使う場合、電源を入れるときは、クラビノーバ 外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは、外部オーディオ機器 クラビノーバの順に行なってください。

## ④ <sup>ミディ</sup>MIDI【<sup>スルー</sup>THRU】【<sup>アウト</sup>OUT】【<sup>イン</sup>IN】端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続します。

MIDI端子を使う場合は下記<sup>ホストセレクト</sup>HOST SELECTスイッチを「MIDI」に設定してください。<sup>ミディ</sup>MIDIについての簡単な解説を「MIDI及びデータの互換性について」(P.187)に掲載していますのでご参照ください。

<sup>イン</sup>AUX INからの入力音には、CVP-201の【MASTER VOLUME(全体ボリューム)】が有効です。

オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

- ⚠ <sup>アウト</sup>AUX OUTから出力した音を、<sup>イン</sup>AUX INに戻さないでください。(AUX OUTから外部オーディオ機器に接続した場合、その機器から再びCVP-201のAUX INに接続しないでください。)

CVP-201の<sup>イン</sup>AUX INから入力された音はそのまま、CVP-201のAUX OUTから出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

<sup>アウト</sup>AUX OUTからの出力音には、CVP-201の【MASTER VOLUME(全体ボリューム)】は効きません。

オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

モノ入力、モノ出力には<sup>イン</sup>AUX IN【L/L+R】、<sup>アウト</sup>AUX OUT【L/L+R】をご使用ください。

## ⑤ <sup>トゥー ホスト</sup>【TO HOST】端子と⑥ <sup>ホスト セレクト</sup>HOST SELECTスイッチ

---

<sup>トゥー ホスト</sup>【TO HOST】端子は、パーソナルコンピューターに直接接続する端子です。

<sup>ホスト セレクト</sup>HOST SELECTスイッチは、<sup>ミディ</sup>MIDI機器やパーソナルコンピューターを接続する場合に、機器やパーソナルコンピューターの種類に応じて切り替えるスイッチです。  
詳しくは次項「パーソナルコンピューターとの接続」をご覧ください。

## ⑦ <sup>ペダル</sup>【PEDAL】端子

---

ペダルコードを接続します。別冊「データリスト」「CVP-201の組み立て方」をご参照ください。

# パーソナルコンピューターとの接続

パーソナルコンピューター用の音楽ソフトを、CVP-201の【TO HOST】(またはMIDI端子)とパーソナルコンピューターをつないで楽しむことができます。

CVP-201とコンピューターを接続する場合、次の2つの方法があります。

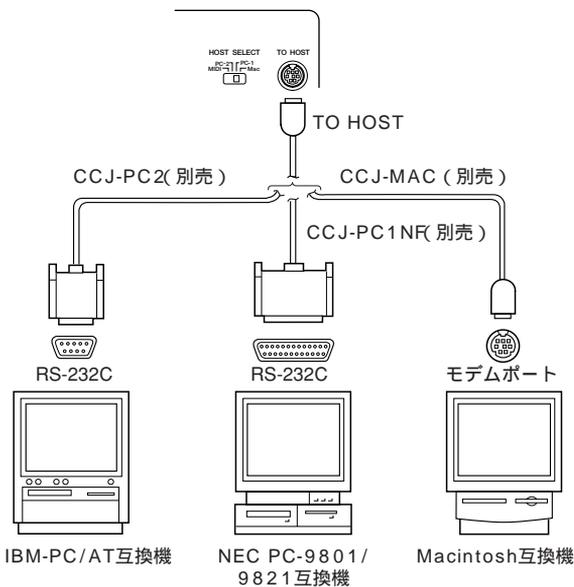
1. CVP-201の【TO HOST】端子を使った接続方法
2. CVP-201のMIDI端子を使った接続方法

## 1 CVP-201の【TO HOST】端子を使った接続方法

コンピューターのシリアルポート(RS-232C端子やRS-422端子)とCVP-201の【TO HOST】端子を接続します。この方法では、CVP-201がMIDIインターフェース機器の役割も果たすため、専用のMIDIインターフェース機器は不要です。

### 接続方法

コンピューターのシリアルポート(RS-232C端子やRS-422端子)とCVP-201の【TO HOST】端子を、専用のシリアルケーブルで接続します。



パーソナルコンピューターと接続する場合は、最初に、クラビノーバとコンピューターの電源を切った状態で、ケーブル接続、HOST SELECTスイッチの設定を行ない、その後コンピュータークラビノーバの順番で、電源を入れてください。

CVP-201の【TO HOST】端子を使用しない場合は、必ず【TO HOST】端子からケーブルを抜いてください。ケーブルを接続したままだと、CVP-201が正常に動作しないことがあります。

## 接続するシリアルケーブルの種類

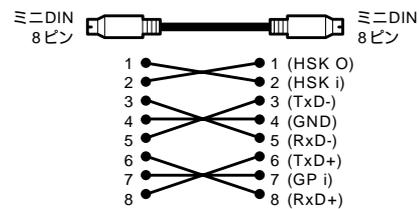
接続するコンピューターの種類に合わせて、下記のシリアルケーブルを使用してください。

- マッキントッシュ  
• Macintosh互換機  
YAMAHA CCJ-MAC、または同等品
- エヌイーシー  
• NEC PC-9801/9821互換機  
YAMAHA CCJ-PC1NF、または同等品
- アイビーエム ビーシーエーティ  
• IBM-PC/AT互換機  
YAMAHA CCJ-PC2、または同等品

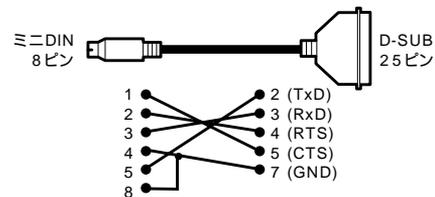
パーソナルコンピューターによっては上記にあてはまらない場合もありますので、各シリアルケーブルの内部配線図(次項)とパーソナルコンピューターの端子形状によりご判断ください。

### シリアルケーブルの内部配線図

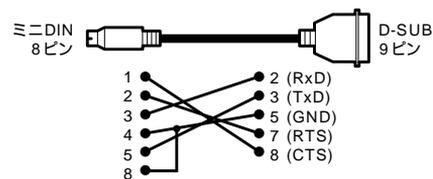
- マッキントッシュ  
• Macintosh互換機用  
システムペリフェラル 8ピンケーブル(YAMAHA CCJ-MACまたは同等品)



- エヌイーシー ビーシー  
• NEC PC-9801/9821互換機用  
8ピンミニDIN D-SUB 25ピンケーブル(YAMAHA CCJ-PC1NFまたは同等品)



- アイビーエム ビーシーエーティ  
• IBM-PC/AT互換機用  
8ピンミニDIN D-SUB 9ピンケーブル(YAMAHA CCJ-PC2または同等品)

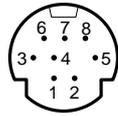


## • プラグのピン番号

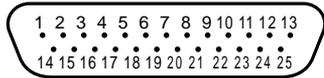
各プラグのピン番号は下記のとおりです。

オモテから見たピン番号

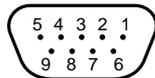
マッキントッシュ  
Macintosh用  
ミニDIN 8ピン



エヌイーシー ビーシー  
NEC PC98シリーズ用  
D-SUB 25ピン



アイビーエム ビーシーエーティ  
IBM-PC/AT互換機用  
D-SUB 9ピン



ホスト セレクト

## CVP-201のHOST SELECTスイッチの設定

接続するパーソナルコンピューターの種類によって、  
CVP-201のHOST SELECTスイッチを切り替えます。

マッキントッシュ

### • Macintosh互換機

【Mac】(ボーレート=31,250bps、1MHzのクロックを使用)

エヌイーシー ビーシー

### • NEC PC-9801/9821互換機

Windows95/98用 YAMAHA CBX Driverをお使いの場合

【PC-2】(ボーレート=38,400bps)

Windows

Windows3.1用 YAMAHA CBX-T3 Serial Driverをお使いの場合

【PC-1】(ボーレート=31,250bps)

アイビーエム ビーシーエーティ

### • IBM-PC/AT互換機

【PC-2】(ボーレート=38,400bps)

使用するソフトウェアの種類によって、上記の設定では動作しないものがあります。お使いになるソフトウェアの取扱説明書をよく読んで、適合するボーレートの位置にHOST SELECTスイッチを設定してください。

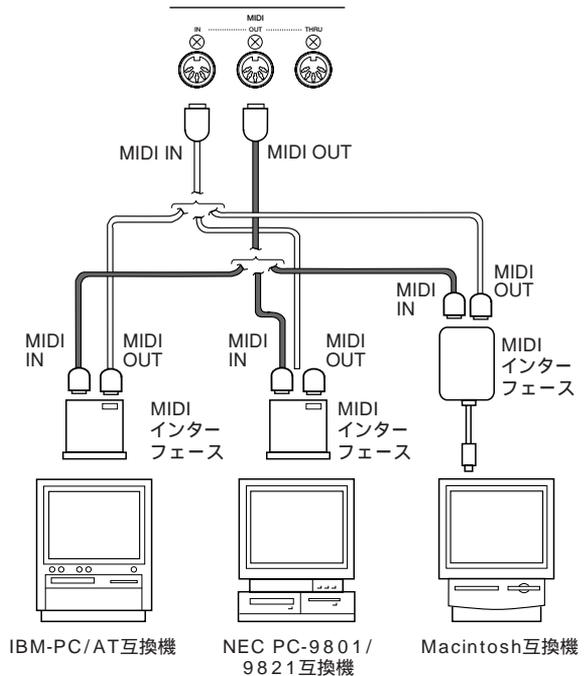
HOST SELECTスイッチを【PC-2】【PC-1】【Mac】に設定しているときは、【TO HOST】端子が使えますが、MIDI端子【THRU】【OUT】【IN】は使えません。(MIDIデータを送受信しません。)

逆に、HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定しているときは、MIDI端子【THRU】【OUT】【IN】が使えますが、【TO HOST】端子は使えません。(データを送受信しません。)

## 2 CVP-201のMIDI端子を使った接続方法

### 接続方法

MIDIインターフェース機器を通じてCVP-201のMIDI端子に接続します。専用のMIDIケーブルを使います。



ホスト セレクト

## CVP-201のHOST SELECTスイッチの設定

CVP-201のHOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定します。

Windowsをご使用のお客様へ (MIDIドライバーについて)

コンピューターのシリアルポートとクラビノーバの【TO HOST】端子を接続して、データのやり取りをするためには、指定のMIDIドライバーをコンピューターにインストールする必要があります。

MIDIドライバーは、インターネットのヤマハホームページ/XGライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/xg> から、ダウンロードして入手することができます。

### 「パソコン活用マニュアル こんなことができます!クラビノーバ+パソコン」について

クラビノーバとパーソナルコンピューターを接続してどんなことができるのか、また接続に必要なものや接続の仕方などについて、わかりやすく説明したオンラインマニュアル(PDF)を、インターネットのホームページ(下記)に掲載しております。閲覧/ダウンロードしてぜひご利用ください。

クラビノーバホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/product/cl/>

ヤマハマニュアルライブラリー(電子楽器)

<http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/index.html>

(クラビノーバのページに掲載してあります。初回だけ登録していただくことが必要です。)

# メッセージ一覧

## 共通メッセージ

### パネル操作関連

 録音/再生中はこのボタンは使えません!	<b>This button can't be used during recording or play back!</b> 録音データ変換など、曲の録音/再生中にはできない操作を実行しようとした場合に表示されます。 ➡曲の録音/再生を停止してから、または、録音/再生機能を終了してから操作してください。
 再生中はこのボタンは使えません!	<b>This button can't be used during playback!</b> 伴奏スタイル選択など、曲の再生中にはできない操作を実行しようとした場合に表示されます。 ➡曲の再生を停止してから、または、再生機能を終了してから操作してください。
 録音中はこのボタンは使えません!	<b>This button can't be used while recording!</b> 曲のコピーや削除など、曲の録音中にはできない操作を実行しようとした場合に表示されます。 ➡曲の録音を停止してから、または、録音機能を終了してから操作してください。
 ディスクのミュージックデータベース使用中は、このボタンは使えません!	<b>Can't perform this operation while using Music Database in disk!</b> 伴奏スタイルの選択など、ディスクのミュージックデータベース使用中(伴奏切り替えデータを読み込んだ場合)にはできない操作を実行しようとした場合に表示されます。 ➡ディスクのミュージックデータベース機能を終了してから操作してください。
 いま、このボタンは使えません!	<b>Button not valid!</b> 機能が使えない状態のときにそのボタンが押された場合に表示されます。

### ダイレクトアクセス関連

 パネルSWを押すと詳細設定画面が現れます。	<b>Press a button to display corresponding settings.</b> 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】を押したときに表示されます。 ➡このメッセージが表示されている間に、詳細設定をしたいパネルのボタンを押してください。
 このボタンにはDIRECT ACCESS機能はありません!	<b>DIRECT ACCESS not available for this function!</b> 【DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)】に続いて押したパネルのボタンに、詳細設定画面がない場合に表示されます。

### ディスク関連

 ディスクがありません!	<b>No Disk!</b> ディスクを必要とする場面で、ディスクが挿入されていない場合に表示されます。 ➡必要なディスクをディスクドライブに差し込んでから操作をしてください。
 ソングがありません!	<b>No song!</b> 曲の名前付けやデータ変換などをしようとしたときに、基になる曲データがない場合に表示されます。 ➡データのある曲を選ぶか、必要な曲データの入ったディスクをディスクドライブに差し込んでから操作をしてください。
 ファイルがありません!	<b>No file!</b> レジストレーションやマイクロチューニングなどのファイルに関する操作をしようとしたときに、それに該当するファイルがない場合に表示されます。 ➡ファイルを作成するか、必要なファイルの入ったディスクをディスクドライブに差し込んでから操作をしてください。

 データがありません！	<b>No data to save!</b> カスタムスタイルデータを保存しようとしたときに、該当データがない場合に表示されます。 ➡各データを作成してから操作をしてください。
 ディスクをフォーマットしますか？ <input type="button" value="はい"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	<b>Start disk format?</b> フォーマットされていないディスクか、クラビノーバのフォーマット以外のディスクが挿入された場合に表示されます。(P.125) ➡フォーマットする場合は[はい]を押してください。フォーマットしない場合は[キャンセル]を押してください。
 ディスクが書き込み禁止になっています！	<b>Protected disk!</b> ライトプロテクトタブの位置が録音不可の位置になっているディスクに、録音や各種のファイル操作を実行しようとした場合に表示されます。 ➡ライトプロテクトタブの位置を録音可の位置にして(P.10)操作をしてください。それでも操作ができないディスクは、内部的にプロテクトがかかっているディスクですので、そのディスクに録音や各種のファイル操作などはできません。
 ソングが書き換えできません！	<b>Protected song!</b> 追加録音や各種のファイル操作を、それができないソングに対して実行しようとした場合に表示されます。CVP-201では、ソングの種類によって、追加録音やコピー、デリート操作ができないことがあります。
 ディスクのエラーです！ <input type="button" value="はい"/>	<b>Disk read/write error!</b> ディスクへの録音やファイル保存/読み込みの最中に、データ上のエラーが発生した際に表示されます。 ➡[はい]を押してからもう一度操作し直してください。それでもエラーが起こる場合は、ディスクが壊れているかディスクドライブユニットの故障が考えられます。ディスクドライブの故障と考えられる場合は、お買い上げの楽器店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点(巻末)に修理をご依頼ください。
 終わりました。	<b>Completed!</b> フォーマット、曲のコピーなどの時間のかかる作業が終わったときに数秒間表示されます。
 ディスクを抜かないでください！	<b>Don't remove the disk!</b> クラビノーバ本体とディスクとの間でデータの処理が行なわれているときに表示されます。 ➡作業が終了すると自動的に消えます。
 よいですか？ <input type="button" value="はい"/> <input type="button" value="いいえ"/>	<b>Are you sure?</b> 曲の削除やフォーマットなどのいろいろな操作の中で、処理実行の確認のために表示されます。 ➡[はい]を選ぶと処理が実行されます。[いいえ]を選ぶと未処理のまま元の画面に戻ります。
 ディスクがいっぱいです！ <input type="button" value="はい"/>	<b>Disk full!</b> 差し込まれているディスクにこれ以上データを書き込むことができない場合に表示されます。 ➡[はい]を押したあと、ディスクの中の不要なデータを削除する(P.161)か、空き容量のある別のディスクを用意してもう一度操作してください。曲の録音中に表示された場合は、録音が自動的にストップし、その時点までの録音データは自動的に保存されます。
 ファイルが作れません！ <input type="button" value="はい"/>	<b>Too many files!</b> 1枚のディスクに作ることができる最大ファイル数は、曲ファイルで、2DD、2HDディスク共60個、各種ファイルの合計で、2DDディスクの場合約107個、2HDディスクの場合約219個です。 それを越えるファイルを1枚のディスクに作ろうとした場合に表示されます。 ➡[はい]を押したあと、ディスクの中の不要なデータファイルを削除する(P.156、161)か、空き容量のある別のディスクを用意して、もう一度操作してください。

❓ 同じ名前のファイルがあります。  
入れ替えますか？

はい いいえ キャンセル

#### Same name! Overwrite?

ファイル保存をするときに、入力したファイル名と同じ名前のファイルがすでに存在する場合に表示されます。

⇒[はい]を選ぶと上書きされます。上書きしたくないときは、[キャンセル]を押してください。

❗ ディスク読み込み/書き込み  
中です！

#### Disk read/write operation in process!

ディスクからのデータ読み込みやデータ保存中に他の操作を実行しようとした場合に表示されます。

⇒ディスクからのデータ読み込みやデータ保存が終了してから操作をしてください。

❓ CVP song に変換して  
よいですか？

はい いいえ

#### Convert to CVP song?

市販のミュージック データや、CVP-109/107/105/103/201/98/96/94/92/CLP-870 以外のクラビノーバで録音したデータへ、録音や編集などを実行しようとした場合に表示されます。

⇒[はい]を選ぶとCVP-201用の曲データに書き替えられ、録音や編集ができるようになります。データを書き替えたくないときは[キャンセル]を押してください。これにより書き替えられた曲では、1、2トラック以外には録音できない場合があります。

❗ ミュージックソフト・  
コレクションディスクを  
挿入してください。

キャンセル

#### Insert Music Database disk!

ミュージックデータベースの [ D.STYLE ] や[D.A-Z]のメニューを選んでセットしたときに、「ミュージックソフト・コレクション」ディスクが挿入されていない場合に表示されます。

⇒「ミュージックソフト・コレクション」ディスクを挿入すると、伴奏切り替えデータが読み込まれます。伴奏切り替えデータの読み込みが必要ない場合は、[キャンセル]を押してください。

## メモリー関連

❗ メモリーが足りません！

はい いいえ

#### Not enough memory!

クラビノーバ本体の内部メモリーに曲を録音中に、メモリーがいっぱいになった場合に表示されます。表示された場合は、録音が自動的にストップし、その時点までの録音データは自動的に保存されます。また、カスタムスタイル機能で、録音中にメモリーがいっぱいになった場合に表示されず。(P.93)

❗ データの書き込み中です！

#### Memory write operation in process!

クラビノーバ本体の内部メモリーに録音した曲の、編集したデータを書き込み中に、他の操作を実行しようとした場合に表示されます。

⇒データの書き込みが終了してから操作をしてください。

❓ CVP MEMORY を消去して  
よいですか？

はい いいえ

#### Delete CVP MEMORY?

ディスクの曲データの再生など、クラビノーバ本体の内部メモリーに録音したデータが消えてしまう操作を実行する場合に表示されます。

⇒[はい]を選ぶと、クラビノーバ本体の内部メモリーに録音したデータが消え次の操作を実行することができます。データを消したくない場合は[いいえ]を選んでください。

❗ CVP MEMORYでは、このボタンは  
使えません！

#### This button can't be used for CVP MEMORY!

レコードエディット機能(P.141)の、コードシーケンス、ソングネーム、セットアップメモリーを、クラビノーバ本体の内部メモリーに録音した曲に対して実行しようとした場合に表示されます。

⇒クラビノーバ本体の内部メモリーに録音した曲をソングコピー機能(P.159)でディスクにコピーし、本体の内部メモリー内の曲を削除(P.161)して、ディスクにコピーした曲を呼び出すと、これらの機能を実行できます。

## カスタムスタイル関連

 元になるスタイルを選んでください。	<b>CUSTOM STYLE Select a source style.</b> カスタムスタイル機能を <sup>オン</sup> ONにすると数秒間表示されます。(P.82)
 スタイルを消去してよいですか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> キャンセル	<b>Clear style?</b> カスタムスタイル機能で拍子を変更しようとする则表示されます。(P.83)
 セクションを消去してよいですか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> キャンセル	<b>Clear section?</b> カスタムスタイル機能で小節数を変更しようとする则表示されます。(P.84)
 パートを消去してよいですか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> キャンセル	<b>Clear part?</b> カスタムスタイル機能で、元になるスタイルの部分を消去してからでないと録音できない操作を実行しようとした場合に表示されます。(P.85)
 TEMP.STYLEをストアしますか? MEMORY No. 1 (TEMP.STYLE) <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> キャンセル	<b>Store *****?</b> カスタムスタイル機能で、ストアを実行しようとしたときに、確認のために表示されます。また、ストアする前にスタイルを変更しようとしたときも表示されます。(P.87)
 TEMP.STYLEをストアしますか? MEMORY No. 1 (TEMP.STYLE) <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> キャンセル	<b>Store *****?</b> カスタムスタイル機能で、ストアを実行する前に終了しようとした場合に表示されます。 ⇒[はい]を選ぶとストアが実行されます。[いいえ]を選ぶとストアせずに基本画面に戻ります。[キャンセル]を選ぶと元の画面に戻ります。(P.93)
 リコールできません! <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	<b>Can't recall!</b> カスタムスタイル機能でリコールセクションを実行しようとしたときに、拍子が変わっていてリコールできない場合に表示されます。(P.88)
 ディスクセーブの前にストアしてください。 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	<b>Store in memory before saving to disk!</b> カスタムスタイル機能で、本体のメモリーにストアする前にディスクに保存しようとしたときに表示されます。(P.91)
 メモリーがいっぱいです! 他のスタイルを削除するか、今のスタイルデータを減らしてください。 <input type="checkbox"/> 削除 <input type="checkbox"/> キャンセル	<b>Not enough memory! Delete an unneeded style or simplify the current style.</b> カスタムスタイル機能でストアを実行しようとしたときに、本体のメモリーが足りなくなった場合に表示されます。(P.92)
 削除するスタイルを選んでください。 MEMORY No. 1 (TEMP.STYLE) K 32KB <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> キャンセル	<b>Select style to delete.</b> 上の画面で[削除]を選ぶ则表示されます。 ⇒削除するスタイルを選んで[はい]を押すとスタイル削除が実行されます。削除したくないときは[キャンセル]を押してください。
 このスタイルは削除できません! <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	<b>Can't delete this style!</b> 上の画面で[はい]を押したときに、削除しようとしているスタイルがストアしようとしているカスタムスタイルの元になったスタイルのため、削除できない場合に表示されます。 ⇒[はい]を押すと、削除するスタイルを選ぶ画面に戻りますので、他のスタイルを選んで削除を実行してください。

## カスタムスタイルファイルの読み込み関連

 メモリーが足りません! 他のスタイルを削除しますか? MEMORY No. 1 (TEMP.STYLE) K 32KB <input type="checkbox"/> 削除 <input type="checkbox"/> キャンセル	<b>Not enough memory! Delete an unneeded style?</b> カスタムスタイルファイルの入ったディスクからスタイルを読み込み中、本体メモリーが足りなくなった場合に表示されます。(P.95)
 データが大きすぎて[LISTEN]は効きません! [LOAD]を押してロードしてください。	<b>Too much data for LISTEN function! Load data.</b> カスタムスタイルファイルの入ったディスクからスタイルを読み込み中、ファイルサイズが大きすぎるため[LISTEN]が使えない場合に表示されます。(P.95)

## コードシーケンス関連

**?** 作成したデータをセーブ  
しますか？

はい  いいえ

### Save recorded data?

コードシーケンスで録音中に終了しようとした場合に表示されます。

⇒[はい]を選ぶと作成したデータを保存します。[いいえ]を選ぶと保存せずに終了します。[キャンセル]を選ぶと保存せずにコードシーケンス画面に戻ります。

**i** いま、このボタンは使えません！  
小節の先頭に入れてください。

### Button not valid! Enter at top of measure.

コードシーケンスで録音中に、各小節の先頭の位置以外で伴奏スタイルやセクションの切り替えを録音しようとした場合に表示されます。

⇒伴奏スタイルやセクションの切り替えは小節の先頭に録音してください。(P.137)

## その他のレコードエディット関連

**?** エディットしたデータを書き込み  
ますか？

はい  いいえ

### Write edited data?

イニシャルエディット機能で設定変更した結果を、書き込みせずに終了しようとした場合に表示されます。

⇒[はい]を選ぶと変更結果を書き込みます。[いいえ]を選ぶと書き込みせずに終了します。[キャンセル]を選ぶと書き込みせずにイニシャルエディット画面に戻ります。

**?** パネルの設定をディスクに保存  
しますが、よろしいですか？

はい

### Save panel settings to disk?

セットアップメモリー機能で、パネル設定をディスクに保存する際に表示されます。

⇒[はい]を押すとデータが保存されます。[キャンセル]を押すとデータを保存せずにセットアップメモリー機能を終了します。

## ソングコピーとディスクコピー関連

**i** 5回ディスクを交換します。

はい

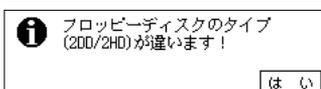
### Number of disk exchange(\*\*)

別のディスクへのコピーが始まる前に、何回ディスクを交換する必要があるかを知らせます。(P.160)

**i** ディスク2(コピー先)を入れて  
ください。(1/5)

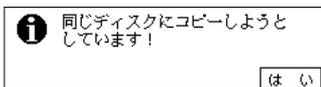
### Insert Disk 2 (destination disk).(\*\*)\*\*

別のディスクへのコピーで、コピー先のディスクの挿入を促すときに表示されます。(P.160)

**Destination disk isn't same type (2DD/2HD) as source!**

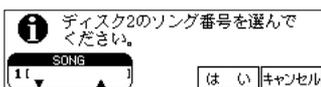
ディスクコピーを実行しようとしたときに、2DDディスクから2HDディスクへ、2HDディスクから2DDディスクへコピーしようとした場合に、表示されます。

⇒[はい]を押すといったんディスクコピー機能が終了しますので、正しいディスクを用意し、再度ディスクコピー機能を実行してください。

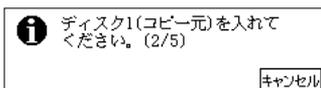
**Can't copy to source disk!**

ディスクコピーのときに、コピー先のディスクを入れる手順でコピー元のディスクを入れた場合に、表示されます。

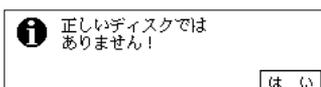
⇒[はい]を押すといったんディスクコピー機能が終了しますので、再度ディスクコピー機能を実行してください。

**Select destination song number.**

別のディスクへのコピーが始まって、最初にコピー先のディスクを挿入したときに表示され、コピー先の曲番号を選ぶように促します。(P.160)

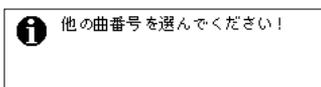
**Insert Disk1 (source disk) (\*\*/\*\*)**

別のディスクへのコピーで、コピー元のディスクの挿入を促すときに表示されます。(P.160)

**Incorrect disk!**

ディスクコピーの操作中、指定されたコピー元/コピー先でないディスクを挿入した場合に、表示されます。

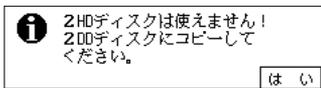
⇒[はい]を押すといったんディスクコピー機能が終了しますので、再度ディスクコピー機能を実行してください。

**Select a difference song number!**

ソングコピーのときに、コピー元とコピー先に同じ曲番号を選んだ場合に表示されます。

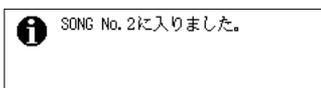
⇒コピー先の曲番号を変更してください。

## 録音データ変換関連

**2HD disk not valid! Copy to 2DD disk.**

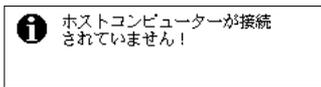
録音データ変換を実行するときに2HDディスクを使用している場合に表示されます。

⇒[はい]を押して録音データ変換をいったん終了し、変換したいソングデータを2DDディスクへコピーしてから、そのディスクを使用して録音データ変換を実行してください。

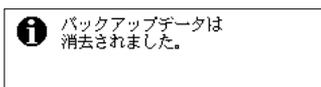
**Completed! Song No.\*\***

録音データ変換が終了したときに数秒間表示されます。変換したデータの入った曲番号が示されます。

## その他のメッセージ

**Host is offline!**

コンピューターの電源が切れているか、ケーブルが正しく接続されていない、または、HOST SELECTスイッチが正しく設定されていないか、コンピューター側のドライバーやMIDIアプリケーションが正しく機能していません。この場合は、いったんクラビノーバとコンピューターの電源を切り、ケーブルの接続、HOST SELECTスイッチの設定を確認してください。その後、コンピューター クラビノーバの順番で、電源を入れ直し、コンピューター側のドライバーやMIDIアプリケーションが正しく機能しているか確認してください。

**Back up data erased and replaced by factory data.**

1週間以上電源をオンにしなかったため、バックアップしていたデータが消えてしまった状態で電源をオンにした場合に、数秒間表示されます。また、完全に工場出荷時の設定に戻した場合(P.170)にも表示されます。

# 故障かな？と思ったら

現象	原因	解決法
CVP-201の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていない(本体側と家庭用コンセント側)。	電源プラグを、本体と家庭用コンセント(AC100V)に確実に差し込んでください。(P.12)
電源スイッチを <sup>オン</sup> または <sup>オフ</sup> にしたとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
クラビノーバから雑音が出る。	クラビノーバの近くで携帯電話を使っている(または呼び出し音が鳴っている)。	クラビノーバの近くでは携帯電話の電源を切ってください。クラビノーバの近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
LCD画面が明るすぎて(暗すぎて)画面の文字が見えない。	周囲の温度によって明るさが変化するため。	【CONTRAST(コントラスト)】のつまみを回して調節してください。(P.12)
鍵盤で弾く音が、自動伴奏やディスクの再生音に比べて小さい。	手弾き音のボリュームが下がっている。	基本画面の <sup>キーボードボリューム</sup> [KBD VOL](P.42)で手弾き音のボリュームを上げるか、キーボード画面の各音色パートごとのボリューム調節(P.56)で調節してください。
自動伴奏やディスクの再生音が、鍵盤で弾く音に比べて小さい。	<sup>アカンパニメント</sup> <sup>ソングボリューム</sup> 【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】が下がっている。	<sup>アカンパニメント</sup> <sup>ソングボリューム</sup> 【ACMP/SONG VOLUME(自動伴奏/ソングボリューム)】を上げてください。
	自動伴奏のパートごとのボリュームや、ディスク再生音のトラックごとのボリュームが下がっている。	ミキサー画面で、パートごとまたはトラックごとのボリュームを調節してください。(P.68)
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	<sup>マスターボリューム</sup> 【MASTER VOLUME(全体ボリューム)】が下がっている。	<sup>マスターボリューム</sup> 【MASTER VOLUME(全体ボリューム)】を上げてください。
	ヘッドフォンを接続している。	ヘッドフォンのプラグを抜いてください。
	ローカルコントロール <sup>オフ</sup> になっている。	ローカルコントロールを <sup>オン</sup> にしてください。(P.164)
ダンパーペダルが効かない。または、ダンパーペダルを踏んでいないのに音が長く響いてしまう。	ペダルコードのプラグが本体に差し込まれていない。	ペダルコードのプラグを本体に確実に差し込んでください。(別冊「データリスト」)
自動伴奏、ディスクの再生がスタートしない。	<sup>ミディ</sup> MIDIシンクが外部(EXT.)になっている。	<sup>ミディ</sup> MIDIシンクを内部(INT.)にしてください。(P.165)
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない。	最大同時発音数を越えている。	前の音を消して後の音を優先的に鳴らすしくみになっています。最大同時発音数については、「仕様」別冊「データリスト」をご参照ください。
自動伴奏が再生されない。	自動伴奏機能が <sup>オン</sup> になっていない。	<sup>アカンパニメント</sup> <sup>オン</sup> 【ACMP ON(自動伴奏オン)】を押して自動伴奏を <sup>オン</sup> にしてください。
自動伴奏で思ったとおりの和音が出ない。	正確に押さえていない。	別冊「データリスト」の「Cコードの押さえ方一覧」を参考にしてください。
	自動伴奏の奏法に合った押さえ方をしていない。	自動伴奏の奏法を確認し、選んだ奏法に合った押さえ方をしてください。(P.69)
60曲まで録音できない。	1曲の演奏時間が長かったり、たくさんの機能を使ったため、記憶容量がいっぱいになった。	不要な曲を削除する(P.161)か、新しいディスクに録音してください。
曲データの再生時、再生されないトラックがある。	そのトラックが再生 <sup>オフ</sup> になっている。	<sup>オフ</sup> OFFになっているトラックを再生 <sup>オン</sup> ONにしてください。(P.112)

# ミディ MIDI及びデータの互換性について

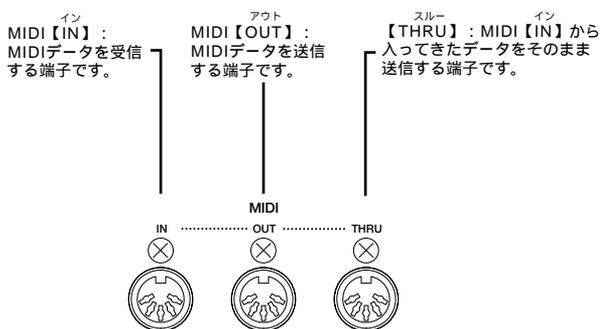
## ミディ MIDIについて

ミディ MIDI(Musical Instrument Digital Interface)とは、ミディ MIDI端子を備えたミディ MIDI機器間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。

ミディ MIDI機器間でMIDIデータを送受信することにより、外部のミディ MIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のミディ MIDI機器から自機がコントロールされたりすることができます。

- ただしミディ MIDI機器でも、機種ごとに送受信できるミディ MIDIデータの内容が同じではないため、接続しているミディ MIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることとなります。共通に扱えるデータや命令は、各機種種の「MIDIインプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。CVP-201のミディ MIDIインプリメンテーションチャートは別冊「データリスト」に掲載されています。
- ファンクション ミディ MIDI1 ~ 4(P.164)で各種のミディ MIDI設定が行なえます。
- MIDIについての詳しい知識は、各種の音楽雑誌や書籍で得ることができます。

## ミディ MIDI端子



## MIDIケーブル

専用のミディ MIDIケーブルをご用意ください。

## データの互換性について

ここでは、CVP-201で録音したデータを、他のミディ MIDI機器で再生できるかどうか、あるいはその逆の、市販のいろいろな種類のミュージック データや、電子楽器などで録音した曲データ、パーソナルコンピューターなどで作成した曲データをCVP-201で再生できるか、といった各種演奏データの互換性について考える上での、一般的な基礎知識の一端をご紹介します。

実際は、再生できる場合でも、そのまま再生できる場合、再生するためにいくつかの特殊な作業が必要となる場合など、再生するミディ MIDI機器やデータの特性により異なってきますので、事例ごとに、下記を参考にしてお考えください。

## 基本的な確認項目

下記項目について、演奏データと、再生するミディ MIDI機器が対応しているタイプが一致していないと再生できません。

- ディスクのフォーマット
- シーケンスフォーマット
- 音色配列フォーマット

## ディスクのフォーマット

フロッピーディスクは、パーソナルコンピューターなどのいろいろな機器で、いろいろなデータの収納場所として使われます。その際、フロッピーディスクのデータの収納方式にはいくつかの種類があるため、その機器で対応している収納方式を、フロッピーディスクに最初に指定する必要があります。(たとえば、白い紙に縦書きの線を入れるか横書きの線を入れるかというようなことです。)これが「フォーマット(初期化する)」ということです。

- フロッピーディスクにはMF2DD(両面倍密度タイプ)とMF2HD(両面高密度タイプ)というタイプがあり、それぞれのタイプによってもフォーマット形式が異なってきます。
- CVP-201では両タイプのフロッピーディスクを使って録音も再生もすることができます。
- CVP-201でフロッピーディスクをフォーマットすると、2DDディスクは720 KB、2HDディスクは1.44 MBにフォーマットされます。(「720 KB」「1.44 MB」はデータの記憶可能容量を示す言葉ですが、フォーマットの種類を表すときに、このように言います。)
- 再生したいディスクのフォーマットと、再生したいミディ MIDI機器が対応しているディスクのフォーマットが一致していないと、再生できません。

## シーケンスフォーマット

演奏データを記録する書式のことをシーケンスフォーマットと言います。

- 再生したい演奏データのシーケンスフォーマットと、再生したいMIDI機器が対応しているシーケンスフォーマットが一致していないと、再生できません。

主なシーケンスフォーマットを紹介します。

### ESMIF (スタンダードMIDIファイル)

代表的なシーケンスフォーマットの1つです。

- 一般的なESMIFには「フォーマット0」と「フォーマット1」があります。
- 多くのMIDI機器が「SMFフォーマット0」に対応しています。また、市販のミュージックデータの多くが「SMFフォーマット0」で作られています。
- CVP-201は「SMFフォーマット0と1」に対応しています。(SMFフォーマット1の場合、17チャンネルまでのものに対応しています。)
- CVP-201で録音した演奏データは「SMFフォーマット0」になります。

### ESEQ

ヤマハの多くの機器やミュージックデータで採用されている代表的なシーケンスフォーマットの1つです。

- CVP-201は「ESEQ」に対応しています。

## 音色配列フォーマット

MIDIでは音色を番号で指定します。(プログラムチェンジナンバーと言います。)その番号の付け方(音色を並べる順番)の規格を「音色配列フォーマット」と言います。

- 再生したい演奏データの音色配列フォーマットと、再生したいMIDI機器が対応している音色配列フォーマットが一致していないと、音色が正しく再生されません。

主な音色配列フォーマットを紹介します。

### GMシステムレベル1 : GENERAL MIDI

代表的な音色配列フォーマットの1つです。

- 多くのMIDI機器が「GMシステムレベル1」に対応しています。また、市販のミュージックデータの多くが「GMシステムレベル1」で作られています。
- CVP-201は「GMシステムレベル1」に対応しています。

### XG

「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハの音源フォーマットの音色配列です。

- CVP-201は「XG」に対応しています。
- CVP-201の【XG】音色グループ内の音色で録音した演奏データの音色配列は「XG」になります。

### DOC (Disk Orchestra Collection)

クラピノーバをはじめとするヤマハの多くのMIDI機器で対応している音色配列です。ヤマハの別売ミュージックデータ「ピアノ アンサンブル」のDOCファイルなどで使われています。

CVP-201は「DOC」に対応しています。

これらの条件を満たしていても、機器の仕様や、演奏データの特殊な作り方により、完全な互換性が実現できない場合もあります。

「各種の曲データの再生」(P.118)もご参照ください。次項で「CVP-201で再生できる別売ミュージックデータのご紹介」を掲載しています。

#### XGフォーマット関連市販参考書籍のご紹介

##### 「XGバイブル」 米谷知己著

- MIDI音源の可能性を飛躍的に拡大したXGフォーマットのすべてを解説しています。

(発売：(株)リットーミュージック) ¥3,800(税抜き)

##### 「誰にでもわかるXGスーパーマニュアル」 関和則編著

- XGについて初歩からわかるDTM入門ガイドブックです。

(発売：(株)ヤマハミュージックメディア) ¥1,900(税抜き)

# CVP-201で再生できる 別売ミュージックデータのご紹介

## パッケージソフト

フロッピーディスクで販売されているミュージックデータです。

### 「ピアノ アンサンブル」

ファイルフォーマット：SMF/XG、ESEQ/DOC、ESEQ/XG

- ピアノ演奏データとバックオーケストラデータを収めた楽譜付きミュージックデータ。
- クラシック、ポピュラー、ジャズ、ファミリーの4ジャンルがあります。

(発売：(株)ヤマハミュージックメディア)



### 「ピアノアソシエ」ディスク

ファイルフォーマット：ESEQ/DOC、ESEQ/XG

- ピアノレッスンメソッド「ピアノアソシエ」専用ディスク。
- ミュージックデータを活用した、全4巻のヤマハオリジナルピアノレッスンメソッドです。ディスクには、ESEQ/DOC、ESEQ/XGの2種類のファイルが収録されています(VOL.4はESEQ/DOC、ESEQ/XG、SMF/XGの3種類)。楽譜は別売の「ピアノアソシエ Vol.1～Vol.4」を別途お買い求めください。

(発売：ヤマハ(株))



### 伴奏くんレパートリー集「楽器でうたおう」

ファイルフォーマット：SMF/XG

- カラオケ感覚でどんな楽器でも気軽にアンサンブルが楽しめる楽譜付きミュージックデータ。

(発売：(株)ヤマハミュージックメディア)



### 「XGソングデータライブラリー」

ファイルフォーマット：SMF/XG

- 幅広いラインナップと高い表現力のXG音源対応ソフト。
- 多彩なジャンルの曲データが豊富に取り揃えられています。

コレクションシリーズ.....TV&ムービー、  
ジャズ、クラシック、  
J-POP、Rock&Pops、  
World Music

アンサンブルシリーズ

(発売：ヤマハ(株))



キュータイム  
「CueTIME」

ファイルフォーマット：ESEQ/GM

- ガイド機能(P.119)を活用する輸入版楽譜付きミュージック データ。
- ユーザーパートを演奏すると、バックオーケストラが、あなたの弾くテンポに合わせて自動的に演奏を追いかけ、サポートします。

(輸入元：(株)ヤマハミュージックメディア)



エックスジーフォーピアノ  
「XG for Piano」

ファイルフォーマット：SMF/XG (XF対応)

- ピアノ演奏データとバックオーケストラデータを収めた輸入版楽譜付きミュージック データ。
- 下記タイトルでは歌詞が表示されます。
  - ・ Beatles for Piano
  - ・ Christmas Around the Piano
  - ・ Songs of Romance
  - ・ Pop Favorites for Piano 2

(輸入元：(株)ヤマハミュージックメディア)



エックスエフ  
XFについて...

「XF」とは、「スタンダードMIDIファイル」をより拡張し、時代と共に複雑化、高度化していくコンピューター周辺環境に対応させ、歌詞表示などを可能にしたヤマハが提案するMIDIのファイルフォーマットです。

ミューマ  
Mumaソフト

Mumaとは、ヤマハ独自のミュージックデータ店頭販売システムです。店頭に設置されているMumaで、音楽データを、アルバム単位または自由選曲方式でお選びいただき、専用フロッピーディスクに収録してご購入いただけます。2500タイトル、25000曲以上の豊富なミュージックデータが取り揃えられています。



月刊「Piano」掲載楽譜対応データ

ファイルフォーマット：SMF/XG、ESEQ/DOC、ESEQ/XG

- 最新のヒット曲がすぐ弾ける月刊「Piano」のマンズリーベスト5を収録したデータ。
- SMF/XG、ESEQ/DOC、ESEQ/XGの3種類のフォーマットが用意されていますが、CVP-201でお使いになる場合は、SMF/XGのデータをお買い求めください。楽譜は、月刊「Piano」掲載楽譜(毎月20日発売)が対応しています。



## 「ピアノソフト」

ファイルフォーマット：ESEQ(音色はピアノに固定)

- ピアノ演奏のリスニング&レッスンソフト。
- 内外の一流ピアニストの演奏や既存の楽譜に対応したソフトが収録されています。クラシック、ジャズ、ポピュラーなどの多彩なジャンル、豊富な曲数の中から選べます。(一部クラビノーバではご利用いただけないタイトルもあります。)

## 「ピアノソフトプラス」

ファイルフォーマット：ESEQ/XG

- バック伴奏付き「ピアノソフト」。
- ピアノにバックバンド/バックオーケストラの伴奏が付いたアンサンブルソフトです。リスニングからレッスン用まで幅広いジャンルからラインアップされています。

## 「XGソングデータライブラリー」

ファイルフォーマット：SMF/XG

- XGならではの豊かな音色と美しい響きで奏でるアンサンブル演奏ソフト。
- リスニングに、パソコンミュージックなどのお手本に幅広くご利用いただけます。

## PCカラオケシリーズ「<sup>からく</sup>歌楽」

ファイルフォーマット：SMF/XG (XF対応)

- カラオケ用のソフト。
- 歌謡曲、演歌からお子様向けのナンバーまであります。(歌詞カードはついていません。)CVP-201では、LCD画面に歌詞が表示されます。

上記およびその他のミュージック データの内容は変更になる場合があります。最新の情報は、ソフトカタログをご覧ください。

ヤマハのミュージック データのほかにも、「データの互換性について」(P.187)で説明したフォーマットに該当する、市販の多くのソフトがご利用いただけます。

## CVP-201とパーソナルコンピューターで お楽しみいただける音楽ソフトのご紹介

### ピアノ・ディスカバリー・シリーズ

#### 「これからはじめる大人のピアノ」

ウィンドウズ (Windows95/98用 ¥18,000 [税抜き]、マッキントッシュ Macintosh用 ¥15,000 [税抜き])

- 初心者にも無理なく弾けるよう工夫された、本格的なピアノ独習ソフト(CD-ROM)です。



ご購入に当たっては、カタログなどで、使用可能なコンピューター環境などをよくお確かめの上、お買い求めください。

# 索引

## A

- ACCOMPANIMENT MODE ..... 69
- AUTO ACCOMPANIMENT → 自動伴奏

## B

- BACKUP ..... 169

## C

- CHORD ASSIST ..... 80
- CHORD SEQUENCE ..... 136
- CHORUS ..... 100
- CONTRAST ..... 12
- CUSTOM STYLE DISK/CUSTOM STYLE

## D

- DEMO ..... 16, 48
- DISK/CUSTOM STYLE ..... 82
- DUAL ..... 54

## E

- EFFECT ..... 102

## F

- FINGERED 1 ..... 71
- FINGERED 2 ..... 72
- FORMAT ..... 163
- FULL KEYBOARD ..... 72

## G

- GLIDE RANGE ..... 155
- GUIDE CONTROL ..... 119

## H

- HARMONY ..... 76
- HELP ..... 14, 46
- HOST SELECT ..... 178

## I

- INITIAL EDIT ..... 146

## K

- KEY TOUCH ..... 153
- KEYBOARD [LEFT] ..... 59
- KEYBOARD [RIGHT1] ..... 57
- KEYBOARD [RIGHT2] ..... 58

## L

- LCD画面 ..... 37
- LCDボタン ..... 37
- LEFT PEDAL ..... 154
- LOCAL ..... 164
- LYRICS ..... 122

## M

- MICRO TUNING ..... 171
- MIDIクロック → シンク
- MIDI ..... 187
- MIDI端子 ..... 179
- MIDIトランスポート ..... 167
- MIDIフィルター ..... 165
- MIDI FILTER ..... 165
- MIDI TRANSPOSE ..... 167
- MULTI FINGER ..... 71
- MUSIC DATABASE ..... 73

## O

- ONE TOUCH SETTING ..... 61

## P

- PUNCH IN/OUT ..... 133

## Q

- QUANTIZE(CUSTOM STYLE) ..... 86
- QUICK RECORD ..... 126

## R

- RECALL ..... 170
- RECEIVE FILTER ..... 166
- REGISTRATION[FREEZE] ..... 105
- REGISTRATION ..... 104
- REMOTE KBD ..... 168
- REVERB ..... 97

## S

- SCALE TUNING ..... 172
- SEND CH ..... 164
- SETUP MEMORY ..... 148
- SINGLE FINGER ..... 70
- SONG NAME ..... 142
- SONG PLAY[GUIDE MODE] ..... 122
- SONG PLAY[L&R VOICE] ..... 113
- SONG PLAY[LIST] ..... 111
- SONG PLAY[MAIN] ..... 108
- SONG PLAY[REPEAT] ..... 114
- SONG PLAY[TRACK PLAY] ..... 112
- SPLIT ..... 55
- SPLIT PONT ..... 60
- STYLE FILE LOAD ..... 94
- STYLE SELECT ..... 64
- SYNC ..... 165

## T

- TO HOST ..... 178
- TRACK EDIT ..... 143
- TRACK EDIT[DELETE] ..... 144
- TRACK EDIT[MIX] ..... 143
- TRACK EDIT[QUANTIZE] ..... 145
- TRACK RECORD ..... 130
- TRANSFORM ..... 162
- TRANSPOSE ..... 152
- TUNE ..... 152

## V

- VOICE SELECT ..... 51
- VOICE SETTING ..... 153

<b>ア</b>	
アカンパニメントモード	69
<b>イ</b>	
イージープレイ	21, 120
移調 → トランスポーズ	152
イニシャルエディット	146
<b>エ</b>	
液晶画面 → LCD画面	37
エディット → イニシャルエディット	146
エディット → トラックエディット	143
エフェクト	102
<b>オ</b>	
オーディオ接続	176
オートアカンパニメント → 自動伴奏	
オールセットアップファイル	156
音色	50
音色選択 → ボイスセレクト	51
音色パート → キーボード[ライト1]	57
キーボード[ライト2]	58
キーボード[レフト]	59
音色付随データ → ボイスセッティング	153
音律 → スケールチューニング	172
音量調節 → ボリューム調節(全体ボリューム)	41
ボリューム調節(曲の再生)	116
ボリューム調節(自動伴奏)	65, 68
ボリューム調節(手弾き音)	42
<b>カ</b>	
歌詞 → リリック	122
カスタムスタイルファイル(ロード)	94
カスタムスタイル → ディスク/カスタムスタイル	82
ガイド	20, 119
ガイドランプ → 鍵盤ガイドランプ	20
楽譜立て → 譜面立て	11
画面表示 → 言語表示	36
<b>キ</b>	
キーカバー	11
キーシート	5
キータッチ	153
キーボード [ライト1]	57
キーボード [ライト2]	58
キーボード [レフト]	59
キーボードパーカッション	52
キーボードパート → キーボード[ライト1]	57
キーボード[ライト2]	58
キーボード[レフト]	59
機能説明	46
基本画面	33
基本設定	33
曲データのコピー	159
曲データのデリート	161
曲の再生	107
曲の削除 → 曲データのデリート	161
曲の複製 → 曲データのコピー	159
曲の録音	124
曲名 → ソングネーム	142
<b>ク</b>	
クイックレコード	126
クイック録音	126
クオンタイズ(カスタムスタイル)	86
クオンタイズ → トラックエディット[クオンタイズ]	145
グライドレンジ	155

<b>ケ</b>	
鍵盤ガイドランプ	20
鍵盤タッチ → キータッチ	153
鍵盤蓋 → キーカバー	11
言語表示	36
<b>コ</b>	
コードアシスト	80
コードシーケンス	136
コーラス	100
効果 → エフェクト	102
コーラス	100
リバーブ	97
コピー → 曲データのコピー	159
コントラスト	12
コンピューター → パーソナルコンピューター	178
<b>サ</b>	
再生 → 曲の再生	107
サウンドリピート	22, 120
残響 → リバーブ	97
<b>シ</b>	
消音再生	111
初期化	125
初期設定 → 基本設定	33
初期値	146
諸設定 → ファンクション	149
シンク	165
シンクロスタート	66
シングルフィンガー	70
自動伴奏	24, 65
自動伴奏送信/ハーモニー送信	167
自動伴奏で弾く50曲集	5, 24
受信チャンネル	166
<b>ス</b>	
スケールチューニング	172
スタイルセレクト	64
スタイルファイルロード	94
スタイル → 伴奏スタイル	33, 63
スピーカー接続 → オーディオ接続	176
スプリット	55
スプリットポイント	60
<b>セ</b>	
セットアップメモリー	148
<b>ソ</b>	
送信チャンネル	164
ソング	33, 167
ソングネーム	142
ソングプレイ[L&Rボイス]	113
ソングプレイ[ガイドモード]	122
ソングプレイ[トラックプレイ]	112
ソングプレイ[メイン]	108
ソングプレイ[リスト]	111
ソングプレイ[リピート]	114
<b>タ</b>	
多重録音 → トラック録音	130
タッチ → キータッチ	153
タップスタート	66

**チ**

チューニング → スケールチューニング	172
チューン	152
マイクロチューニング	171
チューン	152
調律 → スケールチューニング	172
チューン	152
マイクロチューニング	171

**テ**

テープ録音 → オーディオ接続	176
テンポ調節	43, 110
テンポ調節(曲の再生)	110
テンポ調節(自動伴奏)	65
データの変換 → トランスフォーム	162
データの互換性	187
ディスク/カスタムスタイル	82
ディスクのフォーマット → フォーマット	125, 163
ディスク → フロッピーディスク	10
デフォルト → リコール	170
デモ曲	16, 48
デモ演奏 → デモ曲	16, 48
デュアル	54
デリート → 曲データのデリート	161
電源	12

**ト**

トラックエディット	143
トラックエディット[クオンタイズ]	145
トラックエディット[デリート]	144
トラックエディット[ミックス]	143
トラックレコード	130
トラック録音	130
トラック削除 → トラックエディット[デリート]	144
トラック消去 → トラックエディット[デリート]	144
トランスフォーム	162
トランスポーズ	152

**ナ**

内部メモリー	135
--------	-----

**ネ**

ネクストノート	21, 120
---------	---------

**ハ**

バックアップ	169
伴奏スタイル	33, 63
伴奏スタイル選択 → スタイルセレクト	64
パーソナルコンピューター	178
パートキャンセル → 消音再生	111
パソコン → パーソナルコンピューター	178
ハーモニ	76
パワー → 電源	12
パンチイン/アウト	133
パンチイン/アウト録音	133

**ヒ**

ピアノロール	20, 119
ピッチ → チューン	152
ピッチ → マイクロチューニング	171

**フ**

ファイルアイコン	109
ファイル → オールセットアップファイル	156
ファイル → レジストレーションファイル	156

ファンクション	149
フィンガード1	71
フィンガード2	72
フォーマット	125, 163
譜面立て	11
フリーテンポのミュージック データ	107
フルキーボード	72
フロッピーディスク	10

**ヘ**

ヘッドフォン	175
ヘルプ	14, 46
ペダル	62
編集 → イニシャルエディット	146

**ホ**

ボイスセッティング	153
ボイスセレクト	51
ボイス → 音色	50
ボリューム調節(全体ボリューム)	41
ボリューム調節(曲の再生)	116
ボリューム調節(自動伴奏)	65, 68
ボリューム調節(手弾き音)	42

**マ**

マイクロチューニング	171
マルチフィンガー	71

**ミ**

ミキサー(曲の再生)	116
ミキサー(自動伴奏)	68
ミュージック データ	33, 107, 118
ミュージックソフト・コレクション	5, 18, 24
ミュージックデータベース	73

**メ**

メッセージ	40, 180
メトロノーム	45
メモリーバックアップ	39

**リ**

リコール	170
リバーブ	97
リモートキーボード	168
リリック	122

**レ**

レコードエディット	141
レコード → 録音	29
レシーブフィルター	166
レジストレーション	104
レジストレーションファイル	156
レジストレーション[フリーズ]	105
レフトペダル	154

**ロ**

ローカルコントロール	164
録音	29

**ワ**

和文シート	5
ワンタッチセッティング	61

# ■ 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

## 保証書

本機には保証書がついています。  
保証書は販売店がお渡しますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

## 保証期間

お買い上げ日から、本体は1年間、ヘッドフォンは6か月です。

## 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

### 消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

## 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

## 修理のご依頼

まず本書の「故障かな? と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

## 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター 3F	TEL (022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184	TEL (044) 434-3100
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL (053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター 3F	TEL (052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL (06) 6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL (087) 822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	TEL (082) 874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL (092) 472-2134

[ 本社 ]

CSセンター	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL (053) 465-1158
--------	-----------	-----------------------	--------------------

所在地・電話番号などは変更されることがあります。

# ヤマハ株式会社

---

## 北海道支店 鍵盤営業課

〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター TEL (011) 512-6114

## 仙台支店 鍵盤営業課

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル TEL (022) 222-6025

## 東京支店 エレクトーン・クラビノーバ推進グループ

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 TEL (03) 5488-5463

## 名古屋支店 鍵盤営業課

〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052) 201-5140

## 大阪支店 エレクトーン・クラビノーバ推進グループ

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館 TEL (06) 6252-2390

## 九州支店 鍵盤営業課

〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2153

## PA・DMI事業部 EKB国内営業部 営業第二グループ

〒430-8650 浜松市中沢町10-1 TEL (053) 460-3275

住所および電話番号は変更になる場合があります。

---

### クラビノーバ インフォメーションセンター

受付日: 月曜日～金曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)

受付時間: 10:00～12:00/13:00～17:00

フリーダイヤル  **0120-834808**

### クラビノーバ インターネットホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/product/cl/>

### ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/>

「音楽する人、音楽したい人のための頼れるポータルサイト」

ミュージックイークラブ・ドットコム

<http://www.music-eclub.com>